

一橋大学年譜 I

明治八年八月—昭和二年三月

商法講習所時代

明治八年
(一八七五)

8・3 ホイットニー (W. C. Whitney, 1825-1883. Bryant, Stratton & Whiney Business College at Newark の共同経営者) 家族とともに横浜に上陸

8・1 森有礼、ホイットニーを講師として「商法講習所」開設を企図する。木挽町一〇丁目の森有礼の宅を教師館とし、ホイットニー一家を住まわせる。ついでそこに講習所を建設しようとして、その準備中、尾張町鯛味噌屋の二階を仮教場とする

8・28 勝安房、商法講習所開設をきき、千円の寄付を申し出る。勝安房は、門下富田鉄之助を通じて、商業教育の必要性と、商法講習所開設までの経緯を熟知していた

9・13 ホイットニー雇入れについて東京会議所とホイットニーとの間に約定書、東京会議所と森有礼との間に約定書が定められる

9・24 銀座尾張町二丁目二三番地に商法講習所

の開業を東京会議所から東京府知事大久保一翁に届け出る

9・1 矢野二郎(次郎、晩年好んで二郎と書し、これを通称とする)、任地アメリカより帰国する。一〇月外務省書記官を辞す

11・7 東京日日新聞投書欄に「賀商法講習所開校、東京、小野寺常治」の一文が掲載される

11・22 森有礼、特命全権公使二等官に任ぜられ、清国在勤を命ぜられたため、校事を東京会議所に委任、以後同会議所の管理に属す

▽渋沢栄一は、この時会議所会頭であったので、この交渉に与かり積極的に助力する

11・1 高木貞作を商法講習所掛とし、ホイットニーとともに教務を司らせる

▽講習所学生数二六名

12・19 東京府知事大久保一翁、教部少輔に転出し、同日内務大丞楠本正隆が兼任東京府権知事となる

明治九年
(二八七六)

- 5・3 教師館の新築にかかる
- 5・15 商法講習所を尾張町より京橋区木挽町一〇丁目に落成した校舎に移す(「沿革誌」による。
「東京府職官表」には八月二一日)
- 5・20 商法講習所、東京府(勸業課)の管轄となる(「沿革誌」による。「商法講習所」には五月二六日)
- 5・26 矢野二郎、(東京府)商法講習所所長に任ぜられる
- 7・26 教師館竣工し、二八日ホイットニーこれに移る
- 8・15 商法講習所の生徒募集広告案ならびに同所略則が初めて東京日日新聞に広告掲載される
- 8・17 商法講習所略則定められる(修業年限一八カ月、これを三期に分ける。生徒年齢制限をもうけず、授業料は府下在籍者と寄留者に区別をつけ、一円、一円五〇銭とする)
- 9・4 実地科を設置する
- 9・11 新たに二四名の学生を選取る
- 10・1 略則を改正する(修業年限二カ年、教課程を講理科と実践科に分け、入学者の年齢と入学試験科目が定められる)
- 11・22 矢野所長、将来の教授方法として、正、

明治一〇年
(二八七七)

- 変二則および国語の三科に分け、別に貸費生徒を設けて、その者の卒業後は府県諸港に派出し、支校を設立する予備とし、また塾舎を建てて学生を養う等の諸方策と、講習所を維持するための必須の経費等を府庁に建議したが入れられず
- 11・1 講習所所在地、官有地第四種となる
 - ▽講習所在生教四二名
 - 1・22 兼任東京府権知事楠本正隆、東京府知事となる
 - 2・18 東京会議所を解散する
 - 3・1 商法講習所、初めて成瀬正忠(のち隆藏)・森島修太郎、二名の卒業生を出す
 - 4・1 隈本栄一郎、卒業
 - 4・14 卒業生森島修太郎・成瀬正忠、商法講習所助教心得に任ぜられる
 - 7・1 内邨恒之、米人ジョージ・パァチアルド、中川栄吉、山口甫吉の四名卒業
 - 9・14 森島修太郎、助教に任ぜられる
 - 9・19 高木貞作、助教を辞任する
 - 12・10 渋沢栄一等、東京商法会議所設立願書を府知事に提出する

明治十一年
(一八七八)

- 3・11 東京商法会議所設立が認可され、建物は府が木挽町に新築し、会議所へ下付することとなる(会頭渋沢栄一、副会頭益田孝および福地源一郎)
- 3・30 助教森島修太郎辞任し、成瀬正忠、助教に任せられる
- 4・1 英人F・A・メヤー(Meyer)を試みに雇用して教務を司らせる(氏は高知県英語学校教師、開成学校教師等を経て私塾を開いた商業実務の経験者)
- 4・1 松下道久、卒業。この年は同人一名のみ
- 6・1 ホイットニーを解職する
- 6・26 講習所の所管を東京府勸業課から東京府学務課へ移す
- 7・22 太政官布告により、郡区町村編成法、府県会規則、地方税規則が制定される
- 8・15 学生の寄宿を請う者多く府庁の許可を得て教師館を仮築告とする
- 11・1 F・A・メヤーを正式に雇い入れる
- 11・15 津田仙、学農社分校として簿記夜学校の創設を願い出る
- 11・20 簿記夜学校開校(銀座二丁目、元日報社跡)、ホイットニー教鞭をとる

明治十二年
(一八七九)

- 1・16 東京府会成立(議長福地源一郎、一五区選出議員三七人、六郡選出議員一二人、計四九人)本日より臨時会が開かれる。府会は予算の審議権・議決権を持ち、明治五年五月以来の東京營繕會議所、後の東京會議所が東京府民会としての役割および共有金の管理処弁の事業(商法講習所ほか三種)も地方税の支弁に移り議決が必要となる
- 2・18 アレキサンダー・ジョセフ・ヘーヤ(Alexander Joseph Heya)、商法講習所教師となる(氏は一八六八年(明治元年)、来日以來ドイツ公使館訳官、日本海軍兵学校、私塾教師等を経て本学では主として予備科英語教師として招聘)
- 3・1 講習所予備科を新設(ただし府下に正則英語学校が少なく、不合格者多く入学難をゆるめる必要から)
- 3・1 在学生数、本科四六名、予備科四一名
- 3・20 本日より東京府通常府会が開かれる。商法講習所費四、九四八円八一錢七厘の予算請求をする。地方税で全額支弁は過当との論、福地源一郎等の賛成論者の数を圧し、約半額の二、五〇〇円のみ修正される
- 4・15 東京府会は商法講習所の要求予算を半額に修正する

<p>5・1 渋沢栄一、二名が一、二〇〇余円を醸出して講習所の経費を補充する</p> <p>7・4 商法講習所略則を改正し、東京商法講習所規則を制定する</p> <p>10・1 東京会議所共有金、明治一、二年度収支予算の決定に際し、第五号議案として養育院および商法講習所は一、二年度より地方税で相統。地方税に引き続くべき商法講習所の建物等の金額は次のとおり</p> <p>建物代 三、三二円一六銭</p> <p>内訳 講堂建坪二坪八合勺 三、七五円 付屬家屋六坪五合五勺 八、五円六銭</p> <p>書籍 籍一七冊 五、八円七銭三厘 諸器械 三八個 二、四四円三銭 雑品 品三〇五個 一、〇九円七銭</p> <p>合計 八、四四円三〇銭三厘</p> <p>11・27 府庁、東京商法会議所議員渋沢栄一、益田孝、福地源一郎、木村利右衛門、清水九兵衛、五名を挙げて商法講習所委員とし、規則を撰定させる</p> <p>12・12 楠本正隆、元老院議官に転じ、松田道之</p>	<p>明治一三年 (一八八〇)</p> <p>2・1 予備科を廃止する</p> <p>8・2 東京府会で商法講習所の存続を決定する</p> <p>9・1 本年二月予備科の廃止に伴い講習所規則がふたたび改正されたが、内容にさしたる違いはなし</p> <p>4・27 商法講習所規則ならびに教則について東京商法会議所会頭渋沢栄一から松田知事宛に上申される</p> <p>5・3 商法講習所規則ならびに教則（東京商法会議所会頭より上申と同一内容）について商法講習所長より東京府松田知事に上申する。同月よりこれを実施する</p> <p>6・20 東京府会で商法講習所経費について論議され、第一次会で原案廃棄が決定される</p> <p>7・12 松田府知事は商法講習所経費について、東京府会の再議に付する</p> <p>7・15 東京商法会議所会頭渋沢栄一は、農商務卿河野敏鎌宛に補助金の下付を依頼する</p> <p>東京府知事となる</p> <p>12・13 ホイットニー一家、長子の修学のため米国へ向かう</p> <p>明治一四年 (一八八一)</p>
--	---

<p>7・19 東京府会の再議で廃案を決定する</p> <p>7・26 東京府会は、商法講習所の予算を否決し商法講習所の廃止を決議する</p> <p>7・28 文部省地方学務局長辻新次から松田知事宛に講習所存置の希望を申し入れる</p> <p>7・29 東京府知事より甲第一〇九号をもって、商法講習所が七月三十一日付で廃止と布達される</p> <p>▽矢野二郎、所長を辞任する</p> <p>8・4 松田府知事から農商務卿河野敏謙宛に補助金下付方の上申書が提出される</p> <p>8・30 河野農商務卿から商業奨励の主旨をもって商法講習所経費補助として一四年度限り、九、六八四円の下付のことが通知される</p> <p>9・9 商法講習所を再興する（予算は補助金九、六八四円に授業料収入一、五〇〇円〔定員二〇〇名のうち一五〇名分を計上〕を加えた一一、一八四円であった）</p> <p>9・10 府知事名により、東京府商法講習所更設</p> <p>9・14 矢野二郎、ふたたび講習所長となる</p> <p>11・26 松田府知事より河野農商務卿宛に一五年度補助金の下付を申請する</p>
--

明治一五年
(一八八二)

<p>2・13 一五年度補助金下付方申請に対し、後任の農商務卿西郷従道から不許可の通知がある</p> <p>2・22 一五年度補助金についてふたたび申請する</p> <p>3・1 府下各種商店の有力者、銀行業者、三菱会社、三井物産をはじめ有力会社、大倉組、平岡組等の代表者を府庁にまねき講習所維持につき、松田府知事から基金醸出について協力を求める。</p> <p>知事の趣旨説明は一同に感銘を与える。寄付金の額はまちまちで、一時払い、分割払い、また零細な金を一纏めにして氏名を連記したもの等あり、それらは各業種別に「上納人名簿」を作り、その名をとどめている。商業教育の関心は為政者よりもかえって商業者の間に高まっていたことがうかがえる</p> <p>6・21 西郷農商務卿から金一萬円の補助金下付の通知を受ける</p> <p>7・6 東京府知事松田道之死去（享年四四歳）</p> <p>7・17 商法講習所経費として五百円下賜の旨が宮内省から東京府へ達書あり、同日付でただちに講習所へ下賜金の沙汰と資金の内へ編入の通達が出される</p> <p>7・19 芳川顕正、東京府知事となる</p>
--

<p>明治一六年 (一八八三)</p>	<p>10・25 駐英公使森有礼から矢野二郎宛に優秀卒業生に奨励金送付の書簡来る</p> <p>12・9 東京府知事芳川顯正から西郷農商務卿宛に一五年度同様一六年度にも一万円補助金下付のことを申請する</p> <p>▽明治一五年文部省報告(官報)、東京府明治一五年学事年報摘要中本学に関係箇所は次のとおり</p> <p>「商業学校は公私各一個あり其の公立に係るものは即本府商法講習所にて昨一四年、地方税の支出を停め農商務省の補助を受けしより益々隆盛の域に赴き、教員一〇人、生徒一五六人あり、之を前年に比すれば教員は二名を増し、生徒は二〇名を増せり。学資は総て農商務省の補助金と府下紳商の寄付金とを以て之を維持す。本年一歳の費額は一万四千五百九円三一銭六厘なり」</p> <p>2・28 原田貞之助ほか七名に仮卒業証書を授与する</p> <p>3・6 卒業生原田貞之助・小室三吉、一等助教諭となる</p> <p>3・27 三等教諭倉西松次郎(明治一二年卒)、願いにより解職する</p>
-------------------------	---

<p>明治一七年 (一八八四)</p>	<p>4・23 一六年度補助金下付のことを西郷農商務卿から聞届けの旨通知がある</p> <p>11・19 矢野二郎、商法講習所長を辞任</p> <p>▽東京府御用掛南貞助が所長事務心得となる</p> <p>11・23 西郷農商務卿から芳川東京府知事宛に商法講習所を農商務省の直轄とする旨の通知がある</p> <p>12・15 木村新之助、一等助教諭となる</p> <p>12・27 小室三吉(一等助教諭)、願いにより解職する</p> <p>1・8 小島春(習字科囑託)、一等助教諭となる</p> <p>1・24 鈴木熊太郎(明治一四年二月卒)、三等教諭となる</p>
-------------------------	---

東京商業学校時代

明治一七年
(一八八四)

- 3・25 農商務省の直轄に移し「東京商業学校」と改称する
- ▽農商務省権少書記官正七位河上謹一、校長を兼任する
- 3・26 文部省所轄東京外国語学校内に「高等商業学校」を設置する
- 3・31 東京商業学校開校式を挙行する
- 5・1 研究規則を定める
- 6・10 農商務省、渋沢栄一・益田孝・富田鉄之助三氏に東京商業学校校務商議委員を嘱託する
- 6・24 東京外国語学校所属高等商業学校規則を制定する
- 7・15 河上謹一、職を辞し、矢野二郎ふたび校長に任ぜられる
- 8・28 成瀬正忠、東京商業学校教諭兼幹事に任ぜられる
- 8・1 農商務省関係明治一七年歳入出予算書のうち東京商業学校分は次のとおり

明治一八年
(一八八五)

- 1・26 農商務省において同省處務規程改正される。「東京商業学校」は商務局の管轄下に一分課として含まれる。「東京商業学校」商業上の諸学科を講究し生徒教育の事を掌理す
 - 5・14 農商務省所轄より文部省の所轄となる
 - 5・1 東京商業学校事務章程制定される
 - 上款 第一項より第二〇項
 - 下款 第一項より第二二項
 - 7・10 卒業証書授与式挙行、卒業生七名(久原房之助等)
 - 9・22 「東京商業学校」、「東京外国語学校」および同校所属高等商業学校を併せてさらに、「東京商業学校」と称し、神田区一橋通町一番地、旧
- | | |
|-----|----------|
| 俸給 | 八、八八〇円 |
| 雑給 | 七二〇円 |
| 教場費 | 三二〇円 |
| 営繕費 | 一〇〇円 |
| | 計一〇、〇〇〇円 |

明治一九年
(一八八六)

<p>東京外国語学校舎にこれを開設する。生徒数二三八名、内外教員数一三名</p> <p>▽文部省御用掛森有礼、校務を監督し、矢野二郎、前任のまま校長となり、前任商議委員を挙げて、本校商議員とする</p> <p>9・25 本校中に第一、第二、第三の三部を置き、旧高等商業学校の教科を第一部とし、旧東京商業学校の教科を第二部とし、旧東京外国語学校の教科(露・漢・朝鮮語)を第三部とする</p> <p>9・1 図書器械規則を制定する</p> <p>1・1 本校修学の年限およびその順序を定める。教科を従前の三部に代えて高等部・普通部・語学部とする</p> <p>1・21 「商工徒弟講習所」を木挽町旧校舎に開き、本校の附属とし、商工の子弟に実用卑近の学術を授けることとする</p> <p>2・25 高等部および語学部を廃止する</p> <p>3・1 松尾幹次等七名の卒業者に仮卒業証書を授与する</p> <p>4・1 森島修太郎、ブライアント・ストラットの商業算術書を訳述し、文部省編輯局より刊行(全五冊のうち、まず第一冊)</p>	<p>4・29 勅令第三五号をもって高等師範学校、高等中学校、東京商業学校の官制が定まり、本校に教頭、幹事が置かれる</p> <p>▽教諭成瀬正忠、本校幹事を兼任する</p> <p>5・4 東京商業学校教諭兼幹事正七位、成瀬正忠は同日をもって教頭を兼任する</p> <p>5・26 大蔵省所轄銀行事務講習所を文部省の所轄とし、本校に附属させ、銀行専修科と称する</p> <p>6・1 銀行専修科を神田錦町一丁目より本校内に移す</p> <p>▽一九年六月末現在の本校生徒員数、本科二〇九名、徒弟講習所六二名、銀行専修科一一三名</p> <p>7・1 教科を尋常科、高等科の二科に分け、同科および附属銀行専修科・商工徒弟講習所の学科課程規定される</p> <p>7・29 附属銀行専修科卒業生一六名に卒業証書を授与する</p> <p>12・1 ベルギー人商業博士アルチュル・マリシヤル (Arthur Marschal. Institut Supérieur de Commerce d'Anvers を一八八〇年に卒業)を商業学科教授および商業商品陳列所整理方担当として招聘する</p> <p>12・24 東京商業学校校務商議委員 洪沢栄一</p>
---	--

<p>明治二〇年 (二八八七)</p>	<p>益田 孝 富田鉄之助</p> <p>以上三氏同日付にて文部省より本校校務商議委員として商業教育に尽瘁せる功勞嘉賞の辭令を受けらる</p> <p>1・1 (月日未詳) 貸費生制度を創設する。実施は明治二十一年</p> <p>2・1 本校生徒飯田旗郎、ベルギー国アントワープ高等商業学校への入学を志し卒業一年前に中退、留学する。日本人としては最初の入学者</p> <p>3・19 旧教則により卒業した一四名に卒業假證書を授与する。江口定条、東爽五郎、水島鎮也等</p> <p>4・10 大日本教育会第四回総集会において、会員アルチュル・マリシヤルは「歐洲の商業教育」に関して演説をする</p> <p>4・16 帝国大学第一回競漕会が催される。來客競漕に招かれ、本学クルーは第一高等中学、高師両クルーと対戦して敗れる。これが本邦最初の対校競漕であり、以後人々を熱狂させた一高・高商戦の濫觴である</p> <p>6・8 規則を改正し、尋常科、高等科の称を廃止して予科・本科を置き、修業年限は予科一年・</p>
	<p>本科四年とし、ややその程度を高め次学期の初めからこれを実施することとする。銀行専修科を主計専修科と改称し、官庁および銀行会社等の会計事務に須要な學術および実務を教授するもの、と学科課程を改正する。九月新学期より実施</p> <p>7・9 卒業証書授与。明治一七年制定の教則による者、本校一名、附屬銀行専修科二〇名、本校生徒卒業生一名には即日研究生を申し付ける</p> <p>7・23 同日公布の勅令第三七号「文官試験試験補及見習規則」により、東京商業学校の卒業証書を有する者は高等試験を受ける有資格者として指定される</p> <p>8・1 修学旅行規定を定める。その主旨は、学年の成績優等な者若干名を選び、予めその場所を定め旅費若干を給して夏季休業中地方商工業の状況を視察させ、その報告書を提出させる。これより毎年施行</p> <p>▽東京府下日本橋区本町三町目の原亮三郎氏より本学学生学資金補助として、一人一カ年百円、三名までの寄付を申し出られ、これを受ける</p> <p>9・1 明治二〇年九月の入学生員 予科九名、別科六三名、主計専修科一六名</p>

高等商業学校時代

<p style="text-align: center;">明治二〇年 (二八八七)</p> <p>10・5 「高等商業学校」と改称する</p> <p>11・3 隅田川において第一回端艇競漕大会を開く</p> <p>12・29 明治一九年一二月文部省令第二一〇号、尋常師範学校、尋常中学校、高等女学校教員免許規則により二〇年四月から一二月までの東京商業学校卒業生一四名に対し無試験で免許状が授与される</p> <p>12・1 一橋基督教青年会生まれる</p> <p>▽二〇年一二月末現在の本校学生員数、本科七〇名、予科七三名、附属商工徒弟講習所別科一六一名、同職工科一八名、附属主計専修科三七名、教員数三七名うち外国人二名(官費生、私費生等の区別員数は略)</p> <p>3・1 文部省所管明治二一年度歳計予算合計額、八五四、八三五円</p> <p>▽校長職務規程を定める</p>	<p style="text-align: center;">明治二二年 (二八八八)</p> <p>4・12 研究規則を改正し、研究生の年限を二カ年とする</p> <p>7・11 本校旧規則第一級生二名および主計専修科(旧銀行科教則による者)一九名に仮卒業證書を授与する。卒業生各務謙吉、下野直太郎等</p> <p>7・25 各科生徒募集、合格者数は次のとおり。 出願者総数五一六名(うち主計専修科一二六名) 合格入学許可数</p> <p style="margin-left: 20px;">予科 二一名 別科二年 一七名 同一年 七六名 計一三九名 専修科一年二五名</p> <p>8・4 イタリア語科を試設する</p> <p>9・1 英語部内に「英語会」を新設する。幹事、教員永井尚行。一〇月より毎月一回開催し、英語をもって演説・対話等をさせ、もっぱら英語の練熟と談話間の姿勢を正しくさせることを目的とする</p>
---	---

一・一(月日未詳) 商品見本陳列所を開所する。
 これは商議委員益田孝が欧米商業視察巡覽に際し、商品蒐集を囑し、以後到着する標品をもとに旧外国語学校所屬高等商業学校より引き継いだもの。第三回内國勸業博覽会において宮内省より御買上のうえ、下付されたもの、内外國有志者の寄付されたもの等により内外國産の蒐集につとめ完全な商品陳列所をつくらうとする。

一・一(月日未詳) 貸費生制度、本年より実施。貸費生には、約束貸費、奨学貸費の二種。第一は卒業後若干年間貸費者の示命に従つてその業務に従事し、その俸給より漸々貸費を償却するもの。第二は学事奨励のため貸給するもので第一のような条件のないもの。本学年本校に委託されたもの

約束貸費：官庁諸会社より四件五人
 奨学貸費：原亮三郎氏より三人

日本鉄道会社より一〇人

一・一(月日未詳) 学生生徒相議り、「運動会」を設立しその規則を定める

会長—校長

会員—学生生徒、職員、卒業生

運動は水陸、水上は端舟の競走、陸上は各種競技、水陸隔月に小会、春秋両度に大会

明治二二年 (一八八九)

一・一 水泳練習開始。夏季休業中便宜の地に水泳場を設け水練の達者を聘して教師とし、毎日学生生徒をして遊泳を練習させ体育に資する

一・一 本年末現在本校教員生徒数

学 科	学 期	教 員	生 徒
本 科	四年	内 外 計	官 費 自 費 計 卒 業
予 科	一年	五	六六 一〇一 三
選 修 科	一	二	七四 七六
別 科	二年	三	三二 二二 四 四
職 工 科	三年	一〇	一〇三 一〇三 五
主 計 専 修	二年	一	一五 一五
			四 四 四 四 一

2・12 文部大臣從二位勲一等子爵森有礼、兎刃に罹り薨去する。一四日、正二位をおくられる

3・6 端艇四隻を新造、同日進水式を挙行する。横須賀海軍造船所へ依頼して船体模型を調整、石川島造船所に命じて六挺櫓の端艇四隻を新造、端艇は各々その色を異にし、玄武、青龍、白虎、朱雀と命名する

3・15 本校および附属科の規則を改正し、本科の修業年限を三年とする。附属主計専修科を「主計学校」と改称する。予科、本科および附属主計

学校、商工徒弟講習所別科の学習課程を改正する。
九月新学期より実施

3・19 第一回卒業証書授与式を挙行。商法講習所創立以来、今日に至る本校卒業生一八八名、旧銀行事務講習所から主計専修科に至るまでの卒業生五五名に卒業証書を正式に授与、卒業生臨場者七三名

▽本校同窓生間に学友会設立の機運起こる。第一回卒業証書授与式後、本校議事室に会し、教頭成瀬隆蔵、幹事森島修太郎かねて計画する学友会設立の趣旨を述べ同意を求める。一同賛成、会則はおつて議定

3・21 閣令第一〇号をもって、本校主計専修科卒業生は普通試験を要せずして各官庁の判任官見習を命ずることができるようになる

3・26 教頭成瀬隆蔵、商業教育事項取調べのため、欧米へ差遣され同日出発する

4・6 本校「運動会」、第二回端艇競漕会を挙行する。榎本文部大臣夫妻、辻文部次官、浜尾専門学務局長、久保田会計局長、清国欽差大使夫妻、朝鮮公使、和蘭公使等の来賓、場に満つ

4・13 学友会、趣意書および会則を議定。学友会設立についての在京の賛成者を招集、会する者

三九名、同年一二月までに加入する会員二〇〇余名

4・21 帝国大学第三回春季競漕会において専門学校来客競漕に招かれ、第二回までは高師と三校の招待レースであったが、この回高師不出場であったため、初めて一高と本校だけの顔合せとなり敗れる

6・1 本校唱歌会の第二回大演習会を帝国大学講義室において開催。閉会後、本校校内各教場、寄宿舎、商品陳列所を開き随意巡覧させる

6・2 学友会第一回常会開催。矢野校長ほか三九名来会。諸事項を協議。副会長、幹事、会計係、商議員を定める

6・6 文部省訓令にもつぎ本校各科の授業料を次のとおり定める。本科二五円、予科二〇円、別科一五円、主計学校一五円

7・1 本年七月入学の志願者に対し初めて受験料徴収の項が見える。予科一円五〇銭。別科および主計学校一円

7・3 22 入学試験施行。別科一年および二年、主計学校一年、および予科入学者のため、受験者総数六七八名。入学人員、予科、本入学一三名、仮入学四名。別科二年、本入学一七名、仮入

	<p>学○名。別科一年、本入学八三名、仮入学三七名。主計一年、本入学二三名、仮入学四三名。計二二〇名</p> <p>7・12 附属主計専修科卒業生へ仮卒業生証書授与。卒業生一七名</p> <p>▽本科二年一年および予科の学生へ進級証書授与。本科三年へ進級三八名。本科二年へ進級五七名。本科一年へ進級七一名。予科へ進級一〇三名</p> <p>▽本科三年へ進級の優等生六名を選抜し、三組に分け夏季休業中地方商工業視察のため、旅行させる。日数、往復滞在一〇日以内。旅費を支給</p> <p>7・26 「鉄道局に於て是まで高等商業学校卒業生四五人を採用せしに、大いに其任に適へりとして此度同校と協議の上来る二三年より本校生凡そ五人、附属主計学校生徒凡そ二五人、都合三〇人」を養成することと為し、同局より一カ年金千円づゝ高等商業学校へ差出し、卒業の後、年々若干人づゝを採用することに定めたり」(文部省)</p> <p>7・27 附属商工徒弟講習所職工科卒業生、卒業証書授与式挙行。卒業生一二名。榎本文部大臣、辻次官、中川秘書官、服部普通学務局長、相良視学官、樞視学官等が臨場</p> <p>10・9 附属商工徒弟講習所別科を補充科と改称</p>
<p>明治二三年 (二八九〇)</p>	<p>して本校に属す</p> <p>10・27 「運動会」端艇秋季競漕小会が墨田川上流において行なわれた。一〇余番の競漕あり</p> <p>11・1 学生生徒修学のため、府下南豊島郡雑司ヶ谷近傍へ遠足する</p> <p>11・3 本科第二年生、村瀬春雄・永富雄吉の二氏、アントワーブ商業学校へ留学のため出発する</p> <p>11・25 英語会の大会を帝國大学講義室において開催する。演目一八。午後六時開演、朝野内外の來賓男女場内に満つ。同八時戸を鎖して入場を謝する</p> <p>12・18 附属主計学校教場の新築成る(二二年文部省所管経費歳出臨時部中に、二、〇〇〇円の支出が認められたことによる)</p> <p>1・1 附属商工徒弟講習所(明治一九年一月開設、九月授業開始)を「職工徒弟講習所」とし、東京職工学校に移す(東京職工学校は東京高等工業学校の前身)</p> <p>1・26 『高等商業学校学友会雑誌』第一号が発刊される</p> <p>3・23 本校より第三回内国勸業博覧会へ衝立二基、絵画一〇枚の額面を出品する(衝立二基の内</p>

<p>4・8 第一高等中学校短艇競漕会の招待に込</p>	<p>4・6 墨田川上流において「運動会」第三回端艇競漕会を挙行する</p>	<p>定経費</p> <p>4・1 明治二三年度、高等商業学校歳入歳出予定経費</p> <p>歳入・經常部</p> <p>款、高等商業学校</p> <p>第一項 政府支出金 五、六六七円五七</p> <p>第二項 諸収入 三、〇三六・〇〇〇</p> <p>第三項 用途指定寄付金 一六、二六五・〇〇〇</p> <p>一、三七六・五七</p> <p>歳出・經常部</p> <p>款、高等商業学校</p> <p>第一項 俸給及諸給 四八、九七五円五七</p> <p>第二項 旅費 二九、一七三・〇〇〇</p> <p>第三項 雑給 三、四〇〇・〇〇〇</p> <p>第四項 校費 八、七九一・三〇〇</p> <p>第五項 学生費 七、七七四・七〇〇</p> <p>第六項 修繕費 五、〇〇〇・〇〇〇</p> <p>第七項 用途指定費 七、七九一・三〇〇</p> <p>一、三七六・五七</p>
------------------------------	--	---

じ、本校より四隻が参加する

4・13 帝国大学運動会第四回春季競漕会の招待により第一高等中学校との競漕に参加、敗れる（一高対高商戦は逐年白熱化し、殺気立って物々しく、不祥事勃発を憂慮した当局の命により本年限りでこの競漕は中止）

4・22 各地商業学校長会議を本校会議室において開催、各地商業学校校長会議規約等が議決される

4・25 本校英語会を帝国大学講義室において開催する

5・22 本校音楽会、第三回大演習会を帝国大学講義室において開催する

7・11 入学試験施行。募集人員、予科一〇名、補充科七〇名、主計学校一二五名。入学志願者一、〇三二名。うち予科・補充科志願者八〇〇余名、主計学校志願者二〇〇余名。合格者、予科・補充科二〇名余、主計学校四〇名にいたらず

「意ふに是等の志願者中には実際相当の学力なく僅に万一を僥倖せんとして来れる者も少なからざるべしと雖も要するに商業学校の試験を以て極めて容易なるものなりと誤認せしに依らざらんばならず、焉ぞ知らん該校の程度は又昔日の商業学校に非ずして厳然たる帝国の商業大学を

以て自から任ずるが故に其入學試験に於ても専ら厳正を守り僥倖者をして其願望するの途無からしめたり」云々。(學友會雜誌)

7・1 閣議、本校々舎の改築を決定。その費用は二年度より二七年度まで継続費として支出、同年工事に着手する

7・17 卒業仮証書を授与する。本科三年生四〇名。主計學校二年生一五名。卒業式は一月挙行の予定(本科卒業生は三〇円から五〇円、主計學校卒業生は一五円から二〇円の俸給であった)。
なお本科卒業生四〇名は本校規則により引き続き

學科研究を出願、これを聞き届けられる。祖山鐘三、平生鈇三郎、藤村義苗等卒業

9・1~8 入學生再募集入學試験実施。七月に入試を施行したが、嚴選のため入學許可者が少数で定員に満たず再募集したもの。志願者五〇〇余名のうち、補充科一年に六三名、主計學校一年に二九名を入學許可する

10・14 本校官制が改正され、教頭の職を廢し教諭を教授、助教諭を助教授とし、各々その員数を定める

11・8 「運動會」競漕小集會を墨田川において開催。小集會においても本年より初めて銀製の錨

明治二四年
(二八九一)

形メダルを付与することとなる
12・5 本校英語會を帝國大學講義室において開催する

1・1 「インフルエンザ」流行のため一月末より二週間休業。この年、該病が社会に妨害を与えたことは実に甚だしかった

3・11 明治二四年度歳入歳出総予算、ならびに各特別会計歳入歳出予算が公布され、そのうち本學に關係のものは次のとおり
高等商業學校

歳入

經常部

第一款 高等商業學校 四、一五五円七

第一項 政府支出金 二九、五三六・〇〇

第二項 諸收入 一四、五九・九六

第三項 用途指定寄付金 一、〇〇〇・〇〇

臨時部

第一款 新嘗受入金 三〇、〇〇〇・〇〇

第一項 政府支出金 三〇、〇〇〇・〇〇

合計 六五、一五五・九六

歳出

經常部

<p>第一款 高等商業学校</p> <p>第一項 俸給及諸給 五、一五円六</p> <p>第二項 庁費 三、四四・〇〇</p> <p>第三項 修繕費 六、六五・三〇</p> <p>第四項 旅費 七三・〇〇</p> <p>第五項 雑給 三七九・〇〇</p> <p>第六項 学生費 二、六五・六〇</p> <p>第七項 用途指定費 三三三・〇〇</p> <p>臨時部 一、一〇〇・〇〇</p> <p>同前</p> <p>合計 壹、二五円六</p> <p>3・21 平生夙三郎、本校教員より朝鮮政府仁川税関役員に聘せられ、同日出発する</p> <p>3・29 祖山鐘三、本校の選により、文部省留學生として商業学修学のためフランス国パリへ三年の留学のため同日横浜を出発する</p> <p>4・3 第四回春季競漕大会開催</p> <p>4・11 帝国大学第五回競漕大会に招かれ第一一番来賓レースに出場する。赤組に関一氏の名あり</p> <p>4・1 学生により商法研究会が設立され、討論会を開催</p> <p>5・12 露国皇太子殿下御遭難に対し本校より御見舞状を捧呈する</p>	<p>6・27 校長矢野二郎叙勲、勲六等（多年商業教育に尽瘁）</p> <p>6・1（六月三〇日調）本校学生生徒数</p> <p>現員 給貸費 自費</p> <p>本科 三三六 四 三三三</p> <p>予科 六六 六六</p> <p>補充科 一六 一六</p> <p>主計学校 一六 一六</p> <p>計 六〇六 四 六〇六</p> <p>7・1 本校規則を改正し補充科を廃して、予科を二年、本科を三年の教程とし、学科を増設し、程度を高くする。同月附属主計学校規則および学科課程にもまた改正を加え、ややその程度を高める（従来は補充科二年、予科一年、本科三年）。</p> <p>九月新学期より実施</p> <p>▽予科および主計学校の入学規定を大幅に改正する</p> <p>▽学年を二学期制から三学期制に改正。九月新学期より実施</p> <p>7・16 卒業生に仮卒業証書を授与する。本科卒業生五二名、主計学校生五一名、正田貞一郎等卒業</p> <p>7・17 東京商業会議所特別会員七名の選挙があ</p>
---	--

り、矢野二郎その選に入る

7・24 勅令第一三七号をもって文部省直轄学校官制の改正が公布される。教授、助教授、書記の定員を改正、幹事の職を廢する

11・18 本科三年生親睦第一回競漕会を開催する

11・28 雇教師アレキサンダー・ジュセフ・ヘーヤ叙勲、勲五等双光旭日章（商法講習所時代より一

○有余年間精勤した功勞による）。また、明治一九年まで雇教師であったフレデリック・アドリアン・メヤー氏にも勲章が授与される

▽上野不忍池畔馬見所前馬埒の間で陸上運動会を開催する

12・25 学生、校長矢野二郎に心服せず六〇余名打ち連れ辭職勧告をする。のち、今村有隣、谷田部梅吉、石川巖、三氏を新たに教務委員とし校内の大改革にあたらせるが、学生はなお元に復さなかつた

12・26 改正官制によって商議員規程を改定する（文部省直轄学校官制第七条による）。前年までの一覧には校務商議委員として三名の名のみ、規程は記載されず、今回初めて第一条—第七条の委員規程が掲載され、商議員も各界から人数を指定し増加されて七名以上一名以下となる。本年度

明治二五年
（一八九二）

は七名の名あり

1・10 昨年末よりの紛擾引き続き一月八日の開校式にも騒動を起こし、遂に本日、今回の発動者たる本科二年生四五名に退学を命ずる。今回の本科二年生退校処分を不当を鳴らし、本科三年、一年、予科二年、一年、二百余名が団結、校長の指揮に服さないことを論じ、文部省に意見を陳述、その貫徹を期する

1・— 教務委員規程を定め委員三名を置く

3・9 成瀬隆藏、本校教授より市立大阪商業学校校長兼高等商業学校教授となる（後に兼官は非職となる）

4・9 帝国大学運動会第六回競漕大会に招かれ三艇出場する。第一二番競漕高等商業学校の来賓レースに四組が出場、四分五七秒で赤組勝つ

4・16 森島修太郎、高等商業学校教授非職を命ぜられ、農商務省より商工業調査を囑託される

▽第五回春季競漕大会を墨田川上流において開催する

4・21 下野直太郎、市立大阪商業学校教頭より高等商業学校教務囑託となる

4・24 第一高等中学第五回競漕大会に招かれ、

四艇出場する

5・3 「各地商業学校長会議」を本日より当校において数日間開催する

6・4 本科三年生親睦第二回競漕会を開催する

7・11 卒業生に対し、仮卒業証書授与式を挙行する。本科卒業生六四名、主計学校生四二名。本科卒のうち九名が研究生を願ひ出て許可される

7・18〜29 入学試験施行。志願者総数二〇五名、及第者予科一年へ六一名、主計学校へ二三名

9・7 雇教師ベルギー国アルチュル・マリシヤル、叙勲五等贈与双光旭日章

9・30 六年間本校に在って学生の薫陶に従事したマリシヤルは今回雇期限満期に際して、校長は留職を希望したが、都合により辞退し、同日帰国される

10・1 明年シカゴにおいて開催の世界博覧会の出品に応じ、本校の沿革および規則、各種写真、絵図、学科課程表、内外実践利用書式および学生成績品等を美麗に装置し、文部省に提出、農商務省を経て米国へ廻送する

11・13 エドワード・ジョセフ・ブロックホイイス、マリシヤルの後任として着任（氏はアントワープ高商卒業生で、商業実践科、商業地理、商業

算術等を担当）

11・16 原田貞之助、教授に就任。氏は明治一六年三月より当校の教職にあったが、二一年九月、アントワープ高等商業学校へ留学を命ぜられ、同校卒業後も私費でロンドンに留学中であつたが、今般帰国を命ぜられる

11・21 第二回卒業証書授与式を帝国大学講義室において挙行。明治二三年以後の本科卒業生一五六名、および同二二年以後の附属主計学校卒業生一二五名に卒業証書を授与する。各組より藤村義苗ほか一七名を委員として当夜、校員、学友会員およびその家族ならびに学生生徒を招待して日本橋俱樂部において園遊会を開く

「高等商業学校ニ於テハ昨二一日午後一時、卒業証書授与式ヲ行ヒ明治二三年以降ノ本科及二二年以降ノ附属主計学校卒業生ニ卒業証書ヲ授与セリ其人員左ノ如シ」

本科卒業生二三年―四〇人、二四年―五二人、二五年―六四人

主計学校卒業生二三年―一七人、二三年―一五人、二四年―五一人、二五年―四二人

右授与畢リテ校長矢野二郎祝詞ヲ朗読シ、卒業生総代藤村義苗ノ答詞アリ、次ニ有栖川宮殿下

明治二六年 (一八九三)	
<p>ノ令詞並ニ内閣総理大臣、文部大臣、同校商議委員波沢栄一、横浜「メール」新聞記者プリンクリー等ノ祝詞演説アリテ午後三時其式終レリ (文部省)</p> <p>12・11 同日午後二時一五分波沢栄一氏、日本橋区兜橋畔において暴漢の要撃に遭う、幸いに軽傷であった</p> <p>12・1 農商務省特許局長奥田義人の商議員囑託を解く</p> <p>▽農商務省特許局長藤田四郎に商議員を囑託</p> <p>3・1 明治二六年度歳入歳出予算ならびに同年度特別会計歳入歳出予算中本学に関係のもの次のとおり</p> <p>高等商業学校 歳入</p> <p>經常部</p> <p>第一款 高等商業学校</p> <p>第一項 政府支出金 四、三三三・六</p> <p>第二項 諸収入 二七、三五五・三</p> <p>第三項 用途指定寄付金 一四、五六八・〇</p> <p>第二款 前年度繰入金 一、三〇〇・〇</p> <p>第一項 用途指定寄付支出残金 一、三〇〇・〇</p>	<p>經常部合計 四、三三三・六</p> <p>臨時部</p> <p>第一款 新營受入金 三〇、〇〇〇・〇</p> <p>第一項 政府支出金 三〇、〇〇〇・〇</p> <p>合計 六四、三三三・六</p> <p>歳出</p> <p>經常部</p> <p>第一款 高等商業学校 四、三三三・六</p> <p>第一項 俸給及諸給 三、三三四・〇</p> <p>第二項 庁費 五、〇三三・九</p> <p>第三項 修繕費 九七三・八</p> <p>第四項 旅費 一五八・三</p> <p>第五項 雑給 一、八六六・四</p> <p>第六項 学生費 一七三・〇</p> <p>第七項 用途指定費 二、四〇〇・〇</p> <p>第八項 備外国人諸給 一、四四〇・〇</p> <p>臨時部 新營費、前出のとおり</p> <p>4・1 講堂建設が決定。現在の事務館の右側に地築に着手。総建坪一八八坪、竣工は明年なかば過ぎの予定</p> <p>4・9 第六回春季競漕大会を開く</p> <p>4・24 森島修太郎、依願免官非職教授、日本海陸保険株式会社支配人に就職</p>

<p>4・27 矢野二郎、高等商業学校長を免ぜられる</p> <p>4・28 東京帝国大学法科大学教授法学博士和田垣謙三、臨時校長事務取扱を命ぜられる</p> <p>5・1〜4 各地商業学校長会議を本校において開催する</p>	<p>5・12 学生の修学遠足。学生生徒二〇〇余名、校長教職員等が付き添い高尾山近傍へ、帰途八王子における織物工場製糸場、生糸織物市場を參觀する</p> <p>6・1 入学受験料徴収は二二年度から実施されているが、本年度より次のとおり改正。予科三円、主計学校二円（二二年度予科一元五〇銭、主計学校一元）</p> <p>6・19 文部省参事官従六位由布武三郎を校長に任じ、和田垣謙三の事務取扱を免ぜられる</p> <p>6・28 勅令第六二号をもって東京高等商業学校附属主計学校廃止の件が公布される。実施は九月一日より、現に入学中の生徒は卒業期まで授業</p>	<p>7・11 卒業仮証書を授与する。本科卒三七名、主計学校三〇名。関一、星野太郎、鹿野清次郎等</p> <p>7・28 園田孝吉、小野義真、吉川泰二郎、莊田平五郎、阿部泰蔵、および農商務省商工局長若宮</p>
---	---	---

正音に商議委員を嘱託する

▽東京帝国大学法科大学教授法学博士和田垣謙三に、商議委員を命ずる

▽富田鉄之助、農商務省農務局長藤田四郎、商議員嘱託を解く

▽東京帝国大学法科大学教授法学博士梅謙次郎、商議委員を免ずる

<p>7・1 学生の修学旅行（七月下旬〜九月上旬）本科三年に進級した以下の学生に地方商工業の状況視察のため旅行を命ずる。福田徳三・坂田重次郎（栃木・群馬・長野・福井・富山・石川・新潟）、八十島親徳・北村久義（福島・宮城・岩手・青森・北海道）</p> <p>8・24 勅令第八七号をもって本校教授一五人が一二人に、助教授二二人が一二人に、書記一〇人が七人に改められる</p>	<p>8・1 規則を改正（九月一日新学期より実施）、予科修業年限二年を一年に短縮、研究年限二年以内を一年とし研究科と改める</p> <p>入学規程改正</p> <p>従来一府県立尋常中学校卒業生でも、英・数・作・習の四科目の試験の結果入学を許す</p> <p>改正一公私立尋常中学校卒業生で優等者（本校</p>
--	---

明治二七年
(一八九四)

で適當と認めた学校) および官公立学校では学
校長の証明によつて無試験入学(予科)を許す。
公私立商業学校卒業生には国漢・英・数・物・化
・博のうち数科又は全科試験の結果入学を許す
学科規定改正

第二外国語中に露語を加える。経済と統計をあ
わせて一科とする。商業要項と実践をあわせて
一科とする。なお授業時間に増減を加える。

9・1 ベルギー国商学士飯田旗郎、教授(商業
要項及実践)に任ぜられる

9・7 ベルギー国商学士村瀬春雄、教授(商業
要項及実践・簿記)に任ぜられる

9・11 附属主計学校が廃止される

▽東京帝国大学文科大学教授神田乃武、本校教授
(英語科主任)として来任

11・16 第三回卒業証書授与式を帝国大学講義室
において挙行。本年七月卒業の本科生三七名、主
計学校三〇名、卒業生総代、関一(以後卒業式は
毎年七月挙行に定める)

3・9 大婚二十五年祝典に際し本校職員学生よ
り賀表を捧呈する。起草—杉山令吉教授、書—小
島春氏。金泥模様の料紙、奈良朝時代の古式によ

る調製

4・9 パリ高等商業学校卒業の祖山鐘三、帰国
を命ぜられ、教授(商業要項及実践・経済)に任
ぜられる

▽奈佐忠行(嘱託講師)、教授(商業地理・博物)
に任ぜられる

▽下野直太郎(嘱託講師)、教授(商業要項及実
践・簿記)に任ぜられる

4・27 商議委員会開催。出席者、委員・渋沢、
小野、阿部、和田垣、小山、文部大臣・次官、専
門学務局長。由布校長提出の議案審議、卒業生を

海外枢要の商業地へ派遣、実務を研修せしめる等
4・1 第七回春季端艇競漕大会を開催する

▽第一高等学校より端艇競漕の申込みを受けたが
これを拒否する

5・5 15 地方商業学校長会議を本校において
開催する

5・14 前農商務次官斎藤修一郎の辞職後商議委
員欠員中のところ(農商務省からは高等官二名の
規程)、農商務次官金子堅太郎を商議委員に嘱託す
る

5・18 由布校長および各教員等学生を引率して
横須賀へ修学遠足を行なう。造船部各工場船渠等

<p>明治二八年 (一八九五)</p> <p>参観。碓泊の軍艦從覽、鎌倉まで歩行後帰京</p> <p>6・1 講堂新築成る。事務館と商品陳列所との間に建設される。平家建煉瓦造、総建坪一八八坪</p> <p>6・19 入学規程を追加し、入学試験方法を改める(第一〇条に第三項として一項を加える)</p> <p>7・6 本年落成した新講堂において、第四回卒業証書授与式举行。本科卒業生四二名、主計学校三〇名。卒業生代表答辭福田徳三</p> <p>7・13 予科生募集。昨年改正の規則第一〇条第一項による無試験入学許可者四八名。受験者一七九名、入学許可者四八名</p> <p>7・1 学生の修学旅行(七月下旬〜九月上旬) 本科三年に進級した学生中優等者若干名に褒賞の趣意をもって旅費を給し、各地の商工業の実況を視察し報告書を提出させる。佐野善作・小林和介(山梨・長野地方)、長崎兵吉・楠目成俊(福島・新潟地方)</p> <p>12・1 第二外国語の中に朝鮮語を加える</p> <p>4・27 第八回春季端艇競漕大会を開く</p> <p>5・1 英語大会を開催する</p> <p>7・6 第五回卒業証書授与式を挙げる。本科卒業生、佐野善作等五二名</p>	<p>明治二九年 (一八九六)</p> <p>7・1 教務委員規程を廃止する</p> <p>8・27 校長由布武三郎、文部省参事官に専任し、文部大臣秘書官小山健三郎、校長に任せられる</p> <p>10・1 箱根に修学旅行を行なう</p> <p>4・26 第九回春季端艇競漕大会を挙げる。本校卒業生が在職している三社の競漕初めて行なわれる</p> <p>7・6 第六回卒業証書授与式を挙げる。専攻部福田徳三、一名。本科相生由太郎等、四六名</p> <p>8・12 予科入学規定を改正する。尋常中学卒業生特別試験入学の項を廃止。商業学校卒業生の入学試験方法を改正。第一三条第二項を廃止</p> <p>▽予科および本科の学科課程に大改正を加える。 予科は、博物・図画の二科を廃して第二外国語を加え、物理・化学は応用を主とし、倫理は専ら商業道徳を講説する。本科は、単一の科目であった法律を民法・商法・國際法の三科に分け、経済および統計を経済学・統計学・財政学の三科に、商業要項および実践を商業学・商業実践の二科に、機械工学を新設し、商業地理および商業歴史を商工地理および商工歴史と改める。九月新学期より実施</p>
---	--

明治三〇年
(一八九七)

- 9・1 福田徳三、高等商業学校講師となり、海外留学の内命を受ける
- 10・1 日光に修学旅行を行なう
- 4・6 第一〇回春季端艇競漕大会を開催する
- 4・6、9・11 それぞれに商議員の更迭あり
- 4・22 勅令第一〇八号をもって文部省直轄学校官制が改正され、本校に「附属外国語学校」が設置される。同時に同校主事が置かれる
- 4・28 勅令第一三六号をもって本校職員定員に改正が加えられ、また新たに附属外国語学校職員定員が定められる。校長一人、教授、本校一四人・附属外語一五人、助教授、本校一二人・附属外語八人、書記、本校七人・附属外語二人
- 5・1 アーネスト・フォクスウェル就任。氏は本学と東京帝国大学法科大学教師を兼ね、本学では商業経済学を担当。同氏の在日は一八九六年(明治二九年)〜一八九九年(明治三二年)、本学では明治三一年七月まで在職
- 6・14 研究科規程を廃して専攻部規程が設けられる(修業年限一年)。九月より施行、学科課程確立
- 6・26 助教授佐野善作、商業学研究のため、三

明治三二年
(一八九八)

- 年間米・英に留学のため出発する
- 7・6 第七回卒業証書授与式を挙行する。本科卒業生、石川文吾・中嶋久万吉等八五名
- 7・22 附属外国語学校規則を制定する。英・仏・独・露・西班牙・支那・朝鮮の七語を設け、生徒を正科生および特別生の二種とし、正科生修業年限三年、特別生修業年限三年以内とする
- 9・1 本校「運動会」端艇四艇新造の議を決する
- 11・1 本校規則中、試験・進級および卒業規程を改正する
- 1・9 学友会を合併して新たに高等商業学校同窓会成立を計り、会則一九カ条を議決して、同会創立の第一着手を遂げる
- 1・1 本校「運動会」所有の現在の競漕艇は明治二二年石川島造船所の製造にかかるもので以来九年間使用してきたが、老朽のためその用に適せず新艇の製造を石川島造船所へ依頼する(一、六〇〇円の予算)
- 2・1 「高等商業学校運動会規則」制定
- 3・5 浅草蔵前に仮艇庫を新築する(一〇四坪、予算八〇〇円)
- 3・13 新造端艇の進水式を挙行する。新艇の命

名は旧艇の名を襲うこととなる

3・21 福田徳三、講師を解かれ、文部省より三年間のドイツ留学を命ぜられ出發する

4・10 第一回端艇競漕会春期大会を開催する

4・1 第四回英語大会を開催する

▽本校は明治二九年以来、学科目中に商業道德の一科を加えていたが、なお商業社会の実情と照合して充分な修整をしようとの趣旨で一四項目から成る「商業道德要領」を都下知名実業家に送り、実験上の意見を求める

5・2 校長小山健三、文部次官に任ぜられ、教授神田乃武が校長心得を命ぜられる

5・2~9 本校において地方商業学校校長会議を開催する

6・6 東京帝国大学書記官清水彦五郎が校長に任ぜられ、神田乃武は校長心得を免ぜられる

6・1 学生、新校長の任命を不満として排斥運動を起こす。この問題に關し、同窓会では臨時常議員会を七回にわたって開催（第一回、六月一日）第八回、七月六日）、また臨時總會を開き、この問題について奔走、卒業生有志もまた立って尽力。渋沢栄一等商議委員を動かし学生と当局との間の調停に努める

7・6 高等商業学校本科第七回ならびに専攻部第一回卒業証書授与式を挙げる。専攻部卒業生一七名、本科卒業生六九名

8・1 夏季修学旅行。本科三年級中の優等者、三浦新七・堀光亀等六名を選抜し商工業実況調査のため各地に旅行を命ずる

8・6 校長清水彦五郎職を辞し、文部省実業教育局長手島精一が校長事務取扱を命ぜられる

8・17 教授関一、三年間のベルギー留学のため出發する

10・1 本科三年堀光亀、台湾修学旅行を命ぜられ、台地商勢一斑につき長文の報告書を提出、同窓会々誌にこれを転載する

▽附属外国語学校規則の一部を改正し、副科規定を新設する（正科三年生に、志望により経済学・国際法・教育学の科もしくは二科を兼修し得ることとする）

10・11 東夷五郎、ベルギー留学の関一の後任として、熊本商業学校長より本校教授に任命される

10・21 学生会を神田錦輝館において開催。本校学生は毎年一回ないし二回宛、学生会と名づけて一同会合し、朝野知名士を請してその演説を聴き、傍ら相互の親睦を計ることを例としていた。

教授、学生あわせて五〇〇余人が参加

10・25 手島精一、校長事務取扱を免ぜられ、文部省高等学務局長高田早苗が校長事務取扱を命ぜられる

11・9 教授志田鉦太郎、三年間商法研究のためドイツおよびフランスへ留学のため出発する

11・13 「運動会」秋季端艇競漕会を挙行する

11・19 露西亞語会開催。本会は明治二九年、當時の本科二年生により組織、以後年々春秋二期に会合、露語の研究および露国の状勢等の談話を聞くことを目的とする

11・20 高商対東京高師の第一回テニス大会がお茶の水で開かれる

11・24 高田早苗は校長事務取扱を免ぜられ、文部省普通学務局長沢柳政太郎が校長事務取扱を命ぜられる

11・1 第一高等学校と本校との間に己亥連合競争会成立し、榎本子爵が会長、両校々長が副会長となる

12・1 ドイツ国ミュンヘン留学中の福田徳三「欧米商業教育の近況」なる長文を同窓会々誌(第四号)に寄せる

●この年田中慶三郎・田中都吉・明吉明の三名、

明治三二年
(一八九九)

領事官試験に合格する

3・1 留学中の福田徳三、「商業教育に関する著書一覽」を同窓会々誌に寄せ、欧米各国が鋭意商業教育奨励の実状を示す

▽図書貸付および閲覧規程の一部を改正する(教科書用図書の貸付料等についての規定が加わる)

3・3 「商業教員養成所」を本校内に設置し、本校長がこれを管理することとなる(九月より授業)

3・25 沢柳政太郎、校長事務取扱を免ぜられ、大蔵省参事官駒井重格、校長に任ぜられる

▽『高等商業学校同窓会々誌』第一号が発刊される

4・3 高等商業学校同窓会支部設置規則、本日の春季総会において議定される

4・4 附属外国語学校を「東京外国語学校」と改称し、本校より分離し、一ッ橋外の大学講義室跡に新築中の校舎へ移転する

4・9 第一二回端艇競漕会春季大会を開催する。北白川若宮殿下の来臨あり

4・30 第一高等学校と端艇競漕を行ない敗れる

5・2 横浜に本校同窓会支部成る

- 5・11 商業教員養成所規則を制定する(修業年限二年。学資を補給。入学規程―師範学校、中学校または商業学校(甲種以上)卒業者で地方長官の推薦者中より選抜。定員に満たない時は一般より募集試験を行なう)
- 5・14 ポンペイに本校同窓会支部成る
- 5・17 教授水島鎮也、商業教員養成所主任を囑託される
- 5・28 大阪に本校同窓会支部成る
- 6・17 上海に本校同窓会支部成る
- 7・7 本校本科第九回、専攻部第二回の卒業証書授与式を挙行する。専攻部、滝本美夫・内池廉吉等一二名。本科、三浦新七・根岸佑等六〇名
- 7・1 本校の学科課程を改正。専攻部規程を改正し、修業年限を二年とする。九月より実施
- 7・11と19 本年の予科入学試験を実施する。受験者五三五名中入学許可者一〇三名
- 7・15 助教授石川文吾はベルギーへ、滝本美夫(専攻部卒業)はドイツへ、いずれも商業学研究のため三年間の留学を命ぜられ出発する
- 7・26 神戸に本校同窓会支部成る
- 8・1 夏季修学旅行。本科三年級中優等生を選抜して研究旅行を毎年命じているが、本年は在ポ

- ンペイ同窓会員の寄付もあり、従来(の六名を八名に増員し、なお、祖山、東岡教授、津村囑託教員を研究生監督として出張を命ずる)
- 9・11 商業教員養成所、本日より授業を開始する
- 10・9 ベルギー留学中の石川文吾、「アントワープ府の商業学校」なる商業教育の必要を鼓吹した訳文を同窓会々誌に寄せる
- 10・14と19 地方商業学校長会議を開催する。同会議は本校々長が主となり、毎年春期に本校内で開催することが例となっている。本年は文部大臣が招集、同省構内で開催
- 10・1 専攻部学科課程を改正する
- ▽ベルギー留学中の関一、「欧米商業教育の概況」なる報告書を文部省に送る。同窓会は文部省に請うてこの報告書を印刷の上会員に配布する
- ▽鎌倉・箱根に修学旅行を行なう
- 10・29 秋季端艇競漕会を開催する
- 11・1 ドイツ留学中の福田徳三、「威府国際商業教育会議概況」を同窓会々誌に寄せる
- 12・2 本校「運動会」に柔道部が設置され、本日発会式を挙行する
- 12・1 学生有志によって演説討論の方法によ

明治三十三年
(一九〇〇)

り、知識を交換する目的で講演会が設立され、その規則が制定される。同窓会で講演部設置の相談がなされていたが、いまだその運びではなかった

●この年、橋橋太郎ほか四名が、外交官試験に合格する

- 2・11 本校弓術部、発会式を挙げる (大正六年五月二日、弓道部と改称)
- 3・2 教授石川巖、商品学研究のため、一年間フランス国へ留学を命ぜられ出発する
- 3・29 勅令第八六号をもって職員定員が改正され、教授一四人が一六人に、助教授一二人が一四人に、書記七人が八人になる
- 4・7 同窓会規則の一部を改正する
- 4・8 第一三回端艇競漕会春季大会を開催する
- 4・14 教授津村秀松、ドイツにて商業経済学、米国において鉄道業調査研究のため出発する
- 4・1 本校「運動会」規則を改正する。既に端艇部あり、その後柔道部、弓術部が設置され、擊剣部創設の計画中で会則改正の必要を生じたため
- 5・1~8 地方商業学校長会議が本校において開催され、商業教員養成所の拡張と第二高等商業学校を速かに開設等のごが建議される

5・19 本校英語会第六回大会を開催する

7・1 本校同窓会主催にて渋沢栄一氏還暦ならびに叙爵祝賀会を本校講堂において開催。同氏答辭演説中に商業大学設立の必要を説く

7・3 第一〇回卒業証書授与式を挙行する。本科卒業生、出淵勝次・村田省威等七九名

7・1 入学試験施行。無試験入学者四一名、受験者総数七七一名、うち合格者一四〇名。計入学許可者一八一名

- 7・18~21 パリにおいて開催の万国高等商業学校同窓会大会(第一回)に、ベルギー留学中の関一、本校同窓会を代表して出席する
- 8・11 教授神田乃武、英語教授法研究のため、イギリスおよびドイツへ留学を命ぜられ出発する
- 9・20 本校同窓会常議員会を開催。かねて渋沢男爵から提唱があつた商業大学設置の件に関して臨時常議員会を開くことを決議する
- ▽京都に本校同窓会支部成る
- 10・1 佐野善作、留学地米・英から仏・白・独を巡歴、商業教育を視察して帰国する
- ▽日光に修学旅行を行なう
- 10・18 本校同窓会臨時常議員会開催。商業学校程度問題(商業大学設置)に関し、諸般の調査に

明治三四年
(一九〇一)

あたるため委員を推選。村瀬春雄、内地廉吉、隈本栄一、佐野善作、水島鏡也、東夷五郎の六氏その任にあたる

▽名古屋に本校同窓会支部成る

10・25 教授下野直太郎、商業学研究のため二年間イギリスへ留学を命ぜられ出発する

10・27 本校同窓会秋季総会を開催。商業学校程度問題に関して次のように決議。「本会は我国に商業大学設置の必要を認む。」この目的を達するために常議員に臨機の処置をなすことを委任する。その入費は同窓会で負担する

11・1 在パリの福田徳三より「白耳義国諸法科大学における商業学科」という報告が同窓会々誌(第一四号)に寄せられる

12・10 故児島正一郎君記念図書を購入、本校へ寄贈するの議、水島鏡也、東夷五郎、内池廉吉等を発起人として起こる

12・13 本校同窓会内に講演部創設のことが議決され、規則が制定される

1・1 本校同窓会において商業大学問題に關し、討議を重ねて主意書を起草する
2・3 長崎に本校同窓会支部成る

2・1 在伊国の福田徳三、独瑞伯三国に於ける商業大学増設実況」を同窓会々誌に寄せる

▽本校留学生、石川巖、石川文吾、神田乃武、滝本美夫、津村秀松、福田徳三、志田鉦太郎、関一、ベルリンに会合し、商科大学問題について討議し、「商業大学設立の必要」の意見書を草し、学制に關する調査を付し同窓会々誌に寄せる
3・13 本校同窓会、本校商議員四氏を招待して商業大学問題に關して各氏の意見を敲く

3・31 勅令第二五号をもって職員定員が増加される。教授一六人を二人、助教授・書記は前年に同じ

3・1 本校同窓会、「商業大学設立の必要」なる論説を、福田徳三報告になる「海外各国商業大学要覽」を付して同窓会々誌に発表する

4・14 第一四回端艇競漕大会を開催

4・21 ドイツ留学中の関一、ケルン商業大学の事情内容・学科課程等の報告を同窓会々誌に寄せる

5・1 同窓会「商業大学問題委員会」開催。国家財政困難の折柄、経費の点からみて、純然たる一個の独立商業大学設立は最終目的として、まず高等商業学校内に大学部を附設、現在の専攻部の

<p>学科課程を改正変更してこれにあてて。学科課程、経費の点は、佐野、内池両氏調査報告のこととする</p> <p>5・3 本校鍛錬部（剣道部）発会式を兼ねて、道場開きを挙行する。師範、直心影流第十五代一徳斎、山田次郎吉</p> <p>5・3 地方商業学校長会議を本校において開催。その節、加藤外務大臣および梅文部総務長官が商業教育論について演説を行なう。「加藤氏の論は商業教育の何者たるかを知悉せず、梅氏の論には全体を通じて矛盾の点尠からず、両者とも一つの取る所なし」と、同窓会々誌その全文を掲げてこれを反駁する</p> <p>5・9 佐野、内池両氏、「商業大学学科課程及経費」の調査を本日開催の同窓会常議員会例会に提出。審議、異論なく議了</p> <p>5・20 教授石川巖、帰国する</p> <p>5・ 本校商議委員に一名の減員あり</p> <p>6・ 専攻部規程を改正。「第六条、専攻部を卒業した者は「商業学士」と称することを得」の一条が追加される</p> <p>6・29 教授中村進午、博士会の推薦により法学博士の学位を授与される</p>	<p>明治三五年 (一九〇二)</p>
<p>7・8 第一回卒業証書授与式を挙行する。専攻部、三浦新七・根岸信等一二名。本科、井浦仙太郎・吉田良三等八七名。養成所、泉屋清次郎等二三名。計一二二名の卒業生を出す</p> <p>7・11 本日開催の同窓会常議員会の議題の一つとして、「本校に未だ記念日の定めなく、高等商業設立日を記念とするの件」がボンベイ支部から提案される</p> <p>▽台北に本校同窓会支部成る</p> <p>8・ 1 ペンシルバニア大学のデュームス教授、「高等商業教育と大学との関係」なる一文を同窓会々誌第一七号に寄せて、商業の専門的教育は大学で施す必要を論ずる</p> <p>9・17 ドイツ留学中の福田徳三、帰国する</p> <p>10・ 箱根・熱海に修学旅行を行なう</p> <p>11・3 教授関一、留学地ドイツより帰国する</p> <p>12・10 校長駒井重格逝去し、文部省参事官寺田勇吉が校長事務取扱を命ぜられる</p> <p>12・12 教授神田乃武、留学地より帰国する</p> <p>1・20 教授水島鏡也は商業教員養成所主任を辞し、教授東夷五郎が同所主任を囑託される</p> <p>1・25 教授奈佐忠行、英独へ留学を命ぜられ出</p>	

発する

2・4 文部書記官兼文部省参事官兼視学官寺田
勇吉が校長に任ぜられる

2・10 商業大学問題について同窓会臨時常議員
会を開催。渋沢男爵、菊地文相と会見につき、昨
年同問題委員会で作成の経費学科課程等に関する
調査書の再調査に決し、村瀬・佐野・水島・福田・
関の六委員がその任にあたり、その結果を渋沢男
爵へ寄送する

3・1 本校「運動会」端艇部従来の年級別を廃
し、卒業生・在校生をH・C・Sにわけ、同時に
優勝旗を制定する

▽第二高等商業学校設立の勅令公布

東京高等商業学校時代

明治三五年
(一九〇二)

- 3・27 勅令第九八号をもって「東京高等商業学校」と改称する(四月一日施行)
 ▽勅令第九九号をもって本校職員の設定が増加され、教授二二人を三〇人に、助教は変わらず、書記八人は一人となる
- 4・1 文部省令第九号をもって、実業学校教員養成規程の公布があり(三二年文部省令第一三号)による規程は廃止、それに伴って商業教員養成所規程を改定する。大要は旧規則と同じ
 ▽第二高等商業学校は神戸高等商業学校と改称する
- 4・4 教授東夷五郎、商業教員養成所主事を命ぜられる
- 4・6 第一五回競漕大会開催。第一回H・C・S競走においてS組が優勝する
- 4・1 本校同窓会、支部設置規則・支部取扱準則を改正する
- 5・1 本校学生数は八六三名(含養成所生二九

- 名)で教場狹隘を極め講堂まで使用のため、校舎増築工事に着工する
- 5・22 本校同窓会ボンベイ支部、故駒井校長記念図書を購入し、本校図書館に寄贈する
- 5・30 本校々内には多くの団体があるが、その間に統一はなく群雄割拠の状態であったために、校内一致を欠き校風揚らず、かつ重要な言論の機関もないことを憂慮して、本科二年生全校団結を決議し、その実行を本科一年生に託す。本科一年生同級会を神田錦輝館に開き、本科二年生の提案を満場一致で可決し、創立委員を選出する
- 6・9〜14 地方商業学校長会議を市内京橋区において開催。本年は文部省、その開催を認許せず自主的に開催されたもの
- 7・1 本年の入学試験を本日より施行。出願総数一、二五〇名、募集人員は海軍主計生二五名を含めておよそ三〇〇名
- 7・4 第一二回卒業証書授与式を挙行する。専

攻部卒業生、上田貞次郎・堀光亀・出淵勝次等四名。本科卒業生、左右田喜一郎・坂西由蔵等六九名

7・1 欧米漫遊中の渋沢男爵、同窓会ロンドン支部およびリヨン支部において商業大学設置必要論を講演する

8・21 リヒャルト・ハイゼ、ドイツ語教師として着任。学習院、慶応義塾の教職を兼ねる

8・26 校長寺田勇吉は休職を仰付けられ、東京帝国大学法科大学教授松崎蔵之助が校長兼任を命ぜられる

9・20 法学博士松崎蔵之助、校長に任せられ、東京帝国大学法科大学教授を兼任

9・1 「一橋会」創立委員、会則を編纂する

10・18 「二橋会」創立委員、本校「運動会」および既存各種団体との交渉を終了する

10・1 商業教員養成所学資補給規程その他を改正する（第四条在学中学資を補給すとあるを、補給することあるべしと、第六条管理者とあるを校長と改正）

10・24 本校生徒一同箱根に修学旅行を行なう

10・31 石川文吾、帰国する。一二月一日教授に任せられる

11・1 「一橋会」発会式を兼ね学生大会を開催する。一橋会規則を制定する。同会は今後大いに

拡張し、大会を開き雑誌を発行し、卒業生との連絡をも計ろうとするものである。旧運動会と一橋会との合併。旧運動会は端艇部（創立最古）を本部とし、柔道、撃剣部等は支部として附属していた。一橋会と合併するに際して、締結条項四カ条

を示し旧来と改変の無いことを期する。一橋音楽会は一橋会成立とともに一つの部として独立を欲したが、その実質いまだ部として独立し得ないものであり、多年縁浅からざる英語部に属し一橋会

英語部音楽会と成る。一橋会成立とともに従来分立していた運動会、英語部等を総合し、新たに研究、編纂、英語、端艇、庭球、撃剣、柔道、弓術の八部を設置する

11・1 試験・進級・卒業規程を改正する。専攻部学科課程を改正する（必修、専修科目増加、時間増）

11・7 教授石川巖氏、逝去される

11・17 滝本美夫、帰国する。一二月四日教授に任せられる

11・27 関門に本校同窓会支部成る

▽リヨンに本校同窓会支部成る

明治三十六年
(一九〇三)

- 11・29 本校職員秋季懇親会開催。新任松崎校長、欧米巡遊帰国の渋沢男爵、留学地より帰国の石川、滝本両氏の歓迎、プロックホイス氏就職満一〇年、ヘーヤ氏就職満二三年の祝賀を兼ねた盛大な会合となる
- 12・6 本校対第一高等学校の端艇競漕は数年行われ、不幸にして五戦五敗、三三年、三四年と開かれず、本校端艇部は一高関係者と協議、気運大いに挙っていたが、一高校友会は競技の種類を問わず他校との試合を許さざる慣例(三二年決議)との趣により謝絶される
- 12・12 渋沢男爵ほか二氏帰国歓迎会において、福田徳三、商業大学設置論について演説を行なう
- この年、出淵勝次君ほか三名、外交官試験に合格する
- 1・6 教授水島鎮也、神戸高等商業学校長に任ぜられる。一月二四日一橋会主催にて水島、東両教授の送別式を開催する
- 1・26 商業教員養成所主事教授東夷五郎、神戸高等商業学校教授に任ぜられる
- ▽教授志田鉦太郎、博士会の推薦により法学博士の学位を授与される

- 2・1 専攻部規程に改正を加える。すなわち第六条に但書が加えられた。「第六条 専攻部を卒業したる者は商業学士と称することを得。但、明治三二年八月以前の専攻部規程に依り卒業したる者、又旧研究科を卒業したる者は学校長の認可を経て商業学士と称することを得」
- 2・4 教授佐野善作、商業教員養成所主事を命ぜられる
- 2・7 一橋会研究部第一回討論会を開催する。論題「市内交通機関を完成するが為めに、外資を輸入するの可否」
- 3・1 一橋会機関誌『一橋会雑誌』発刊される(年四回発行)
- ▽講師三浦新七、独・英へ留学を命ぜられ出発する
- 4・1 高等商業学校同窓会の名称を同日の春季総会の決議を経て、「東京高等商業学校同窓会」と改称する
- 5・14 ロンドンに本校同窓会支部成る
- 5・18 地方商業学校長会議を本校において開催する
- 5・29 規則中、入学に関する規程を改正する。無試験あるいは試験科目省略者入学の項を後に

- し、年齢満一七歳以上の一般志願者（試験科目一二）の方を優先する。
- 6・8 留学中の下野直太郎、帰国する
 - 6・1 一橋会校歌を懸賞募集する
- ▽本校の姉妹校である神戸高等商業学校に、水島校長主宰のもとに学友会が設立される
- 7・6 留学中の津村秀松、帰国する
 - 7・7 第一三回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、井浦仙太郎・吉田良三等二五名。本科卒業生、藤本幸太郎等一一八名。養成所卒業生二五名
 - 7・11、16 入学試験を施行。志願者数一、三〇八名。入学許可者二五〇名
 - 10・3 講師堀光亀、ドイツへ留学を命ぜられ出發する
 - 10・13 文部省令第三三号をもって規則中、学科課程を改正する。予科において経済通論が加わり、本科において、破産法・商事行政法を新設、民法・商法を合して私法とする
 - 10・1 同窓会ロンドン支部、一橋会端艇部へ銀杯を贈る（ロンドン・カップ）
- ▽故松田千歳君記念図書購入資金を同君舎兄より寄贈、有用図書購入のうえ図書館へ備え付ける

明治三十七年
(一九〇四)

- 11・1 一橋会第二回大会を開催する。毎年この日を記念日と定め一橋会大会開催の事を定める
- 11・28 一橋会研究部第一回例会を開催する
- 11・1 本校学生で清韓その他東亜諸地域を漫遊する者をもって「東亜倶楽部」が結成される。東亜諸国の地・歴・政法制度、商業慣習等の研究団体である
- 12・4 勅令第二三二号をもって本校職員定員が減じられる（書記一人を九人に）
- 12・6 一橋会研究部講演会を開催する。講演者は福田教授（部長）、高橋作衛法学博士、石川文吾教授
- 12・18 本校教授会規程が制定される
- 12・20 一橋会研究部演説会を開催する。講演者は滝本教授、高岩勘二郎氏、沼野安太郎氏
- 12・1 一橋会端艇部、新艇四隻新造に関し、同窓その他関係有志に義捐を募る
- 1・28 本校会計課岩田某、一橋会々費ならびに端艇部積立金四、五〇〇余円私消事件発覚、同日金品受授の契約になっていた新造艇はすでに一月二四日竣工していたので、一橋会臨時総会を開催、善後策を議定する。一橋会端艇部は本校同窓

- 会より金一、三〇〇円を借り入れる
- 1・31 一橋会端艇部新造端艇四艘の進水式を挙行する
 - 2・12 露国に対する宣戦勅諭下り、本科二年生主唱して提灯行列を行なおうとして文部当局および一橋会会長に止められる
 - 2・15 一橋会は昨年六月校歌を募集したが、応募作品中本科一年生植野庄三郎君のものを当選作とするも、なお校歌とするには至らず、これを一橋会歌として発表する。現在の「長煙遠く」がこれである
 - 3・1 一橋会会計細則が成り公示される
 - 3・31 一橋会々費ならびに端艇部積立金私消事件善後策成り、一橋会理事等引責辞任する。新たに理事選ばれる
 - 3・1 一橋会陸海軍恤兵部、慰問品を寄贈する
 - 4・23 一橋会撃剣部第一回大会を挙行する。撃剣部細則制定される
 - 4・24 一橋会庭球部は、かねて計画中の模範コートの新設が成り、コート開きを兼ね第四回庭球大会を挙行する。また庭球部規定制定される
 - 5・28 ペルリ記念資金彰誼会により、日米和親条約締結五〇周年を記念して都下高等、専門各学

- 校委員、職員、学生代表、来賓等約二、〇〇〇人が本校講堂に参集して記念会が開催される
- 7・7 本校第一四回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、左右田喜一郎・坂西由蔵等一五名。本科卒業生、小坂順造・佐藤尚武等一三九名
- ▽当日現在学生数(校長報告)、専攻部六四名、本科・予科八三九名、養成所二八名
- 8・1 本日より本年度入学試験施行。入学志願者数は一、三〇一名
 - 8・2 教授福田徳三、休職を命ぜられる
 - 8・1 左右田喜一郎、専攻部を卒業し英独留学の途につく
 - 9・1 菅礼之助・滝谷善一等七名、一橋会編集部幹事に新任する
 - 9・29 天津に本校同窓会支部成る
 - 10・11 本科三年、菅礼之助・四条七十郎(二名とも編集部幹事)、本校学生除名の処分を受ける
 - 10・15 一橋会英語部例会を開催する。英語部細則制定される
 - 10・1 『一橋会雑誌』、隔月発行となる
 - 11・1 一橋会第三回大会を開催する。一橋会総則に改正を加える。佐野善作教授、一橋会監事に

明治三八年
(一九〇五)

就任する

12・16 規則中入学資格に関する条項を改正する。従来は官公私立中学校等卒業者および年齢満一七歳以上の一般志願者が含まれていたが、以後中等学校卒業者であることが必要になる

▽明治三十六年度本科卒業生(総代藤本幸太郎)卒業記念図書購入費を寄贈、有用図書購入の上図書館へ備え付ける

12・1 一橋会研究部長志田鉦太郎教授辞任する
▽一橋端艇部員上野憲一、端艇道は禅道に相通ずると思ひ、鎌倉円覚寺に至り宮路宗海師の室に入つて一橋禅の先鞭をつける

1・24 授業料規定を改正する(一学年、予科・本科・専攻部とも三〇〇円に改正。旧来は予科二〇〇円、本科二五〇円、専攻部二五〇円)

1・1 『一橋会雑誌』月刊となる

2・17 一橋会研究部長に佐野善作教授が就任する

▽昨年一〇月学籍を除名された一橋会編纂部元幹事の菅礼之助・四条七十郎の兩名は復校を許され、本科三年級に編入される

2・18 福田徳三教授、一橋会編纂部長を辞任

3・4 講師村瀬春雄、一橋会編纂部長に就任
3・23 同窓会々員章(時計提げ用)を定める
3・28 勅令第九七号をもって本校職員定員が増加される(教授三〇人を三一人に、ほかは前年通り)

5・17 一橋会編纂部主催第一回投書家懇親会を上野頴松亭に開く。中心問題、投稿の本旨

5・22 休職中の教授福田徳三、博士会への推薦により法学博士の学位を受ける。本校出身者で学位を得たのは同氏をもって嚆矢とする

6・5 奈佐忠行、留学地より帰国する
▽本年度入学志願者受理数一、五一七名。定員二五〇名。本年は山口・長崎に高商が新設されたが、昨年度より志願者は増加する(昨年度一、三〇一名)

6・1 本校端艇部艇庫建築用地として墨田川上流、言問と帝国大学艇庫との間に二百数十坪の敷地を購入、柴田工学士によって設計中

7・1 一橋会端艇部にあたらに水泳会を設けて茅ヶ崎に開く

7・7 故後藤貞一君記念図書を、同期の三々会より図書館へ寄贈する

7・8 本校第一五回卒業証書授与式を挙行す

る。専攻部卒業生、藤本幸太郎等二〇名。本科卒業生、菅礼之助等一九九名。教員養成所二六名。選科畢業生三名

9・1 対露強硬意見を發表された七博士の一人、教授中村進午博士、本校を去る

9・22 本校の開設記念日を制定し、本年より実施する

▽一橋会大会を開催する。会則改正を議し可決。艇庫新設費用金一万五千円の中一割を会員の負担とすることを可決。同大会は従来一月に開催したが、以後本学開設記念日と合して挙行することに決する

10・1 明治三八年度本科卒業生、記念図書購入費を図書館へ寄贈する

10・1 日露戦役に際し、一橋会が陸海軍恤兵部に恤兵品を寄贈したことに對し、東京府知事から木杯一組が下賜される

10・7 一橋会英語部小会を開く。米国加州のハリス博士、一高のモリス博士等來会、熱弁をふるわれる

10・14 教授上田貞次郎、商事經理学研究のため、三年間英独兩國へ留学を命ぜられ出発する

10・28 香港に本校同窓会支部成る

明治三九年
(一九〇六)

11・10 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。村瀬、石川兩師出席。中心問題、師生間の意思疎通

12・15 一橋会研究部例会を開く。昨秋より本校および帝国大学で教鞭を執られる経済学界の重鎮W・スプレーグ氏の講演が行なわれる

1・4 福地源一郎(桜痴)氏逝去される(享年六六歳)

1・16 一橋会弓術部道場の拡張工事成り、その道場開きを行なう

2・3 昨年九月本校を去られた中村進午博士、ふたたび本校教授に任ぜられる

▽一橋会英語部小会を開く。語学室、新たに設けられ開室式を行なう

2・10 一橋会研究部例会を開く。今回より初めて学生の演説が始められる

2・26 一橋基督教教育青年会、「商業と基督教」の題名のもとに第一回講演会を開催する

3・3 建築中の一橋会端艇部艇庫の新築成り、落成式を挙行し、同一〇日入艇式を行なう。建築費、その他計一七、六六二円四六錢八厘は寄付金による

- 3・22 ニューヨークに本校同窓会支部成る
- 4・19 本校教授文学博士横井時冬逝去される(享年四八歳)。氏は明治二年来、一九九一年間にわたり本校において商工業史を講ぜられる
- 5・3 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。福田博士出席。中心問題、各部分一、宗教論
- 5・12 一橋会研究部、海老名弾正氏および米國 National Cash Register Co. 日本支店長ジョンソン氏を招き講演会を開く
- 5・21 東亜倶楽部(東亜の事情を調査研究する学生・卒業生等の団体)三九年度大会を開く。倶楽部規則制定される
- 5・1 故半田重太郎君記念図書資金募集を倉田庫太郎等発起する
- 6・14 休職中の神戸高商教授内池廉吉(後、本学教授)、商業学研究のため自費をもって渡米する
- 6・18 矢野二郎翁逝去される(享年六二歳)
- 6・27~9・1 如意団の創始。円覚寺内如意庵において同志学生一〇数名が上記期間、時の同寺管長宮路宗海老師に入室参禅したことに起る
- 6・1 入学試験を六月末から七月初旬にかけて

- 施行。本年度志願者数は一、七〇〇余名、昨年度より二百数十名増
- 7・5 仁川に本校同窓会支部成る
 - 7・7 本校第一六回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、武田英一 等一名。本科卒業生、滝谷善一 等一九六名。ほかに選科畢業生一名
 - 9・29 一橋会研究部、米國に一〇数カ月伝道の上帰國された前円覚寺管長釈宗演禪師を聘して臨時講演会を開く
 - 10・6~12 全国実業学校校長会議を本校講堂において開催する
 - 10・26 横井時冬教授長逝の後を受け、教授滝本美夫、一橋会撃剣部長に就任し、本年第一回の小会を開く
 - 10・27 一橋会研究部、都下専門諸学校弁論部を招いて第一回大会を催す
 - 10・1 多年の宿望であった一橋会艇庫も竣工を告げたが、同艇庫建築費として集まった寄付金は一九、六七七円六八錢六厘に達し、建築費その他に一七、六六二円四六錢八厘、残二、〇一五円二一錢八厘は端艇製造基金とする
- ▽来日中のエール大学名誉教授ラッド博士に商業道德の臨時講師を委嘱する

明治四〇年
(一九〇七)

- 11・17 一橋会英語部小会を開く。インド人ローズ (Rose) 氏来賓として演説する
- 11・22 投書家懇親会を韻松亭に開く。福田徳三博士、商業大学論について熱弁をふるう
- ▽漢口に本校同窓会支部成る
- 11・1 図書館新着書目を一橋会雑誌第二六号(二月号)より掲載する
- 12・10 専攻部規程に改正を加える。第六条中、商業学士を「商学士」と改める
- 1・11 専攻部規程の一部を改正、神戸高等商業学校本科卒業生も入学し得ることとする
- 1・25 留学中の堀光亀、帰国する。氏は二月一六日付をもって教授に任ぜられる
- 2・2 一橋会英語部小会を開く。来賓、インドの名士、ブラダーン (R. G. Pradhan) 氏およびナラヤーナ (V. V. Narayana) 氏の演説あり、ほかにインドの諸士、一〇数名が来会
- 2・12 政友会所属代議士、根本正ほか六氏より「商科大学設立に関する建議案」が衆議院に提出される。議長指名により九名の委員が選定され、委員付託となる
- 2・19 本校の試験規程に改正が加えられる(第

- 五章・試験進級及卒業規程)。学年・臨時および学期試験の三種が学年および学期試験の二種になる等々。商業教員養成所規程中、試験および卒業の章を改正する。予科・本科の二月一九日の改正に準ずる
- 2・22 本校同窓会は、去る三三年以来の主張である商業大学問題がようやく社会の耳目を惹くようになつたので、さらに施設・学科に関する実行方法等に関して特別委員を挙げて、討議を重ね運動に移す
- 2・23 二月一二日提出された「商科大学設立に関する建議案」が衆議院において可決、貴族院においては三月二六日通過する
- 2・28 本校同窓会は教授堀光亀の起草した「商科大学必要論」を同窓会々誌第五〇号の付録として会員に頒布する
- 3・2 一橋会研究部、例会を開く。米国教育家ブランド女史、松波仁一郎博士も参会。講演がある
- 3・24 教授鹿野清次郎、英米両国に留学を命ぜられ出發する
- 3・28 サンフランシスコに本校同窓会支部成る
- 4・1 端艇製造基金収入二、三一七円七一銭八

厘に達し、端艇三隻・ヨット一隻・船台四隻分の製造決算報告を行なう

5・11 京城に本校同窓会支部成る

▽一橋基督教青年会寄宿舎新築の議起り、趣意書を頒布。同寄宿舎はまず四〇名の収容を目標に漸次拡張、費用二万円の募金にかかる

5・17 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。中心問題、校風問題

6・13 教授村瀬春雄、博士会の推薦により、法学博士の学位を受ける。本校関係者としては、福田徳三氏に次ぎ二人目

6・16 自費をもって海外研究中の内池廉吉（神戸高商教授）、帰国する

6・1 本校同窓会は前校長矢野二郎氏の肖像画の揮毫を黒田清輝氏に依頼中であつたが、このほどできあがりこれを本校講堂に掲げる

7・7 第一七回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、内藤章・川島信太郎等二〇名。本科卒業生、石田礼助・来栖三郎等一九七名。養成所卒業生二九名

7・1 「商科大学に関する建議案」は過日両院を通過したが、貴族院ではその実行法について講究、各派交渉会の代表、文部大臣にその意見を陳

述する。しかしながら帝国大学政治科改造の風説流れる

7・15 本校同窓会常議員会、商業大学の設立は本校を改造するのが最も適切であることを、文部大臣に陳述する件を議決する

7・19 本校同窓会、大学問題委員会を開催する

8・1 本校同窓会ペンベイ支部は故松本浩一郎氏記念のため、松本文庫を設立して本校図書館に寄贈する

9・20 米國クリブランド大学総長トゥイング氏、本校において「思考力修養の必要」の講演を行なう

9・22 本校開設記念式典ならび一橋会大会を挙行する。田尻稻次郎、大隈重信、添田興銀総裁等の講演あり

9・26 本校同窓会、大学問題委員会委員、永田町官邸において文相と会見し、同窓会の主張を陳述する

10・19 一橋会研究部例会を開く。浮田和民、菊地男爵、後藤新平男爵三氏の特別講演あり

10・1 故夏目弥和次君記念文庫設立につき、三七会同窓発起、運動を起す

11・28 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻

明治四二年
(一九〇八)

松亭に開く。中心問題、各部の使命

▽広島に本校同窓会支部成る

11・1 本年度外交官試験に川島信太郎・阿部嘉八、合格する

12・6 本校学生生徒心得が改正される

12・26 本校規則および養成所規則に改正を加え

「休学」の規程を設ける

12・1 故樋口一造君記念文庫設立につき三六会、藤本幸太郎等同窓者発起し、趣意書を一橋会雑誌に掲載し呼びかける

12・30 一橋会端艇部恒例の銚子港に向かう遠漕の途次、S組第二選手の乗り組んだ旧艇朱雀は三

〇日利根川を遡り笹川に向かう節、午前十一時三〇分茨城県鹿島郡若松村太田新田宝山沖において烈しい風浪のため顛覆する。遭難者、舵手徳野隆

祐、整調田代香苗、五番小寺直吉、四番村井俊二、三番矢部卯一、二番橋本源太郎、触手柏木象作、

人事不省中の五名は救出され、村井・柏木の二選手は遂に死す。搜索は翌年一月一七日までにおよ

ぶ

1・6 旧艇朱雀号遭難に関し、一橋会は臨時理事会を開催、各部長も出席協議する

1・12 一橋会撃剣部、道場拡張工事成る

1・16 小樽に本校同窓会支部成る

▽札幌に本校同窓会支部成る

1・22 本校同窓会、遭難学生弔慰搜索資金を募集する

1・1 一橋会端艇部は旧艇朱雀号遭難事件責任問題を審議し、「生存者五名は端艇沈没ならびに二名の溺死に関して責任なきもの」と判決する
▽一橋会編集部「朱雀号遭難」に関する詩文を募る

▽本校同窓会寄贈の「松本文庫」第一回寄贈図書を発起人の所在地であるボンベイで購入し、母校図書館に収める

1・31 朱雀号遭難事件につき、一橋会臨時総会を開く

2・12 授業科規程に改正を加える。第三七条に但書が加わり、実業学校教員養成規程による学資補給生希望者に対する処置が加わる

2・19 一橋会英語部小会を開く。ファーデル(Fardel)教授およびヴィッカース(Vickers)教授の特別講演あり

2・1 朱雀号遭難事件の詳細な記事、一橋会雑誌第三九号に報告掲載される

<p>3・19 大連に本校同窓会支部成る</p> <p>▽新潟に本校同窓会支部成る</p> <p>3・30 勅令第六九号をもって本校職員定員を増加する(教授三一人を三四人に、助教教授変わらず、書記九人を一〇人に)</p> <p>4・30 都下諸新聞、東京帝国大学法科大学内に今回新たに経済科設置、九月新学期より開始のこゝとを報ずる</p> <p>5・1 一橋会撃剣部を剣道部と改称する</p> <p>5・15 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野頤松亭に開く。福田博士の演説。中心問題、商大問題</p> <p>5・28 本校同窓会常議員会、商業大学問題について討議し、再度文相訪問を決定する</p> <p>6・16 東京帝国大学法科大学組織を改正し新たに経済科を置くことについて、浜尾総長より文部大臣に具申のこと、都下諸新聞に掲載される</p> <p>6・1 本校教授間において、本校主張の商業大学と新設予定を噂されている帝国大学経済科との差異を明らかにし、同窓会々誌にこれを掲載する</p> <p>6・28 本校同窓会、大学問題委員会を開く</p> <p>6・29 7・13 入学試験を施行。志願者二、一〇〇余名、募集人員三二〇名</p>	
<p>7・7 本校教授二一名、文部大臣牧野伸顕に覚書を送り、徹底的に本校の主張を陳べる</p> <p>▽第一八回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、滝谷善一等八名。本科卒業生、松崎寿等二七名。選科畢業生一四名。渋沢栄一男爵の演説あり</p> <p>7・9 本校同窓会ロンドン支部より、学事奨励のため、専攻部卒業論文の優秀なものを公刊のための資金醸出の申し出があり、結果が良好ならば同窓会本部からも相当の醸出をすることを詳議する</p> <p>7・14 西園寺内閣総辭職し、第二次桂太郎内閣成立する。文相小松原英太郎、文部次官岡田良平</p> <p>7・1 渋沢男爵、商業大学問題について、新文相を訪問する</p> <p>8・3 本校同窓会大学問題委員会を開く。内閣の更迭あり、新文相に本会主張の主意陳述の必要急務のため</p> <p>8・1 菅札之助等発起し、故川辺金三郎君記念文庫設立のこゝとを起し募金する</p> <p>8・22 本校同窓会大学問題委員成瀬隆藏、文相を訪問する</p> <p>9・11 東京帝国大学法科大学経済科を開設する</p>	

<p>9・14 根岸侘、本校講師（東洋經濟事情）に就任する</p> <p>9・22 一橋会大会を挙行する。一橋会規則および同會計細則に改正を加える（一橋会は特にヒトツパンクワイと仮名振りがある）</p> <p>9・24 本校同窓会、大学問題委員会を開催する</p> <p>9・29 商法編纂のため清国政府に招聘された志田鉦太郎教授、本日出発する</p> <p>9・1 専攻部一年「天狼生」、一橋商業大学論を一橋会雑誌に投稿、商業大学設立の必要、商業大学と帝大經濟学科との差異、特立一橋商業大学設立の妥当を力説する</p> <p>10・27 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。福田博士出席。中心問題、一橋会雑誌</p> <p>11・27 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。福田博士の講演</p> <p>11・1 本校図書館閲覧所新築なる。従来使用の閲覧室は学生数四、五百に満たない時代そのままのものである。学生数一、三〇〇余に達した今日設備収容力ともに不備の点多く増築を見たものである</p> <p>12・11 教授鹿野清次郎、英米留学を終え帰国す</p>	<p>明治四二年 （一九〇九）</p> <p>る</p> <p>12・20 本校同窓会はその会誌に新設のハーバード大学商科大学について詳細な紹介をする</p> <p>1・14 英独へ留学中であつた教授上田貞次郎、帰国する</p> <p>2・12 昨秋工事を終わった新図書館が本日開館される</p> <p>2・24 大学問題につき第一回学生大会を開く</p> <p>2・25 第二回学生大会を開く</p> <p>2・27 第三回学生大会を開く。学生有志、全校一、三〇〇名の賛成を得て文相ならびに兩院議長に大学問題につき請願書を提出しようとして、松崎藏之助校長にその進達を請う。松崎校長これを峻拒し専攻部一年生五名退学、一名無期停学を命じられる。校長排斥の声おこる</p> <p>3・1 第四回学生大会を開く。商議員渋沢栄一氏、学生大会に臨み一同に対して懇切な慰撫演説を行なう</p> <p>3・3 第五回学生大会を開く</p> <p>3・4 根本正氏ほか五名によりふたたび衆議院に商科大学設置建議案が提出される。委員付託、同一日ふたたび同氏等により同様の建議案が提</p>
---	---

<p>出され、委員長報告通り可決される</p> <p>3・18 本校同窓会常議員会開催。大学問題実行準備委員を設け、一五名を人選、幹事をも加える</p> <p>3・22 本校同窓会、商科大学問題第一回特別委員会を開催。同窓会の意見を具体的に一定し、文相を訪問して意見を陳述することを議決</p> <p>3・29 本校同窓会商科大学問題第二回特別委員会を開催</p> <p>4・6 勅令第八八号をもって、本校職員定員を増加する(教授三四人を三五人に、他は変わらず)</p> <p>4・14 本校同窓会、商科大学問題第三回特別委員会を開催</p> <p>「第一号議案、大学問題に関する決議案。本会は商科大学問題の実行方法として、現時の東京高等商業学校を改造し、商業大学とし、之に高等商業学校と同一程度のもを併置せしむることを期す</p> <p>第二号議案、第一号決議案に基き、実行委員を選挙する</p> <p>第三号議案、第一号決議案に基き、常議員会の決議を経て必要経費を支出する」</p> <p>以上三議案を提案、議決する</p> <p>4・17 本校同窓会春季総会を開催。先に設けら</p>	<p>れた商科大学問題特別委員会で作成した第一号第三号議案を満場一致で可決。ただちに実行委員を選定、同日ただちに第一回実行委員会を開催する</p> <p>4・22 同窓会、商業大学に関する意見書を公表し小松原文相に送る。夜、商議員会開催され、文部当局を批判</p> <p>4・24 学生大会開催。文部省が帝大教授会に対し法科大学内に商科の設置を諮問したことを論難</p> <p>4・26 関、佐野、滝本、下野四教授辞表提出</p> <p>4・28 同窓会総会開催。本校の商大への昇格を決議</p> <p>4・29 帝大教授会、法科大学内に商科大学設置を決定</p> <p>▽教授佐野善作、商業教員養成所主事を辞し、教授奈佐忠行、同主事を命じられる</p> <p>4・1 故矢野二郎翁伝記編纂会組織される</p> <p>5・1 入学・在学・退学規程中一部を改正する(無試験入学者の項、試験料増額等)</p> <p>5・1 帝大評議会、法科大学に商科併置を可決</p> <p>5・3 学生大会を開き、帝大法科大学に商科併置を反対決議</p> <p>5・4 本校同窓会、商科大学問題に関して臨時</p>
---	--

全国大会を神田基督教青年会館において開催する。来賓江原素六、島田三郎氏等もおおいに熱弁を振う。商大期成同盟会組織される

5・5 本校同窓会、商大問題に関する建白書を桂首相、小松原文相に送る

▽松崎校長辭職。文部省専門学務局長真野文二、校長事務取扱を命じられる

5・6 文部省令をもって専攻部廃止される。同夕、神田基督教青年会館にて教育学術講演が開かれ、大隈重信、島田三郎、江原素六、林毅陸、安部磯雄氏等、文政当局を批判する

5・6~7 各クラス委員会開かれる

5・8 午前一〇時よりクラス委員会。夜半本校第二号館火を発して焼く

5・9 五日間の臨時休業

5・11 午前一〇時全校委員会、午前十一時十五分学生大会にて学生総退学を決議し、午後五時校門前において「去校之辭」を朗読する

▽関、佐野、滝本三教授依願免官、同日講師嘱託
5・12 本校同窓会は常議員会を開き、母校学生総退学善後策を協議する

5・15 学生、一一日朗読した「去校之辭」および総退学に関する「宣言書」を発表する

5・21 五商業會議所（東京、大阪、横浜、神戸、京都）代表委員、父兄保証人会委員、高商商議員の三団体、学生委員六名と会議
▽午後一一時旧クラス委員会開催、翌午前六時休憩、八時再開

5・22 本校同窓会臨時常議員会を開催。二三日開かれるべき学生大会に関して大略、次のような決議をする

「一、本会は五商業會議所、母校商議委員、学生父兄保証人会委員の三団体が母校の改善、拡張、発展に関する学生の主張を諒とし、責任を以て之を承継し極力その貫徹に尽瘁せらるゝと共に学生に何等の条件を付することなく直に復校し、学に就くことを勧誘せらるゝの好意を謝し、学生の速に此勧誘に応せんことを切望す
二、本会は前項の三団体と共に母校の改善、拡張、発展に関し極力目的を貫徹せんことを期す」

5・23 本校同窓会は五商業會議所、渋沢、近藤・益田三商議員、父兄保証人代表一〇委員の要請により神田基督教青年会館において、母校学生総退学を開催する

5・24 学生総退学に対し、五商業會議所、学校

商議員、父兄保証人委員会は、学生の主張貫徹に務めるから総退学の決議を取り消すよう勧告をする。学生側はその好意を謝し、承諾の決議文を発表する

▽教授山口弘一、博士会の推薦により法学博士の学位を授与される

5・25 本校同窓会、母校問題について臨時総会を開催する

6・1 商科大学問題に関し、公然運動を開始以後六月初旬までに諸新聞・雑誌が同問題を取りあげたものうち注意を払うに足ると思われるもの、新聞二六二件、英字新聞三五件、雑誌二六件に達する

6・25 専攻部今後四年間存置の文部省令発布される

6・28 入学試験を本日より施行。募集人員三二〇名、応募者数一、四六〇余名

6・29 文部省、東京帝国大学法科大学内に、商業学科設置に伴い法科大学の学科および授業科目等改正を発表する

7・7 第一九回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、伊藤述史・来栖三郎等三七名。本科卒業生、武井大助・山村徳治等二六四名。養成所

明治四三年
(一九一〇)

卒業生二九名。選科畢業生一〇名

7・9 三池(福岡県)に本校同窓会支部成る
▽安東県(清国)に本校同窓会支部成る

9・11 真野文二、校長事務取扱を免じられ、本校講師沢柳政太郎、校長事務取扱を命じられる

9・30 本校同窓会常議員例会開催。従来同会倶楽部の設備が不完全、会の發展上完全な倶楽部の新設が提唱され、秋季総会に提議のことに決する。秋季総会において同設立委員決定

10・1 本校に調査部設置される。校長事務取扱沢柳政太郎、経済調査機関の必要を認め教授講師諸氏と語り、これを設立する。

11・19 投書家懇談会を上野韻松亭に開く。沢柳、福田両師出席。中心問題、専攻部復活

11・1 一橋会編纂部「一橋申西誌」を一橋会雑誌第五四号に掲載する

▽講師佐野善作、ドイツへ私費留学する
▽学生集会所成り、第四号館と称する(旧同窓会建物を改装したもの)

1・1 学生により寄宿舎必要論が一橋会雑誌で論じられる

▽本校授業料規程を一部改正する(前納期日の変

<p>7・7 第二〇回卒業証書授与式を挙行する。専</p> <p>7・6 本校同窓会会員徽章制定される</p> <p>7・3 一橋会理事會予算會において消費組合の設立を議定し、設立委員三名を推挙する</p> <p>7・1 北京に本校同窓會支部成る</p> <p>2〇〇名。応募者數一、二〇〇余名</p> <p>6・29 本日より本年度入学試験施行。募集人員</p> <p>5・1 第一回中西記念式を行なう</p> <p>3・26 勅令第六八条をもつて本校職員定員を減じられる(教授三五人を三四人、助教一四人を一二人に、書記は変わらず)</p> <p>2・1 本校専攻部規程の一部を改正する(二条加わり、学科課程、毎週教授時間に大変更)</p> <p>▽菅礼之助等を發起人として、故武井正修君記念文庫設立の募金開始</p>	<p>更)</p> <p>1・17 滝本美夫講師、辭職する</p> <p>1・18 福田徳三、講師を嘱託される</p> <p>1・23 一橋會端艇部、新ヨール艇四艘が竣工し、進水式を挙行する</p> <p>2・21 本校規則の一部を改正する(無試験入学規程および無試験入学者の入学金規定、存学中の徴兵入營者の授業料免除、試験制度改正)</p>
<p>9・1 学級・學規規程および入学・在學・退學規程の一部を改正する(本科学科中、商事行政法を廢止等)</p> <p>9・9 「一橋消費組合」設立される</p> <p>9・22 一橋消費組合規約、本日の一橋會總會において決議される</p> <p>9・30 釜山に本校同窓會支部成る</p> <p>10・12 教授藤本幸太郎、英独へ三年の留學を命じられ出發する。神戸高商教授、のち本校教授の井浦仙太郎も留學を命じられ、藤本幸太郎と同船</p>	<p>政部卒業生、松崎壽等三七名。本科卒業生、犬丸徵三等四名。選科畢業生一名</p> <p>8・1 ドイツ留學中の佐野善作、帰國する</p> <p>8・20 森島修太郎氏逝去される。氏は商法講習所明治一〇年第一回の卒業生で、卒業後ただちに母校助教を勤められたが、一一年四月、三菱會社に入社、三菱商業學校教員となる。のち同社本店副支配人となられたが一八年二月退社。二〇年四月、高等商業學校教授、後附屬主計學校主事を兼ね、二五年四月非職となり農商務省嘱託となる。さらに二六年四月日本海陸保險株式會社支配人に転ずる。「簿記學階梯」ほか簿記關係著書多數</p>

<p>明治四四年 (一九一)</p> <p>にて出発する</p> <p>11・1 本校修学旅行規定成る</p> <p>11・7 本校生徒数千四、五百人に達し、四二年九月より教場流用制度をとっていたが、本年一月七日から予科組室定置のことが定められる</p> <p>11・18 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野頤松亭に開く。沢柳、福田、石川三氏出席。中心問題、商大問題</p> <p>11・23 一橋基督教青年会寮舎(神田美土代町)成る。同時に寮規定が制定される</p> <p>11・24 本校講師関一、博士会の推薦により法学博士の学位を受ける</p> <p>▽台湾南部に本校同窓会支部成る</p> <p>1・21 一橋会英語部小会を開く。タッガーおよびケイアン博士の演説、ブレイ教授夫妻のピアノおよび独唱あり</p> <p>1・31 商大問題により引責辞職し、のち講師となつた佐野善作・関一両氏、教授に再任される</p> <p>2・2 本校前教授村林建蔵氏逝去される(享年七六歳)。氏は明治一四年三月商法講習所教師就任以来、暗算・珠算学科を担当し、四三年五月退官、以後講師として三〇年近く本校に尽くされる</p>	
	<p>2・6 一橋専攻部学生会発会式ならびに総会を開く</p> <p>2・1 「一橋経済学会」の設立成る。会則決定</p> <p>▽一橋会第二会歌「公孫樹下に立ちて」の曲譜成る</p> <p>3・2 本校において日清学生懇親会を開く。沢柳校長ほか諸教授臨席する</p> <p>3・18 一橋経済学会第一回例会を開く。本会は一橋会および専攻部学生会の両者の圏外に立ち、純粋な学会であることを確認する</p> <p>3・20 商業教員養成所規則が改正され、修業年限を四年とする</p> <p>3・24 沢柳校長事務取扱、東北大学総長に任せられ、山口高商校長坪野平太郎、校長に任せられる</p> <p>▽一橋商工研究会成立し、本日第一回例会を開く。同会規則制定</p> <p>4・2 本校教授花輪虎太郎氏逝去される(享年五五歳)。氏は明治三二年四月以来一二年にわたり本校において英語学を講ぜられる</p> <p>4・27 本校商議委員の更迭と増員発表される。今回商議委員嘱託を解かれた益田孝氏は、明治一七年六月以来、また園田孝吉・阿部泰蔵の両氏は明治二六年七月以来、本校のために尽瘁される。</p>

- 商議委員は従来六名、今回一一名に増員される
- 4・29 一橋経済学会、例会を開く。山崎博士、福田博士の講演あり
- 5・5 一橋会編纂部、上野韻松亭に投書家懇親会を開く。坪野、福田両師出席。中心問題、端艇衝突
- 5・9 本校教授高島捨太氏逝去される。氏は明治二六年一二月以来一七七年間にわたり、本校において英語学を講ぜられる
- 5・13 一橋経済学会例会を開く。高野博士、関博士の講演
- 6・22 休学規程、授業料規程および専攻部規定中、一部を改正する（現役または召集終了後の授業料金改定、授業料は予科本科とも一学年三〇円を三五円に。専攻部、選択履修中、領事科学生に指定科目を定める）
- 6・1 予科および本科学科課程の一部を改正する（予科、数学三時間のうち一時間は珠算を随意科として加えられる。本科、商業道徳を修身として二年、三年にも課す。九月より実施）
- ▽六月下旬より七月にかけ本年度入学試験を施行。募集人員二五〇名、応募者数一、一五〇余名
- 7・7 第二回卒業証書授与式を挙行する。専

- 攻部卒業生、大西猪之助・高島佐一郎等六七名。本科卒業生、小林益太郎等二六六名。選科畢業生一五名。養成所卒業生二八名
- 7・25 教授佐野善作、「日本ニ於ケル投機市場ノ發展」の論文により法学博士の学位を受ける
- 9・14 一橋経済学会例会を開く。岡実工務局長等の演説講話あり
- ▽米国スタンフォード大学総長ジョルダン博士を聘して講演会を開く
- 10・27 明治三五年九月より本校講師として英語を講ぜられたアーサー・ロイド氏逝去される
- 10・30 一橋会柔道部新道場落成し、稽古を始め
- 11・1 専攻部規程の一部を改正する（授業料三〇円を三五円に）
- 11・13 万国平和協会々長ラッセル氏および米国インデペンデント社主筆ホルト氏を聘して講演会が開かれる
- 11・18 一橋経済学会例会を開く。河津暹博士等の講演あり
- 11・22 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。坪野、福田両師出席。中心問題、社会問題

明治四五年
(一九一二)

- 11・25 一橋商工研究会例会を開く。先輩森三郎、山内篤両氏の講演あり
- 11・26 一橋会柔道部道場新築落成式ならびに師範内田作蔵氏が在職一三年記念祝賀会を開催する
- 11・27、12・1 本校において全国商業学校長会議を開催する
- 11・1 故学生依田保治君母堂より記念図書購入資金の寄贈があり、福田徳三講師の図書選択により備え付ける
- ▽一橋基督教青年会雑誌『聖光』創刊される
- 12・2 一橋経済学会例会を開く。塩沢昌貞博士等の講演あり
- 1・20 一橋会研究部例会を開く。中野武宮、添田寿一、松波仁一郎氏の講演あり
- 1・22 教授三浦新七、帰国する。同氏は三六年以来ドイツへ留学中であつた
- 1・25 本校東亜倶楽部例会を開く。奈佐忠行部長の南洋視察談等あり
- 2・9 一橋経済学会例会を開く。上田教授、服部文四郎早大教授の発表あり
- 2・17 一橋会研究部例会を開く。井上円了、南条文雄両博士の講演あり

- 3・6 一橋経済学会例会を開く。滝本誠一氏等の発表あり
- 3・25 明治四二年文部省令第一四号を廃し、文部省令第九号をもって専攻部を存続させ、専攻部規程が定められる
- 3・1 講師福田徳三、一橋会雑誌第七八号付録として三浦梅園(晋)著『価値』を印行し頒布
- 4・5 試験進級および卒業規程の一部を改正(第三四条に一項追加)
- 4・20 一橋会研究部例会を開く。後藤男爵、早川千吉郎氏等の演説あり
- 4・23 一橋会幹部の越権潜行を指弾し、会員の心の離反を力説し、有志団により一橋会改革の議を提げて「校風問題演説会」が開催される
- 4・27 本校同窓会は春季総会において専攻部復活に關し、尽力された先の三団体代表者、渋沢男爵、中野武宮、島田三郎の三氏および新旧母校商議委員、新旧校長を招待して晚餐会を挙行する
- 5・6、11 本校において全国商業学校長会議を開催する
- 5・9 一橋商工研究会例会を開く。大久保一男、山田清太郎、二先輩の講演あり
- 5・10 会則改正案を議題とし、一橋会臨時總會

<p>が開かれたが、所定の会員数に達せず流会する</p> <p>5・14 一橋会臨時総会を開き、会則の改正、選挙規定制定の件、役員の新就任解任式を行なうの件、現一橋会役員解散等の件を議する。一橋会理事一四名悉く辞職する</p> <p>5・15 一橋会各部委員二〇余名連名辞職する</p> <p>5・16 本校東亜倶楽部例会を開く。東亜同文書院長根津一氏等の講演あり</p> <p>5・18 一橋経済学会例会を開く。小林丑三郎法学博士等の講演あり</p> <p>5・27 一橋会各部委員選挙規定が決定、告示される</p> <p>5・31 一橋会各部委員総選挙を行なう</p> <p>5・1 講師福田徳三、一橋会雑誌第七九号付録として荷田在満著『本朝度制略考』を印行し頒布</p> <p>6・22 一橋会に新たな理事会が成立する</p> <p>6・26 本日より七月中旬にわたり入学試験を行なう。募集人員二五〇名に対し応募者数千四百数十名に達する</p> <p>7・7 第二回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、丸谷喜一等七〇名、同畢業生二名。本科卒業生、確水原次等二八一名、同畢業生三名</p>	<p>大正元年 (一九一二)</p>
<p>9・13 全校生徒二重橋外において明治天皇の御靈輦を奉送する</p> <p>9・22 本校開設記念式ならびに一橋会大会を開く。故駒井校長肖像画、中沢弘光氏の手によって成り、講堂に掲げられる</p> <p>9・1 一橋会編纂部々長福田徳三辞任し、教授上田貞次郎就任する</p> <p>10・11 一橋基督教青年会、田川大吉郎、服部綾雄両氏を聘して秋季講演会を開く</p> <p>10・12 一橋会研究部例会を開く。大隈重信伯、佐々木照山氏の演説あり</p> <p>10・16 故駒井校長肖像製作資金残金により「故駒井重格先生記念」図書を購入し図書館へ寄贈する</p> <p>10・19 本年度外交官および領事試験合格者六名中、本校卒業生天羽英二、坪内貞二の二名合格</p> <p>11・12 一橋会研究部例会を開く。黒岩周六、志田鉦太郎両氏の講話あり</p> <p>11・15 本校東亜倶楽部例会を開く。小沢徳平氏の南清旅行談等あり</p> <p>▽一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。上田教授出席。中心問題、一橋発展</p> <p>12・6 明治四四年本科卒業生、図書館への卒業</p>	

大正二年
(一九一三)

記念寄付図書を選定を福田徳三講師に依頼選定中であつたが、寄付図書全般の手續き終了し図書館へ納める。なお同講師は選択図書について詳細な解題を一橋会雑誌第八三号に掲載する

12・1 本校商議委員の定員を減じられる(前年一名、今回九名)

▽四二年設置された本校調査部について田崎義介「母校経済調査機関に就きて」と題し、その性質内容を同窓会々誌八五号より八七号にわたつて掲載する

1・15 一橋会端艇部ヨール新艇建造成り進水式を挙行する。所有艇数一九隻に達する

1・29 本校同窓会、横浦支部(横須賀と浦賀)の設立を承認

2・7 農商務省技師野間督男氏の「印度貿易について」、同商務官南真吾氏の「支那商業に就て」の講演会開かれる。両氏は、当日を第一回として全国巡回講演に回られる

2・12 米国の実業家で宗教家でもあるロビンズ氏の講演会が開かれる

2・13 メービー博士の講演会開かれる。演題“Causes of American Prosperity”

3・1 一橋会研究部大会を開く。建部遯吾氏の講演ほか、都下各大学の弁士来り、熱弁を振う

4・1 本学同窓会員有志により倶楽部設立につき準備委員を選挙し、設立準備に着手する

4・19 一橋会研究部例会を開く。上杉慎吉、山路愛山、若槻礼次郎各氏の演説あり

4・28 米國ハーバード大学教授ビーボディー氏の“Commerce and Idealism”と題する講演会開かれる

4・30 一般一橋同人の有志者をもって一橋日華同窓会設立される

5・9 一橋編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。坪野、関、上田、三師出席。中心問題、学制改革

5・21~26 本校において全国甲乙種商業学校長会議を開催する

6・13 勅令第一八三号をもって本校職員定員を減じられる(教授三四人を三三人に、助教授交わらず、書記一〇人を九人に)

▽本学同窓会有志による倶楽部の会名を「如水会」と定める。渋沢子爵の選択にかかる

6・23 校長職務規程が改正される

6・1 明治四五年卒業生より快走艇一隻、一橋

会に寄付される

7・7 第二三回卒業証書授与式を挙げる。専攻部卒業生、高垣寅次郎等五四名。本科卒業生、村上秀三郎等二四名。卒業生七名

7・1 文部大臣奥田義人、商業大学問題解決について、渋沢栄一氏を通し本校商議員各氏の意見を聴取する

▽左右田喜一郎、満九年間の外国留学を終え帰国する

9・1 一橋会編纂部部長上田貞治郎辞任し、教授堀光亀、部長に就任する

9・3 教授上田貞次郎、財政学研究のため、二年間の英国留学を命じられ、本日出発する

10・7 米人サンダーランド博士の "Ralph Woldo Emerson" と題する講演会を開く

10・9 本校東亜倶楽部例会を開く。奈佐教授のフィリップス視察談等あり

10・13 一橋商工研究会例会を開く。奈佐教授の南洋視察談等あり

10・18 一橋会研究部例会を開く。福本日南、竹越与三郎、伊集院前支那公使各氏の講演あり

10・1 学生有志、商業大学問題について奔走を始める

▽本年度外交官・高等文官兩種試験、本校出身者、在学者の及第人数は以下のとおり。外交官の部、全八名のうち三名。高等文官の部、全一八一名のうち六名、高等文官には専二在学中の学生あり

11・6 本校東亜倶楽部例会を開く。寺尾博士の支那問題に関する講演あり

11・7 左右田喜一郎、本校講師を嘱託される

11・15 一橋会研究部例会を開く。杉浦重剛氏の講演あり

11・19 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野頤松亭に開く。堀教授出席。中心問題、商大問題

▽奥田文相より渋沢栄一氏へ懇請の結果、商業大学問題について実業家側の本校商議員会開催される

11・21 商業大学問題に関し、臨時常議員会を開き審議する

11・25 商業大学問題に関する理事会、各クラス委員会第一回会合を開く

11・26 校長主催で理事ならびに各クラス委員を招き、商業大学問題についての茶話会を開く

11・29 商業大学問題に関する第二回委員会を開く

12・2 商業大学問題に関する第三回委員会を開く

<p> 12・3 商業大学問題に関する第四回委員会を開く 12・8 商業大学問題に関する第五回委員会を開く 12・9 商業大学問題に関する第六回委員会を開く 12・10 商業大学問題、文部省側意見と本校側の主張との間にとうてい妥協すべき余地の無いことを発見、ついに不調に終わる 12・11 一橋会臨時大会を開催。委員会における商業大学問題の経過を報告して一橋の将来を議する 12・12 商業大学問題に関する第八回委員会を開く 12・15 本校同窓会、商業大学問題の善後策につき臨時常議員会を開く 12・20 本校同窓会、商業大学問題善後策講究のため、同名委員会を開く </p>	<p style="text-align: center;"> 大正三年 (一九一四) </p> <p> 12・23 教授藤本幸太郎、留学先より帰国する。なお、当時小樽高商教授、のち本学教授の井浦仙太郎も同船で帰国する 1・1 本校同窓会々誌第九一号に「商大問題之経過」が報告される 1・15 本校同窓会常議員例会において、前年二月二〇日開催の商大問題善後策委員会の決議にもとづいて同問題を擬議する 1・21 本校東亜倶楽部例会を開く。正尾博士の「シャム国経済事情」等の視察談あり 1・23 築地精養軒において「如水会」設立発起人会が開催され、資金三五万円とすることが決議される 1・24 一橋会研究部例会を開く。内ヶ崎作三郎、千田半鍬太郎氏の講演あり 1・27 一橋商工研究会本年度第一回集會を開く。浜田四郎氏、大阪興信所山崎氏の講話あり 2・12 日華学生同窓会例会を開く。志田博士、岡本教授等出席する 2・14 一橋会研究部大会を開く。本校弁士、各学校弁士、おおいに氣を吐き、また大隈伯爵、福田博士の熱弁あり </p>
---	---

- 2・1 図書館報を一橋会雑誌付録として第九六号(二月号)よりふたたび掲載することとなる
- 3・25 如水会創立常務委員二〇名と委員長が決定する。委員長成瀬隆蔵氏
- 3・1 一橋会研究部臨時大会を開き、渋沢栄一、中野武宮両氏を招待して大正二年末における問題に対し、その尽力に謝意を表する
- 4・14 一橋商工研究会例会を開く。宮田実氏、滝沢吉三郎氏の講演あり
- 4・25 一橋会研究部例会を開く。後藤新平、井上哲次郎、横山健堂氏の講演あり
- 4・1 一橋如意団創立一〇周年を記念し、関係老師に記念品贈呈の資金を募集する
- 5・4 本校東亜倶楽部例会を開く。埴原正道氏のメキシコ視察談等あり
- 6・1 一橋会雑誌第百号記念号を発刊する。本校関係者、卒業生、記念号発刊費を寄付する
- 6・4 教授関一辞任の報があり、学生留任運動を起し第一回全校委員会を開く
- 6・5 関教授留任運動第二回全校委員会を開き、学生委員四名を大阪に派遣する
- 6・6 関教授留任運動第三回全校委員会を昼間に、第四回委員会を夜間に開く

- 6・8 関教授留任運動のため、下阪した学生委員婦校、第五回全校委員会を開く
▽本校同窓会、シンガポール支部の設立を承認
- 6・15 〃 20 本校において全国商業学校校長会議開催される
- 7・7 第二三回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、石井光次郎等五九名。本科卒業生、高瀬莊太郎等二五六名、畢業生八名
- 7・28 教授関一、願により本官を免ぜられる
- 8・15 校長坪野平太郎、願により本官を免ぜられ、教授佐野善作、校長兼教授に任ぜられる
- 9・1 本学の体操科は、昨年末よりまったく中止の状態にあったが、戸山学校より教官および学付の四名を迎え、本学期より校規振肅と学理的体育法の実施を期する
- 9・12 本校在京同窓者、新旧校長送迎会を帝國ホテルで開催する
- 9・21 新旧校長の送迎式を挙行する
- 9・25 故松本浩一郎氏の功績を記念するため、同窓者によって企てられた「松本文庫」が完成し計八七一冊の図書が本校図書館へ寄贈される
- 9・1 本校専攻部入学制限を撤廃する(すなわち、本科卒業席次三分の二以上の者に限られてい

<p>たものを撤廃)</p> <p>10・17 一橋会研究部例会を開く。福田博士、長尾中佐の講演あり</p> <p>10・18 本校東亜倶楽部例会を開く。服部宇之助氏等の講話あり</p> <p>10・31 吉田良三氏(当時早大講師、のち、本校教授)、二年間の欧米留学のため出発する</p> <p>10・― 一橋会研究部々長佐野善作辞任し、教授藤本幸太郎、部長に就任する</p> <p>11・6 藤本教授指導のもとに読書会が復活する</p> <p>11・11 教授乾政彦、博士会の推薦により法学博士の学位を受ける</p> <p>11・14 一橋会研究部例会を開く。笈博士、仲小路廉氏の講演あり</p> <p>▽本校同窓会は総会において規則を改正(本校現任教職員を客員とし、在校生を会友とすること)</p> <p>▽「如水会」創立総会を開催する。定款確定し設立完成する</p> <p>11・17 一橋会英語部主催でブロックホイス教師の「欧洲戦乱」についての帰国談あり</p> <p>11・19 一橋日蓮讀迎会発会される</p> <p>11・27 一橋編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。佐野校長、堀、藤本両教授の出席あり。</p>	<p>大正四年 (一九一五)</p> <p>中心問題「大学会」</p> <p>11・― 本校に卒業生就職詮衡委員が設けられ、本科三年生と面会する</p> <p>12・2 本校同窓会事務所ならびに如水会館建設敷地として、本校敷地の借用出願される。同敷地は市区改正の結果東京市より交付を受けた一ッ橋寄りの道路広場およびこれに接続する若干の地面を加えたものである。如水会館敷地、本校構外一ッ橋に面する三方道路の土地二七八坪およびこれに接続する本校敷地の一部すなわち講堂以南の土地四八六坪を加えた七六四坪の地に決定</p> <p>12・24 英国留学中の教授上田貞次郎、帰国する</p> <p>1・12 本校規則中、入学・在学・退学・授業料規程を改正。なお専攻部規程を改正し、従来他校卒業生の入学資格は修業年限四年の神戸高商のみであったが、三年程度の官立高商卒業生にも、その門戸を開く</p> <p>▽本校専攻部規程の改正が発表されると都下新聞紙の中には「高商帝大の軋轢」などの標題を掲げて報道するのがあり、学界の一部を震駭させる</p> <p>1・29 本校東亜倶楽部例会を開く。橋本基一、吉原洋三郎両氏の講演あり</p>
--	--

- 1・30 一橋会研究部例会を開く。上田教授、下村講師、堂本蒼之進氏の講演あり
- 1・1 一橋会編纂部長、堀光亀教授退任し、上田貞次郎教授、就任する
- 3・5 本校専攻部規定の一部を改正し、授業料は一学年五〇円となる
- 3・15 一橋会研究部主催、討論会を開催する。議長藤本教授、論題「現時に於ける我国海軍拡張の可否」
- 3・30 本校出身の津村秀松氏、「本邦対外商政の発達及変遷に関する研究」の論文により、法学博士の学位を受ける
- 4・1 商業教員養成所総則、入学・在学・退学の規程を改正する（学費補給の規程を廃止）
- 4・3 内池廉吉（当時神戸高商教授、のち本学教授）、二年間の米國留学のため出発する
- 6・1 授業料規程を改正する
- 6・11 如水会において、故レキシス博士（Wihelm Lexis、ゲッティンゲン大学教授、保険学）旧蔵文庫を購入し本校図書館へ寄贈のことが協議され、同文庫調査委員会の調査結果により、小冊子全部、書籍中貴重で本校図書館に所蔵していないものを購入のことが議決される

- 6・1 本年度の入学試験を施行。応募者一、五〇八名、入学許可者一九七名、ほかに無試験入学者二四名
- 7・1 専攻部規程を改正し、商業教員養成所卒業生をも入学させ得ることとなる
- 7・7 第二回卒業証書授与式を挙行する。専攻部卒業生、渡辺大輔等四五名。本科卒業生、金子鷹之助等二三四名。畢業生二名。養成所卒業生一名
- 8・9 如水会評議員ならびに同窓会常議員合同協議会を開催し、御即位御大典の記念事業として図書館を建設し、本校に寄付することが決定され、両会總會開催の上議決される。建設資金五〇、〇〇〇円、うち如水会が三五、〇〇〇円、同窓会が一五、〇〇〇円分担
- 9・6 文部省令第一二号をもって本校予科および本科学科課程が著しく改正され、本年度予科新入学生より実施することとなる。また同課目のほか、なお教育学・教授法の二科目が追加される
- 9・9 本校同窓会、青島支部設立を承認する
- 9・11 本校専攻部学科課程が著しく改正され、また貿易科ほか九科が置かれる。なお同日付をもって商業教員養成所学科課程も改正される。また

- 卒業生は専攻部に入學を許可することとなる
- 9・14 本学年は大正四年九月一日に始まり同五年三月三十一日に終わる学年短縮を発表する
 - 9・21 文部省、新大学令案を発表する
 - 9・22 本校創立四〇周年記念祝典が挙行される。なお二三日より三日間にわたり記念講演会、一橋会第一四回大会、端艇競漕会等が開催される
 - 10・26 本年度文官高等試験の合格者発表。本校関係者は村上秀三郎等四名
 - 10・29 一橋会研究部例会を開く。箕作元八氏の講演あり
 - 11・8 御大典記念図書館建築委員会第一回集會が開催され、主査選定、敷地決定、建築設計委嘱、市内図書館參觀の各件が決議される
 - 11・10 御即位の大礼行なわれる。本校職員学生生徒、講堂に集まり祝賀式を挙げる
 - 11・11 本校規則中、規程の改正があり、学年開始期が四月に変更される。専攻部規定および商業教員養成所規程中の一部が改正される
 - 11・25 明治一七年東京府商法講習所へ就任以來、書道を教授された稲川春（旧姓、小島）助教授逝去される（享年六八歳）
 - 11・26 一橋会研究部例会を開く。浮田和民氏の

大正五年
(一九一六)

- 講演あり
- 11・27 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野頤松亭に開く。福田、上田両師が出席。中心問題、「大学問題」
 - 12・17 一橋会研究部例会を開く。菊地大麓氏の講演あり
 - 1・1 本校入學・在學・退學規程を改正する
 - 1・13 教授木村恵吉郎、応用化学および商品学研究のため、二年間の米國留學を命じられる
 - 1・15 教授男爵神田乃武本官を免じられ、本校最初の名譽教授の称号が授与される
 - 1・25 卒業生安宅弥吉氏、本校学生奨學資金として金一萬円の寄付を申し出られる
 - 2・10 東京高等商業学校『創立四〇周年記念講演及び同校祝賀記事』刊行される（菊判、二六六頁）
 - 3・1 学期改正実施により一橋会規則の改正にせまられ、その改正案を作成する。なお定期総會は春秋二回に改める
 - ▽卒業生内田信也氏、本校に金一〇万円を寄付される。その内訳は次のとおり。二五、〇〇〇円〓煉瓦造研究室一棟建築費、三〇、〇〇〇円〓研究

基金、四五、〇〇〇円 留學生補助基金

▽卒業生大塚信太郎氏は明治三十九年より學生英語奨励資金として數回にわたり、資金を寄付されていたが、今回さらに増額寄付を申し込まれる

▽卒業生牧野元治郎氏、銀行に関する研究資料購入資金の寄付を申し出られ、今回まず第一回分として三、〇〇〇円の寄付があり、本校図書館ではこれを「牧野文庫」として取り扱うこととなる

▽本年度入学試験を施行。従来は六月下旬以降施行の例であったが、本年より三月に繰り上げる。

予科および養成所受験者數二三〇二名、合格者は予科二三四名、養成所一三名

3・27 三井家寄贈の専攻部校舎新築落成、開館式を挙行する。鉄筋コンクリート造二階建、延二四九・四坪

4・1 第二六回卒業証書授与式を挙行する。従来は七月であったが、以後は三月末と改正された。専攻部、大塚金之助・上田辰之助等六二名。畢業生二名。本科、河合諄太郎等二二三名。畢業生四名。養成所九名

4・8 本校規則中、入学・在学・退学規程を改正する

4・22 教授三浦新七、博士会の推薦により法学

博士の学位を授与される

▽講師左右田喜一郎、博士会の推薦により法学博士の学位を授与される

4・23 一橋会弓術部道場成り落成式を挙行する
5・4 一橋会研究部、三浦博士指導のもとに本三読書会を毎週水曜日に行なうこととなる

5・15 本校東亞俱樂部例会を開く。志田鉦太郎氏、支那より帰国、視察談あり

5・17 一橋商工研究会、例会を開催する。奈佐、石川、上田諸教授が出席

5・26 一橋会研究部、大講堂に例会を開く。添田寿一、長島隆二氏の講演あり

6・4 護持会春季大会を日本橋常盤木俱樂部に開く。長谷川、久米、篠田、滝村諸教授出席

6・16 一橋商工研究会、例会を開く。土肥修策氏の講演あり

7・6 同窓会常議員会において、一橋会剣道部兼柔道場建築費の一部立替えの件を議決する。従来の道場は剣道部は旧食堂の物置、柔道部は食堂を各々手入れの上使用していた。建設費一一、〇〇〇円のうち、内田信也半額、渋沢・早川・森村・近藤の四商議員各々一、〇〇〇円あて、不足金一、五〇〇円を立替え

7・11 御大典記念図書館の地鎮祭を挙行する

大正六年
(一九一七)

1・25 本校同窓会、カルカッタ支部設立を承認

8・10 如水会、社団法人設立の認可を受ける

2・18 一橋会の寄付による剣道場および柔道場が竣工し落成式を挙行する

8・23 教授高垣寅次郎、商業学研究のため三年間の留学を命じられ、米国へ出発する

2・19 本校規則および専攻部規程の一部を改正し、市立大阪高等商業学校卒業生も専攻部に入学させ得ることにする

9・11 専攻部学科内へ「南洋経済事情」を新設する。本科二、三年生にも随意科として聴講を許可する

3・1 本年度入学志願者二、六〇八名。入学を許可された者、予科三三七名、養成所七名

▽第二学期授業開始。本学期より課外として英文速記術およびタイプライターを専攻部および本科二年以上の希望者に教授

4・1 第二回卒業証書授与式挙行される。専攻部、金子鷹之助等七三名。本科、緒方清・増地庸治郎等二四五名。同卒業生四名。養成所六名

▽英人エドワード・ガンドレッド、英文速記術およびタイプライター担任講師として囑託される

4・28 如水会は法人設立以来第一回の通常社員総会を上野精養軒に開く

9・12 一橋会研究部例会を開く。加藤咄堂氏、堀光亀教授の講演あり

5・11 一橋会春期総会ならびに中西記念式を挙行する。総会において一橋会規則の一部改正を行ない、弓術部を弓道部と改称。また記念式には当時の学生尽力者、定塚門次郎・鈴木辰三・松村光三氏等が参加、熱弁を振る

11・22 全国実業学校長会議が開催され、そのうち商業学校の会議は本校専攻部新校舎において開催する

5・14 卒業生内田信也氏の寄贈による研究館が四月一六日竣工、本日開館式が挙行される

11・25 同窓会秋季総会を開き、引き続いて渋沢男爵喜寿祝賀会を開催する。なお先の常議員会により男爵の寿像製作を決定する

5・18 商栄銀行頭取小池国三氏、五、〇〇〇円を本校に寄贈、投資および取引所関係図書蒐集を望まれる。本校は「小池文庫」を創設し専攻部

12・1 勅令第二六四号をもって本校職員定員を増加する(教授三三人を三五人に、他は変わらず)

12・1 勅令第二六四号をもって本校職員定員を増加する(教授三三人を三五人に、他は変わらず)

<p>研究室に備え付ける</p> <p>5・19 一橋会研究部、例会を開く。床次竹二郎、井上哲次郎両氏の講演あり</p> <p>5・30 本校同窓会・如水会合同事業による御大典記念図書館が竣工。同日本校へ寄付される</p> <p>6・7 同窓会常議員会において、伊東巳代治氏等発起による「故森有孔子爵記念碑建設費及其數地購入」基金へ同窓会より一、〇〇〇円寄付の件を決議する</p> <p>6・8 勅令第六〇号をもって本校職員を増加する（教授三五人を三九人に、他は変わらず）</p> <p>6・9 一橋音楽会が設立される</p> <p>6・16 一橋会研究部、例会を開く。植原悦二郎、江原素六両氏の講演あり</p> <p>7・1 卒業生青木五兵衛氏より本校在外研究員資金補助として一万円の寄付を受ける。一名三年間の欧米留学資金</p> <p>▽本校在外研究員一名三年間欧米留学の資金として阪神在住次記の卒業生七氏より共同にて一万円の寄付申出を受ける。平生釼三郎・安宅弥吉・川村貞次郎・内田信也・加福力太郎・中川浅之助・村田省蔵</p> <p>9・28 御大典記念図書館開館式挙行される。同</p>	<p>館建築費および設備費はともに本校同窓会および如水会ほか有志の寄付金、費用総額は五八、六〇七円七三銭</p> <p>10・13 一橋会研究部主催、都下各大学専門学校連合演説大会を本校講堂において開催する</p> <p>10・27 本校同窓会が渋沢男爵の喜寿を記念して製作中であつた同男爵の肖像ができあがり、本日その除幕式が本校講堂において挙行される</p> <p>11・28 高瀬莊太郎、会計学および商業学研究のため、米・英・仏・瑞へ二年間の在外研究を命じられる</p> <p>12・1 山下龜三郎氏より渋沢男爵の喜寿を記念して一万円の寄贈があり、学術研究図書購入のうへ「渋沢文庫」として記念する</p> <p>12・9 一橋会編纂部主催投書家懇親会を上野韻松亭に開く。福田、上田両教授が出席</p> <p>12・20 磯野長蔵、石川文吾等明治三〇年卒業生、新築図書館前庭に記念樹（公孫樹）を植える</p> <p>1・1 大阪商船会社より、海事関係内外図書購入費として五、〇〇〇円の寄贈を受ける。「大阪商船文庫」と称し、本校研究室内に設置する</p> <p>▽同窓尾高次郎氏が社長をしている東洋生命保険</p>
<p>大正七年 (一九一八)</p>	

会社より体育奨励の趣旨で柔道部選手の練習費として二〇〇円の寄付を受ける

1・21 元本校々長手島精一氏逝去される(享年七〇歳)

1・28 本校同窓会、函館支部設立を承認

2・23 如水会館上棟式を挙げる

3・21 教授上田辰之助、商業英語・商業学研究のため、米国へ二年間の在外研究を命じられ、出発する。そのうち私費滞在一年、さらに英・仏を留学国に追加される

3・1 本校学資貸給規程を改正する(貸給金額一カ年一〇〇円以内を二五〇円以内と改正)

▽本年度入学試験に際し、志願者数二、七〇八名、うち入学許可者、予科三五〇名、養成所一二名

3・31 明治一二年三月以来、本校で教鞭を執られたアレキサンダー・ジョセフ・ヘーヤ氏満期解雇となる

4・1 第二八回卒業証書授与式挙行される。専攻部卒業生五七名。本科卒業生、井藤半弥等二四六名、同特別生三名。養成所卒業生一〇名

5・4 一橋会研究部例会を開く。早川千吉郎、佐藤鋼次郎両氏の講演あり

5・9 昨年来健康を害し、本年三月三十一日辞職された勅任外国教師勲三等アレキサンダー・ジョセフ・ヘーヤ氏逝去される(享年七〇歳)

5・30 一橋会研究部、高崎商業会議所との連合講演会を高崎市公会堂において開く。福田講師、内藤教授、学生田中金司、杉村広蔵、仁科淑太、出演

6・20 渋沢男爵の講演会を開催する

7・16 同窓、村瀬春雄、浅井義晴の両氏、本学海外留学生補助費(保険学研究)として一万円の寄付を申し込まれる

7・18 勅令第二八六号をもって本校職員定員を増加する(教授三九人を四二人に、他は変わらず)

9・14 教授大塚金之助、経済学・商業学研究のためドイツへ二年間の在外研究を命じられる

9・28 大倉邦彦氏、亡父文二氏(卒業生)の遺志により本校へ一、〇〇〇円を寄付される。本校においては学術書購入のうえ「大倉文庫」をつくる

9・30 教授根岸信、殖民政策・経済事情研究のため、米・英・仏へ二年間の在外研究を命じられる

10・8 先に平生鈺三郎氏とともに奨学資金を寄

大正八年
(一九一九)

- 付された安宅弥吉氏、今回個人にて重ねて一万円の奨学資金を申し出られる
- 10・12 本校商議委員正五位勲三等中野武宮氏逝去される
- 10・26 一橋会研究部、大会を挙行する。全国大学専門学校連合大演説会および浜口雄幸氏の講演あり
- 11・28 渋沢男爵の講演会を開催する
- 12・6 新大学令、高等学校令公布される
- 12・7 一橋会研究部例会を開く。美濃部博士の講演あり
- 12・19 上野韻松亭において編纂部主催投書家懇親会を開く。上田、堀、福田三教授出席、参加者一五八名
- 1・25 一橋会研究部例会を開く。穂積重遠氏の講演あり
- 3・1 明治二八年度卒業生により二八育英会の創設と奨学資金として二万円の寄付申込みを受ける
- 3・21~24 本年度入学試験を施行。志願者数四、〇三〇余名、入学許可者三〇四名
- 4・1 本校第二九回卒業証書授与式挙行される

- る。専攻部卒業生、緒方清等五二二名。本科卒業生、村松恒一郎等二一六名。養成所卒業生五名
- 4・22 教授上田貞次郎、博士会の推薦により法学博士の学位を授与される
- ▽青山衆司（大正八年六月より教授就任）、博士会の推薦により法学博士の学位を授与される
- 5・5~10 全国商業学校長協議会、本校において開催される
- 6・1 商業教員養成所規則中の一部を改正し、ふたたび学資補給の規程を加える
- ▽本校同窓会シートル支部設立される
- 7・22 教授内藤章、商業学研究のため、米・英・仏・独へ二年間の在外研究を命じられる
- 8・15 教授孫田秀春、法律学研究のため、仏・瑞・独へ二年間の在外研究を命じられる
- 8・18 教授岩田新、法律学研究のため、仏・瑞・独へ二年間の在外研究を命じられる
- 9・29 如水会館開館式を挙行する
- 10・10 教授上田貞次郎、労働問題使節顧問として渡米する
- 10・22 教授金子鷹之助、商業学研究のため、米・英・仏・独へ二年間の在外研究を命じられる
- 12・15 投書家懇親会を上野韻松亭に開く。堀、

大正九年
(一九二〇)

内藤、福田教授出席。参加者九〇名

3・1 『一橋会雑誌』第一五一号をもって終刊する

3・31 勅令第七一号をもって東京商科大学官制が公布され、東京商科大学に予科、附属商学専門部および附属商業教員養成所設置等が定められる

東京商科大学時代

大正九年
(一九二〇)

4・1 東京商科大学が開設され、東京高等商業学校学生生徒で大学または予科に編入を希望する者は、これを相当級に編入し、希望しない者に対しては商学専門部に専攻科および高等商業科を特設し、それぞれに編入し、旧規定により修業させることとする

▽東京高等商業学校長法学博士佐野善作が東京商科大学長に任ぜられる

▽大学予科教授兼大学教授石川文吾が大学予科主事に任ぜられる

▽商業専門部教授兼大学教授奈佐忠行が商学専門部主事に任ぜられる

▽商業教員養成所を本学に附属させ、商学専門部教授兼予科教授星野太郎が主事に補せられる

▽商業教員養成所規則制定の件が許可され、修業年限を三年に改める

▽職員定員を大学長一人、大学教授一五人、大学助教授五人、事務官一人、助手一人、書記九人、

予科教授一八人、予科助教授四人、専門部教授一五人、専門部助教授七人に定める

4・24 同窓会春季総会において、大正九年六月三〇日を期して同窓会は社団法人如水会と合同のことが決議される

4・1 一橋会は一橋会規則に三カ年の有効期限を付し、暫行の二字を冠して施行する

5・26 市電が本学前を開通し、停留場名「一ツ橋・商科大学前」となる

6・7 商学専門部教授、助教授の定員が増加される(教授一五人を一六人に、助教授七人を八人に)

6・10 東京商科大学学則を制定する

6・1 英語部主催、都下学生連合英語演説会舉行される。英国大使エリオット博士、上田教授の演説あり

▽雑誌『一橋』第一号発刊される

6・30 東京高等商業学校同窓会、如水会と合同

する

7・1 一橋会端艇部、向島艇庫増築と新式端艇建造を企画し、その資金募集趣意書を発送する。
佐野学長、端艇部長併任

▽東京高商同窓会有志者の募金によって築造中であった故ヘーヤ先生の墳墓（雑司ヶ谷外人墓地）が竣工する。中央墓石の欧文は神田乃武氏の撰、揮毫はガンドレット氏、弔魂碑は杉山令吉氏撰ならびに揮毫。また残金によって記念図書を購入、図書館内に「ヘーヤ文庫」を置く

▽（夏季休暇中） 学生調査旅行を実施

(1) 大学旅行。上海出張一名（綿糸紡績及綿花）、横浜・関西・九州一名（海運・運貨）、横浜・長野・岐阜一名（蚕糸業）、名古屋・大阪・神戸一名（紡績業金融）

(2) 朝鮮銀行依頼旅行、朝鮮各地、木村恵吉郎教授引率ほか二名

(3) 千田半妻太郎依頼旅行、シンガポール地方二名
8・31 『如水会々報』第一号発刊される

9・20 助手、書記、大学予科教授、商学専門部教授、助教授の定員が増加される

9・22 創立四五年記念式挙行される。洪沢子爵、津村博士の講演あり

大正二〇年
（一九二一）

9・26 一橋会庭球部わが国で初めて硬球を採用、同日新設コート開きを挙行する。当日は早・慶・帝・高師各選手を招待（所在地蒲田、敷地五二〇坪、ダブルコート二面）

10・16 故尾高次郎氏嗣子豊作氏より、亡父記念として「尾高文庫」図書購入資金五、〇〇〇円が本学に寄付される

12・14 如水会員による一橋英語奨励会生まれる（英語および海外事情研究、一橋英語の発達を助長のため）

12・1 投書家懇親会が上野韻松亭で開かれる。福田、上田、堀、高垣教授が出席

1・26 如水会下関支部、門司支部、豪州支部の新設が承認される

▽一橋英語奨励会、評議員会を開く。また母校関係教官と一橋英語の発達につき、意見交換をする

3・1 本学学則の一部を改正する（第五条、第一五条および第七一条、第九二条）

▽本学学位規程を制定する（第一条―第一条）。商学博士、経済学博士の二とする

3・27 商学専門部教授緒方清、米・英・独国へ二年間の在外研究を命じられ出發する

- 3・1 名誉教授神田乃武、ポルトガル万国議院
商事会議列席のため出発する
- 3・31 本校卒業式挙行される。専攻部卒業生、
村松恒一郎・赤松要・杉村広蔵等五三名。高商卒
業生一五五名。畢業生三名。養成所卒業生六名
- 4・6 如水会洞海支部（福岡県若松市を中心）
設置される
- 5・1 東京商科大学研究発表機関誌として『商
学研究』を創刊する
- 6・29 正田貞一郎氏（明治二十四年卒）より、令
息故明一郎君追福記念のため「故正田明一郎氏記
念文庫」図書購入資金五、〇〇〇円の寄付を受け
る
- ▽大学予科教授兼大学教授石川文吾、大学予科主
事を免ぜられる
- 7・10 山中勇氏（明治三五年卒）より故山中隣
之助君追福のため「山中文庫」図書購入資金とし
て一万円の寄付を受ける（一年より一五年まで
毎年二、〇〇〇円宛）
- 7・20 大学教授、書記、大学予科教授の定員が
増加され、商学専門部教授の定員が減じられる（大
学教授一五人を二人に、書記一人を一人に、大
予科教授一人を一人に、専門部教授三〇人）

- 二七人に、同助教授九人を一〇人に）
- 7・29 専門部教授加藤由作、英・米・仏へ二年
間の在外研究を命じられ出発する
- 9・1 専門部教授渡辺大輔、英・仏・米へ二年
間の在外研究を命じられ出発する
- 9・27 大学予科教授兼大学教授木村恵吉郎、大
学予科主事に補せられる
- 10・3 一橋サッカー蹴球団創立
- 10・22 東宮の行啓をあいだ台覽競漕（の
ちにこれを第二回インカレと称する）が九大学参
加のもとに両日にわたって行なわれ、本学クルー
が優勝
- 10・27 教授藤本幸太郎、「委付ノ性質並ニ其ノ効
果ヲ論ス」の論文提出（本学）、商学博士の学位
を受ける
- 10・1 大正一〇年度専門部会歌、長沢逸夫作
詞、梁田真作曲の「鱗雲なびき」が発表される
- 11・1 研究部、大会を開き「資本主義と社会化
問題」と題する研究発表を行なう。神商・東大・
京大・慶大がこれに参加する
- 12・1 学則の一部を改正する
- ▽明治三五年八月より同四年五月まで、本校校
長を務められた故法学博士松崎蔵之助氏の記念事

大正一二年
(一九二二)

業起こり、友人門下生により資金募集を行なう
▽投書家懇親会を上野韻松亭に開く。福田、堀、高垣教授出席

1・19 村瀬玄(小樽高商教授、のち本学専門部教授兼事務官)、米國へ二年間の文部省在外研究員を命じられ出発する

3・1 本学学則の一部を改正する(大学分科制を廃止し、学科課程中に大改正を加える)

▽本年度新卒業生は次のとおり。専門部専攻科八七名。高等商業科一二五名。同卒業生一名。大学予科二一三名。養成所九名

4・1 本年度入学志願者数および入学許可者数を各科別にあげれば次のとおり

	志願者数	入学者数
大学本科	一七六	七一
大学予科	二〇七七	二〇五
専門部	一三〇五	二〇〇
養成所	二一八	三四
計	三七七八	五一〇

4・15 村瀬春雄博士記念事業要項が定まり、資金募集を開始する。その要項は次のとおり。①大学内には村瀬記念館を建設寄付。②図書資料を購

入(保険・海運)寄付。③村瀬博士記念文集公刊。
④油絵二面を作り博士ならびに大学へ贈呈
5・6 専門部教授上田辰之助、在外研究より帰国する
5・8 大学予科教授、助教授の定員を増加し、専門部教授の定員を減ずる

5・9 専門部教授高瀬荘太郎、在外研究より帰国する
5・29 村瀬春雄氏より保険学研究の在外研究員補助として三、五〇〇円の寄付を受ける

6・22 教授石川文吾、「生命保険約款論」の論文提出(本学)、商学博士の学位を受ける

6・23 大学助手井藤半弥、商業学・経済学研究のため、英・米・独・仏へ二年間の在外研究を命じられる

7・1 学生集会所新設のため寄付金を募集する
9・18 左右田喜一郎博士監修、横浜社会問題研究所編『社会問題研究叢書』第一篇発刊される

10・8 本学事務官泉屋清次郎逝去される
10・10 学長佐野善作ならびに教授石川文吾、汎太平洋会議出席のため出発する

10・1 ラグビー式蹴球団創設される
▽二橋会規則、起草委員会設立される

大正一二年
(一九二三)

- 12・1 上野韻松亭に投書家懇親会を開催し、一橋会組織における本科・予科・専門部三科分立可否が論ぜられる。佐野、福田、上田各教授も出席、議論沸騰する。
- 12・2 一橋会規則起草委員会は三九対一二票をもつて三科分立論を採用に決定する。起草委員会から本科・予科・専門部各特別委員会を組織し、各細則の起草にあたらせることとなる。
- 2・1 アインシュタイン博士夫妻本学を訪れ、講堂において挨拶される。
- ▽一橋会臨時総会を開き、新一橋会規則を議する
- 3・20 加藤由作、在外研究地より病気のため帰国中のところ、ふたたび留学を命ぜられる。
- 3・26 大学助手増地庸治郎、商工経営研究のため、英・米・独国へ二年間の在外研究を命じられ、出発する。
- 3・1 第二回予科の歌、矢口孝次郎作詞、大和田愛羅作曲「夜の香こむる」が発表される。
- ▽本年度卒業者数は次のとおり。商科大学第一回学士試験合格者、中山伊知郎・猪谷善一・町田実秀等一六四名。専門部卒業生一七二名。卒業生一名。高等商業科卒業生一〇五名。卒業生一名。養

- 成所四年卒業生一二名、同三年卒業生二九名
- 4・1 本年度入学生数は次のとおり
- | | 応募者数 | 合格者数 |
|------|--------|------|
| 大学本科 | 二二一名 | 八九名 |
| 大学予科 | 一、五一九名 | 二二一名 |
| 専門部 | 一、二九四名 | 二一六名 |
| 養成所 | 二三八名 | 三五名 |
| 計 | 三、二六二名 | 五五一名 |
- ▽雑誌『一橋』第一八号をもって終刊
- ▽一橋会は本科・予科・専門部の三科に分立する
- 5・8 商学専門部助教の定員を減じられる(一〇人を五人に)
- 5・1 府下石神井村に運動場用地約二万四千坪を購入する
- ▽『一橋専門部会雑誌』創刊される
- ▽本学学生有志より成る思想団体S・P・S(社会思想の会)生まれる
- 5・15 公立実業学校校長黒川善一、東京商科大学事務官に任ぜられる
- 5・30 専門部会総務理事、学長から「専門部および養成所は大正一二年限り生徒募集を終り、大正一五年にこれを廃止し、横浜高等商業学校として存続させる」旨の覚書を受け、不同意の場合は

これに代わる良策を提出するよう求められる

6・1 専門部存廃横浜移転問題が起ったことにより、専門部生はクラス会、学年会、大会を開き、その解決について活動を開始する

6・6 佐野学長、如水会役員会において専養廃止案を報告する

6・14 学則の一部を改正する

6・30 専養廃止問題の調査が完了し、第二回学生大会を開く。廃止反対意見が有力である事実が判明し、ただちに実行委員会を組織して存続運動を開始する

6・1 アダム・スミス生誕記念講演会ならびに図書展覧会を本科学術部主催で開催する

▽本科学術部のもとにS・P・S商工研究会、法学研究会、史学研究会、経済学研究会、組織される

7・9 如水会臨時評議員会が開かれ、討議の結果、専養廃止案に関しては再研究再議の必要が認められる

7・29 専養廃止問題に対し、如水会幹部の尽力(同会有志の中から五〇万円の寄付金を募集し、これを学校に提供して引き続き存続させること)および専門部学生の活動により円満存続の解決を

見る

9・1 関東大震災のため、本校校舎は、三井ホールを除くほか焼失あるいは震破する。図書館内の図書および三井ホールに保管中のメンガー、ギールケ両文庫は厄災を免れる。よって臨時休業となる。如水会館もまた烏有に帰する

9・9 地方にある学生と如水会員との連絡のため、臨時委員会成る。のちに一橋震災善後委員会と改める

9・10 市政調査会の依頼により本日より五日間にわたって学生延べ人員六四名をもって罹災者実地調査を行なう

9・15 京浜学生大会を開き、集まる者五〇〇名
9・30 本日夜より福田徳三教授は、大学構内および三井ホールに蔵するギールケ文庫・メンガー文庫の警戒のため徹夜警備する。これを機として教授・学生等をもって校内警備にあたることとする

10・3 日刊『一橋時報』を発行し、東京における日々の出来事を逐一地方在住者に報告。同時報は(十一月末日)第四八号に及ぶ

10・4 本日と七日、一〇日の三日間にわたり工兵隊に依頼して残存校舎を爆破。校庭整理のう

え、本学敷地および石神井の運動場に仮校舎建設に着手

10・5 大阪中央公会堂において関西学生大会開かれ、震災善後会関西支部成立する（上田、木村、星野各教授出席）。なお東海（名古屋）、九州（熊本）、関東（宇都宮）の支部相続して設立される

10・13 大阪市長関一博士（元本学教授）、学生生徒善後策詳細打合せのため出京する

▽延べ人員七二名をもって東京市役所調査課の依頼により芝離宮および芝公園内バラック調査を実施する

10・15 海外著名の新聞雑誌社に対し今次の震災に関する海外での反響記録の送付方を依頼する

10・21 一橋震災善後会関西支部『一橋時報』を復刻し、関西版第一号として刊行する

10・1 一橋震災善後会関東支部（宇都宮）、『一橋関東時報』を発行、相前後して各地支部の地方版、各クラス会でのクラス会報が生まれ連絡をとる

11・1 学生一〇〇名、職業調査に従事する

11・3 三井銀行上海支店より海外情報送られる

11・4 熊本市公会堂に九州一橋学生大会開催さ

れる。会集者四五名

11・30 互助会は罹災学生への貸費資金募集のため、寄付金募集趣意書を先輩に発送する

12・1 本日より本科、専門部養成所三年は一橋本校に、予科は東京高等学校（幡ヶ谷）に、専門部養成所一、二年は農業大学（渋谷）においてそれぞれ授業を開始する

12・1 大震災により図書館閲覧室の外郭は大破し、理化学教室を臨時学生閲覧室にあてていたが、修理工事竣成しふたたび図書館において閲覧を開始する

12・8 一橋会臨時総会開かれる。互助会設置の件が可決され、貸費総額六万円が決定される。また同会文庫部を新設し、震災後先輩から寄贈された図書を「癸亥文庫」と名付け貸出を行なうこととなる

12・20 東京商科大学一橋会編輯になる「復興叢書」第一輯刊行される（第二輯・大正一三年一月二〇日、第三輯・同年二月一六日、第四輯・同年四月二〇日、第五輯・同年五月二〇日、以上完結）

12・30 本学名誉教授男爵神田乃武氏逝去される（享年六七歳）

大正一三年
(一九二四)

1・4 故神田男爵の葬儀、本学において執行される

1・1 如水会、スラブヤ支部設置を承認する

2・1 『二橋』(予科会雑誌)第一号創刊される

3・1 府下石神井の本学運動場に建築中の仮校舎竣工する

3・22 田崎仁義(明治三八年本科卒、同四〇年専攻部卒)、経済学博士の学位を本学より授与される

3・1 『ヘルメス』、一橋本科会學術部によって創刊される

▽本年度卒業者は次のとおり。第二回学士試験合格者、本多謙三等二〇四名。専門部卒業生一八八名、卒業生二名。養成所卒業生二九名

4・1 本年度新入学生数次のとおり

応募者数	合格者数
大学本科	四二二名
大学予科	一、二二二名
専門部	七九七名
養成所	一七五名
計	二、六〇六名

二八一名

二〇三名

一八五名

三三名

七〇二名

▽本学各本科の授業を焼け残った校舎および新築仮校舎で開始する。大学予科全部を石神井仮校舎

に移転し四月一六日授業を開始する

4・9 法学博士村瀬春雄氏逝去される(享年五三歳)。四月一八日青山墓地に葬る

4・14 予科柔道部、石神井に道場が新設され道場開きを行なう

4・28 過去二三年の久しきにわたって本学で教鞭を執られたハイゼ氏、職を辞し故国ドイツへ帰られるため一橋会主催で送別会を催す。同氏は二九日東京を出発される

4・1 本学生有志による思想団体S・P・Sは芝公園内友愛住宅の一隅にS・P・S労働学校を開設する

▽復興局において一ツ橋通町区画整理実測の結果、如水会々館前面基礎工事より約四尺五寸を残り約二間半を道路に取られることとなる

5・1 本学に東京商科大学「経理事務講習所」を附設、開所する

5・6 ロンドン、トインビー・ホール主事キャッチプール氏の講演会を開催する

5・10 一橋会端艇部、日本漕艇協会主催本年度フォア全日本選手権競漕に参加し選手権を獲得する

6・5 下野直太郎教授は「収支簿記原理」を欧

米学会に発表のため本日出版する

6・12 専門部会定期総会を開催する

6・14 本科学術部ではドイツの大学で行なっている例にならって、教授就任演説会を恒例的に行なうことを企画し、その第一回が留学帰国者金子鷹之助教授、孫田秀春助教授によって行なわれる

6・15 一橋会一橋新聞発行所より『一橋新聞』発刊される(月二回の発行)

6・23 本学出身の岡本忠選手、ウィンプルドンの国際庭球トーナメントにおいてフランスのデ杯選手ラコスト氏に敗れる

6・25 商学会(大正初期一橋出身の学者・実業家によって組織されたもの)、銀行集会所において例会を開く。学校側からは佐野、上田、三浦、石川、内池、藤本の諸博士ほか一六名が出席する

7・1 商業経済に関する学術的調査機関であった本学調査部は、関東大震災によって内田ホール内にあった資料を全焼し、一時中絶状態にあったが、内藤、猪谷両氏の奔走により復活される

8・1 本学と箱根土地株式会社との間に国立移転に関する仮契約が成る

▽専門部端艇部の事業として小冊子『朱雀』発行

される(謄写印刷二〇〇部)

▽専門部教師チャールス・ゼー・アーネル氏、日米問題のため発狂する

8・20 一橋端艇部出身者から成る四神会は、震災のため所有艇全部を失ったが、本日総会を開き、その甦生発展を図ることとなる

9・22 第四九回本学創立記念祭を挙行する。本年は余興をやめ次の四氏の大講演会を行なう。田川大吉郎、窪田四郎、田中都吉、米田実。同日端艇選手出陣式、一橋会総会を行なう

9・1 本学学生有志の団体S・P・SではS・P・S労働学校の中に労働者の図書室開設を企て、図書の寄贈運動を始める

10・13 学則の一部を改正し「学資貸給」規程に変更を加える

10・1 故神田乃武先生の記念事業会が生まれ、記念事業資金募集を行なう。①伝記、遺稿の編纂出版、②東京商科大学内に神田記念講座を寄付、③英語英文学の奨励普及、英語教育方法および制度の改善、英語教育の向上

▽専門部有志、アーネル教師のために義捐金を募集する

▽本学予科、専門部にホッケー部を創設

10・22 本邦生命保険の創業者で明治二六年以来同四四年まで一八年間にわたって高等商業学校商議委員を勤め本学の興隆につとめられた阿部泰藏氏逝去される(享年七六歳)。葬儀同二五日、於松秀寺

11・4 予科端艇部、漕法研究用タンクを石神井校門前に設置する

11・7 学者、社会思想家であり、また英国屈指の大製菓会社を経営するシーボーム・ラウントリー氏の来日を機に講演会を開く。同夜「商学会」も同氏を囲んで談論会を開く

11・29 「談橋会」誕生し、第一回の会合を持つ。(談橋会は旧投書家懇親会に代わるもの、毎週土曜日開催)

11・1 大正一三年度専門部会歌「更けゆく秋」(武井綱規作詞)発表される

12・16 学則の一部を改正し、大学予科および商学専門部の入学資格に変更を加える。また商業教員養成所規則中、入学に関する条項を改正する

●この年、本学学生および卒業者の大正一三年度高等試験合格者は行政科八名、外交科三名

大正一四年 (一九二五)

1・4 昨年六月五日欧米外遊のため出発した下野直太郎教授および英国にあってシドニー・ウェッブその他の碩学のもとで研究中であった緒方清助教授、同船にて帰国する

1・1 本学名誉教授神田乃武男爵の一周忌を機に、本学にアングロサクソン文化紹介の「神田記念講座」開設のため、本学関係者実行委員は資金約五万円の募集を始める

▽本学期より予科各組毎に専属訓育教官をおく

2・1 本学学則の一部が改正され、大正一四年度新入生より本科七五円を一〇〇円に、予・専五〇円を六五円に、授業料が値上げされる

▽堀潮(和歌山高商教授、のち本学専門部教授)、欧米留学より帰国する

2・6 株式会社兼松商店は、その創始者兼松房治郎氏の十三回忌に因んで、五〇万円を兼松翁記念の大講堂建築資金として寄付される。建築は兼松商店側において行ない、そのまま引き渡されるもの

2・24、28 井上準之助氏(前日本銀行総裁、本学講師)の経済時事連続講演(中央銀行総裁としての体験談)行なわれる

3・12 本学教授福田徳三博士、夫人同伴にて約

一年の予定で渡欧する。ジュネーブにおける万国経済学会に日本学会代表として出席する

3・31 卒業式挙行される。本年度卒業者数は次のとおり。第三回学士試験合格者、川村豊郎・米谷隆三・鬼頭仁三郎・山中篤太郎等二五一名。専門部卒業者一九〇名。畢業生四名。養成所卒業者三十八名

▽石神井予科第一回卒業生により貸出用として各自の蔵書を割愛し「石一文庫」(卒業記念文庫)として予科図書室に残す

4・1 商学専門部教授の定員が減じられる

4・11 大学予科および商学専門部および商業教員養成所生徒教練のため、陸軍現役将校が配属されることとなる

4・1 本年度新入学生数は次のとおり

	応募者数	合格者数
大学本科	三一九名	八三名
大学予科	一、三八五名	一〇八名
専門部	一、二〇四名	一九四名
養成所	二八九名	三四名
計	三、一九七名	四二九名

5・1 第二回談橋会開かれる。「学制改革問題を中心として」

▽震災により被害を受けた研究室の復旧工事完成し、各教授はそれぞれほぼ旧室に引き移る

▽図書館は図書増大に伴い書庫が狭隘となり、復旧工事が成った研究室建物階下に雑誌部を移し分室を設ける

5・12 第一六回中西記念式を挙行する。往年の關士松村光三、定塚門次郎兩氏の演説および当時の「愛校生」堀教授が徹底に秘めていた「商業大学必要論」の建白書について熱弁を振う

5・19 失明の碩学坂西由藏氏、母校である本学講師に就任。本日より「理論経済学の若干問題」と題し講義を始められる

6・2 予科会定期春期総会開催される

6・4 ドイツ留学中の本間喜一教授、三年間の研究を終えて帰国する

6・9 マンチェスター大学英文学教授エヴァンス氏夫妻の来日を機に本学において講演会を開く
▽専門部会定期総会開催される

6・22 予科二年生による「東京商科大学予科学風樹立研究会」第一回大会を開く

6・26 国際部ならびに国際聯盟研究者の尽力により本学に「国際聯盟研究会」が生まれ発会式を挙げる。会長上田貞次郎教授、坂谷男爵、米山梅

吉、穂積博士等の講演あり

6・30 フランス語教師ブルニエー氏、契約期間終了のため帰国される

6・1 専門部会聯合幹事会を設立する

▽一橋会復興資金の一部を卒業生より募集することとし、運動を始める

▽一橋出身最初の大使田中都吉氏、ソビエト・ロシアに赴任する

7・1 大震災により焼失した「校旗」の再製作について竹田量之助氏等高島屋系の先輩一三氏によつて、同社呉服部の手で製作のうえ開校五〇年記念日までに寄贈されることとなる。紫色塩瀬の生地、マキユリーを金糸で盛り上げ縫い込み三方縁を金モール房で飾る

7・7 神戸高等商業学校校長水島鎮也氏病弱の故をもつて辞職される。氏は明治二〇年三月東京商業学校卒、明治三十六年一月神戸高等商業学校校長（同校は同年五月開校）、以来同校校長をつとめられる

7・16～27 S・P・S主催夏季講習会が神田仏教会館で開かれる。上田貞次郎、金子鷹之助、猪谷善一、山中篤太郎、杉本栄一、孫田季春氏等出講

7・18 在外研究員として欧洲留学中の大学助手増地庸治郎、帰国する

▽関東大震災によつて一橋会は艇庫、端艇、柔剣弓道場その他一切の所有財産を失う。よつてその復興計画資金の寄付募集を始める

8・17 高商明治二七年卒の先輩信夫淳平氏（外交官）、東京帝国大学より法学博士の学位を受ける

9・2 本学の東京府下谷保村国立移転に関し、箱根土地株式会社所有の土地と神田一ッ橋の大学敷地との交換の件、文部大臣から認可される

9・9 神田一ッ橋の大学敷地（分教場敷地）と在国立の移転地との交換契約が正式に成立する

9・15 共益部より記念絵葉書三枚一組（懸賞募集したもの）および八枚一組の記念写真絵葉書発売される

9・20 開校五〇周年記念大運動会が石神井校庭で行なわれる

9・21 開校五〇周年記念全国高商学生講演大会が大学本館八番室で行なわれる

▽本科学術部は開校五〇周年を記念して、図書館秘蔵の貴重図書展覧会を開催、一三項目六三四冊が陳列される

- 9・22 開校五〇周年記念式典が仮講堂で舉行される。加藤首相、岡田文相、片岡商相、外国大使。渋沢子爵、鎌田慶大学長ほか七〇〇名が参列
- ▽本校創立五〇周年に際して勤統二五年以上の教職員が如水会より表彰を受ける。教授奈佐忠行(三五年)、教師ブロックホイス(三三年)、学長佐野善作(三一年)、教授下野直太郎(三〇年)、教授中村進午(三〇年)、嘱託金子水哉(二九年)、教授石川文吾(二九年)、講師志田鉦太郎(二八年)、講師樋口艶之助(二七年)、師範山田次郎吉(二五年)
- ▽開校五〇周年記念式典後、午後三時から同九時にわたって一橋会主催の祝賀会がA教室において催される
- ▽法学博士佐野善作著『日本商業教育五〇年史』(菊判、一六五頁)が、大学の創立五〇周年の記念出版として刊行される
- ▽一橋会編纂の『一橋五〇年史』(菊判、四一六頁)が発刊される
- 9・23 開校五〇周年記念、大学関係物故功労者(百余名)追悼会が仮講堂において行なわれる
- 9・24 開校五〇周年記念講演会が本学出身者五氏によって行なわれる。講師、児玉謙次、堀越善

- 重郎、大谷登、中島久万吉、出淵勝次
- 9・25 竹内量之助氏等先輩一三氏の寄贈によって京都高島屋呉服店で製作中のヘルメス大旗ができあがり、記念式典の第七日目職員学生一同参列のうえ奉戴式を行なう
- 9・26~27 第五次十大学対抗レースにおいて、本学クルー優勝する
- 9・1 本科文芸部員矢口孝次郎を中心として文芸雑誌『始祖鳥』創刊される
- 10・8 書記の定員が増加される
- ▽明治二年まで日本で総領事を勤めたベルギーの老政治家ルイ・ストラウス氏(八二歳)を迎え講演会を開く
- 10・23 専門部隼風会創立され、同会主催の第一回専門部有志懇談会が開催される
- 10・1 村瀬保険全集刊行委員会が組織され、同全集刊行頒布の趣意書が出される
- 11・1 明治神宮馬術競技に出場した本科小林君巻乗競技に優勝する
- 11・6 本年度高等試験外交科の合格者が発表され、全員六名のうち、本学からは本三・豊田薫、本二・根道広吉、本二・加瀬俊一の三名
- 11・10 庭球部テニスコートが本学神田敷地内に

完成

11・22 商学会、例会を開催する。最近帰国の増地庸治郎氏の講演があり、経営経済学について論戦あり

12・1 浅草駒形の資産家（駒形どぜう）渡辺助七氏、本学に一万円を寄付され、本学図書館に「渡辺文庫」を設置する

12・8 『東京商科大学創立五〇周年記念論文集』刊行される（菊判九八一一一九頁、同文館刊）

12・16 予科会雑誌『一橋』第八号を導火線に、同誌は予科会機関雑誌として妥当か否かをめぐって問題が發展、臨時予科總會を開く

12・22 専門部養成所は明年四月から国立へ移転することが正式に発表される

12・23 商学会、例会を開く。佐藤尚武氏のポーランドおよびソビエト・ロシアに関する講演あり

1・1 学則中、入学に関する項を改正する（第九条中、詮衡の上入学を許可する条項に、①大正一四年三月以後東亜同文書院商務科を卒業したる者、を加える）

▽米国ボルティモア・シティ・カレッジより、渋沢栄一子爵を通して「日米両国学生親善に就

て」と題し専門部に論文募集を依頼して来る

1・31 関東大震災によって罹災した学生を救うため、如水会神戸支部、同大阪支部合同による各支部への呼びかけにより「一橋罹災学生貸給資金」が募集された結果、予定の計画を実現、会報に報告される

2・13 一橋会総会が開催され、従来の組織を改めて社団法人となすこと、および社団法人東京商科大学一橋会定款がともに可決される

2・20 本学開校五〇周年記念事業の一つとして、佐野学長によって執筆された『日本商業教育五〇年史』が、本日同文館から一般に発売される

3・12 如水会福岡支部設立が承認される

3・31 大正一四年度本学学士試験合格、卒業証書授与式が挙行される。学士試験合格者二六三名。予科卒業生二〇七名。専門部卒業生一八四名。教員養成所卒業生二八名

4・1 箱根土地会社の寄贈により国立駅舎屋の工事が完了、本日より中央線上一六本の列車が止まることとなる

4・12 教授堀光亀、欧米一八カ国の視察旅行に出発する

▽助教教授村松恒一郎、海外留学のため本日出発す

大正一五年
(一九二六)

<p>る</p> <p>▽講師太田哲三、海外私費出張にて本日出席する</p> <p>4・20 教授高垣寅次郎、論文「貨幣ノ本質ノ研究」を提出(本学)、経済学博士の学位を受ける</p> <p>4・24 横浜正金銀行取締役(本学出身)を中心に川村豊郎助手の肝入りで本学に「国際金融研究会」が生まれ、本日その第一回研究会を銀行集会所において開く(以後毎月一回会合の予定)</p> <p>4・— 上田貞次郎博士主幹の『企業と社会』創刊する</p> <p>5・11 一橋会総会後第一七回中西記念式を挙行する。先輩武井大助、犬丸徹三両氏の追懐談および猪谷、川村両氏等の商科大学論を中心の論戦あり</p> <p>5・26 予科会春季総会を開催する</p> <p>6・6 新一橋建設の魁、国立運動場まず成り、グラウンド開きを盛大に行なう</p> <p>6・8 米国ポルティモア・シティ・カレッジから洪沢子爵を通じて、日本生からの論文募集中であったポルティモア懸賞論文披露式が本学専門部会語学部主催のもとに行なわれる。第一席に鈴木孝一郎入賞する</p> <p>▽米國ペンシルバニア大学商科科長ジョンソン博</p>	<p>士の「米國に於ける交通問題」の講演会を開催</p> <p>6・9 専門部会春季総会を開催する</p> <p>6・19 一橋新聞は三田新聞とともに都下八大学新聞聯盟を脱退する。同新聞聯盟規約中に新たに、団体的行動を目的とする旨の条項を加入することに賛意を表しがたく、その一員であることを辞するに至る</p> <p>6・21 中華民國国立武昌商科大学生約四〇名、日本經濟事情視察のため来日。一橋会は歓迎のため本校に招き友誼を交換する</p> <p>7・1 教授下野直太郎、「計算学ニ関スル若干問題」の論文を提出(本学)、商学博士の学位を受ける</p> <p>7・2 一橋国際部主催により、マンチェスター商業會議所理事K・D・スチュアート氏の「日英兩國の輸出貿易」と題する講演会を開く</p> <p>7・10 本学を中心に全国高商等関係者によって「日本経営学会」が設立される</p> <p>8・1 福田徳三博士夫妻、一年半の欧州旅行を終えて帰国する</p> <p>8・8 日豪貿易の先駆者、兼松房治郎翁の二三回忌にちなんで寄付された兼松講堂の建築工事が、竹中組の手によって開始される</p>
---	---

- 9・7 勅令第三〇一号をもって東京商科大学官制の一部が改正され附属図書館が設置される。図書館長一人、司書二人が置かれ、図書館長は教授助教授の中より補することが定められる。
- 9・22 本学第五一回創立記念式典が挙行され、一橋会主催記念学術講演会が、村田省蔵、日向利兵衛、湿美育郎、福田徳三の諸先輩を迎えて行なわれる。
- 9・1 大震災の厄火を受けた本学は一大回転を決定して府下谷保村国立の地に理想的学園都市の建設を計画。敷地予定委員会、ついで復興計画委員会を組織、次の諸氏を委員として大規模の計画を立案し文部省に請願中。委員名は次のとおり。
- 佐野善作、堀光亀、三浦新七、上田貞次郎、木村恵吉郎、内藤章、奈佐忠行、星野太郎、高垣寅次郎、内池廉吉、孫田秀春、金子鷹之助、青山衆司、福田徳三、井浦仙太郎、黒川善一
- 10・1 本学にラテン語の講義が山内得立教授によつて開講され、本日よりその第一講が始められる。
- 10・5 東京商科大学附属図書館編『カール・メンガー文庫目録』が発行される（経済学に関する部分だけ、四六倍判、三六六頁）

- 10・27 英国駐日大使テレー氏を迎え講演会が開催される。
- 10・30 工学博士佐藤功一氏の設計に森田工務店の手によつて工事を進められていた如水会館の新装が成り、本日引渡し完了する。
- 10・1 専門部学生有志が連名で学制改革について当局に具体案を申請する。
- 11・12 欧米視察中の堀光亀教授、帰国する。
- 11・14 如水会館修築復興成り盛大な開館披露式を挙行する。また、同時に渋沢子爵寿像除幕式が行なわれる。
- ▽創立記念日に行なわれるべき運動会が延期されていたが、本如水会館落成祝も兼ねて、国立の運動場において先輩学生入り交つて盛大に行なわれる。
- ▽一橋会庭球部は移転地国立に理想的硬球コート設置を計画、工事中であったが、本日そのコート開きが先輩も参加して盛大に行なわれる。
- 11・22 専門部奈佐主事、国立移転を正式に発表する。
- 11・28 高垣寅次郎教授、新官制による東京商科大学附属図書館長に任命される。
- 11・30 専門部有志の発起により国立移転に関する

昭和二年
(一九二七)

する専門部移転準備会が成立、本日第一回委員会を開催。二月七日第二回委員会を開催する
12・7 子科定期総会が開催され、議論続出したが提出案は全部可決される

1・14 故村瀬博士記念奨学資金(三、〇〇〇円)が村瀬保険全集刊行会より如水会を通し本学に寄付される(損害保険および海運研究補助資金として)

▽商大懇話会が開催され、一橋会定款変更および施行細則のことが議せられる

1・15 専門部養成所卒業生有志は会合を持って専門部養成所国立移転後の専門部会の財政難を慮って資金募集のことを決定する

1・19 専門部卒業生有志は如水会館で専門部会役員と会見し、専門部の国立移転費の一部として卒業生中より資金募集に尽力することを決定する
1・22 子科教授杉浦徳太郎、数学および保険数学研究のため、三年間ドイツ留学を命じられる

1・1 米国スプリングフィールド市におけるリンカーン讃仰会の英語懸賞論文に、専二・池野君当選する

2・2 子科教授古瀬良則、英語学および語学教

授法研究のため、三年間英国留学を命じられる
▽子科教授金子弘、ドイツ語および語学教授法研究のため、三年間ドイツ留学を命じられる

▽大学助手中山伊知郎、統計学および経済学研究のため、ドイツ留学を命じられる

2・13 一橋会音楽部、東京中央放送局より鳥居忠五郎氏指揮のもとに放送出演

2・19 一橋会総会が開催され、定款施行細則が可決される

2・1 専門部会移転準備委員会で募集中であった専門部会歌は、専門部二年玉井菊雄君作の「万象光輝きて」をその案として決定する

3・1 子科の位置を東京府北多摩郡小平村大字小川および小川新田に変更のことが認可される

3・2 教授福田徳三博士、フランス学士院文科学部外国会員に、コロンビア大学教授セリグマン博士とともに推薦される。日本人では故黒田清輝画伯につき二人目

3・13 神戸兼松商店の寄付による兼松講堂、本日上棟式を挙行する

3・19 専門部主事を更迭。専門部創設以来七年にわたる奈佐忠行教授が退き、堀光亀教授が就任する

- 3・20 一橋聖樹社、一〇周年を記念して『聖樹社歌集』を発刊する(四六判、九二頁)
- 3・1 故村瀨春雄博士記念事業の残金一万三千余円は、学術研究の目的に使用のことを条件に如水会へ寄付されたが、同会において評議の結果、保険・海運に関する書籍を購入、博士所蔵の図書一、五〇〇冊とともに本学図書館へ寄贈することとなる
- ▽本年度卒業生数は次のとおり。第五回学士試験合格者、伊坂市助等二四一名。専門部卒業生一六六名。養成所卒業生三二名
- 4・1 本学五〇年の古城一ツ橋より国立の地に、本邦最初のユニバーシティ・タウンの建設に着手していたが、商学専門部および商業教員養成所がまず同敷地内の仮校舎に移転する。同校舎は箱根土地株式会社が寄付したものの
- 4・1 専門部学制の一部が変更され、本年度より暫定規定として実施される(珠算・商品の一部削減し、心理・論理・民法等が加わる)
- 4・7 本学講師左右田喜一郎博士、種々の事情により本学講師および貴族院議員・京都帝大講師等一切の公職を辞す
- 4・12 教授上田貞次郎、ジュネーヴにおける国

- 際経済会議出席のため、本日大阪を出発する
▽専門部教授加藤由作、在欧五年の研究を終えて帰国する
- 4・14 佐野学長、台湾の産業事情および商業教育状態視察のため出発する
- 4・15 専門部仮校舎成り、本日より国立で授業を開始する
- 4・16 S・P・Sは労働学校の校舎を物色中であつたが、南千住、東京府隣保館交隣園に場所を得て本日開校、記念講演会を催す
- 4・20 一橋新聞専門部支部成立する
- 4・25 専門部卒業生主催の専門部前主事奈佐教授および新主事堀教授の歓迎謝恩会が、往年の教え子が相集つて如水会館で盛大に行なわれる
- 4・29 専門部国立移転記念式が挙行され、同時に祝賀会、講演会、運動会が催される
- 5・1 本年から新たに補手の制度が設けられ、従来助教には助手の中から不文律的に昇任されていたが、今後は助手、補手中から優秀な者が選ばれることになる。助手は官吏で有給、補手は非公式無給、いずれも在任期間は二年、補手定員一〇名、毎年五名ずつ採用
- 5・9 兼松講堂建築委員会会合。外部工事完成

よって内部装飾について協議。宮地氏の懸賞当選図案を基礎に細部設計は伊東忠太博士指導のもとに、松井工務店によって整備進行をはかることとなる

5・12 貨幣および銀行金融研究のためフランスに滞在中の専門部教授兼大学助手山口茂、二年半の留学を終えて帰国する

6・1 東京市復興局の計画により、本学艇庫の移転が伝えられていたが、その後の同局との交渉によつて本学艇庫と帝大艇庫の間にある一高艇庫が取り払われ、本学艇庫はやや北側に、帝大艇庫は南側に移つて隣合つて並び、階上には二軒通しの大観覧席が設けられる予定

6・4 学術部主催による新帰国教授の講演会が復活し、本日井藤半弥、増地庸治両助教の講演会を開催する

6・8 子科会春季総会が開催され、会則の一部変更ならびに機関紙『石神井』続刊のことが可決される

6・10 教授と学生の接触を計る目的で、専門部講演部主催による下野教授座談会を開催する

6・12 如水会館側に建設中の庭球コートが完成、本日コート開きを挙げる

6・18 子科弁論部、創設第一回の弁論大会と講演会を、金子鷹之助教授および早大教授帆足理一郎氏を聘して盛大に行なわれる

▽専門部講演部主催による講演会が、帰国中の下位春吉氏を聘して移転後の国立で最初に催される。前例を破つて公開され、各方面から多数の聴衆が参集

6・19 多数の卒業生に寄付を仰ぎ、数カ月前から工事を急いでいた一橋会バスケットボール新コートが落成し、帝大・早大からも参加、コート開きが挙行される

6・23 本科会学術部主催により開催の予定であった大山郁夫氏の講演会中止される。それに憤慨した商大生、文部省に押しかける

6・25 専門部会定期総会が開催される。提出議案、野球部・水泳部、両部の独立案可決される

専門部独立について、昭和三年四月を期して独立熱望のことが決議される

7・1 両三年前より計画中であつた、私経済研究に資するための「企業経営研究所」設置の建議案（高垣教授起草のもの）を文部省に提出する

▽復興局の区画整理が始まり、表側の壁が二間半程後退、本学正門も南方二〇間ほど如水会館寄り

<p>に移転決定。また裏手側壁も、道路拡張のため、約二間余り引込みとなる</p> <p>7・4 本日の教授会において『商学研究』の編輯組織に一大改革を断行。また発行期を三、六、九、一二月の四回に改め、一般、本学出身者を含む大一橋の研究発表機関となすことを決定</p> <p>▽本年度大学卒業生荻原忠三君等五名が委員となり、卒業記念事業として「橋の絵巻―今日、昨日、明日」三巻をフィルムにして保存することとなり、本日より撮影が開始される</p> <p>7・15 神田記念事業委員会編輯『神田乃武先生追憶と遺稿』（英文）が発刊される（刀江書院刊、四六倍判、五一六頁）</p> <p>7・30 山口弘一博士に東京商科大学名誉教授の名称が授けられる</p> <p>8・11 左右田喜一郎博士逝去される（享年四七歳）</p> <p>8・15 教授上田貞次郎博士、ジュネーヴにおける国際経済会議に出席中のところ、帰途パリ、ロンドン、ベルリン、モスクワを訪問、シベリヤ経由で帰国する</p> <p>9・22～23 第五二回本学創立記念式典が挙行される。当日は記念講演会、全国高商学術講演会、</p>	
<p>一橋会主催によって初めての試みである先輩学生全一橋人の懇親会およびかねて撮影中の「橋の絵巻」の試写等が行なわれる</p> <p>9・24～25 第七回一二大学対校競漕会において本学端艇部三度び優勝</p> <p>9・28 専門部会理事會、有志懇談会を開き、専門部独立運動が行なわれるべき時機到来を説き、堀専門部会長、同問題に関する経過を報告する</p> <p>10・5～7 全国実業専門学校校長會議が本学において開かれる</p> <p>10・10 五十嵐直三、森賢吾およびモルガン商會のラモンド三氏を聘し特別講演会を開催する</p> <p>10・18 専門部会内に東京高商の樹立を目標として独立期成委員會が組織される</p> <p>10・18～20 全国商業学校長會議が本学において開かれる</p> <p>10・19～25 ペンシルバニア大学教授S・S・ヒューブナー氏、前後五日間にわたり、特別講義を行なう</p> <p>10・22 専門部、独立運動の声明を発表する</p> <p>▽一橋会国際部、JOAKより英語劇「最後の仮面」を放送する</p> <p>10・23 商業学および経済学研究のため滞独中で</p>	

<p>あつた杉村広藏助教授、帰国する</p> <p>10・1 教授学生間の接触を計り、さらに内容充実を期するため、一橋会各部が新たに部長推戴の意向が起ころ</p> <p>▽癸亥文庫は専門部図書の貧困を補うため、専門部に癸亥文庫支部を設け、和書全部を国立に移す</p> <p>11・1 本学において専攻部以来農業政策を講ぜられた横井時敬博士逝去される</p> <p>11・2 予科生、「予科生活批判会」を組織、第一回会合を行なう</p> <p>11・6 兼松講堂落成式および開館式を挙行する。同講堂は日濠貿易の先駆者故兼松房治郎翁を記念するため、株式会社兼松商店が建築のうえ、本学へ寄贈されたもの。設計者は工学博士伊東忠太氏</p> <p>▽兼松講堂西側に築造中の弓道場落成し、道場開きを行なう</p> <p>11・14 如水会より渋沢子爵寿像が本学に寄贈され、子爵臨席のもとに講堂において除幕式を挙行する</p> <p>11・16 兼松講堂開館を記念して先輩および教授七氏による記念講演会が開催される</p> <p>11・24 会計学および原価計算研究のため、ドイツ</p>	<p>昭和三年 (一九二八)</p>
<p>ツ・フランス・イギリスに留学中であつた予科教授兼兼大講師太田哲三、帰国する</p> <p>11・1 本科文芸部刊行の『一橋の鐘』（大正一二年以来）編輯方針を改め『一橋文芸』と改称する</p> <p>12・6 予科会、生活批判会提出の制度改革案を中心に、本日および八日にわたって臨時総会を開会する</p> <p>12・17 専門部独立期成委員会はその後も着々歩をすすめていたが、本日その運動経過報告とともに学生大演説会を開催する</p> <p>12・20 一橋基督教青年会、創立四〇周年を記念し、年史を刊行する</p> <p>12・23 専門部雨天体操場工事に着手する。合計二〇〇坪、工費四万円</p> <p>12・24 元東京高商校長沢柳政太郎博士、逝去される</p> <p>12・1 一橋会剣道部、山田次郎吉師範を中心として『鹿島神伝直心影流』を公刊する。出版にあつたて如水会剣友会の多くの援助があつた</p> <p>1・4 ドイツ留学中の予科教授佐藤弘、病魔に襲われ研究中断の上帰国する</p>	

1・10 予科制度改革案を検討中の教授会、まず手始めとして新学年より実施の学科課程の改正案を公表する

1・14 大正一三年來中断していた談橋会、学内の大勢に鑑みて復活、第一回の会合が開かれる

1・16 本学の制度改革について昨年来数回の教授会が開かれ論議が重ねられ、上田貞次郎等五氏の委員が選任されて研究中の具体案につき、本日教授会が開かれる

1・19 本年度第一回専門部学生大会が開かれる。専門部独立問題および学制改革問題について討議

▽専門部寄宿舎(在国立)本日より工事に着手する。完成は八月、九月新学期より使用の予定

1・23 第二回談橋会開催される。委員教授、学生監も出席し、議題は前回に引き続き学制改革問題、福田徳三教授の学制改革私案要綱が提示される

1・24 席次発表廃止問題報告と今後の運動に關して予科臨時総会が開かれる

1・28 一橋会定期総会開かれる。通常は二月中旬に開かれていたが、目下一橋の問題全般にわたる実質的的自己批判の会たらしむべく、時期を早め

て開かれたもの。同総会において全一橋をあげて専門部独立に尽力することを可決する

▽一橋会総会に引き続き昇格以後第一回の全一橋学生大会開かれる。中心議題は大学学制改革問題
1・1 兼松講堂の使用規程を委員会において作成中であつたが、ようやく決定をみて発表される。入場料徴収の会合には使用を禁ずる等の項目あり

2・1 学生大会における決議、学制改正案の再審議のため第三回談橋会を開く

2・4 談橋会実行委員主催のもとに学制改革問題に關する教授・学生の意見交換会が開催される
▽大正一五年度より専門部会内に学制改革委員会が設けられ種々研究中であつたが、本日の教授会において大改正断行のことが決議され、四月より施行のことが定められる

▽専門部会総務理事鈴木留五郎、専門部独立問題に關して如水会江口理事長に覚書を提出する

2・15 故左右田喜一郎博士の学会ならびに社会に対する貢献を回顧し、その面影をしのぶため、井上準之助氏等発起のもとに東京会館において学界、実業界、如水会、横浜の關係者および本学の關係者等を網羅して追悼会が行なわれる

3・14 大学助教授田中誠二、在外研究のため出
発する

3・26 大学助手川村豊郎、在外研究のため出発
する

3・30 本年度卒業者は次のとおり。第六回学
士試験合格者、太田可夫等二五四名。商学専門部
卒業生一七四名。商業教員養成所卒業生三〇名

3・31 明治三〇年一〇月東京高商教授就任以来
本学において商法学・保険学を講ぜられた法学博
士志田鉦太郎氏、一身上の都合により本学を去ら
れる

▽予科教授幸田成友、大学助教授猪谷善一、在外
研究のため出発する

3・1 上田貞次郎博士主幹の『企業と社会』
(大正一五年四月創刊)は目的の大半が達せられ
たとして本月の「現代日本号」、通巻二四号をも
って終刊する

4・1 文部省直轄諸学校、本年度より授業料の
値上げがあり、大学は一〇〇円が一二〇円に、高
等専門学校は六五円が八〇円に、新学年の入学者
から実施される(昭和三年度は実施中止)

▽専門部独立期成委員会は卒業生を送った後の陣
容を新たにし、文部省の予算編成期を目標に運動

に猛進する

4・13 明治二四年以来、本学において商品学・
経済地理、その他を担当して来られた奈佐忠行教
授、退職される

4・18 商科大学海事思想研究団一三名、軍艦鳴
門に乗り込んで南洋各地見学に出発する(約一カ
月間)

4・24 本学庭球部牧野選手、関東インター・カ
レッジで優勝する

4・29 専門部の国立移転を記念するために設け
られた国立移転記念式(第二回)が本日行なわれ、
講演会および運動会が催され、また専門部会にお
いて独立宣言文が採択される

4・30 第四回談橋会を如水会館において開催、
常任委員設置を可決する

5・1 昭和三年度一橋会本科会確定予算額は次
のとおり

前年度予算との対照

イ 収入	昭和三年度	昭和二年度
ロ 支出	七、〇〇〇円	七、〇〇〇円
一 理事會	七〇七	五二五
二 學術部	一、一七〇	一、〇〇〇

三	文芸部	八一	二	四五〇
四	国際部	二二〇	三	三〇〇
五	音楽部	一五〇	一七〇	〇
六	庭球部	八五〇	九一八	
七	端艇部	一、二八五	一、三九二	
八	剣道部	二六七	三〇〇	
九	柔道部	二五六	三一五	
一〇	競技部	二一七	二六一	
一一	弓道部	一七二	二三五	
一二	ラ式部	三一五	三二〇	
一三	ア式部	二五	一三〇	
一四	馬術部	六三	一〇〇	
一五	水泳部	一三〇	一四五	
一六	籠球部	三〇七	三二三	

○ア式部昨年度において殆ど存在の実を示さず
 ○野球部再三の催促にも予算案を提出せず

5・6 従来助手、補手の採用には一般的な規定がなく、その都度教授会において決定されていたが、本日の教授会において種々審議の結果、採用の基準は主として論文によって一名につき三名の銓衡委員をあげ、決定は毎年九月とする内規が成立する

5・7 前教授奈佐忠行氏に東京商科大学名誉教

授の称号が授けられる

5・8 専門部仮校舎を新築する

5・11 一橋会総会ならびに申酉記念式が行なわれる。総会においては大札記念事業臨時会費が可決され、記念式においては伝統から革正へと教授学生交々立ちて高調する

▽談橋会を申酉記念式後如水会館にて開催。予科・専門部側からも参加、予科生活批判会、専門部集風会からも委員を出して三者共同委員会を組織することを決議する

5・19 国際聯盟協会本学学生支部主催で国際問題大講演会を開催する。米田実、鶴見祐輔阿氏出席され熱弁を振う

5・20 予科が石神井へ移転して満五年、本日第一回の予科記念祭が盛り沢山の催物を添えて開催される

5・22 先にフランス学士院客員に列せられた福田徳三教授に同国政府から最高勲章たるレジオン・ドヌール勲章が賜られた榮譽と、帝国学士院客員に推挙された日仏会館長レヴィ博士の祝賀を兼ね、如水会館において「仏蘭西の友」の集いもたれる

▽本学においては在来の共益部が消費組合の任務

を行なつて来たが、効果が挙がらず、学生の経済的窮乏を救ふことと消費組合の理論的・実地的考究を行なうために、先輩笠原千鶴氏も出席のうえ、その準備会と第一回研究会を開催する。

5・24 女子職業学校、本学跡への移転を希望、出願中であつたが、本日の大蔵省国有財産評議委員会において許可決定。大学分館寄り三、八〇〇坪

5・28 神戸消費組合理事長福井捨一氏を迎えて第二回消費組合研究会を開く

▽予科生活批判会、食堂ポイコットを執行する。

経営を学生の手に移管して新組織の食堂を準備中

5・30 予科生活批判会の処置に不満をいだく穏健な一派によつて学生革正会成り、声明書を発表する

▽予科会評議員会が開催され、予科生活批判会を非難、今後批判会の決議は評議員会で審議ののち実行することが妥当と認める旨決議する

5・31 本日開催の予定であつた専門部会定期総会に対し、監事会と委員長との間に抗争があり、その解決がつくまで堀会長、無期延期を命ずる

6・1 本科会文芸部発行の『一橋文芸』第二号発行され、本号より一般書店で発売されることと

なる(一三〇頁、定価二〇銭、本科生は無料配布)

6・4~5 本学庭球部の牧野・野村両君、日本庭球協会主催の関東庭球選手権大会決勝に出場、ダブルスは慶応志村・山岸組に敗れ、シングルにおいて牧野君優勝する

6・6 食堂問題に関して予科臨時総会が開催され、予科食堂は予科会評議員会で経営することに決し、問題解決する

6・7~10 東京朝日新聞社主催のインビテーション・トーナメントに本学庭球部の牧野・野村両君出場し、ダブルスにおいて優勝する。なおシングルにおいては決勝戦で牧野惜しくも敗れる

6・9 談橋会開催にあたり、①学制改革、②一橋会の定款変更、③一橋学園の消費組合化の意義および運動の三協議題中、第二項目は大学の訓育の根本方針に反すると学生監より開催中止を命令する

▽専門部雨天体操場工事が完成し、落成式を挙げる

6・13 独立問題に関し、専門部学生一同国立に会して協議。独立期成委員会は本部を神田に移して本格的独立運動を開始することとなる

6・14 専門部独立運動に関し、一橋本科会およ

び予科会は二科合同の後援協議会を開き、後援会を組織して極力応援、各方面への交渉に乗り出す

6・15 専門部独立運動に関し、養成所学生有志懇談会を開き、具体案を練り、同運動のため助力することを決議する

▽商学専門部独立問題懇談会が大学側および如水会側により開催される。大学側より詳細な報告と、その期成について如水会側の援助を希望したものが

6・16 専門部学生大会を開き、独立運動について氣勢を挙げる

▽大正一一年一月以降、本日現在までの学生死亡数は、この六年間に一〇〇余名に達し、寒心すべき本学学生の健康状態が発表される。病気は主に呼吸器病である

6・17 専門部独立期成委員会、六月一三日の学生大会における生徒一同の熱情を勝田文相に訴えるべく、大学長の添書を付して全生徒署名の陳情書を文部大臣あてに提出する

6・20 第一回専門部出身者大会を開催し、専門部の独立運動支持援助の事を決議する

6・21 先に学生監との意見の相違をみた一橋会定款中、特別会員役員制度に関して談橋会会合を開く

6・23 国際聯盟協会専門部支部主催で日支親善の懇談会を開催する。本学常講師ほか、帝大、早大からも支那留学生、朝鮮台湾出身の学生も出席、意見の交換を行なう

7・1 予科当局「採点内規」を発表する

7・2 専門部独立予算、文部省議において否決された件について、この問題に関し特に尽力された内田信也氏、如水会側、大学側および期成委員と面談、以後一切を同氏に一任して運動を打ち切ることとする

7・3 専門部独立運動経過報告のため、学生大会を開催する

▽談橋会を開催する

7・9 予科当局は、学生の「社会科学」の研究および社会運動について特別の注意方を依頼する文書を父兄に郵送する

7・12~13 日本庭球協会後援第一回東西庭球戦に選抜されて出場した本学の牧野、野村の両君、単・複ともに勝つ。関東軍勝利

7・17 専門部独立費二〇万円、関係者の努力が実り昭和四年度文部省追加予算として計上される

8・1 第二回全国高商レースに商大専門部クルー優勝する

- 8・1 故左右田博士の遺蔵書、和洋書合計約八、〇〇〇部のうち、神戸高商図書館へ雑誌類、横浜商業学校へ洋書の一部が渡され、残り約六、五〇〇部が福田博士、高垣館長、杉村助教のあつせんによつて本学図書館へ移され、「左右田文庫」として所蔵されることとなる
- ▽専門部、養成所校舎本建設の入札決定に至らず、文部省は設計を変更して経費を節減、費用書の再作製中
- 8・13 専門部独立予算、大蔵省において不承認となる。したがつて昭和三年度における独立は不可能となる
- ▽本学教師米人ジョン・トランブル・スイフト氏逝去される。氏は明治四五年一月以来本学において英語、英文学を講ぜられる
- 8・23 配属将校伊藤政之助氏、陸軍少将に昇任退職し、専門部寮父に就任する
- 8・31 上田貞次郎博士、ブラীগにおける国際経済会議出席を兼ね夫人同伴で欧洲諸国、南方巡遊の旅に出発する
- ▽助教教授村松恒一郎、大正一五年四月以来ウィーンに留学中であつたが本日帰国する
- 9・11 第七回全日本庭球選手権大会に出場した

- 本学牧野元君、シングルスにおいて優勝する。ダブルスに出場した牧野・野村組は準決勝において慶大の山岸・志村組に敗退する
- 9・13 本学教師ブロックホイス、明治二五年以来三七年の長きにわたつて本邦商業教育に尽瘁された功績により勲二等瑞宝章が授けられる
- 9・19 国際聯盟協会専門部支部主催による国民政府特使王大禎氏の講演会が開かれる
- 9・20 談橋会会合を開き、学制改革諸問題についてそれぞれ調査委員をあげ実情調査を始める
- 9・29 専門部寄宿舎の開寮式が行なわれる。寮名は渋沢子爵命名で「中和寮」と決定する
- ▽太田哲三教授指導のもとに予科に商工研究会生まれる
- 10・1 秋季旅行と食堂自治案を議題として予科会臨時総会を開く
- 10・3 インター・ゼミナール合同研究会、会合を開き、ゼミナールの公開を期し組織的に活動に入ることを申し合わせる
- ▽一橋基督教青年会の発起で故木村徳蔵予科教授の追悼会が催される
- 10・6 専門部教授会は出欠調査制度改正のため委員をあげて草案を作製、協議の結果一出欠並に

仮進級に関する内規」を決定する

▽S・P・S主催で長谷川如是閑氏の「大学の将来」と題する講演会が開かれる

10・8 教授会において学制改革案作製のため内池教授等八名に委員を依頼する

▽毎年予算要求を提出しているがその都度削減されている本学に調査研究所を設けることに關して、本日の教授会で資金一〇〇万円を募集し御大典記念事業として設立のことが話し合われ、福田教授等二人の委員をあげて審議することとなる

▽談橋会総会を開き、会員制を採って組織化することを可決する

▽予科生活批判会、学制改革を目ざして三回目の宣言を発表する

10・16 校舎難のため、久しく開校の運びに至らなかったS・P・S労働学校が再生し開校式を行なう

10・20 故左右田喜一郎博士の追悼会が行なわれ、講演会および遺墨展が同時に開催される

10・24 専門部教授会において一〇月六日決定を見た「出欠並に仮進級に関する内規」に反対する学生側は、準風会の発議によって専門部会理事監事ならびに各部委員長および有志により「対策委

員会」が設置され、本日と二九日に第一回、第二回の会合を開く

10・25 会員組織を確立した談橋会、組織変更後の第一回総会を開く

10・29 官制改正の結果、学生監が廃止されて新たに学生主事および同主事補が設けられる

10・31 専門部独立期成委員会、七月以来の独立運動の経過報告会を開き、今後の見通しについて来年度の独立は不能の状態を報告する

10・31～11・2 出欠調査問題に關し専門部・養成所大会を開く

11・1 専門部・養成所学生大会は出欠調査制度に關する内規の無条件撤廃をさげんで声明書を発表する

11・2 明治二〇年本学の前身東京商業学校卒、前神戸高等商業学校校長水島鏡也氏逝去される(享年六五歳)

11・5 井浦仙太郎教授、学生主事に就任する

▽阿久津謙二教授、予科学生主事に就任する

▽本学学制を徹底的に調査研究するため先に選出された学制調査研究委員によって作成された改革案が、本日の教授会に提出されたが、審議方法に意見の相違を見、未審議のまま持ち越される

▽学制改革問題について、談橋会声明書を発表する

▽専門部第四回学生大会を開き、出欠問題対策委員会より堀主事との会見顛末を報告。内規撤廃の当初の目的が貫徹したことによって同委員会も解散を宣言する

11・13 一橋会主催による御大典記念学術講演会が朝日講堂で開催される。講演者、岩田(新)教授、高垣教授、米田博士

11・26 予科会定期総会を開く。当日の重要議案、時間減少問題について議場紛糾、定員不足で流会となる

11・27 本学における法律知識欠如の欠点を補おうとして学生有志による法律研究会が誕生する

12・4 専門部会臨時総会を開催する。会則改正案を修正のうえ可決する

12・5 予科会臨時総会を開催する。議題、授業時間二八時間に短縮の件で議論沸騰する

12・15 一橋会理事監事合同協議会開かれ、定款改正案、共益部規則改正、いずれも保留となる

▽一橋会評議員会企画による全一橋学生生活調査終わる。同会は毎年一回施行の意向である

12・17 臨時教授会開かれ、学生改革案は未審議

昭和四年
(一九二九)

のまま、来年度実施教授案成り、必修選択の別、甲乙丙三種の採点方法、読書会およびセミナーによる指導等現状のままとなる

12・19 予科授業時間短縮問題に関し臨時総会の決議によって合同委員会を結成、各学年いずれも二八時間とする具体案を作成。木村主事と交渉に入る

12・24 小此木為二教授、専門部学生主事に就任する

12・1 商業教員養成所出身者(談交会)は大正一三年にも養成所の年限延長につき文部大臣に請願書を提出していたが、今回その目的実現のため、委員二一名を挙げ各方面に運動を開始する

1・4 日本庭球協会、昨年度の全日本ランキングを発表。本学の牧野元君第一位となり、ダブルスでは牧野・野村組第二位となる

1・28 予科会臨時総会を開く。理事選挙法改正案暫行として可決、会則一部変更可決

2・5 国分寺―国立間に始めて省線電車が延長開通。ただし正式運転は五月から、当分下り上りとも三回運転

2・25 専門部会商工研究部学生研究論文集『一

橋」刊行される

3・1 学則中授業料に関する項が改正され、一学年一〇〇円が一二〇円となる

▽青少年で商業に志す者に対し、在来の商業学校の制に則らず短期間で商業実務に関する須要な知識技能の教授および徳性を涵養するため、如水会関係者、江口定条、藤村義苗、佐野善作三氏が創立者となつて「商業実務専修所」を設立する

3・5 専門部会商工研究部、昨夏募集した學術懸賞論文中優秀作数篇を選び、『學術論文集』として発刊、学生に配布する

3・11 専門部教授内藤三介、英米へ留学のため(英語学研究) 出発する

▽欧・亜・南洋にわたつて視察を終えた上田貞次郎博士、帰国する

▽本科の学制改革問題は、昨年末の教授会で結論に達しなかつたが、本日の教授会で再度取りあげられ、まったく白紙にかえて、同委員会提出の諸条項を標準議案として審議を進めることとなる

3・12 予科教授渡部行三、在外研究員として英国留学のため出発する

3・15 国立における大学本館建築の設計その他の準備が整い、本日入札決定の運びとなる

▽定年制による辞職につき、種々な事情で延びていた下野直太郎教授は、三年目で円満解決、本日で依願免官となる

3・19 深刻な不景気の影響を受け、現在までの新卒業生への採用申込数は以外に少なく、本科、専門部ともに約半数は一時的な失業状態となる

3・20 武蔵野鉄道、保谷までの複線工事ようやく成り本日開通。石神井予科への通学、やや混雑緩和される

3・30 昭和三年度学士試験合格証書授与式および予科・専門部・養成所卒業証書授与式を一ツ橋Aホールにおいて挙行する

▽本年度卒業者は次のとおり。第七回学士試験合格者、高橋泰蔵・大平善悟等二六三名。商学専門部卒業生一八六名。教員養成所卒業生二六名

4・1 東京商科大学官制が改正され、官立商業大学官制が公布される(神戸商業大学設置による)

4・12 専門部教授杉本栄一、在外研究員として渡欧の途にのぼる

▽予科教授古瀬良則、英国留学より帰国する

4・27~28 第九回全日本バスケットボール選手権大会が行なわれ、決勝戦で早大を破り選手権を

獲得する

5・1 専門部独立期成委員会、本年度第一回委員会を開催、独立運動方針を擬議する

5・2 専門部会、収入増加を計るため、学生食堂の自営を決定する

5・4 一橋会理事監事合同協議会を開催し、二〇年の伝統と歴史を有する本学の中西記念日も本年を最後に（徒らに過去の追想を非として）廃止することを可決する

▽本学において四〇余年の長きにわたり訓育に尽くされた名誉教授奈佐忠行氏に対し、和田画伯力作の肖像画二面の贈呈式が記念事業会によって行なわれる

5・6 定例教授会が開催され、助手および補手の銓衡に一八人の選考委員が選ばれ、一名につき三選考委員が分担して審査をすることとなる

5・10 下野直太郎博士に東京商科大学名誉教授の称号が授けられる

5・11 一橋会定期総会が開催され、共益部と互助会の規則改正案通過する。また中西記念日を廃止すべきか否かについて種々問題が提議される
▽本日の一橋会総会において通過した共益部改正により、共益部を「東京商大一橋会消費組合」と

改称する

5・20 一橋会定款改正問題について理事監事合同協議会を開催する。同二八日統会を開催する

5・24 一橋会定款改正問題を議題として本日および二七日の両日にわたって予科生活批判会が開かれ討議する

5・27 商学専門部生徒控所および食堂が落成する

5・28 談橋会、本学年第一回の総会を開催。一橋会定款改正問題の対策等種々の協議がなされる

6・1 日本経済聯盟会からの求めにより調査した本学の大正一二年以降学士試験合格者の就職率は六年間の平均で八割六分である

6・3 教授内池廉吉、外遊のため欧州に向け出発する。なお同氏は九月上旬アムステルダムで開催の国際商業教育会議にわが国政府代表として出席される

▽一橋会定款改正問題を議題に予科拡大批判会が開かれる

6・5 「商業実務専修所」設立認可される。六月一九日設立披露式を挙行する。場所、神田区仲猿楽町五番地。さしあたって夜間部予科より授業開始の予定。名誉顧問、渋沢子爵。そのほか、職

員は全部本学関係者

- 6・12 本科S・P・S総会を開催する。部長上田博士、顧問岩田、井藤教授等多数出席。五月開校の予定であった労働学校を今秋より開校を決定
- 6・12~17 本年度全国商業学校長協議会が五日間にわたって本学で行なわれる。七年制の高等商業学校設立の建議案等可決される
- 6・15 中央線電車、国立駅より立川駅までの延長工事完成し、十六分間隔の運転となる
- 6・26 専門部会語学部、チェコスロバキア公使ハラー氏を招き、同国事情紹介の講演会を開催する
- 6・27 専門部独立期成委員会は予算編成期を控え学生生徒大会を開催。「附属制の欠陥を速かに除去せよ」との主旨の決議文を可決し、独立運動に拍車をかける
- 6・― 東京、神戸、大阪三商大野球リーグが誕生する
- 7・1 本学黒川事務官、欧米各国へ大学行政事務視察のため出発する
- ▽東京シンフォニー・オーケストラ指揮者内田元氏によって管絃楽伴奏に編曲された一橋会歌とポルト応援歌が一橋音楽部の管絃楽団および合唱団

によって、日本コロムビア会社でレコード吹込みがなされる

- 7・5 経済学および統計学研究のためドイツ留学中の助手中山伊知郎、帰国する
- 7・10 専門部会商工研究部主唱による三科合同満鮮見学旅行四〇名、本日出発する。帰京は八月二六日の予定
- 7・19 専門部独立問題に関し、同期成委員会は学生大会の決議にもつき専門部生徒六〇〇名の署名と学長の添書を付し文部大臣に陳情書を提出する
- 8・16 専門部独立予算二万余円、本日の文部省予算省議を通過する
- 8・17 名誉教授下野直太郎、ニューヨークで開催される第三回国際計理学会議へわが国代表として出席のため、神戸商大東氏、大阪商大陶山氏と同行、本日出発する
- 8・― 震災で失った各運動部諸設備復興のため、一橋会では、現在まで二回にわたって資金募集を行なったが、予定金額に達せず、第三回目の資金募集趣意書をとくに新入生父兄あてに発送する
- 9・15 言問の本学艇庫、区画整理のため、現在

地より約四〇間ほど上の新敷地に移転が決定、本日の秋季小会後、ただちに取壊作業が開始されることとなる

9・16 専門部独立案を含む文部省予算案が大蔵省において査定中に際し、同独立期成会によって、その詳細な運動経過報告会が開催される

9・20 予科会臨時総会開催される。一橋会総会に関係の議事のほか、大塚教授辞職の真相報告、同教授を来年度より予科出講を緊急動議で要求等の件を可決する

9・28 一橋会臨時総会が理事監事会より上程の定款改正案を審議すべく開催されたが、総会成立に疑義ありとして、消費組合問題も上程されず混乱に終始し、遂に閉会する

▽一橋会柔道部創立三〇周年祝賀会ならびに明治三二年の部創立以来師範を勤められた内田作蔵氏辞任に際して、その頌徳式を催し名誉師範に推薦する

9・29 創立一五周年を迎えた南琴吟社、記念句会を催す

9・1 神田男爵記念事業の一つとして英語奨学資金により学内コンテストの開催を決定する

10・1 浜口内閣緊縮政策の余波により本学国立

本館の本建築の実施決定が遅延を重ねていたが、大学側の奔走により文部省側の諒解もなり、本日飛鳥組の手によって本館建築の第一打が下される
▽商業実務専修所、夜間部本科の授業を本日より開始する

10・5 社会思想研究団体としての予科S・P・Sは、文部省の方針として本日予科主事より解散を命じられる

11・1 専門部同人七〇〇名を始め広く一橋人が熱望する専門部の独立は、さきに文部省の省議は通過したが、本日の大蔵省々議において新規事業費削減の主旨によって否決される

11・4 商学専門部本館が竣工する

11・5 一橋新聞創刊五周年第一〇〇号を記念して『文化諸科学論集』発刊される

11・7 予科に「経済学研究同好会」(K・K・D)生まれ、本日発会式を挙げる

11・9 一橋会定款改正案と消費組合善後策に関してふたたび一橋会臨時総会を開く。問題になっていた定款第七条、第一〇条、施行細則第二条ともに改正案通過、消費組合の即時開店も決定、閉会する

11・19 専門部会主催の移転記念祭が挙行され、

上原専門部教授、小野武夫博士、牧野輝智博士、大宅壯一氏の講演、運動会、仮装行列等が盛大に行なわれる

11・20 一八日の臨時教授会において決定をみた「学生団体に対する指導者内規」を発表する

▽本学学生の研究機関としての「太平洋クラブ」、設立成り本日発会式を挙行する

11・1 本学商業教員養成所生徒間には、かねてより現在の制度にあきたらず、年限延長による教育充実の必要を痛感し、運動を続けていたが、諸先輩の後援を得て学生委員をあげ具体的運動に着手する

12・2 予科会定期総会開催される。予科記念祭は従前通り挙行、予科雑誌『一橋』を年三回発行を二回に減じ、予科新聞の発行費にあてる等議決する

12・3 国際聯盟協会本学学生支部主催で、シカゴにおける第五回国際問題討論会へ出席後、世界を一巡して帰国された那須皓講師の歓迎座談会を開催する

12・7 向島本学艇庫の復興工事開始される。鉄筋コンクリート三階建

12・17 官制の改正があり、大学助教授・助手お

昭和五年
(一九三〇)

よび書記の定員が増加される
12・18 商業教員養成所生徒大会を開き、教育年限を六カ年に延長し、完備した商業教員養成機関にすることを要望・決議し、目的達成のための運動に踏み出す

1・9 本学剣道師範山田次郎吉氏逝く(享年六八歳)。同氏は鹿島神伝直心影流第一五世の正統者で、本学には明治三四年五月就任以来今日まで部員の誘導薫陶に尽瘁される

1・21 如水会理事長江口定条氏および学長佐野善作に、ベルギー皇帝陛下より両国親善の功勞者として、グラント・オッフインシュ・ド・ラ・クルロンヌ勲章が贈与され、その伝達式が挙行される
1・26 ドイツ留学中であつた助手川村豊郎、都合により帰国を早め、郵船榛名丸で本日神戸港に着く

1・28 極東オリンピック大会(本年五月)出場のがわが国バスケットボール選手選考の準備委員会より、一八名の候補者中、本学より三名が選ばれる
1・29 欧米巡遊中であつた内池廉吉教授、黒川善一事務官、帰国する
2・4 予科経済研究会(K・K・D)、新帰国者

の助教中山伊知郎を聘し「最近欧洲の経済学界」の講演会を開く

2・7 予科会評議員会を開催し、評議員会細則改正案および予科会会計細則作成等を議決する

2・24 在外研究員として渡欧中の予科教授金子弘、帰国する

3・13 森野亀之助予科教授、在外研究のため出発する

3・15 オランダ留学中の幸田成友助教、帰国する

3・28 本年度学士試験合格者および予科・専門部・養成所卒業生証書授与式を挙行する。卒業者数は次のとおり。学士試験合格者二七二名。商学専門部卒業一五〇名。養成所卒業者二九名

3・1 予科各学年の及第者氏名発表の成績席次順をアイウエオ順に改める

▽専門部入学志願者急減し、一方養成所志願者は一六倍に達する

4・1 ここ数年間平均就職率九割を保っていた本学にも不景気風が訪れ、記録を破って激減、ようやく五割に達するか状況となる

▽専門部校舎全般の新築成り移転完了する

▽予科の移転地、小平の敷地繩張り区切り伐採を開始する。本科移転に伴う不便を考慮して工事予定が繰り上げられる

4・7 国立本館の上棟式を挙行する

4・11 山内得立教授、「認識ノ存在論的基礎」を京都大学に提出、文学博士の学位を授与される

4・12 予科始業式が挙行され、予科主事および学生主事より「社会科学」研究は絶対禁止の訓辭が行なわれる

4・28 向島本学新艇庫の上棟式を挙行する

5・1 世界的な経済界の沈滞により学生生活恐慌時代を迎え、不況の深刻化とともに卒業生の就職も条件甚しく低下し、しかも就職本きまりは本・専ともに六割見当の不成績となる

5・1 本学学生課、社会一般の不景気の深刻さの増大にかんがみ、本科学生の生計および身上調査のため一四項目にわたって調査を実施する。この企ては本学では最初のことである

5・4 専門部会主催の移転および新校舎落成の記念式を挙行。三木清、向坂逸郎、那須皓各氏の講演、運動会等の催物もあり大いに賑う

5・8 帝国学士会々員、従四位勲三等本学教授法学博士福田徳三氏、前年一二月より糖尿病の

ころ、慶応病院へ入院中盲腸炎を併発、手術の経過不良、本日午後二時三〇分永眠される（享年五七歳）

5・11 故法学博士福田徳三氏の葬儀が午後二時から一ツ橋の本学仮講堂でキリスト教式により執行される

5・12 一橋会春季定期総会、財政難打開策等を盛って開催される。なお総会に先だつて中西記念式を挙行。上原専祿専門部教授、記念講演を行なう

6・2 わが国最初の学生教練特別検閲に高専代表として本学予科・専門部が選ばれ、国立に白川大将を迎えて査閲が行なわれる。なお当日および前日等に反帝同盟ビラが頻りに撒かれる

6・5 日支両国間の親善をはかるため、中日クラブ主催による第一回日華学生懇親会が開かれ、都下各大学高等専門学校代表に本学からも六名の代表が出席する

6・13 国立の附属図書館・研究室の共同建物が竣工

6・14 国際私法および海商法研究のためフランスへ留学中の助教授田中誠二、帰国する

6・20 ハワイ大学学生母国観光団中の四名が本

学を訪問。美濃部教授の憲法講義を聴講、学内諸施設を見学する

6・27 予科会臨時総会を開催する。会則、選挙規則、自治食堂部規則改正、および旅行問題等

6・29 専門部会商工研究部主催の南洋研究団、本日東京を出発する

6・30 在外研究員として渡仏中の猪谷助教、経済政策および統計学の研究と、国際聯盟第一〇回総会専門委員およびパリにおける第四回死因統計会議日本代表等で活躍、本日夫人、令嬢を同伴して帰国する

7・1 上田辰之助助教授にフランス政府より文功章オッフイシエ・ダカデミが贈られる

▽本学予科教授兼大学講師長岡拡氏、胆石病に腹膜炎を併発、永眠される（享年五三歳）。氏は英語および商業英語を担当しハーディの紹介者。また神田男爵に助力して、クラウン・リーダーほか幾多の英語・英文法教科書ならびにコンサイス辞書の編纂等がある

7・2 専門部学生大会を開催、食堂問題を中心に討論、議場殺気立つ

7・6 向島新艇庫竣工、その祝賀艇庫開きが同所において挙行される

7・10 図書館は国立移転にともない七月一日より閉館し、新図書館への図書運搬を本日より開始する

7・19 日本観光団に参加、来日中の米国大学生を迎えて、仁寿講堂で開催された東京日々新聞社主催・日米対抗スピーチ・コンテストに本学からも一名を派遣する。わが国からの参加は本学のほか、帝・早・慶・津田である。本学の緒方博君(本一)一等賞を授与される

7・20 専門部独立運動を続けて来た独立期成委員会は、現在の客観的情勢に鑑み、運動を一時中止する旨の声明書を発表する

▽専門部会弓道部の新道場竣工成る。同道場は先輩の寄付金その他の援助により成るもので、面積一九坪、経費九〇〇円

7・29 幸田成友助教授、「武家ノ金融ニ関スル研究」を慶応義塾大学に提出、文学博士の学位を授与される

8・15 孫田秀春教授、「労働契約法論」を東京帝大へ提出、法学博士の学位を授与される

9・1 思想善導小冊子を新学期早々に予科生一同に配布する

▽図書館・研究室建物の竣工により本科および本

学事務部・図書館がこれに移転し、旧一ツ橋の敷地内に一ツ橋事務所を置く

9・15 国立移転もなり本科講座の準備も完了、本日より授業を開始する。朝の始業は八時三〇分

9・22 国立移転後最初の第五五周年創立記念式典が行なわれ、佐野学長は「神聖な学都の建設に邁進せよ」と訓辞する

9・30 予科における常例名士講演会が開催され、紀平正美氏によって「統帥権と統治権」と題する講演が行なわれる

10・1 開室準備中であつた新図書館の大閲覧室が本日から開かれる。ただし電燈設備は未完成

10・2 英語学研究のため、渡英中の専門部教授内藤三介、帰国する

10・3 一橋会臨時総会開かれる。改正定款却下事情報告と新定款を上程したが、所定数を欠き報告に止めて散会する

10・15 本科会則改正等を議題に新学期初の本科評議会が開かれる

10・25 本科学生食堂および控所落成する

10・27 兼松講堂において東京高等音楽学院により本学国立移転歓迎演奏会が開催される。同講堂開設以来の盛況であつた

10・1 専門部会同人が要望中の消費組合による食堂自営が許可される

▽本年度入学者には全部断髪を強制した予科当局は、昨今長髪者が見えだしたので、長髪組の父兄へ断髪催促状を発送する

11・1 本学の国立移転に伴い、向島本艇庫から遠く離れ一般学生の利用が少なくなるので、端艇部では多摩川にコースを物色中、本学より南方約一里の所に二〇〇メートル・コースを発見、主務官庁よりも水上使用を許可され、尾久のバラック小艇庫を移転、建築にかかる

11・9 財政困難のため休刊中の本学『商学研究』は内外から復活の要望がしきりにあり、本日の本科教授懇親会において杉村、村松、猪谷、中山、米谷の五助教を挙げて復活の準備を依頼する

▽ホッケー・リーグ戦最後の試合である本日、対早大戦に勝ち、本学ホッケー部、第一部の優勝者となり、一八日第二部優勝校立大を破り、都下学生ホッケーの覇権を握る

11・10 本科太平洋クラブは、今夏旅行した北米・満・鮮・支・その他の旅行報告会を催す。同クラブは一昨年よりの旅行報告書刊行を計画中

11・18 昭和四年九月以来如水会および一橋会共同の事業として「一橋の歌」歌詞募集中のところ、五二篇の応募歌詞中、酒井敬三郎氏（如水会員、ただし応募当時は一橋会員）の作品が当選、山田耕作氏作曲で、その初演奏が日本青年館で行なわれる

11・22 本学移転後の一ツ橋旧校舎を使用していた東京高等歯科医学校（現東京医科歯科大学の前身）は本日お茶の水の女子高師旧校舎へ移転する

11・25 中村進午博士、東京商科大学名誉教授の称号を授けられる

12・1 文部省直轄学校は明年度人件費の一律五分天引強制の達しがあり、本日の教授会において人件費削減による講座整理が審議される

12・3~4 財団法人金融研究会寄付による日本銀行副総裁深井英五氏の「金の価値と通貨価値」と題する講演会が行なわれる

12・10 本科会評議会、会則改正審議会を開く
▽予科理事会主催第二回名士講演会が三土前蔵相を招いて開催される

12・12 予科会定期総会開催される。予科生有志は予科の小平移転について国立と離れることは無意味、かつ不便極まりないと反対の運動を開始す

昭和六年
(一九三二)

- る
- 12・16 官制の改正があり、大学助教、助手の定員が増加される(助教授八人が一〇人、助手七人が一〇人)
 - 12・24 本科本館が落成し事務部をこれに移す
 - 1・6 国立本館前屋未完成のため、学長室ほか各事務室は図書館内の各室を使用していたが、前年一二月完成、本日より本館において事務を開始する
 - 1・8 太平洋クラブ、機関雑誌『太平洋』を創刊する
 - 1・12 本日の教授会において、従来しばしば設置の機運にあった本学調査研究所の実現のため、上田、内藤、高垣、猪谷、中山の五氏を委員に挙げ、調査機関設立準備および研究諸設備を計ることとなる
 - 1・17 教授会の決定により中和寮入寮者は新入生のみとなる
 - 1・18 如意団設立二五周年に当り記念会を品川東海寺において行なう。なお当日より二〇日まで接心がなされる
 - 1・20 本科運動部、各部の連絡、懇親を主要目

- 的とする各運動部代表者の会「運動部連合懇談会」が生まれ、第一回会合を開く。声明書を發表する
- 1・24 「互助会」の会計状態が悪化し、三科理事役員の間合協議会を開く
 - 1・25 附属図書館編『オットー・フォン・ギールケ文庫目録』成り刊行される
 - 1・28 ボン大学教授ジョゼフ・シュムペーター博士来学。兼松講堂において滔々二時間の講演を行なう
 - 2・4 エドワード・ジョゼフ・ブロックホイス氏、本学名誉教師に推薦される
 - 2・9 本学の学術発展機関誌たるべき『東京商科大学年報』発刊のことが本日の臨時教授会において承認、決定される
 - 2・24 本学名誉教師ブロックホイス氏逝去される(享年七〇歳)。なお、葬儀は二七日東京小石川の天主教会において舉行される
 - 3・14 学究熱を高める一助として、本科生有志により懇談会が開かれ、学術部の組織・内容の充実にについて具体化実行案が話し合われる
 - 3・15~21 本年度三科の入学試験施行。一般社会の不景気にもかかわらず受験者数は減少せず。

ただし予科と専門部は逆傾向を示し、養成所は一七倍の競争率となる

	本年	昨年	一昨年
本科	一九〇	一八九	
予科	一、一〇〇	一、二〇八	一、四〇〇
専門部	一、一三二	九一三	
養成所	六〇六	五六五	

(なお慶大、早大、本学と試験日が同日となる)

3・24 隅田河畔、本学艇庫が聳える一帯を水の公園として、復興局が造園中であつた隅田公園が竣成、本日開園式が催される

3・25 ドイツにおいて帰国を一年延期して法学を研究中であつた専門部講師町田実秀、帰国する

3・1 昭和五年度卒業(昭和六年三月)の予科生の記念事業として「予科会旗」を調製・寄贈される

3・27 不況のため、卒業生の就職戦線は香しくなく、大口は一樣に不採用、ほかに採用申込口数は昨年をやや上回つたが採用人員数は極度に少なく、本日までの決定者数、学校経由、自力開拓を含めて本科三四名、専門部二六名、計六〇名。

3・28 兼松講堂にて初の三科共同卒業式が挙行

される

3・31 弓道場が落成する

3・1 「経理事務講習所」が廃止される

4・1 『商学研究』が昭和四年に廃刊されて以来、復活を期待されていた本学の学術発表機関誌として『大学と社会』(刀江書院刊)が創刊される

▽大正一二年以来、本学における社会科学研究団体たるS・P・Sは近年無活動の状態にあり、一橋会予算面からもその姿を没し、表面的にはその輝かしい歴史を閉じるに至る

▽昨年度授業料未納により学則第三四条によって二五名の除名者が発表される

4・18 一橋会定款改正につき、一昨年来問題になつていた文部省の勧告について再度の質疑に対し「定款第七条の理事数変更の不適當なこと」「学長たる会長の権限に関する規定を明記するところが適當と認む」との指令がある

4・24 専門部語学部主催によりカナダ公使マラー氏の「カナダの政治商業の発達」の講演会が催される

4・27 本年度一橋会本科予算審議委員会において財政難を理由に『一橋文芸』発行の文芸部は大

幅に配分を減少され同誌発行回数を減ずることに決する

4・28 本学および東大、京大、内閣統計局の斯学者を発起人とする「日本統計学会」が創設され、本日創立第一回総会が挙行される。創立仮事務所は当分本学内に置かれることとなる

4・30 予科教授渡部行三、英国における二年間の留学を終えて帰国する

5・1 専門部会総会が開催される。「会費値下案」につき総会混乱、同案は却下、修学旅行、横浜高商との定期対抗競技会の二案が通過する

▽予科語学部主催により、四月三日に引き続き清田予科講師の「米國カレッジ・ライフ」の講演会が開催される

5・4 本日の教授会において、待望されている本学年報の発刊につき具体策が協議される。商学、経済学、法学の三分冊とし、発行回数各冊年一回

5・5 従来一橋会総会の際行なわれていた申酉記念式の廃止について三科評議会に諮問中のところ、三科全部が廃止に同意したことにより、本日の理事監事会において本年度は中止と決定。他に学内問題懇談会開催に決する

5・7 昨年末、尾久のバラック艇庫を移し多摩川上流に竣工中の本学多摩川艇庫の艇庫開きを行なう。使用コース三五〇米、国立より徒歩四五分

5・8 福田徳三博士一周忌にあたり多摩墓地で追悼会が営まれる

5・10 国立移転記念式ならびに一橋会主催移転記念祭を挙行する

▽国立の本学構内に建設中であつた初代校長故矢野二郎先生銅像が竣工し、如水会主催で除幕式が挙行される

▽弓道部国立道場落成式を兼ね同部創立三〇周年記念および窪田師範動統二五年表彰式を挙行する

5・11 本学国立移転祝賀記念講演会が開催される。講師はいずれも先輩の五十嵐、内田、佐藤(尚)、小坂の四氏である

5・16 音楽部の合唱団、JOAKから「一橋の歌」および予科会歌二曲「君よ知れりや」、「見よ七彩」を放送する。指揮島居忠五郎氏

5・18 本科運動部懇談会が開催され、その設立の目的である「忌しい選手争奪の防止」「新部員名の公表」等を決定する

5・21 学長佐野善作博士、本日文部省に田中文部大臣を訪れ辞表を提出する。文相はこれを若槻

首相にはかり処置を文相に一任される。辞職の理由は次のとおりである。

「本学に職を奉じて三十九年、校長在職一七年、還暦も近く、後進に道を開く。国立移転も終り未完成ではあるが一〇日移転記念式も済んだので、これを辞職の機として正教授のみの教授会を、二五日開催の通知も一八日に出してあったが、図らずも二〇日の一般新聞に共産党事件の記事が報道され次男の起訴が明かとなり、道徳上の責任を感じ、学長として学生訓育にあたる自信を失ったので翌日辞表を文部大臣に提出した」

▽堀潮教授、専門部学生主事に就任する

5・22 改正定款修正を議事とする昭和六年度一橋会定期総会が開催されたが、提案説明不十分で議場混乱、無効委任状統出等のため流会となる

▽故福田徳三博士の一週忌を迎え、かねて計画中の同博士記念事業の委員会が開催される。故福田博士学術奨励基金の募集を行ない、学術奨励の資とするとともに、肖像油絵二面を作成、本学と故博士宅への寄贈、また基金募集以外に友人・門下生による記念論文集刊行のことが定められる

5・25 本科正教授教授会が開かれ、佐野学長よ

り辞表提出の顛末を報告する。教授会は学長の報告にとどめて、懇談会に移り学長退出後一同意見の交換を行なった結果、学長としての事業未完成の今日、このような理由での辞職は遺憾とし、全会一致で留任を希望しその旨を伝えることとなる

5・27 堀、上田、内池、木村、根岸の五教授、正教授懇談会を代表し、学長留任を満場一致希望する意向を田中文相に伝える。文相、学長を招致し再考を求めたが学長は確答を与えず

5・28 二五日の正教授懇談会で決定した学長留任希望について一般教授にその処置に対し諒解を求むるための教授会を開催。学長留任勧告の顛末を報告、全員これに賛成し留任勧告に決する

5・29 学長辞任問題に関し本科第一回学生大会を開く。「本学学長の地位が今回のような理由によって左右されることを学園自由擁護のため絶対に反対する。前決議の理由によって我々は学長の留任を熱望する」と決議する。予科・専門部ともに学生大会を開き本科同様の決議をする

5・1 学術部、新事業の一つとして、一般学生の閲覧に供する目的で社会諸科学の学術論文分類目録作成に着手する

▽専門部理事会「商学専門部独立の必要を論ず」

と題するパンフレットを作成、全専門部に配布する。忘れられようとする独立運動の必要論を一般に知らしめようとするものである。

▽故福田徳三博士の蔵書約四万八千冊は大阪商科大学と契約が成り、売り渡されることとなる。和書約二万冊、洋書約二万八千冊、その中にはブレントノ教授の文庫も含まれる。引渡しは九月、同大学では「福田文庫」として保存

▽世界的不況による就職難が続いているが、今年度就職決定者は現在までに本科五三%、昨年とほとんど同率、年末までにも六割台を低迷するものと見られる。専門部も五割内外（東大文科系五二%）

6・1 本日および八日、教授会ならびに教授懇談会が開かれ、その都度学長の辞職理由を肯ぜず、留任を勧告するが、学長は辞意を翻さず、正教授懇談会には後任選考方法について考慮を求め

る
▽学長辞任問題に関し、三浦新七博士、山形より上京。学長を国立に訪問、また関係者間と意見を交換し四日帰省される

▽専門部学生大会を開催し、佐野学長留任熱望を決議する

6・3 学長問題に関し、本日早朝、商大無青班の名で本科構内に不穏な宣伝ビラが貼られる。本日開催予定の学生大会は誤解を恐れ一日延期する

6・4 学長辞任問題に関し本科第二回学生大会を開く。今回は第一回大会後、議長により選ばれたクラス、高商代表会主催による

6・10 佐野学長辞表提出後、学長選考内規制定を急ぎ、後任を求めたが、本日決定された内規によつて正教授懇談会は満場一致をもつてふたたび佐野学長を推薦する

▽学生大会代表クラス、高商代表者委員会は今回の問題に関し内外の疑惑を遺憾として学生側運動打切りの声明書を発表する

6・19 予科寮生、寮生大会を開き、小平移転後即時寄宿寮設置を希望する件を可決。実行委員を挙げて学校当局および文部省に運動を開始する

6・20 沢沢子爵および田中文相から留任の勧告を受けていた佐野学長は、四囲の事情からとうてい引退はできないとして留任を決意、本日両者を訪問、留任の旨を告げる。田中文相、若槻首相の諒解を求めて辞表を却下することとなる

▽佐野学長、臨時に三科の教授会を招集し、また学生側代表者にもそれぞれ留任の意を伝える

6・22 専門部、学長問題報告学生大会を開き留任願末を報告する

6・23 学長留任の意を伝えられた本科学生代表はクラス、高商代表者委員会を開き、その願末を報告、同委員会は声明書を發表して解散することとなる

6・25 本学の招待による全国商業学校長会議を国立において開く。なお二六日より二九日まで文部省召集による会議が同省において開催される

6・28 本学の学術研究発表機関である本学年報の発刊について、かねて選出された編輯委員および評議員の初会合が開かれ「国立学会」設立と学会の名において年報を発行することが決定。今秋一斉に経済、商業、法律、文化諸科学の四部を創刊することとなる

6・29 予科語学部、米國バハイ教のケーラーおよびアレキサンダー両女史を如水会館に招き、講演会を催す

6・1 剣道部前師範故山田次郎吉氏の生前の功績を記念するため、剣道部の発起で資金を募集、記念碑建設中のところ本月中に鹿島神宮境内御手洗池付近に完成する

▽文部省に田中文相を会長とする学生思想調査会

が設置され、委員三〇名のうち本学選出委員は井浦学生主事(教授)に内定する

▽山岳部、ヒュッテそのままの山小屋を国立校内の林間中に建築する

7・3 専門部会語学部、米國新聞記者ペンリントン女史を国立に招待、講演会を催す

7・4 本科学術部改革に関する相談会が開かれ、学術部は各種研究団体を基底にこれを総括するものとして各研究団体から選出の委員一五名をもつて委員会を構成し、『ヘルメス』の編輯その他の活動することとなる

7・11 助教授上田辰之助、文部省より北米カナダへ出張研究を命じられ出発する。期間は約三カ月

7・12 カール・メンガーの令息ウィーン大学教授カール・メンガー(Karl Menger)氏、本学図書館が蔵するメンガー文庫を参観のために図書館を訪問する

7・22 予科の小平移転(昭和八年四月予定)について、政府各省歳出節約断行の形勢に、予科理事会は文部省に大臣・次官・専門学務局長を訪ね、移転促進の請願書を提出する

7・1 年報とともに本学学術発表の一機関とし

て本年四月発刊された『大学と社会』は発行不振から第五号（八月号）をもって一時休刊することとなる

▽神田一橋講堂建築の基礎工事始まる。建築費一八万五千円、清水組施工

8・29 故ブロックホイス教師後任としてニール・スキーン・スミス氏来日する。講義は一月より開始

9・10 如水会長岡支部設立される

9・11 専門部、成績の甲乙制を廃し、優（八〇以上）、良（六〇以上）、可（四〇以上）採用を決定する

9・22 第五六回本学創立記念式が挙行され、佐野学長は、移転後の沈滞は何を意味するか、学園の現状を論ずる

9・1 本学学術部、「理論経済学研究会」を新設する

10・1 大蔵省の内示した行財政整理準備委員会の整理原案中にわが商科大学の予科および専門部廃止の項があることが、『東京日々新聞』朝刊に報じられる。この廃止案は当局が秘密裡に進めていたものであるが、学校関係者が感知したのは九月二十九日の夜であった。実際の判明はこの新聞紙

上による

▽佐野学長、予科・専門部廃止問題を如水会藤村理事長に連絡するとともに堀教授等とともに文部・大蔵両省を歴訪し、大臣その他関係官に面接し、絶対反対の意見を陳述する

10・2 午後一時、大学全学聯合教授会を開催し予科・専門部廃止案反対の決議をする。二十七名の実行委員を選出し各部署を定め、本部を一ッ橋の大学出張所に移す。学期試験無期延期を決議する
▽午後二時、専門部会理事会は役員会を招集、ただちに文部省を訪問し次官に陳情する

▽午後五時、如水会臨時常務理事会を開催、母校教授数名も加わり廃止問題について協議、各方面の情報を蒐集し対策を講ずる打合せをする

10・3 午前八時半、石神井校舎七番教室において予科学生大会を開催、決議文作成、各クラス血判をとる

▽午前八時半、専門部Aホールにて学生大会開催、決議文作成、役員選出。二時、大蔵省を訪問、陳情する。一方同時刻に専門部第一特別室で教員養成所学生大会開催、予科・専門部の運動に合流する

▽午前九時、聯合教授会を開催、一四の分担を定

め引き続き陳情、奔走する

▽午前十一時、二十一番教室において本科学生大会開催、決議文を作成する

▽午前十一時、藤村如水会理事長は堀、木村両主事および内池教授とともに渋沢子爵を訪問、子爵病中のこととて代理として中島男爵に各要路に対する運動方を依頼。正午、如水会館で臨時役員会を開く

▽午後三時、一ツ橋旧校舎において三科合同学生大会を開催、三科合同決議文を作成、一同隊伍を整え大蔵省に赴こうとするが警官に阻止され、校内にてひとまず解散。午後七時、学生三々五々蔵相官邸前に集合し、委員、蔵相に面会を陳情する。学生、蔵相官邸より引き揚げ、如水会館の中庭に集まり、八時半堀教授の激励あり万歳三唱して解散。検束者一三名。錦町署より無届集会禁止の命令来る

10・4 午前一〇時、Aホールで学生大会を挙行。議長、前夜の蔵相面会を報告。実行委員、文相官邸訪問、官邸前にて警官と学生との間に若干の衝突あり検束者を出す。委員は明日文相と会見の約束を得、午後二時首相官邸へ向かったが不在、私邸に向かい委員は首相と面談。午後六時、学生大

会挙行。交渉委員、首相との会見を報告、五日夜錦町署からの注意書朗読。一ツ橋と永田町で検束者数十名

▽学長および両主事、文相と面接する。なお大蔵大臣を訪問したが面会することを得ず

▽午後二時、如水会館において京浜在任子爵および専門部卒業生大会を開き、決議および声明書を発表する

▽如水会常務理事、午前八時頃より参集、午後五時臨時常務理事会開催

▽午後七時、聯合教授会を開き学長より文相との会見報告。「重大なる決意を以て目的の貫徹を図る」ことを決議する。五日より三日間臨時休業を決議する

10・5 午前八時、学生委員、文相官邸を訪問し平穩に会見を遂げる。これより前、午前七時教授約三〇名文相官邸付近に配備につき学生代表と文相の面会を円滑にするよう努力する。午前一〇時、学生大会開催、文相との会見報告、重ねて午後三時学生大会を開催し、一ツ橋の旧校舎に籠城を決定する。一橋消費組合は籠城に対する準備をする。布団千五百枚搬入。九時半一橋の歌を歌い消燈。校内警備にあたっていた警官は学生自警団

の組織完成によりにより校外へ退く

▽国立で町民大会を開く

▽午後五時、如水会・評議員会を開催し、如水会として予科・専門部廃止案絶対反対の声明を決議し、当局に対する陳情書を作成、声明書を内外各地全如水会員および支部に発送する

▽神戸商大教授団より激励電報来る

10・6 午前九時、一ッ橋において学生大会開催。午前一〇時、学生構内デモを行なう。午後三時半、学生、隊をなして構外で行進中、警官と大衝突し、検束者一七名におよび児玉正之君重傷入院する。官邸にて学生代表、内相と会見

▽午後一時および午後五時より聯合教授会を開催、籠城解散問題を協議、なお同伴について如水会幹部に尽力を依頼する

▽藤村如水会理事長、窪田・上田両常務理事は、文相・政友会本部・民政党本部を歴訪陳情、蔵相を訪問したが面会ならず

▽関西方面へ事件真相説明のため、如水会側実行委員菅礼之助、学校側より杉村広蔵、河合諄太郎両教授および学生二名出発する

10・7 午前一〇時、学生大会、籠城継続の準備として学生交替帰宅、室内外の大掃除。午後五

時、学生大会再開、籠城学生に四〇二名が加わり二、〇〇〇名となる

▽藤村理事長等、大蔵大臣を私邸に訪問したが会見できず。同理事長等、日本商工会議所会頭郷誠之助男爵に会見、陳情書を提出。同会議所は役員会の結果、予・専廃止案反対を決議、郷男爵そのために努力することを決する

▽神戸商大、凌霜会関係者、事件見舞のため訪問される

▽教授側委員村瀬、村松、堀潮三教授、警視庁へ抗議に赴く

▽午後七時、教授会を開催、籠城問題協議、なお八、九両日臨時休業に決する

10・8 午前一〇時、一ッ橋において学生大会を開催。総退学を決議し、退学届は統制部に一括保存に決する。午後一時半、学生大会再開

▽如水会役員各氏、文相・蔵相・法制局長官・内相を訪問、会見する。民政党某領袖より事情好転の情報を得る

▽午後四時半頃、『東京日々新聞』夕刊は「商大予科・専門部廃止は取止め、行財政整理案より分離し、学制改革案と共に審議することに正式決定した」と報ずる

▽内田信也氏、蔵相・文相・内閣書記官長・法制局長官に電話し、事情の真相を質し確報を得る。

教授代表内池、根岸、本間三教授は文相を訪問し、整理案より分離、文政審議会の問題とする旨の確答を得る。

▽学生代表、最後の確答を求むべく文相を訪問。

午後四時半会見、午後七時半、学生大会を開催、籠城解散を決議する。午後八時半、解散指令。午後九時より一〇時半までに各クラス会毎に解散する

10・12 専門部学生大会を開催。決議によりクラス代表委員会を組織する

10・14 兼松講堂において全学生大会開催。予科・専門部廃止反対運動は完全に目的を貫徹したことによって、相京統制委員長より籠城中纏めた全学生二、〇〇〇名の退学届を各クラス毎に手交し、解団式を行なう

▽小平予科校舎建築の入札が行なわれ、中央土木株式会社の手にて工費二六万一千円をもって落札する。これは校舎の一部である教室本館のみ、完成は八年六月の予定

10・15 学術部主催で正金調査課長中井長三郎氏の「英国金本位制停止について」の講演会が催される

10・16 文部省、本学予科・専門部存続に決定する

10・19 籠城事件に鑑み、学生間の団結と連絡に重大な意義を示した本科クラス委員会を存続させたいとの輿論が湧きおこり、一六日および本日全クラス委員が集合する。この委員会は一橋会の機関と抵触するところのない学生の自由なる会合で、学校の諸般の問題にわたり批判・改進を企図する団体であるとして、予科・専門部とも適切な連絡を取り運動をすすめることとなる

▽専門部・養成所学生大会開催。クラス代表委員会より提出議案審議、学内制度改革案中、二案が専門部当局の認めるところとなる

10・20 本科クラス委員会を開催。一橋会定款改正問題とともに現行ゼミナール制度の欠陥を除く全般的学術部を根本問題として議題にとりあげ、本科学術部の全般的学制改革に対する具体的試案は「予科本科の一貫的な教育方針で予科本科六カ年を三分し、第一、二次の四カ年は基礎、準備教育、最後の二年間は従前の個人教育的なゼミナール制度を排し、専攻科目による研究制度に代えようとするもの」

▽木村予科主事および堀潮専門部学生主事の両

氏、籠城事件解決にあたり関係各界に謝意を表すため関西方面へ向け出発する

10・21 子科会臨時総会開催。「クラス代表委員」設置が可決され、理事選挙改正案、現評議員不信任案が上程される

10・27 本科各クラスより新たに選出された「本科クラス委員会」発足する

10・31 如意団創立二五周年を迎えその記念事業の一つとして団史『鉄如意』を刊行する(菊判三七六頁、図版一〇枚)

10・1 子科基督教青年会は会員皆無で立消えになつていたが甦生し、村松恒一郎教授を会長に毎週聖書研究会および祈とう会を行なうこととなる

11・5 商品実験室が落成する
▽常置された本科クラス委員会にならつて、子科においても各組クラス委員を新たに選出し同委員会結成会を開催する

11・7 専門部、出席問題で学生大会を開催
▽国立音楽学院生一〇数名による「籠城慰安」の演奏会が兼松講堂で催される

11・9 定款改正、互助会規則改正を議題とする一橋会臨時総会が開催される

11・11 子科臨時総会を開催。現行子科会理事選

挙法を改正し、現理事総辞職する

▽本学創立以来の恩人、渋沢栄一子爵、本日午前一時五〇分滝野川飛鳥山暖依村荘において逝去される(享年九二歳)

11・15 一橋如意団、創立二五年にあたり鎌倉円覚寺において関係者の追悼会および記念懇談会を開催する

11・17 専門部クラス代表委員会の解散後、これに代わるべき学内批判会設置の要望が起り、本日学校側および学生側の集りにより「専門部春秋懇談会」が生まれる

11・20 助教授川村豊郎氏逝去される(享年三二歳)。氏は左右田喜一郎博士門下、哲学・金融理論専攻

11・25 一橋新聞部および関係如水会員を発起人として「一橋ジャーナリスト・クラブ」発会式を挙げる

11・1 本科学術部内に「中国研究会」新たに生まれる。顧問、根岸・佐藤・猪谷三教授
▽専門部中和寮、学生の要望により、三名の学生理事を挙げ自治制をしることとなる

12・6 上田貞次郎教授の本学在職二五年を機に、門下生の集りである上田会では昭和二年暮よ

昭和七年 (一九三二)	<p>り資金を募集、同教授へ書齋を献呈すべく計画中のところ、同教授の中野の新邸も完工、本日贈呈式を挙げる</p> <p>12・9 本科会および評議会改造の二件を議題とする本科大会が開かれる。喧騒で終始結論を得ず</p> <p>▽建築中の一橋講堂、鉄骨の組立を終わり本日上棟式を行なう</p> <p>12・11 本学補手島中福一氏逝去される(享年二十六歳)。氏は和歌山高商より本学に入學、吉田教授研究室にて会計学専攻</p> <p>12・13 本学弓道部師範、窪田藤信氏逝去される(享年八一歳)。氏はわが国弓道界の第一人者で明治三九年以来本学弓道部のために尽瘁される</p> <p>12・17 明治四二年専攻部卒、国際聯盟事務局参事官の伊藤述史氏は、仏文による論文「最惠国條款」を学位請求論文として東大法学部へ提出中のところ、本日同教授会を通過する</p> <p>1・16 旧一ッ橋構内に矢野二郎先生記念事業会の第二次計画によって建設中であつた矢野記念館が竣工し開館式を挙げる。総工費約四万円</p> <p>1・23 専門部対横浜高商戦存廃を諮る専門部臨</p>
<p>時総会が開かれ継続と決定</p> <p>1・24 昨年九月以来工事を急いでいた本科柔剣道場が竣成し、剣道部、先輩等を招待して落成式を行なう(柔道部は別に)。建築費概算二万四千元</p> <p>1・29 専門部中和寮において渋沢翁肖像除幕式ならびに記念講話が行なわれる</p> <p>1・― 予科・専門部かけもち受験は不可と決定される</p> <p>▽構内グラウンド土手側に工事中の野球・陸上競技部室完成する</p> <p>2・10 東京商科大学研究年報『商学研究』創刊される。同誌は本学唯一の学術発表機関誌であつた同名『商学研究』の再興誌である</p> <p>2・12 予科会定時総会開催。『予科新聞』発刊が可決される。予科会費値下げの件、修正案が出され可決されたが、無効として次期総会へ持ち越される</p> <p>2・24 先に東大法学部へ学位請求論文を提出していた伊藤述史氏、法学博士の学位を受ける</p> <p>3・17 文部省在外研究員として決定していた深見専門部教授、三年間欧米にて市場論および世界経済研究のため出発する</p> <p>3・28 本年度三科卒業式が挙行される。学士試</p>	

<p> 4・2 故福田徳三教授記念事業会の事業の一つである故教授の肖像画が完成、遺族および本学へそれぞれ一面ずつ贈られ、贈呈式が挙行される 4・4 助教授米谷隆三、ドイツ・フランス・イタリア三国を中心に、会社法・保険法研究のため出発する 4・5 東京商科大学研究年報『法学研究』創刊される 4・18 一橋構堂の正式名称についてかねて同講堂事業実行委員の間で協議され「一橋会館」「一橋ホール」等種々考究されていたが、本日の教授会において「一橋講堂」と正式に命名されることとなる ▽一橋新聞付録『予科版』本日創刊される。同紙は毎月一回付録として発行と決定 4・19 予科会会費問題を中心とする予科会臨時総会が開かれる 4・23 日本シェイクスピア協会主催によって沙翁劇公演会が早大隈講堂において開催され、従来の翻訳劇のほかに英語劇が上演されることとなり、本学園際部がその皮切りとして賛助出演、堂 </p>	<p> 験合格者、板垣與一等二六七名。専門部卒業生一六三名。養成所卒業生三〇名 4・2 故福田徳三教授記念事業会の事業の一つである故教授の肖像画が完成、遺族および本学へそれぞれ一面ずつ贈られ、贈呈式が挙行される 4・4 助教授米谷隆三、ドイツ・フランス・イタリア三国を中心に、会社法・保険法研究のため出発する 4・5 東京商科大学研究年報『法学研究』創刊される 4・18 一橋構堂の正式名称についてかねて同講堂事業実行委員の間で協議され「一橋会館」「一橋ホール」等種々考究されていたが、本日の教授会において「一橋講堂」と正式に命名されることとなる ▽一橋新聞付録『予科版』本日創刊される。同紙は毎月一回付録として発行と決定 4・19 予科会会費問題を中心とする予科会臨時総会が開かれる 4・23 日本シェイクスピア協会主催によって沙翁劇公演会が早大隈講堂において開催され、従来の翻訳劇のほかに英語劇が上演されることとなり、本学園際部がその皮切りとして賛助出演、堂 </p>
<p> 4・1 青山衆司教授、停年退官する。大正八年高商教授就任以来今日に至る ▽商品学の実地研究に役立たせるため本科理化学室横に貿易植物園を設置する。約一〇〇坪の地に苗木五一種、二四九本を植える 5・2 専門部会定時総会が開催される 5・5 在英留学中の森野亀之助予科教授、帰国する 5・7 本日および九、一〇日の三日間にわたり全国商業学校校長協議会が開催される。二七校の校長が参集 5・10 本学教授美濃部達吉、本日の閣議において犬養首相、鳩山文相の推薦により勅選議員に任ぜられる 5・12 専門部会商工研究部内に世界経済研究会が新設され、本日よりその研究が開始される 5・18 東京商科大学研究年報『経済学研究』創刊される ▽定款問題および会費問題を議題とする一橋会定時総会が挙行される 5・19 ドイツ留学中の杉本栄一専門部助教授、帰国する </p>	<p> 々の演技に満場を酔わす 4・1 青山衆司教授、停年退官する。大正八年高商教授就任以来今日に至る ▽商品学の実地研究に役立たせるため本科理化学室横に貿易植物園を設置する。約一〇〇坪の地に苗木五一種、二四九本を植える 5・2 専門部会定時総会が開催される 5・5 在英留学中の森野亀之助予科教授、帰国する 5・7 本日および九、一〇日の三日間にわたり全国商業学校校長協議会が開催される。二七校の校長が参集 5・10 本学教授美濃部達吉、本日の閣議において犬養首相、鳩山文相の推薦により勅選議員に任ぜられる 5・12 専門部会商工研究部内に世界経済研究会が新設され、本日よりその研究が開始される 5・18 東京商科大学研究年報『経済学研究』創刊される ▽定款問題および会費問題を議題とする一橋会定時総会が挙行される 5・19 ドイツ留学中の杉本栄一専門部助教授、帰国する </p>

- 5・20 旧一ツ橋敷地内に建築中の一橋講堂が落成する
- 5・22 子科記念祭を挙行する。前夜、突然板橋署からの臨検あり室内装飾の一部の撤回を命じられる。これらは主に時事問題を戯化したものである
- 5・26 斎藤実内閣成立に際し、明治三〇年卒の中島久万吉男爵、商工大臣に就任する
- ▽専門部学生大会を開催する。一橋会問題の経過報告および専門部の取るべき態度について説明
- 6・6 本科に「国防研究会」が生まれ、本日借行社において結成式を挙行する
- 6・10 従来専門部会には理事、監事会の諮問に依りてこれを批判する機関がなく、その設置が要望されていたが、理事会においてクラス委員会設置案を決定、本日の臨時総会において可決する。同委員会は今秋の総会で定款の改正を行ない評議員会と改称のことも議せられる
- ▽専門部対横浜高商の総合競技会は昨年、一昨年と二回行なわれて来たが、本年「廃止」を横商側より正式の申出があり、本日の専門部会臨時総会に交渉経過を報告、廃止と決定する
- 6・20 専門部独立運動は昭和五年、時勢にかん

- がみ一時運動中止の声明を発し機会をうかがっていたが、本日の専門部総会において突如昭和八年度より独立を期すという決議案が可決される。学生側は独立期成委員五〇名をあげ、神田表神保町に本部を置き、即日関係有力者方面へ運動を起したが、有力者は積極的に動かず、文部省側からも運動打ち切りを命じられ、一時中止することとなる
- 6・29 一橋会主催によって伊藤述史氏を招き「時局講演会」が開催される。講演後、国際聯盟協会本学支部主催にて同氏をめぐり座談会を開く
- ▽国防論特別講演として海軍軍令部参謀関根海軍大佐の「米国海軍と日米関係」の講演会が開かれる
- 7・2 佐野学長、星野専門部教授の斡旋により、本学出身者が中心となり「商業教育研究会」を設立、本日その第一回研究会を開く。会の事業は研究会、講演会、講習会、見学等のほか、定時に会報を発行する
- ▽専門部会理事、独立問題の責任をとって辞職する
- 7・1 習志野において全日本学生馬術選手権大会が行なわれ、本学から出場の藤野泰吉君（子科

三年)優勝する

▽七月末日よりロスマンゼルスで開催の国際オリンピック大会におけるホッケ―選手として宇佐美敏夫(昭六大卒)、柴田勝見(昭七大卒)の両君が出場する

8・9 今春の一橋会定時総会において通過した修正定款は、理事の手を経て文部省宛に提出中のところ、本日管轄府庁を経て正式に認可される

9・6 神田一ッ橋本学旧図書館跡に「国民精神文化研究所」が開所される

9・10 講師三浦新七博士は本日行なわれた貴族院多額議員選挙に山形県より中立で立候補し、無競争で当選する。当選議員中、本学出身者は同氏を含めて六名である

9・1 一橋関係者の俳句同好会である南琴吟社では二〇年を記念し、句集を刊行する

10・5 一橋籠城一周年記念日が三科合同で行なわれる。事件の経過説明、声明書朗読の後、上田(貞)、金子(鷹)教授、常盤専門部教授の講演、学生の有志演説がある

10・7 本科会改造の中心をなしていた在来の運動部選手制度に対する批難は、運動部の反駁で険悪な空気に包まれていたが、形式的にも財政的に

も本科会から独立したクラブ制運動部として本科会運動部会を組織し本日発会式を挙げる

10・15~16 東北帝大主催、全国高専対抗東北乗馬大会に出場した予科馬術部は三〇校出場の強敵をたおし参加以来最初の優勝を遂げ、大学総長杯、第二師団長杯を獲得する

10・30 運動部の財政的危機を救うため、運動部懇談会が主催し、基金募集のため「一橋運動部を讃える夕」を日比谷公会堂で催す

10・31 故左右田博士を偲ぶ記念事業として、本年は横浜商専が主催で開港記念横浜会館において學術講演会が開催される。本学からは杉村助教が出席し講演を行なう

10・1 外務省に在外研究生の制度が新設され、その第一回在外研究生として本学講師山中篤太郎が選抜され、約三年間パリを中心に国際経済政策、社会政策、労働組合法の研究を行なうことになる

11・4 一橋講堂開館記念講演会が行なわれる。上田(貞)教授司会、講演者は中島商相「時局雑感」、美濃部教授「立憲政治の将来」

11・5 本学講師常盤敏太、その他が発起人となり「国際ホッブス協会東京支部」が設けられ、本

日如水会館において発会式を挙げる。会長に本学金子鷹之助教授、名誉会長に牧野英一博士

11・9 予科および専門部教授山口鍾太氏、マラリヤ病に急性肺炎を併発、永眠される(享年六二歳)。氏は山口高商教授より明治三五年東京高商教授となり今日に至り勤続三〇余年、担任、英語

11・11 専門部に「滿蒙事情研究会」が組織され、本日発会式を挙げる

11・16 一橋会主催によって満洲中央銀行副總裁山成喬六氏(高商附屬主計学校明治二四年卒)の滿洲国の金融財政問題に関する講演会が催される

11・19 本学講師常盤敏太、本年度在外研究員として渡欧のため出発する

11・20 小笠原長生氏を設立委員長とする「護国義勇団」の結団式が挙行され、本学の国防研究会が出席、加盟する。なお、記念講演が市政会館で催される

11・21 専門部滿蒙事情研究会主催によって本学助手大平善梧の「滿洲国政治機構について」の同会最初の公開講演会が催される

11・22 本学唯一の文芸雑誌『一橋文芸』新生のスタートを切るにあたって、従来の文芸部はそのまま、新たに「一橋文芸会」を組織して、部長

に内藤濯教授を推戴、学校当局より正式認可される

11・23 本学講師山中篤太郎、外務省選抜在外研究員として渡欧のため出発する

11・25 予科会総会を招集し、従来問題のあった委任状の全廃、成立人員、全員の二分の一以上等を決定する

▽本学国際聯盟協会支部主催で、滿洲国の貿易と関税制度を实地研究の上帰国された猪谷助教授を囲み、滿洲経済座談会が催される

12・3 滿洲国司法総長馮瀨清氏、随員三名とともに本学を参観する

12・5 本学剣道部の『一橋剣道部三〇年史』が発刊される

12・8 専門部に国防研究会が生まれ、本日発会式を挙げる

12・17 予科会改造問題を議する予科総会が開催される。長時間にわたり論争が続けられたが、新味なく現状維持に落ち着く

▽本学法律研究会では昨年度の国家試験に本学生が全敗の憂き目をみたのに鑑み、その不成績を検討し、本年度の準備の基礎を積む意味において高文座談会を開く。この種の催しは本学では初めて

昭和八年
(一九三三)

のことである

12・27 勅令第三九四号をもって官立商業大学官制の一部が改正され、職員定員中、助手一〇人を九人に、書記一六人を一五人に改められる

1・10 本学教授大塚金之助は、伊豆湯ヶ島温泉において論文執筆中のところ、第五次共産党事件連座の嫌疑により警視庁特高課員に同行を求められ、麴町署に留置される

1・15 本学『事務時報』第一号が発行される

1・16 本学に提出される学位請求論文の審査委員の選挙には従来助教もその投票権を有していたが、本日の教授会において今後は正教授のみが投票権を有することに改められる

1・19 予科理事會ならびに弁論部主催による長谷川如是閑氏の講演会が催される。演題「フアンズム人口論批判」

1・24 本科会総会が開かれ、本科会会則改正の件、昭和七年度本科会費返還の件、いずれも可決される。改正新会則は従来に比して面目一新、大衆化する

1・25 故ブロックホイス先生記念事業実行委員会が如水会において開催され、同氏胸像竣工につ

いて四月中旬除幕式挙行のことが決定される

1・27 一橋新聞付録予科版、本日以後発行を禁止される

1・31 東京商科大学一橋講堂使用規程を制定する

▽共産党事件に連座容疑で麴町署に留置・取調べを受けている本学教授大塚金之助は本日佐野学長宛に辞表を提出する

▽専門部会臨時総会が開催され、会則の一部改正、会費の値下げ等が可決される

2・1 文部省および本学共催で「成人教育講座」を本日より一橋講堂において開講する(二十七日まで)。聴講応募者一七六名、同許可者九七名

2・6 ユニバーシティ・エクステンションの一方策として先に計画された一橋講堂における定期学術講演会の具体案が本日の教授会において決定される。講演会は毎月一回ないし二回(ただし当分の間一回)第一金曜日夜開催、講演者は毎回二人

2・1 『一橋新聞』、二月一〇日号以後休刊する。一橋新聞付録予科版において大塚金之助教授留任問題を取り扱った件に関して、学校当局の忌諱に触れ、その弾圧に抗して部員一同の総辞職に

<p>よる</p> <p>2・15 文部省主催による「労務者教育講習会」が本日より一週間にわたって一橋講堂において開催される（わが国労務者教育の振興、会社・工場・鉱山等労務担当者、一般労務者教育関係者のため）</p> <p>2・21 福地桜痴居士筆の「商法講習所」の扁額発見される。所有者は、在麻布山元町、今景彦氏</p> <p>2・23 本学教授兼専門部教授大塚金之助、文官分限令第一一条第一項第二号により休職を命じられる</p> <p>2・1 東京商科大学非常警備規程を制定する</p> <p>3・6 専門部教授河合諄太郎、在外研究員として出発する。欧州大陸の商工業、市場等視察のうえ、米国に渡り同氏の母校において化学を研究のうえ昭和一〇年春帰国の予定</p> <p>3・28 本年度卒業式を挙行する。学士試験合格者二四八名、商学専門部卒業者一八三名、教員養成所卒業者二九名</p> <p>4・10 教授藤本幸太郎、約八カ月の予定で欧米の教育、産業、学術視察のため出発する</p> <p>4・11 本年度入学宣誓式を挙行する。入学許可および志願者数は次のとおり。</p>	<table border="0"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">志願者数</td> <td style="text-align: center;">許可者数</td> </tr> <tr> <td>大学本科</td> <td style="text-align: center;">一三二名</td> <td style="text-align: center;">七七名</td> </tr> <tr> <td>予科</td> <td style="text-align: center;">一、二四二名</td> <td style="text-align: center;">二一五名</td> </tr> <tr> <td>専門部</td> <td style="text-align: center;">一、〇九四名</td> <td style="text-align: center;">二〇八名</td> </tr> <tr> <td>養成所</td> <td style="text-align: center;">五二三名</td> <td style="text-align: center;">三三名</td> </tr> </table> <p>4・1 世界経済の混乱と、それによって派生する諸問題について論議する会合が本学の諸教授を中心として組織され、「国際経済研究会」と命名、その第一回討論会が催される</p> <p>4・28 国立学会においてはユニバーシティ・エクステンションとして毎月講演会を開催することが決定されていたが、その第一回講演会が一橋講堂において開催される。佐野学長挨拶、講演者、堀教授・佐藤助教授</p> <p>4・1 学生赤化防止策確立のため、七教授を挙げて思想善導対策委員会を作り、その答申を教授会が正式に承認して、昭和二年度以降廃止されていたプロ・ゼミナル制度を本年度より復活する（ただし来年度以降はあらためて協議）</p> <p>▽専門部、シート・マーク制を実施する</p> <p>5・1 昭和八年度予算をもって、学生集会所、官舎ならびに発電所新設の事を決定する</p> <p>5・16 専門部会語学部で日米親善使節として来</p>		志願者数	許可者数	大学本科	一三二名	七七名	予科	一、二四二名	二一五名	専門部	一、〇九四名	二〇八名	養成所	五二三名	三三名
	志願者数	許可者数														
大学本科	一三二名	七七名														
予科	一、二四二名	二一五名														
専門部	一、〇九四名	二〇八名														
養成所	五二三名	三三名														

日したエール大学研究生ハリソン君とシカゴ大学研究生イービス君を招聘し講演会を催す

5・17 本日より一九日、二〇日の三日間、一橋講堂において第四一回全国商業学校長協議会が開催される。会員約二五〇名出席

5・19 国立学会第二回学術講演会が一橋講堂で催される。盛況。山口助教授「インフレーションとスベキュレーション」、内池教授「市場経済と米穀統制」

▽専門部会定時総会を開催する

5・21 第六回予科記念祭を小平移転を控え石神井最後のものとして盛大に挙行する

5・25 本科生有志により「満蒙研究会」が結成され、本日発会式を挙げる、会長、佐野学長、顧問、堀教授ほか七教授

5・28 本学名誉教師故ブロックホイス氏記念事業会の事業の一つとして故人の胸像が完成し、図書館内においてその除幕式が行なわれる

5・30 学生の無関心傾向による一橋会の衰頹を憂え、一橋会理事会では、かつての投書家懇親会あるいは談橋会のような機関の復活を目的として、一橋会振興調査会を設置し、毎月定期的に会合、諸問題の研究により一橋会の目的達成を企図

することとなる

▽国立本校敷地内のグラウンドは、箱根土地会社より一橋会に寄付され同会の所有となっていたが、一橋会ではその維持負担に堪えず、大学の所有財産に寄贈方を申し出る

5・1 本学のスランブを打開する目的のため、本学々園振興に関し、学内和衷協力および学制改革案に関し全教授を委員に分科委員会が組織され、具体案作成を始める

▽一橋ジャーナリスト・クラブ員の斡旋により『一橋新聞』続刊に決まる

▽本科生有志の発起で学術部内に「一橋法律研究会」が結成される

6・3 学生主事会議で興業本位の催物禁止のことが決定される

6・6 一橋会理事会監事会で可決された「一橋会振興調査委員会規則」（七条より成る）、本日本科会に提出され通過する

6・10 本学における英語の学力が一般に低下したとの風評が高いため、学長、専門部および予科主事、全英語教授の合同懇談会が開かれる。学制改革案中にもこの対策が考えられている

6・12 一橋基督教青年会主催で桑田秀雄氏の講

演会が行なわれる

▽国防研究会および太平洋クラブ主催で、国防観念の養成および滿蒙事情紹介を兼ねて池内海軍少佐の講演会および映画会が催される

6・15 一橋会総会が開かれる。一橋会振興調査委員会設立その他の議事が進められ、一橋会所有グラウンド寄付の件も可決

6・16 国立学会第三回學術講演会が一橋講堂で開催される。岩田教授「インフレーションと法律關係」、田中教授「商法学及國際商法論の最近の傾向と商大法学の地位について」

▽予科自治食堂部の会計乱雑問題を中心とする予科総会が開かれ、同部の消費組合への合併の件が可決

6・17 予科理事会および弁論部主催による名士講演会が催される、講演者、土方東大教授、高垣本学教授

▽専門部講演部主催で石橋湛山氏を迎え「金本位の将来」と題する講演会が催される

6・19 文部省依頼による一橋講堂における本学の成人教育講座は二月一日より開始の第一回が多大の成績を挙げ、文部省より第二回目の依頼を受け、本日の教授会において正式受託を決める

6・21 本学諸教授を中心に在留外人専門家と懇談的に世界經濟問題を討論すべく設立された國際經濟研究会(インターナショナル・エコノミック・サークル)の第二回会合が如水会で開かれ、上田(貞)教授報告の日本人口問題についておおいに討論が行なわれる

6・28 本科滿蒙研究会の主催で、坂西中將の「支那・滿洲を廻りて」の講演会が開かれる

6・30 東京府北多摩郡小平村に予科本館が落成する。七月二二日移転完了。八月一日より事務を開始する

▽先に発会を終えた「一橋会振興委員会」初の委員会が開催される

▽専門部国防研究会および滿蒙研究会共催で、最近帰國の及川中佐の歐洲事情の帰國談を聞く会合が開かれる

7・8 太平洋クラブ員一三名、伊坂助手引率のもとに、滿蒙視察の途にのぼる

7・14 長野配属将校および松田学生生主事補指導のもとに、本学学生・生徒一七名、滿洲産業建設学徒団に参加し、本日出発する

7・24 如水会奉天支部設立される

8・2 教授上田貞次郎博士、カナダにおいて開

催される太平洋会議へ出席のため出発する（那須講師、先輩浦松佐美太郎氏も出席）

9・4 かねて文部省へ申請中であつた、本学々の改正案が本日認可される。改正の箇所はほとんど全般にわたり、字句訂正、不必要な経過規定の削除、習慣的事実の成文化、また懲戒規定の改正に最も重点をおき、処分規定が確立される

9・11 本日新装成つた小平校舎で、初の始業式が行なわれる

▽多摩湖鉄道「商大予科前駅」が竣工し、本日より開業する（ラッシュアワーには改装ボギー車二台増発、同車は百人乗、料金は国分寺—予科前八錢、朝七・四三、七・五九、八・一二、八・二四、国分寺発）

9・20 教授根岸信、新誕生の満洲国その後の経済事情調査と、傍ら就職の新天地を開拓すべく、約一カ月の旅程で本日出発する

9・22 昭和六年一〇月の籠城事件を記念して、事件当時の予専養卒業生聯合委員会が代表となり（後の同志会）、「一橋会旗」を調製、贈呈式が創立記念日の本日行なわれる（紫紺の地に同色の房、中央に金色のマーキョリー）

▽国立学会主催第四回学術講演演会が一橋講堂で開

催される。川島信太郎公使「我国通商政策の再検討」、法学博士米田実「極東の國際關係」

9・28 本年度高等試験外交科本試験合格者一名の発表があり、本学からは六名が進出する。卒業生一名、在学生五名

9・30〜10・1 神宮大会において本学水泳部清川正二君、四〇〇米背泳に五分三〇秒四の世界新記録を作る

9・1 発電所および第二学生集会所が落成する。第二学生集会所は大正一一年度在学生生徒父兄有志の寄付によるもの

10・5 新築成つた学生集会所を本日より使用開始する

10・12 満洲国奉天省錦縣教育參觀団長、李子榮氏ほか六名、本学を訪問、学内を參觀する

10・17 皇道精神を標榜し、あわせて最近の一橋会および学内の空気沈滞を打開しようとする学生有志の団体、「一橋青年同志会」が本日発会式を挙行する

10・19〜21 本学の神田男爵記念事業の一つとして「商業学校英語教育研究会」の設置とともに、商業学校英語教員の全国的統制の第一歩として「全国商業学校英語教員大会」が、三日間にわた

つて一橋講堂で開催される

10・27 国立学会主催第五回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、山田正瞭教授、猪谷善一助教授

10・1 本学予科に空手研究会が生まれる(本・専は三年前結成、現在部員六〇余名)

11・2 休職中の本学教授大塚金之助氏は一〇カ

月間の獄中生活を送っていたが、本日出所される

11・5 一橋会理事が中心となり一橋復興記念式

が挙行され、さらに「一橋発展回顧講演会」が、

松村商工参与官、河野健治氏、堀教授により辛酉

事件、籠城事件、円満不調事件の三者を偲び、閉

会后、一橋会旗の授与式、音楽会、運動会、大懇

親会が開催される

11・6 故左右田博士の遺された一橋の哲学精神

再興のため、純粹哲学と精神文化科学の諸問題を

採り上げ「一橋哲学会」が設立され、第一回討論

会が開かれる

11・6~12・11 本学および文部省共催による第

二回「成人講座」が、一橋講堂において開講、講

師は、高瀬、孫田、増地三教授

11・8 休職中の本学教授大塚金之助氏、本日付

をもって失官する

11・10 国民精神作興に関する詔書換発一〇周年記念式が三科合同で兼松講堂で挙行される

11・17 本学関係者によって設けられた「商学会」が誕生され、本日第一回例会が開かれる。太平洋會議から帰国した上田貞次郎博士の時局經濟問題の講演があり、ついで商学会会則が決められる

11・18 本学職員集会所(木造平屋建一三〇坪)、第一学生集会所(木造二階建一四〇坪)は総経費四万六千八百円で入札が終わり、起工する

11・20 故本学助教授川村豊郎氏の三周忌にあたり、同窓間で同氏追悼記念事業の具体化を協議の結果、一橋文化向上への一礎石として、懸賞論文を募ることが決定される

11・24 国立学会第六回學術講演会が、一橋講堂で開催される。講演者、井藤半弥教授、米田実博士

11・25 本学専門部教授兼教員養成所主事を歴任された星野太郎氏逝去される(享年六四歳)。氏は明治三六年九月高商教授就任以来、本学において簿記・商業実践等を担当される

▽本学出身在京弁護士を中心に如水会法律研究会が生まれ、本学学生にも後進養成のため、司法科

模擬口頭試験を行なうこととなる

11・28 セミナール間の連絡親睦と一橋学術の進展をスローガンとするインターゼミ委員会の規則草案が成り、発会式を挙げる

11・29 教授高瀬莊太郎、「グッドウキルの研究」の論文提出（本学）、商学博士の学位を受ける
 ▽本科会事業拡張ならびに会費値上げに関する本科会臨時総会が開かれる

11・30 欧米の教育、産業、学術視察のため、四月一〇日出発された藤本教授、本日帰国する

12・4 本学の学制改革案中、学部入学資格を私立高商その他商科系統の学校まで拡大する案を審議中であつたが、一月二七日の教授会においてこれを決定、本日文部省の認可があり、明春から実施することとなる。従来の規則では、「本学専門部・養成所、官公立高商、官公立高校、東亜同文書院」であつたが、新規に第九條に第五項を加えて、「私立高商、私大高商部、同専門部商科、外語貿易科等二九校を加う」とする

12・17 本日の教授会において一定科目修了の選科生に学士号付与の件が決定される

12・18 一橋会臨時総会が開催され、「会計に関する細則改正」「一橋消費組合規則改正」「一橋指

昭和九年
 (一九三四)

導精神に関する件」等が審議される

12・20 教授根岸佑、「支那ギルドの研究」の論文を提出（本学）、経済学博士の学位を受ける

12・1 本科二学年以降において分科制を施行し、商業学科・経済学科・商事法制学科と暫定的な名称を使っていたが、これを第一部・第二部・第三部と称することとなる

1・6 専門部生徒出席歩合制、教授会において決定する

1・15 半歳を費やして研究中であつた本学の学制改革案、本日の教授会においてその大綱が決定される。予科一、二年で高等普通教育、予科三年、本科一年で専門教育、本科二、三年は自由に各自研究

1・16 商学会、前駐米全權大使出淵勝次氏を招き、国際外交問題について座談会を開く

1・26 国立学会主催第七回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、上田貞次郎教授、中山伊知郎助教授

2・1~2 金融研究会寄付講座として、大蔵省財務官津島寿一氏の講演が、両日にわたって行なわれる

- 2・7 飛行機「大学高専号」献納のため、国防部、寄付金募集を開始する
- 2・16 国立学会主催第八回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、藤本幸太郎教授、加藤由作助教授
- 2・24 佐野学長、本日の正教授懇談会において、突如辞意を表明する。①本学の国立および小平移転復興事業も、ほぼ完成の域に達する、②学制改革案の確立も一段落つく、③還暦にも達した、以上を理由とする
- ▽本科入学に関し、本年の入学試験から門戸が拡大されたが、新しく開放された学校からの志願者二〇名、従来からの有資格校からの志願者一七一名、私大学部卒業者二名。なお、本年予科志願者一、三三三名、専門部志願者一、二七八名
- 2・1 従来、明文の規則を欠いたままであった補手制度が明文化される
- ▽一橋講堂において本学が実施中のユニバーシティ・エクステンションも今月で八回に及び、のうち、続々と予定されているが、財源に不足を感じるに至り、新財源の獲得と大衆化をはかるうとの企てが考究される
- 3・15 職員集会所、官舎および第一学生集会所

- 落成する
- 3・18 端艇部、新艇（青龍、朱雀、白虎）三隻成り、向島艇庫において進水式を挙行する
- 3・20 佐野学長は二月二四日の正教授懇談会席上、辞意を洩されたが、これに対し諸教授は留任を勧告し、その結果「学長および教授一同が共同して学長の後任選定に極力努力する」との条件で留任することに決定する
- 3・21 教授石川文吾、欧米各国出張のため神戸港を出発する。途中五月一日からローマで開催される万国保険学会へも出席し、一〇月末帰国の予定
- 3・24 学中、学部の部科、課業、学科目、研究指導、試験および委託生に関する規定を改正する
- 3・28 昭和八年度新卒業者の証書授与式が兼松講堂において行なわれる。学士試験合格者二五六名、専門部卒業者一七八名、同卒業者一名、養成所卒業者三六名
- 3・31 東大教授兼本学教授、法制局参事官、美濃部達吉氏、願により本官ならびに兼官を免じられる
- 4・11 昨年六月の教授会において成立した和協

委員会第一部会では、同部会の中心問題たる①国立移転に伴う善後策（教職員および学生を一層学園に親しませる方策）、②学園施設の利用を一層盛んにする方策、の中心問題に対して、本日の教授会においてその試案が出される。すなわち、全教職員および学生の国立移転を強制し、そのために株式会社を設立、住宅建設費、寄宿舎設置に關して融資を行ない、全関係者の国立移転によりその目的を達成しようとするものである。

4・13 日本統計学会第四回總會、第二日目における上田貞次郎教授の講演が全国中継放送される。演題「統計に現われた日本国民経済」

4・18 一橋YMCAはその寄宿寮を国立に建設する計画を立て、本日の如水会における東京支部会で、同会所有の中野の土地を売却し、その資金により国立に敷地を購入、一橋寮建設のことが決議される

4・20 予科臨時總會を開催。記念祭の定期挙行、記念祭費、弁論部独立等の件を上程する

▽国立学会第九回學術講演会が一橋講堂で開かれる。講演者、金子(弘)予科教授、木村教授

4・24 予科に写真研究会が生まれ、本日発会式を挙げる

5・5 故元本学教授福田徳三博士五周年記念講演会が、佐野学長司会のもとに一橋講堂で開催される。講演者、坂本弥三郎神戸商大教授、小泉信三慶大塾長、内藤章本学教授

5・7 学生の研究振興策を計るための本年度第一回ゼミナル委員会が開催される

5・11 非常時における綱紀肅正が叫ばれている時、佐野学長より三科学生宛に、学内での禁酒励行の通達が発せられ、今後は記念祭、旅行等一切の公的会合での飲酒が厳禁される

5・14 専門部会定期本年度初總會が開催される

5・16~17 従来三商大を結合する学長懇談の会合が皆無であったので、本年度から三商大学長会議を開くことを決定、大阪商大において二日間の懇談の会が持たれる

5・20 山形市在住の三浦新七博士より明治文化関係の文献約一千冊(第一回分)送られ、寄贈される

5・25 国立学会主催第一〇回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、井浦教授、内藤章教授

5・1 経済界における實際問題の學術的指導機関を本学内につくり、対外的に進出しようとする

要望が教授・学生の間に起こり、昭和五年以来新規要求予算の中に繰り込み、運動を続けていたが、みとめられず、本年度は更に一橋の新転換を目し、政策調査を主とする「企業経営研究所」案を作成、実現を期することとなる

▽本科会の文化・運動両部への分裂による予算難のため、実行不可能に陥っていた本科会事業も、本年度に至り復活し、学術・文芸両部の予算も決定、学術部は『ヘルメス』の再刊および講演会等、文芸部も『一橋』発行のことが決定する

▽学術部において機関誌『ヘルメス』再刊を機として、学内の研究活動を活発にするための具体案として定期的に部報を発行のことに決定、一回は外国新刊書の紹介を主とする

▽例年の予科卒業生が卒業記念としてそれぞれ思いつきのものを寄贈している時、本年三月の卒業生は従来の子科会歌にあきたらず、新会歌を贈ることを定め、作詞を北原白秋氏に依頼する。作曲は総会決議通り山田耕作氏に依頼（緑にかざす）

- 6・4 本学助教教授緒方清氏逝去される（享年三九歳、協同組合・売買組織・社会政策担当）
- 6・5 予科柔剣道場および弓道場が落成する
- 6・9 本日、学生集会所開きを行なう。午後か

らは三菱銀行取締役山室宗文氏の「アメリカ新通貨政策」の講演会が開催される。同集会所使用規定定められる

6・11 本学法律研究会、東大教授横田喜三郎氏を招き、第一回講演会を開催する。演題「国際平和機構の展望」

▽職員集会所開きを行ない、職員のお茶の会が開かれる。午前二〇時より午後一〇時まで開所、使用規定定められる

6・12 専門部語学部、来京中のケンタッキー大

学教授クライド博士を招き、英語講演会を催す

6・18 専門部商工研究部・講演部合同主催で、猪谷助教の「日蘭会商並にソーシャル・ダンピング」と題する講演会が催される

6・22 国立学会主催第一一回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、大平善梧助手、本間喜一教授

▽東京商科大学名誉教授従三位勲二等、奈佐忠行氏逝去される（享年七二歳）

7・2 本学内に経済研究所設置が熱望されている時、本日の学部教授会において、学長から三井物産内財団法人貿易奨励会の委嘱によって、本学教員の手で維新後におけるわが国の貿易史を編纂

し、あわせてこれを機会に研究所設立の第一歩となすべく報告がなされる

7・7 本学水泳部小平プール竣成する。一橋会の寄付による

7・14 堀潮専門部学生主事、満洲国の経済事情実地研究のため、約一カ月の予定で本日出発する

9・17 文部省委嘱による本学主催の成人講座が、本日より一〇月二四日まで開催される。担当講師、岩田、井藤、増地三教授

9・22 創立五九周年記念式典ならびに高垣教授の記念講演が行なわれる

▽三井物産貿易奨励会補助による本学の「我国の貿易自主運動を中心とする貿易史」の編纂について、本日の学内懇談会において一三項目に及ぶ調査内容が決まり、今後一カ年に資料蒐集を行なうこととなる

9・1 教員養成所に、従来欠けていた「教生制度」について、藤本養成所主事は、文部省、東京府、市当局に奔走し、三年生につき一〇月よりこれを実施することとなる

▽文部省では逼迫する赤字財政のため、在外研究員派遣費を削減。本学より現在留学中の、深見、米谷、常盤、河合の諸氏も、本年度中に帰国する

こととなる

10・7 一橋ジャーナリスト・クラブ主催、一橋新聞創刊一〇周年記念「秋の舞踊祭」が日本青年館で盛大に行なわれる

10・14 欧米視察および万国保険学会へ出席した石川文吾教授が帰国する

10・23 わが国の商科大学教育を視察のため来日した、マニラ大学総長マリオン・ド・ラ・サントス氏、来学する

10・24 実業教育五〇年を記念し、佐野学長「商業教育の回顧と使命」について初放送を行なう

10・26 国立学会主催第一二回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、高瀬教授「資本回転について」、増地助教授「予算統制の方法」

10・29 一橋新聞創刊一〇周年記念講演会が一橋講堂で開催される。講演者、小平権一氏「中農の崩壊と農村対策の方向」、芦田均氏「国際政治の動向」

11・3 如水会創立二〇周年記念大祝賀会が、記念式典は一橋講堂で、午餐会は会館で、庭園内では園遊会が盛大に行なわれる

11・4 兼松講堂において一橋会主催のもとに「一橋発展回顧講演会」を催し、堀光亀教授およ

び河野健治氏の講演があり、終わって国立グラ
ン
ドにおいて一橋会秋季大運動会が開催される

11・13 一橋会学術部主催で、日銀副総裁深井英
五氏を聘し「通貨問題を中心とする雑話」と題す
る講演会が開催される

11・23 第二回三商大学長会議が本学において行
なわれ、三商大入試期間を同日に統一等、五項目
について懇談される

11・― 本学の震災復旧事業は、大正一三年臨時
議会において昭和九年度までの継続支出として決
定されたが、その後の緊縮政策により昭和一一年
度予算にまで延び、さらに最後の予科図書室・特
別教室の全竣工は早くとも一三年と見られていた
が、このほど明年度予算中に残額約一三万円の全
額支出の計上が内定。全学の完成は早くすれば一
二年度初に実現の見込がつく

12・3 本学の研究活動を統括し、あわせて種々
の調査活動を開始するため、本日の教授会におい
て、学内に「調査部」を設置することが定められ
る

12・6 「一橋会財政建直の件」を主たる議題と
した一橋会定期総会が開催される

12・7 教授岩田新、「占有理論」の論文を東大

昭和一〇年
(一九三五)

法学部に提出、法学博士の学位を受ける
▽国立学会主催第一三回学術講演会が一橋講堂で
開催される。講演者、金子(鷹)教授、村松(恒)助
教授

1・10 在外研究員として商業学研究のため留学
中の深見義一専門部教授、帰国する

1・24 日仏会館館長バリ・ソルボンヌ大学教授
モランジュール氏、国立の本学を来訪、学内を参
観、のち諸教授を交え、学生主催の懇談会に出席
する

1・25 昭和七年二月以来文部省在外研究員とし
て留学中の常盤敏太専門部教授、帰国する

▽本学文芸部主催文芸講演会が一橋講堂で開催され
る。講師、吹田教授、伊藤整、矢崎弾、武田麟太
郎、川端康成の諸氏

1・26 前大阪市長、貴族院議員、法学博士、元
本学教授、関一氏逝去される(享年六三歳)

2・1 国立学会主催第一四回学術講演会が一橋
講堂で開かれる。講師、孫田教授、吾妻助手

2・4 本日の教授会に、研究年報編輯委員会よ
り、従来の商、経、法研究年報と平行して、欧文
の研究雑誌を発行し、広く世界に本学の研究の精

華を問うとともに、従来個々別々に出版されていた本学教授および関係者の著書を可及的に統一し、本学の「研究叢書」とするとともに、将来における本学出版部設置等の委員会案が発表される

2・15 官立商業大学官制の一部が改正され、職員中に新たに技手一名が加えられる

2・26 如水会札幌支部が設立される

2・27 教授上田辰之助、「社会職分を基調とするトマス・アクィナスの経済思想に関する研究」の論文を提出（東大経済学部）、経済学博士の学位を受ける

2・1 本年度入学志願者数は次のとおり

大学本科 二一六名
 大学予科 一、五二〇名
 商学専門部 一、三五九名
 養成所 四五八名

▽田中都吉如水会新理事長の就任を機会に、一橋出身の実務家と教授を打って一丸とした研究機関「一橋研究所」の樹立をめざし、如水会同志会、会員一般に意向を問う

3・4 本学の研究所活動を統括する機関として、「経済調査部」の組織および規定が本日の学部教授会に提出され決定される。なお、新たに新

部員、研究員が證衡増加される

3・13 ノルウェー・ベルゲン商科大学学長アントン・モール氏来学、本学を參觀する

3・28 兼松講堂において合格卒業ならびに修了証書授与式を挙げる。学士試験合格者二四三名、大学予科修了者二〇五名、同業者一名、専門部卒業者一九四名、養成所卒業者二七名

3・31 教授根岸佑、定年退官する

▽外人教師エドワード・ガントレット、契約満期退職する

3・1 本学卒業生の人員は、他大学に比して僅少であり、本学の社会的地位が弱められてゆく事実を認め、予科入学収容人員の増加が切望されていたが、本年度から約二〇名増の二二九名が採用される

4・1 本学の助手制度の編成替えを行なう。新制度の助手・補手は任期二カ年、将来の身分保障を行なわず、教官補充として留任必要の者は特に詮衡を行ない、校外からの補充の道も開き、運用の円滑化を計る

▽教員養成所は教員養成機関としての特色を強めるため、藤本主事就任以来その充実を計り、科目の新設、教生の実施等を計る

4・4～5 商品学の教授と研究上の協同連絡を計る目的の全国大学高専商品学協談会の発会式が一橋講堂で行なわれる。本学からは木村教授、佐藤助教が出席する

4・16 本学の憲法講座開設以来、上杉博士とともに担当、上杉博士逝去後は単独で憲法・行政法を担当された美濃部達吉博士は、昭和八年定年後も講師として出講されていたところ、著書発禁問題により本日自発的意志により講演を去られる

4・18 中華民国天津南関大学教授丁佑氏、日華学会主事中山義弥氏とともに来学、本学を參觀する

4・23 一橋会定期総会が六〇周年事業に関し、会費増徴等の件を議題に兼松講堂で開催される

4・26 予科会定期総会が、記念祭を二日間に行なう開催の新機軸等を議題に開催される

5・16 昭和七年以来、商法研究のため、独・伊に留学中の米谷隆三助教、帰国する

5・17 国立学会主催第一五回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、石川文吾教授、常盤敏太(専)教授

5・20 専門部においては昨年度入学者から断髪を奨励して来たが、二年生には反対運動も起こ

り、趣旨徹底のため「第一学年生徒、第二学年生徒、長髪を禁ず」の布令を出す

5・23 如水会メルボルン支部設立される

5・27 予科生徒控室、集会所、食堂および雨天体操場が竣工する

5・29 中華民国江西省第二職業学校校長羅静遠および同校商科主任周浴徳両氏来学、学内を參觀する

5・30 佐野学長は文部省において会議中の全国高等商業学校長および文部省実業学務局長以下各関係者を一橋矢野記念館に招き、商業教育に関して種々意見を交換する

6・1 本学名誉教授下野直太郎博士、老軀を馭って本日および八日、一五日、二二日の四日間に行なう一橋講堂において簿記改革および農村救済の特別講義を行なう

6・9 昨夏総工費八、〇〇〇余円をもって竣成された小平のプール開きが行なわれる

6・10～11 三商大学長会議が大阪商大で開かれ、佐野学長、黒川事務官、西下出席する

6・12 本学講師ピーター・ラッソー氏は、国際文化振興会より海外派遣員を委嘱され、豪洲への親善使節として本日出発する。各地各所において

講演、放送等三カ月間にわたり日本の紹介、親善につくす

6・13～14 経済調査部主催の「明治貿易史資料展覧会」を図書館内で開催する。これは昨年未から着々進められている「我国貿易史研究」について集められた第一次資料に、左右田文庫、明治文庫その他、図書館所蔵資料、および高垣教授その他外部よりの出品をも加えて展示されたものである

6・19 専門部会語学部主催で、英人スレンジャー氏の「最近欧州の経済事情」と題する講演会が行なわれる

6・21 国立学会主催第一六回学術講演会が、一橋講堂で行なわれる。講演者、幸田成友予科教授、杉村広蔵助教授

6・22 従来本学は、経済調査機関を持たず遺憾とされて来たが、貿易史研究を包括する経済調査事業の永続的拡充と確立のため、文部省に特別予算の請求を行なう

6・24 教授吉田良三、「間接費の研究」の論文を提出(本学)、商学博士の学位を受ける

▽東京商科大学「橋新聞部編『経済学研究の栞』(四六判、五〇〇頁、三省堂刊)、発刊される

▽実業教育再検討が提唱され、一八日定例閣議において「実業教育振興委員会設置に関する件」が付議され、正式に本学佐野学長および委員の決定を見て、本日第一回の総会が開かれる

▽専門部会研究部主催で、石橋湛山氏を招き「我國の労働賃銀と産業政策」の講演会が催される

7・3 五月二六、二七両日にわたって挙行された予科記念祭の後、学生の一部が多摩湖電車を破壊した事件があり、その後、善処方の効もなく、ついに刑事事件にまで進展、五〇余名の学生に対し譴責処分が付することとなる。木村予科主任、石田学生主事が辞職し、吹田教授が事務取扱となる

7・9 杉村広蔵助教授提出の学位請求論文「経済哲学の基本問題」審査の教授会があり、出席教授二十一名投票の結果、可一三、否一、白票七をもって不通過となる(可とする者出席人員の四分の三にみたく)

7・13 本学事務職員共済会総会を職員集会所において開催する

7・17 太平洋クラブ夏季旅行が満鮮班は村松祐次助手引率、学生一〇名で本日出発。八月九日下関着。米国班二名も本日出発する

7・26 本日および二九日の両日、マイソウル政庁、東洋通商代表B・シャンカー氏来学、学内を参観する

7・30 杉村助教授学位請求論文審査の白票の意味決定のための教授会開催案に対し、助教授、助手、専門部教授中より反対の声明を発表する

▽商品学研究と実地研究のため、欧州各国および南北アメリカへ留学中の河合諄太郎専門部教授、二カ年の期間を終えて帰国する

7・1 わが国経済学の研究成果をを国際的に紹介するために設けられた本学内の委員会は、国際文化交流施設と連絡を計り、ロンドン大学との連携運動が着々と進められる

▽創立六〇周年の記念事業として、一橋最近の一〇年史編纂のことが、記念事業準備委員会において熱望される。予科理事会においては、予科創立史の資料蒐集をはかる

8・8 文部省通牒により「酒なし日」挙行に関する件が次のような概要で示される。①挙行期日、昭和一〇年九月一日、②挙行範囲、全国一斉、③主催者、官民協力、④必行事項、同日行なわれる公的会合に酒を用いざること、各個人相戒めて飲酒をなさざること

9・4 午後、学長と助教授団懇談。都下新聞に白票問題が報道され、社会の注目するところとなる

9・5 杉村助教授提出の学位請求論文、『経済哲学の基本問題』として、岩波書店より発刊される

9・6 杉村助教授提出論文の白票問題について、如水会員中、若手よりなる同志会、杉村助教授を招いて事件の経緯を聞き、学園の振興、明朗化に全力を尽くすこととなる

▽一橋会旧役員会が午後六時半、如水会小集會室で開かれ三二名出席。白票問題について山口助教授より事情を聴取。同会名において、同問題に関して声明書を発表する

9・7 午前一〇時、教授団と助教授・助手団との懇談会。午後四時教授会が開催され、杉村助教授提出論文は不通過と再決定される

▽一橋会旧役員会常盤、杉本両教授より事情聴取▽多摩湖電車事件に関連して辞職した木村予科主任、石田学生主事の後任として予科教授阿久津謙二が予科主任に、予科教授金子弘が学生主事に任ぜられる

9・8 孫田教授辞表を提出、受理されず

9・9 杉村助教の学位請求論文問題に端を発した学園の紛争に対して、如水会同志会は頗る遺憾の意を表するとともに、大学自体が自治的にこれを解決することを本義とし、本問題の進展に甚大な関心を寄せるが、しかし、しばらく事態の推移を正視するとの申合せを発表する。

9・12 矢野記念館で杉村助教新著読書会が開催され、終了後、居残った如水会員七〇名によって「一橋学園振肅同盟」が成立し、「学長および教授会はその責任をとるべきを確信」する旨決議し、事件解決まで引き続き集合の件を決定する。なお一橋会旧役員会は同盟に参加合流する。

9・13 「一橋学園振肅同盟」実行委員四名、決議文を携行、国立に学長を訪ねる。面会できず、黒川事務官に託する。

9・14 午後一時兼松講堂において助教有志による杉村助教論文研究報告会を開催、終了後、午後三時半より第一回学生大会が開催され、学長ならびに教授会に対して善処方を熱望する旨の決議が成立。

9・15 教授会より杉村助教宛に近著序文中の「故意に」の字句を中心に質問書を発する。

▽助教教授山田雄三、二カ年にわたる海外留学のた

め出發する。

9・16 杉村助教より学長に、教授・助教懇談会開催を申請するが、拒否される。

9・18 杉村助教論文問題に關し、全一橋学生大会の名において第二回大会が午後六時、兼松講堂において開催され、第一回大会声明に対する学長ならびに教授側の誠意が認められず、解決に対する責任を問う旨の決議がなされる。

▽午後三時二〇分、佐野学長は教授・助教に對し、学園自主解決のため、双方積然と握手し和協を求め、自らは全責任を負って善処する旨の声明を出す。

▽午後七時半、職員集会所にて教授側六教授と助教側三助教談し、助教側はゆきがかかりを捨てすべてを六長老教授に一任する。

▽如水会内で昭和四、五、七、八、九年度卒業生振肅達成会が開催され、のち、合同大会となり「一橋学園のため学長ならびに教授会がその責任を明らかにすることを要望する」と決議、なお助教側ならびに学生大会へのメッセージ、田中如水会理事長宛の要望をも採択する。

9・19 如水会各年度合同大会実行委員一〇名、国立に学長、助教側、堀教授、学生委員を訪問

し、決議文、メッセージを送る。長老教授と他教授との会合があり、深更に至るもなお数名の教授積然とせず

▽午前一〇時教授会が開催され、杉村助教の陳謝を要求する主張と六長老教授に一任する主張とに意見分裂

9・20 六長老教授と他教授との会談が昨日に続いて行なわれるが、一一教授が依然として積然とせず、成案を得ず。一一教授白票に関する声明を発し、始めて助教側と会見する

▽午前一〇時、第三回学生大会を開催する。如水会振肅同盟、非積然教授ならびに学長の自決を要求する旨決議する

▽佐野学長、午後八時文部省におもむき、辞意表明との報あり

9・21 午後三時黒川事務官、佐野学長の辞表を文相に提出

▽第四回、第五回学生大会を挙行。佐野学長に無条件辞職を要望し、実行委員は有力先輩を訪問、これを懇請する

▽午後五時、兩中学生一、二〇〇〜一、三〇〇名、如水会館内に集合、先輩の慰撫にて午後八時散会する

9・22 本学創立六〇周年の記念式典は延期されたが、兼松講堂で午後二時二〇分より第六回学生大会が学長辞任後の態度を決すべく開催される

9・24 講師三浦新七博士山形より上京、佐野学長と面会する。六長老教授および助教側は同博士を後任学長に推すことに決定、如水会振肅同盟もまた異議なし

10・1〜23 文部省委嘱、本学主催の成人講座が一橋講堂で開催される。申込二四〇名中、一五〇名を選衡、盛況を極める。講師、山口茂、吉田良三、田中誠二、川上多助の四氏

10・2 三浦博士の就任遷延し、学生また運動に入る機運濃厚。如水会振肅同盟もまた事情を聴取する

10・3 三浦博士、本日午前佐野学長を訪問、学長就任を内諾される。午後七時半より教授会開催、満場一致で同博士を推す

10・4 三浦博士、文部省に出頭し学長就任確定となる。午後三時半学生大会を開催、この運動の打切りを声明し、旧投書家懇親会に則る懇談会を組織する

▽如水会員中の若手よりなる「一橋学園振肅同盟」、三浦博士の後任学長出馬により、同盟を解消

して「一橋批判会」と名称を改め、少壮教授の「金曜会」、学生の「懇談会」と歩調を合わせるこ
ととなり、将来の浄化振爾の声明を発表する

▽九月一四日の白票問題に関し学生独自の立場か
ら助教授側の主張を支持して、第一回学生大会を
開催以来三旬、その間六回の学生大会が開かれた
が、三浦博士ならびに先輩側の勧告を入れ、三浦
博士学長就任の見通しもつき、運動解散とともに
今後は内省的爾学に移ることを誓う最後の学生大
会が開催される

10・8 教授井藤半弥、「租税原則学説の構造と
生成」の論文を提出（本学）、経済学博士の学位
を受ける

▽教授加藤由作、「海上損害論」の論文を提出（本
学）、商学博士の学位を受ける

10・9 少壮教授二〇名如水会に会合し、協同的
学園を目指し、爾学の烽火をあげる。すなわち、
今後毎月第一金曜日に教授、有志が学生集会所に
会合し、学園向上の協力機関として「金曜会」設
置を決定する

10・13 往年の投書家懇親会に範をとり爾学のため、学長、教授、三科学生を打って一九とした討
論機関として「土曜会」が生まれる

10・15、18 第四三回全国商業学校長協会会議
が、一橋講堂で開催される

10・16 東京商科大学長佐野善作、願により本官
を免ぜられる

▽正四位勲三等貴族院議員、法学博士、三浦新七
本学講師、東京商科大学学長に発令される

10・19 兼松講堂において、三浦新学長の就任式
が挙行される

10・25 国立学会主催第一七回学術講演会が一橋
講堂で開催される。講師、上田辰之助、深見義一
（専）両教授

▽専門部会研究部主催により「専門部生活批判座
談会」が開かれ、学制改革案を採りあげ「生活批
判会」を結成する

10・28 小平予科講堂、化学教室、図書館予科分
館の上棟式が挙行される

11・4 専門部会旗ができ、本日推戴式を行なう

11・8 創立六〇周年記念式が三浦新学長を戴い
て兼松講堂で行なわれる。なお式後一橋会主催に
より、申西、籠城両事件を追憶して、山口、米谷
両助教授が講演

▽創立六〇周年記念事業の一つとして創立記念式
後、一橋会主催による学術講演会が、戸坂潤、三

木清、土屋喬雄の三氏を迎えて兼松講堂で開催される

11・15 学園肅清の波に乗り予科生の間に読書会設置の熱がさかんに起こり、さきに許可された時事経済研究会、経済学研究会とともに今回、哲学研究会、文学研究会が許可される

11・16 「土曜会」第一回会合が行なわれ、学制改革準備資料に、現行講座内容に忌憚のない批判討議が行なわれる

11・22 国立学会主催第一八回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、米谷隆三助教、内藤濯教授

11・23 学生座禅道場として本邦唯一を誇る予科の如意団道場が、古河男爵、菅礼之助氏等多数の先輩、学生の出席と大徳寺派管長太田晦巖師の提唱があり、開堂式を行なう

11・24 第一四回日本学生ホッケー予選第一部に出場した本学チームは、対立大戦を2-0（一月六日）、対早大戦6-1（二月三日）、対慶大戦2-1（二月一日）、対明大戦8-0（二月二日）、と全勝して第一位を獲得。二月二日、三日関東決勝にOB代表の一橋クラブと同志打ちで戦い3-1で破り、関東代表選手権を得、本日

関西代表京都帝大と全日本決勝戦で4-0と一蹴して、堂々二度の全日本選手権を獲得する

11・25 専門部横外に建築中であつた本学YMC Aの一橋寮が完成、本日開寮式が行なわれる。またYMC A主催で矢内原忠雄東大教授の講演会が開催される

11・29 佐野善作前学長に、東京商科大学名誉教授の称号が授けられる

▽オーストラリア、ニュージーランド等親善使節として使命を果たし帰国された出淵大使を迎え、三科合同の講演会が兼松講堂で開催される

12・2 太平洋クラブ夏季海外旅行調査報告会が開催され、川島信太郎大使の批評と、根岸信講師の「満洲国幣制及為替管理」と題する講演会が開催される

12・3 本学先輩、平生鈇三郎氏（明二三本卒）、実業・教育界の功労者として勅選貴族院議員に任ぜられる

12・11 本学孫田秀春教授、在独日本学会六代目の主事就任のため出発する

12・14 学内の懇談機関、「土曜会」の討論会が開催され、わが国現時思想界の重要時にかんがみ、討論の主流を社会問題に重点を置き、その視

昭和十一年
(一九三六)

点から大学論および学内諸問題を取り上げること
を主核となすこととなる

12・16 「一橋地理歴史学会」の発会式ならびに
第一回例会が開かれ、三浦学長、幸田成友予科教
授の研究報告が行なわれる

12・21 高垣教授等四氏を発起人として昨秋設立
された日本経済学会は、斯界の第一線教授八〇余
名を会員に擁し、本日矢野記念館において第二回
大会が開催される

12・28 二〇年来継続されてきた本学養成所生徒
に対する補給金を明年度より停止する旨の通牒が
ある

1・18 本学事務職員によって「親和会」が結成
され、規約を作る

1・23 名誉教授神田乃武男爵追悼展覧会を専門
部で挙行する

1・25 「土曜会」が開かれ、学内問題を俎上に、
研究年報、年報以外に月刊雑誌発行、学術部解散、
一橋学会設立、ゼミナール等の問題が討議される
1・27 専門部志願者激増し、養成所は補給金停
止のため低調

2・7 国立学会主催第一九回講演会が一橋講堂

で開催される。講演者、高垣教授、河合専門部教
授

2・10 以下の人事が発令される。予科主事事務
取扱に大学教授上田貞次郎、専門部主事事務取扱
・商業教員養成所主事事務取扱に大学教授吉田良
三、附属図書館長に大学教授本間喜一がそれぞれ
任じられる。また、予科教授阿久津謙三は予科主
事を、大学教授兼専門部教授堀光亀は専門部主事
を、同藤本幸太郎は商業教員養成所主事を、大学
教授高垣寅次郎は附属図書館長をそれぞれ免じら
れる。東京商科大学学生主事に金子弘(学部勤
務)、堀潮(予科勤務)、伊坂市助(専門部勤務事
務取扱)が任じられ、井浦仙太郎が主事を免じら
れる

2・11 肅学のため就任された三浦学長は事態の
平和的解決と学生・教授相互の信頼を強調して来
たが、従来の誤解一掃のため、三科にわたる全役
付を一新するに至った旨を、紀元節当日の訓示に
おいて発表する

2・13 三浦学長の行政方針に反対する本科・予
科教授一四氏、連袂辞表を提出する。三浦学長、
辞表受理を拒む

2・14 三浦学長、辞職組教授五氏と懇談するが

解決を見ず、委託二氏の辞表とともに受理。他の七教授は辞表を郵送する。一四教授声明書を発表する

2・15 辞職組教授中二氏、代表して文部省に赤間専門学務局長を訪ね、辞表提出理由を説明するとともに意見書を提出する

▽学生、クラス代表委員を集合し協議を重ね、三浦学長の学園爾正方針を信頼して学長を絶対支持し、今後静観を続ける旨を明瞭にする

▽辞職組教授中四氏、同夜丸ノ内鉄道ホテルにおいて新聞記者団と会見、事情を具体的に披瀝する

2・17 専門部出身者の学部への優先的入学を要求して、学生の間運動起こる

3・25 本学の先輩、平生夙三郎氏（明治二十三年卒、貴族院議員、川崎造船社長）、広田内閣の文相に就任する

3・27 勅令第三三号によって官立商業大学官制中、助教一〇人を一人に改められる。この増員一名は専ら司書官として図書館業務に従事することとなる

3・28 昭和一〇年度学士試験合格者は卒業人数は次のとおり。学士試験合格者二五四名、専門部卒業者一七六名、養成所卒業者二八名

3・30 小平の子科特別教室、講堂、図書館等新築落成する

4・1 本学事務規程が改正され、本日より実施する

4・3 一四教授の辞表提出によって、全教授団が三浦学長と対立しているかのような誤報があり、一四教授を除く六五名の全教授が如水会に集り、学長支持の声明書を発表する

4・10 予科一橋寮、開寮する。一年生は強制入寮（食費一日五〇銭、寮費年二二円、自治費年一五円）。学生主事が寮監を兼任する。入寮者数は、一年一八二名、二年二四名、三年二三名

4・11 昭和一一年度新入学者宣誓式が舉行される。入学者数は、学部三〇二名、予科二四七名、専門部二二一名、養成所三七名

▽一四教授の辞表提出によって、学内の紛争再燃し、解決の曙光見えず。学生焦燥の色深く、一橋会理事は、三科統制部・交渉部およびクラス委員会を確立し、他からの容喙を一切排除して、文相、学長間において学園更生の打撃策を打ち建てることを懇請する「嘆願書」を平生文相に提出する

▽一橋学府再建の本源となろうとして、学生のみ

主的・協同的研究の中核機関、「一橋学会」が創設され、学生の自由な参加を求めて声明書を発表する。

▽予科図書館移転を完了、本日より開館する

4・13 専門部レアー・プラン制を採用する

4・25 新学期初の土曜会が開催され、先に同会において設立を承認された「一橋学会」の会則大綱草案が審議される

4・27 兼松講堂においてメルホルン博士の

“Australia and British Commonwealth of Nations”と題する講演会を開催す

4・28 予科会臨時総会を開き、学園振興の実績を挙げるため、従来の学芸部を学術部、文芸部の二部に分け、さらに弁論部、研究部を学術部に統合することを決定する

4・29 ベルリン・オリンピックへ出場のホッケー

1選手選抜の同協合理事会において、正選手一四名、補欠五名を発表、本学から六名が選ばれる

5・2 三浦学長独自の解決を信頼して静観を続けていた如水会員間では、学長の解決案が四月初旬すでに文部省当局へ提出され、取捨遅延は当局の認識過誤にあるのではないかを憂慮して、四月二十九日以来有志により協議を重ねていたが、如水

会内全会一致、三浦学長の方針を絶対支持し、学園問題の速かな解決の要望を表明する

▽一橋新聞部主催「ギリシャを語る夕」が一橋講堂で開催される。三浦学長、川島信太郎氏の講演

5・9 先に提出中であつた杉村助教の辞表と、辞表提出一四教授のうち、高垣、本間両教授の辞表はそのまま受理、本日依願免官の発令がある

5・11 専門部教授渡辺、金子両氏出講を辞退する

▽専門部二年生、一一教授の辞表提出問題をめぐつて三浦学長支持を決議し、平生文相に嘆願文を提出

5・14 講師山中篤太郎、三年間の外遊を終え本日帰国する

5・15〜18 全国商業学校長協会主催の本年度協議会が如水会館で開催される

5・20 第一回専門部振興会(学生)が開催され、現行学制改革のことを討議する。専門部主事も賛意を表し、教授・学生それぞれにおいて試案を作成、改革に向うこととなる

▽中小商工業改善問題について、そのうち庶民金融改善策の資料調査を本学、東大が協同で行なうこととなり、本学では猪谷教授、東大では荒木・

東畑両教授、ゼミ学生を総動員して、本日より開始する

6・1 高垣・本間両教授、杉村助教の依頼免官発令にまで発展した学内事件は、他の一教授の辞表再提出によって、さらに紛糾を続けていたが、如水会理事長田中都吉、理事福井菊三郎両氏の斡旋、三浦学長の努力によって九教授が復校を申し出、二教授は辞意をひるがえさなかったが、一応の解決を見ることとなる

6・3 学内事件も一応の解決を見、今後は一意蘭園に向かって邁進のため、三浦学長、三科の全学生を兼松講堂に集め、訓辞を行なう

▽学長の訓辞後、学生は二月以来の学内紛擾に対する学生運動を打ち切るため、最後の学生大会を開催。統制部、交渉部、本科部、予科部、専門部、一橋学会、一橋懇談会、専門部振興会、予科学術研究会の各代表、それぞれ立って学内振興方針について熱弁を振り、肅学声明書を發表して統制部を解散する

6・4 一橋懇談会において専門部総務理事の失言があり、専門部学生大会紛糾して、理事会総辞職する

6・5 日本精神の探求をめざして本学内に皇学

会が結成され、算講師指導の下に第一回讀書会を開催

6・8 専門部中和寮の自治について、先輩が動き、弊風を一掃することを決定する

6・16 専門部研究部、語学部主催で対外通商問題の講演会が、通商局長松島鹿夫氏（明四五攻卒）を聘して開催される

6・20 専門部振興会、専門部内制度の改革に乗り出す

6・25 太平洋クラブ、新興国シヤムを中心にマレー半島各地の経済事情につき認識を深めるため、伊坂専門部教授引率の下に一行八名が本日神戸港を出帆する（八月二二日帰国する）

6・26 国立学会主催第二〇回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、高島善哉予科教授、山中篤太郎講師

6・29 インド・マイソール政庁駐日商務官シャーカー氏来学、三浦学長に面会し、インド留学生に対し好意ある取計いを受けたことを謝す

6・30 一橋学会繊維工業研究室、福原八郎氏（明三三卒、南米拓殖KK社長）を招聘し、講演会を開く

7・8 四月開催の一橋懇談会席上、専門部総務

理事が、専門部独立賛成の失言に端を発して、専門部理事会総辞職にまで進み、本日専門部大会を開催して、理事の改選が行なわれる

7・15 教授上田貞次郎、太平洋会議出席のため米国へ出張を命じられる

▽太平洋クラブ旅行団満洲班、高島予科教授引率の下に本日出発する

7・17 東京商科大学事務職員親和会七月例会を開催し、会規を改正する。会后同事務職員共倫会総会を開催し規約を改正する

7・31 太平洋クラブ北米視察班本日出帆（一月三日帰国する）

8・25 二月、一二教授とともに辞表提出中の渡辺大輔教授、金子弘専門部教授は、九教授の復校後も辞意固く、ついに本日依願免官が発令される

9・13 尾久二千メートル・コースで行なわれた関東インター・カレッジのレガッタ（エイト）で、準決勝において四〇年前の宿敵一高を破り、決勝戦で明大を破って優勝する。なお、関西インター・カレッジの覇者三高との全日本選手権争奪レースは、九月二三日瀬田川で挙行、本学が優勝、秩父宮杯を授与される

9・24 わが国の経済的進出を中心問題として開

催された太平洋会議に出席した上田貞次郎教授が帰国する

▽大学講師杉浦徳次郎、保険数学研究のため、仏・伊・英・米各国へ出張を命じられる

▽インド・インドール侯国女子教育長官インディラ・バイ・バーグワット女史、来観する

9・25 太平洋問題調査会に、大阪綿業関係の実業家代表として出席された浜野恭平氏（大正一二学卒）来学、綿布輸出問題を主題として講演を行なう

9・29 本学教員養成所では、師範卒業者に対して優先的入学権を確立してその使命を認める。養成所出身者には義務年限を強制されることとなる

10・3 オリンピック大会で奮闘した本学ホッケー代表選手、オリンピック本隊とともに本日帰国する

10・6 籠城事件以来五年を迎え、一橋会主催で申西、籠城事件記念式を兼松講堂において開催する。申西事件については先輩島田宏、籠城事件については藤本恒雄両氏が講演、なお助教山口茂も演壇に立つ

▽記念式に引き続き一橋会主催で、本学ホッケーチームの凱旋、ポート部の全日本エイト選手権獲

得、馬術部の全日本学生馬術選手権獲得を祝う祝勝式が兼松講堂で行なわれる

10・9 一橋学会主催で、この度の税制改革を問題として、井藤半弥教授の「税制改革案解説及び批判」の講演会を行なう

10・22 一橋会国際部、太平洋クラブ南洋班の旅行報告会を行なう。当日、先輩矢田部シャム特命全権公使の講演も行なわれる

10・23 一橋学会、内閣調査官奥村和男氏を招聘し、講演会を開催する(電力民有国営の問題)
▽如水会青森支部設立される

10・30 国立学会主催第二回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、吹田順助、上田貞次郎両教授

10・1 昨年五月、本学とロンドン大学経済学部とが提携し、本学蔵の稀覯書を復刻して、広く世界に頒布しようという計画による第一回の試みとして R. Mathus, *Principles of Political Economy*, 2nd edition が出版される

11・15 専門部、国立移転一〇周年を迎え、第一回記念祭を盛大に行なう。記念式典に引き続き、先輩小坂順造氏の講演あり

11・17 予科、紀平正美氏を小平に迎え、哲学講

演会を開く。講演後、改選の新理事会による臨時総会を開く

11・19 爾学運動の再認識、予科会定款改正、選手制度批判、一橋學術の社会的進出等について、第二回予科懇談会が開催される

▽専門部研究部主催名士招待講演会が、東洋経済主筆石橋湛山氏を迎えて開催される

11・21 専門部会会報、「爾園記念号」を発行したが没収される

11・24 如水会ヘルピン支部設立される

11・26 専門部理事会は「爾園記念号」問題で総辞職する

11・27 国立学会第二回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、幸田成友予科教授、太田哲三教授

11・28 専門部、国立移転一〇周年祭挙行に際し、理事会の名をもって発行された爾園記念号に端を發し、運動部会の提案で招集された再度の臨時総会において、研究、文芸、一橋新聞専門部支部の三文化部解散と、問責案が可決される

▽一橋学会法学研究部、東京裁判所八木田政雄予審判事を迎えて講演会を開く。「瀆職罪に就て」

12・12 一橋会理事會編「東京商科大学六〇周年

昭和十二年
(一九三七)

- 記念論文集』刊行される（第一部一二篇、第二部九篇、第三部六篇、菊判、八〇〇頁）
- 12・22 定款改正を主議題として予科会総会が開催され、理事の定員を増し、直接選挙採用が可決される
- 12・23 一月一四日の教授会において三浦学長辭意を表明。同一八日の正教授会において選挙の結果、満場一致で上田貞次郎教授当選。三浦学長はこの旨文部省に報告、本日三浦学長は本官を免ぜられ、上田貞次郎教授、学長に任せられる
- 1・8 始業式終了後、学長就任式が挙行される
▽昭和九年予科本館竣工に引き続き建築中であつた予科附属建物が完成し、本日文部省との間に引継ぎが行なわれる。主な建築物は次のとおり。
特別教室および研究室、講堂、図書館書庫および教員閲覧室、同事務室および学生閲覧室、生徒控室、集会所および食堂、雨天体操場、銃器室および運動具室、その他
- 1・19 専門部教授吾妻光俊、文部省在外研究員としてドイツに二年間留学のため、本日出発する
- 1・20 本学内に研究所設置の要望は久しく、文部省に対する研究所開設経費の要求も六年に及ん

- だが実現を見ず、その前提と見られた貿易自主運動調査事業も不振に陥りつつある時、本日の如水会における新旧学長送迎晩餐会で、会員横山兼吉氏、退職資金募集案とともに会員の寄付による研究所設置のことを提案、如水会々員間にその機運が台頭する
- 1・22 一橋会新旧会長辞任ならびに推戴式を挙行。引き続き一橋会臨時総会を開き、癸亥文庫（関東大震災後、書物不足の時学生の便を計って設けられたもの）蔵書を予科、専門部に分配の件を可決する
- 1・28 教授増地庸治郎「株式会社の本質に関する経営経済的研究」の論文を提出（本学）、商学博士の学位を受ける
- 1・29 国立学会主催第二三回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、猪谷助教授、川上予科教授
- 1・30 帝国学士院新会員に推薦された上田貞次郎学長、本日勅旨をもって親任される
- 1・31 専門部端艇部は昨秋ロンドン盃を獲得、五年連勝を祝して、先輩の団体・墨提会から記念盃が贈られる
- 2・2 林銃十郎内閣成立し、佐藤尚武氏（明三

- 七本卒)、外務大臣に就任する
- 2・4 堀潮専門部学生主事兼教授、予科教授となり予科主事に補せられる
- ▽予科教授山田九朗、予科学生主事に就任する
- 2・9 事務官黒川善一が免ぜられ、公立実業学校長兼教諭大庭一郎(大二養卒)が東京商科大学事務官に任ぜられる
- 2・1 本年度入学志願者総数は次のとおり。学部三〇四名、予科一、七五五名、専門部一、四九三名、養成所二五一名
- 3・5 教授吹田順助、附属図書館長に補せられる
- 3・8 わが国貿易自主運動の調査を行なっていた本学の調査部、研究員をひとまず解散し、改組の上、新たに開始することとなる
- 3・19 ベルリンの日本学会主事として赴任していた孫田秀春教授、任期終了し本日帰国する
- 3・23 如水会仙台支部が設立される
- 3・27 大正四年以来、本学講師を担当せられた担保物件法の権威、法学博士三浦信三氏急逝される
- 3・28 兼松講堂において昭和一一年度学士試験合格、卒業ならびに修了証書證書授与式が挙行さ

- れる。学士試験合格者二五一名、予科修了者二〇二名、専門部卒業生二〇名、養成所卒業生三七名
- 3・31 学則中、商学専門部・商業教員養成所の授業科目に関する規定を改正する
- ▽本学教授堀光亀、内池廉吉、山田正暲の三氏、定年退職
- 4・5 専門部教授太刀川浩一郎、学生主事事務取扱・学生課長を命じられる
- 4・8 本学教授石川文吾、木村恵吉郎の二氏定年退職
- 4・12 兼松講堂において昭和一二年度新入学者宣誓式を挙行する。新入学者数、学部三〇三名、予科二五六名、専門部二一九名、養成所三〇名
- 4・14 昨年の官制改正により、本学に司書官としての助教授が一名増員され、小田橋貞寿(昭和五学卒)、本日発令、就任する
- 4・17 三浦新七前学長に東京商科大学名誉教授の称号が授けられる
- 4・20 一橋学会主催、新入学者歓迎講演会が開催される。講演者、石橋湛山氏
- 4・21 佐野元学長退官記念事業を計画中であった如水会関係者、本日発起人会を開催、会名を

「佐野前学長記念事業会」とし、四〇〇名の委員を選定、事業として「佐野文庫」を創設、その他適当な事業を行なうこととなる

4・24 太平洋クラブ・国際部共同主催で、外国留学生（四カ国、二二名出席）歓迎会を催す。ちようど来学中であったインド国民運動の志士チャマン・ラル氏も出席、演説を行なう

5・1 専門部国際協会、研究部より独立して発会式が行なわれ、荒木光太郎東大教授が講演

▽本学期最初の一橋懇談会が学制改革を狙上に、井の頭富美屋で開かれる

5・5 如水会仙台支部設立される

5・18 専門部会、定期総会を開催する

5・19 学内紛擾等により解散されていた専門部研究部、文芸部再興について理事会主催で文化部設立懇談会が開かれ、文化部再興する

5・20 図書館利用普及のため「閲覧案内」が初めて発行配布される

5・26 教授高瀬莊太郎、フランスを中心に社会学の近況調査等のため、本日欧米視察旅行に出発する。なお、パリにおける万国高等商業学校同窓会主催の国際会（九月一二—一六日）に如水会を代表して出席する

5・28 国立学会主催第二四回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、田上教授、孫田教授

5・29 四月末完成の専門部三千坪のグラウンドにおいて、今年より春季にも定期運動会開催のことが決まり、吉田主事寄贈の主事旗奉戴式があり、式後同旗および先輩寄贈盃をめぐり各種競技が盛大に行なわれる

5・31〜6・2 学内事件のため、一時中絶をしていた三商大学長会議が復活、神戸商大で開催され、上田学長、大庭事務官が出席する

5・1 商大南琴吟社、句集『白面』を出版する（限定一八〇部）

6・5 一橋会理事會監事會を開催し、一橋會各種報告、予算審議のほか、佐野、三浦前学長記念事業、左右田博士追悼記念事業の件等を協議する（なお定期總會は六月二九日開催）

6・10 フランスの世界的ピアニスト、アンリ・ジルマルセエックス氏を招待し、兼松講堂において同氏の講演とピアノ演奏の會が催される

6・23 南米ヴェノスアイレス如水会支部設立される

6・25 国立学会主催第二五回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、内藤章教授、高橋泰

蔵助教授

6・26 本学の大先輩、前文部大臣平生飢三郎氏来学、兼松講堂において超満員の学生を前に講演を行なう

6・1 本年度本学太平洋クラブ学生海外旅行日程次のとおり。北米班A―出帆六月一七日、帰着八月八日、同B―出帆六月二八日、帰着九月一日、南洋第二班―出帆七月五日、帰着八月二六日、フィリピン班A―出帆七月一日、帰着八月六日、同B―出帆七月二五日、帰着八月三十一日、南洋第一班―出帆七月二二日、帰着八月二五日、フリカ班―出帆七月一四日、帰着一〇月二五日
▽専門部会は理事会の手によって編集部を創設し、専門部会のすべての刊行物は同部を通じて刊行されることとなる

7・5 前教授、内池廉吉、石川文吾、堀光亀、木村恵吉郎の四氏、東京商科大学名誉教授の名称を授けられる

▽専養学制改革調査委員会成立

7・7 本学先輩加茂儀一氏を講師として本年度学部第一回の日本文化講座を開催

7・15 スタンフォード大学で開催される第四回日米学生会議へ出席する全国大学専門学校より選

出の五〇名の代表学生に、本学より三名を派遣することとなり、本日加田哲二慶大教授引率のもとに出發する

7・21 今次日支事変に際し、配属将校太田紀一少佐、予科講師押川又一召集される

7・25 予科理事会は『予科一五年史』の編纂を企図、編纂委員会を組織し、本日第一回委員会を開催する

7・1 本学学生の機関雑誌として『一橋評論』創刊される(一橋学会発行)

▽予科一橋寮の増築着工する

8・2 世界教育会議が本日より六日間にわたり東大において開催され、八部会のうち商業教育部会には上田貞次郎学長が議長となり、上田辰之助教授とともに司会、本学関係者多数出席する

8・28 予科助教授阿蘇品政利、専門部講師貝守奥治、本日召集を受ける

9・4~5 関東インター・カレッジ・レガッタが、わが国初の試みである尾久二千メートル直線コースで舉行され、本学の参加したエイト競漕において、第一予選で慶大を、第二予選で千葉医大を破ったが、準決勝において東大に惜敗し連覇の望みを失う

9・12〜13 全日本選手権競漕関東予選が都下一〇クルーの参加で尾久二千メートル直線コースで行なわれ、本学より全一橋、専門部、予科の三クルーが出場したが、全一橋は決勝で東大に、専門部は早大に、いずれも敗退

9・18 明治四五年度卒業生より成る四五会が卒業二五周年を記念して学校側へ贈られた「一橋の鐘」の碑が竣工(表側、一橋の鐘は上田貞次郎筆、碑文は黒羽英男作)

9・22 創立第六二周年記念式典が挙行される。式後一橋会臨時総会が開催されて、学生の本分を守り時局克服へ邁進のことが決議される

▽一橋会主催、左右田博士追悼記念講演会を兼松講堂で開催。故博士末亡人、令弟、縁戚者の参会を得、三浦博士の挨拶および深井英五氏の講演があり、式終了後、左右田博士胸像の除幕式が図書館において行なわれる

▽本学国際部、オーストラリア・メルボルン大学のベンジャミン君ほか二名の同大学本年度国際討論選手を如水会館に迎え、日豪国際討論会を開催
9・27 一橋学会総会が開催され、非常時局下における学生の自分にもとづく学術研究の方針として、各研究室学生を総動員し、戦時体制下の日

本経済の組織的な共同研究を行なうことに決定する
9・29 専門部日本文化講義として、穂積重遠法学博士が「道徳文化と法律文化」と題して講演を行なう

10・2 時局に対する認識を深めるため、本学教授による「時局特別講義」を催すこととなり、本日を第一回として次のように行なわれる。第一回(二〇月二日)上田学長(戦時経済概講)、第二回(二〇月九日)米田講師「日支事変を繞る 国際情勢」、金子教授「戦時経済史」、第三回(一〇月一六日)井藤教授「戦時財政」、猪谷教授「時局貿易と為替政策」、第四回(一〇月二三日)米谷助教「戦時思想動員」、第五回(一〇月三〇日)根岸講師「日支事変の前途と其の対策」、大平助教「日支事変と国際法」、第六回(一一月六日)内藤章教授「未定」、山口教授「戦争と金融」、第七回(一一月一三日)佐藤教授「戦争と資源」、山中助教「戦争と労働」、第八回(一一月二〇日)藤本教授「戦時保険」、伊坂(専)教授「未定」、第九回(一一月二七日)増地教授「戦時工業動員」
10・6 本科会理事會主催で、大熊信行氏を囲む座談会が催される

▽予科日本文化講義として石井柏亭氏が「世界に於ける日本の美術」と題して講演を行なう

10・8 国立学会主催第二六回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、岩田巖予科教授、吉田良三教授

10・9 専門部会、各クラス会は安藤教授の試験に際しての白紙提出問題につき討議する

10・12 安藤教授、辞意を表明する

10・14 安藤事件に関して教授会が開かれ、学生の処分(除名四、停学二、譴責一)が決定される
▽予科一橋寮に読書室、医務室および食堂の一部増築の地鎮祭が行なわれる

10・18 専門部助教教授田島源一郎、召集される

10・21 予科講堂において第二回日本文化講座が開かれ、大類伸氏が「城と日本文化」と題して講演を行なう

10・22 23 社会経済史学会第七回大会が本学図書館ならびに一橋講堂で開催される。なお同日は札差資料その他貴重資料を陳列・公開する

10・23 国民精神総動員行事の一つとして、予科教職員三〇名および生徒六一五名が武蔵瀧山城址へ島本中佐指揮のもとに行軍をする

10・30 専門部第二回日本文化講義として、工博

佐藤定吉氏の「科学と皇国信仰」と題する講義が行なわれる

10・1 今次日支事変に際し学内関係応召者一五名、如水会員中より一七三名の応召者を出し、戦死者二名、戦傷病者三名

11・1 専門部新理事会発足し、先に停学その他の処分を受けた学生の復学運動を行なう

11・3 全日本ナイト選手権に惜敗した本学クルーは、全日本フォア競漕において、東大、慶応、日大を撃破、本日の優勝戦において関西代表同志社、朝鮮代表総督府を破り、全国制覇を成し遂げる

11・12 国立学会主催第二七回學術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、井藤半弥教授、猪谷善一教授

▽予科会理事會主催、文化週間名士講演会が本日および一七日、二五日に行なわれ、三木清、杉本栄一、蠟山政道、茅野肅々氏の講演が行なわれる

11・18 本学助教教授山田雄三、二年の欧州留学を終え本日帰国する

11・22 専門部主事吉田教授が免ぜられ、後任に井浦教授が、また、同学生主事河合教授が免ぜら

<p>れ、後任に上原教授が就任する</p> <p>11・24 如水会香川支部の設置承認される</p> <p>11・27 一橋懇談会が吉祥寺富美屋で開催され、増地教授等学校側四名、学生多数参集、月刊誌として発行される『一橋論叢』のこと、また大学に新聞学科設置の希望等が話される</p> <p>11・29 一橋基督教青年会創立五〇周年記念講演会が開催される。講師、榎原巖氏、矢内原忠雄氏</p> <p>11・― 一橋英語向上のため英語劇を開催して語学の練磨を行っていた専門部語学部は時局にかんがみ、この種の行事を取り止め「一橋イングリッシュ」なる見出しの英文パンフレットを発行することとなる</p> <p>12・5 予科雨天体操場内籠球場改築落成し、本日コート開きを行なう。先輩の尽力によるもの</p> <p>12・11 国際部主催で、来春日豪文化使節としてブリスベーン大学に日本文明史講座担当のため渡豪する、清田予科講師の抱負を聞く会が如水会館で開催される</p> <p>12・21 予科、企画院調査官陸軍歩兵中佐池田純久氏を聘し「支那事変と北支開発」と題する時局講演会を開催</p> <p>12・24 村松祐次助手、臨時召集を受け、中野電</p>	<p>信第一聯隊に入隊する</p> <p>12・26 予科一橋寮内文化運動促進のため『一橋寮報』が創刊される</p> <p>12・27 外国人学生取扱規則制定される</p> <p>1・10 予科、日本国際協会副会長・法博山川端夫氏を聘し「事変を繞る列国の動向」と題する講演会を開催</p> <p>1・11 前年一二月二四日長崎を出帆し、戦後の上海を中心とする海運状況視察に渡支した伊坂専門部教授、帰国する</p> <p>1・22 三年越しの懸案であった予科の学制改革について、昨年九月より調査委員会で検討中であったが、本日の教授会において改革案通過、新年度より実施されることとなる</p> <p>1・27 本学基督教青年会『一橋基督教青年会五〇年史』(菊判、二一六頁、函版二二頁)を刊行する</p> <p>1・28 国立学会主催第二八回學術講演会が一橋講堂で開催される。講師、山田雄三助教授、増地教授</p> <p>1・― 専門部学制改革案表面化し、ゼミ選択科目に重点を置く</p>
	<p>昭和十三年 (一九三八)</p>

▽日本文化の顕揚と日本精神の眞の顕現を目的として「日本文化研究会」が設立される

▽東京商科大学国立学会、月刊『一橋論叢』を創刊する

2・1 予科一橋寮、第一回開寮記念式を挙行する。以後同日をもって記念式日とすることが決定される

2・3 予科学術部、理事会共催の講演会が、山田雄三助教を講師として催される

2・7 昨年五月、フランスを中心に渡欧、調査視察中の高瀬教授、帰国する

2・8 予科文芸部の雑誌『一橋』が創刊される

▽予科理事会主催、名士講演会が谷川徹三氏を招聘して「現代知識階級の文化的無地盤」の題名で行なわれる

2・14 一橋会理事を中心に三浦前学長の胸像設立のことが計画され進行中のところ、清水嘉示氏によってこのほど完成、本日図書館で除幕式が挙行される

2・20 日中満協会主催北支派遣大学生代表团に、本学学部一年内海得治郎、北村秀生両君、本学を代表して参加、本日出発する。三月六日帰京

の予定

2・26 木村恵吉郎名誉教授退官記念事業として、児島喜久雄画伯に依頼中の肖像画が成り、贈呈式が如水会館で行なわれる。一面は同氏に、一面は図書館閲覧室に掲げられる

2・1 専門部図書館改善案が学生より台頭する

3・1 オーストラリア・ブリスベン大学において日本文明史講座開講のため、外務省より推挙された本学予科講師清田龍之助、本日神戸を出帆渡豪する

3・4 予科一橋寮生の生活のシンボルともいふべき「一橋寮扁額」が、江口定條氏揮毫にて成り、掲げられる。横六尺、幅一尺五寸、厚三寸、材台湾檜

3・7 前予科教授本多謙三氏(大一一本卒)逝去される(享年四一歳)

3・10 本年度入学願書受理数次のとおり。学部三〇五名、予科一、八九一名、専門部一、三四五名、養成所二五九名

3・28 兼松講堂において昭和一二年度学士試験合格者・卒業ならびに修了証書授与式を挙行する。学士試験合格者二八九名、専門部卒業者二〇一名、養成所卒業者二三名、予科修了者二二二名

<p>3・1 創立以来本年までの卒業生総数は次のとおり。総数一八、四九〇名、うち二重卒業生(高商卒で専攻部卒、予科修了・専門部卒・養成所卒で学部卒の総数四、八二九名)を控除すれば、実数は一三、六六一名</p> <p>4・1 本年度入学許可者数は次のとおり。学部—予科修了者二二二名、詮衡を経た者八三名、外国人専科生四名、同特別生九名、予科二三〇名、専門部二〇六名、養成所三一一名</p> <p>4・12 学校側、父兄側両者間の意志疎通を計ることを目的とする会合が、予科入学式終了後、新たな試みとして開催される</p> <p>4・15 如水会員により堀教授退官記念事業会が起こされ、本日、記念品ならびに肖像画(石河光哉氏画)の贈呈式が如水会館で行なわれる。肖像画一面は本学に寄贈され、図書館閲覧室に掲げられる</p> <p>4・1 本学に各科懇談会を設置し、学制の調査に着手するとともに、急変する時代の転移に必ずする学園の建設を目指す。五月一〇日商学科、同一二日経済学科、同一六日法律学科、同二三日文化諸学の教授懇談会がそれぞれ開催される</p> <p>▽国際部学生有志により、「イタリー文化研究会」</p>	<p>生まれる</p> <p>5・2 日満学生交換の夕を開催</p> <p>5・7 内池廉吉博士退官記念事業会の記念品贈呈式が如水会館で行なわれる。石川光哉画伯筆の肖像画一面は図書館閲覧室に掲げられる</p> <p>▽昨年一〇月より小平一橋寮の食堂、読書室等増築中のところこのほど完了し、文部省より引渡しを受ける</p> <p>5・12 予科主任の申西記念日講演会が当時の卒業生代表松村光三氏を招いて予科講堂で開催される</p> <p>5・14 先に本学において開講した戦時特別講演を輯録した『戦時経済講話』の印税五〇〇円を上田学長、教授を代表して海軍省に献金する。のち海軍大臣米内光政氏より感謝状が贈られる</p> <p>5・17 三商大学長会議のため上京中の大阪商大河田嗣郎学長に委嘱し、「経済思想の変化と国策の本義」と題する講演会が開催される</p> <p>▽本科学理理事会主催で、本学出身朝日新聞編輯局河野健治氏の「北京政府成立を中心として」の講演会が開催される</p> <p>5・19〜20 本年度三商大学長会議が本学で開催され、人格教育を主眼に予科制度が検討される</p>
---	--

5・23～24 全国実業専門学校長会議および全国高校長会議において、学生生徒の集団勤労奉仕作業実施のことが承認され、今夏休暇より実行することが決定される。

5・27 国立学会主催第二九回学術講演が一橋講堂で開催される。講師、佐藤弘教授、高瀬荘太郎教授

▽海軍記念日講演会が兼松講堂で催される。講演者、海軍大教官山口文三郎氏。なお、予科講堂においても海軍軍令部出仕の馬場良文氏が講演

5・28 石川文吾博士退官記念事業会の記念品贈呈式が如水会館で行なわれる。和田英作画伯筆の肖像画一面が図書館閲覧室に掲げられる

5・1 経済調査部では、日本貿易史編纂事業をここ数年来継続し、とくに条約史、貿易史については川島信太郎氏に委嘱、調査が進められているが、さらに商業慣習の発達、居留地貿易の盛衰、日本商人の商権確立の歴史について調査を開始することとなる

▽専門部図書室の改革案として、長期貸出、閲覧時間延長を実施することとなる

6・3 兼松講堂において、先輩大阪商船社長村田省蔵氏の「海運及海運金融」と題する講演が行

なわれる

6・6 経済調査部の本年度の事業計画として、新たに猪谷善一教授が、日本資本主義発達史の一部として明治元年より日露戦争に至るわが国貿易の発達、貿易事情を調査することとなる

6・7～9 全国商業学校長会議が如水会館で開催される

6・12 第一一回予科記念祭を開催。記念式後、先輩、貴族院議員江口定條氏の講演が行なわれる

6・15 兼松講堂において、先輩、元外務大臣佐藤尚武氏の「原料資源について」の講演会が開催される。講演会後本年度の一橋会総会が開かれる

6・16 本科国防研究会主催で陸軍中佐高島辰彦氏の時局講演会が行なわれる

6・17 国立学会主催第三〇回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、山口茂教授、鬼頭仁三郎専門部教授

6・23 本学における調査研究機関の拡大強化のため、従来の「調査部」と上田学長の私的研究機関である「人口問題研究所」との合併が調査部委員会で決定され、学園の実証的具体的研究調査の学風振興を図ることとなる

6・24 国立における第一回日本文化講義として、算克彦講師による「日本精神要旨」の講義が行なわれる

6・25 商業教員養成所において、商業教育に関する諸種の研究、全国商業学校および教員団体との連繫、機関誌の発行等を行おうとして、養成所三学年を包括して「商業教育研究会」を創設、その設立総会を開催する

▽一橋学会総会が開催され、学会全体の集団勤労奉仕として七月五日から図書館所蔵の和雑誌から記事論文索引カード目録（昭和六年以降）作成作業が始められる

6・28 一橋会主催で北条秀一氏（昭五大卒）の「日支事変の見透しと対支経済政策の基礎」と題する講演会が開催される

6・30 一橋会主催で難波田春夫氏の講演会が行なわれる

7・4 一橋本科会定款が改正され、ゼミナール委員会復活設置、一橋学会改組拡大、各部綜合会議常設が決定される

▽戦時体制の進行にかんがみ、本学内に全学教職員を含めた「東京商科大学貯蓄組合」設立が決議される

7・5 兼松講堂において本科学生および専門部生徒に対し、先輩村田省威氏の「海運及海運金融」の第二回講演会が行なわれる

7・6～9 本科勤労作業班二五〇名、千葉県一ノ宮海岸に野営。評議員会が主体となり、配属将校川崎大佐指揮、太刀川学生課長も加え、砂防工事四日間勤労作業を行なう

7・7 次官会議において本年は各官庁、暑中半休を行なわないとの申合わせがあり、文部省からの通知により、本学においてもそのように実施することとなる

7・10 集団勤労作業として予科生徒は第一分団より第五分団に組織され、七月一〇日より九月一〇日に至る間、一人の作業は一泊二日、一橋寮に宿泊し次の作業に従事。上田学長ほか教授も参加する。狭窄射撃場建設、庭球コート建設、相撲土俵建設、道路改修および清掃、教室、部室、その他の清掃

7・13 文部次官通牒により、本日より毎日午前八時三〇分より約二〇分間、職員集会所前においてラジオ体操を開始する

7・18 助教授大平善梧、日本国際協会の依頼により、学生指導引率者として北支・満洲方面へ約

一カ月の予定で本日出発する

7・20 本学調査部と合体した人口問題研究所は、一橋講堂内に調査部分室として移転を終え、関係者一同参集し、今後の方針として、中小工業の調査を中心に人口問題その他、日本経済全般にわたる諸調査を行なうこととなる

▽五日から始まった一橋学会の勤労奉仕、和雑誌記事索引目録作成作業は、雑誌三五種、三五〇冊、索引カード約一万七千枚、参加者延人員二〇九名で本日一応の作業を終える

7・27 先に応召された予科講師、陸軍歩兵少尉押川又一氏は、涼亭河北方高地における戦闘において、戦死をされる

7・29 第二回日比学生会議がマニラで開催のため日本側学生（一六大学、二四名代表）の団長として本学猪谷善一教授、全員を引率して本日東京を出発（日比文化交流の使命を果たし九月四日帰国する）

8・5 『本多謙三追悼録』（同氏は大一三本卒、元予科教授、哲学担当）が刊行される（非売品、四六判、一七四頁）

8・21 専門部講師藤沢伝、召集を受ける
9・5 集団勤労作業として専門部生徒は、本日

より一〇日に至る間、学年別に国旗掲揚竿の設備、府道および校内の除草、校庭の芝植付、兵器庫前樹木の伐採整理、庭球コート修理、相撲土俵の新設を行なう

9・14 本科、専門部をもって組織する防護団は本科構内において、また予科防護団は小平構内において、ともに防空訓練を行なう

9・22 第六三回本学創立記念式典を挙行する。式後、先輩津村秀松氏の「時局の前途に就いて」と題する記念講演が行なわれる

▽高商時代から長い伝統に生きていた一橋応援団（端艇）は、昭和一〇年以後廃止されていたが、今回ようやく各方面との諒解が成立し、本日創立記念式典後、兼松講堂において一橋応援団結団式および出陣式が決行される

9・24〜25 全日本競漕大会が尾久コースで挙行され、全日本の優勝を狙って全一橋、専門部のエイト、予科のフォア三艇が出漕。全一橋は決勝戦に慶大を降して優勝、予科フォアは拓大を大差で降して優勝、両選手権を獲得する。専門部エイトクルーは準決勝で敗れる

9・27 予科において日本文化講義として、東大教授石本已四雄氏の「イタリー印象」と題する講

義を開催する

9・1 専門部卒業生の学部進学優先問題、教授間に有力化する

10・6 予科講堂において籠城事件記念式ならびに講演会が開催され、金子鷹之助教授、藤本恒雄先輩（昭七大卒）二氏の熱弁がある

10・10 四月以来紛糾を重ねていた本科会定款改正問題は、本日の本科会総会において改正案が可決され、本科の新機構が正式に決定、一橋学会の基礎拡充、セミ委員会の成立等の決定を見る
▽一橋会主催で五百猿頭真治郎神戸商大教授の講演会が開催される

10・21 国立学会主催第三一回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、久保（岩）教授、大平助教授

10・22 安徽省涼亭河北方高地において戦死を遂げられた故本学予科助教授、陸軍歩兵少尉押川又一氏の慰霊祭が予科講堂で挙行される

10・27 一〇月一〇日の本科会総会で決定を見た改正定款によるゼミナル委員会は、選出された委員により本日第一回の会合を持ち委員会成立、本科の横の連絡および学生の啓蒙的機関としての活動を申し合わせる

▽専門部、学制改革委員会成る

11・2 一橋会主催により兼松講堂において講演会を開催する。講師、三浦新七博士「西洋文化と日本精神」

▽本科、日本文化講義として京大教授、元本学教授高田保馬氏の講義が行なわれる

11・3 昭三専養会、卒業一〇周年を記念して専門部校庭国旗掲揚所南側に六クラス一本つつ六本の銀杏の木を寄付し、本日上田学長、堀元専門部主事、井浦主事を招き全学生出席の下に植樹式を挙行する

11・9 前教授、商学博士吉田良三氏、本学名誉教授の称号を授与される

11・10 国民精神作興に関する詔書渙発一五周年記念日にあたり、予科においてその詔書奉読式が挙行される

11・11 予科における日本文化講義として朝日論説委員町田梓櫻氏「欧米をかく見る」の講演が行なわれる

11・16 本科会定款改正による一橋学会改組は着進捗し、本旧旧学会の解散と新組織による全学生打って一丸とした研究室制度が樹立される

11・18 元学長佐野善作博士の四〇年に余る薫陶

に報いるため、子弟五千より成る佐野前学長記念事業会は、その贖金一〇万円の目標も達し、本如水会館において記念品贈呈式が挙行される。記念品内訳は、直接博士へ贈呈分、佐野書院の維持、佐野文庫図書購入、記念論文集編纂、銅像铸造等

11・21 教授猪谷善一、「最近日本貿易の伸展に關する実証的研究」の論文を提出(本学)、経済学博士の学位を受ける

11・22 専門部文化週間が開かれ、兼松講堂において本科生をも交え盛大に挙行される。講師として帰国早々の陸軍情報部岩崎少佐、外務省企画課本学先輩、田尻愛義氏(大九養卒)の一五年間にわたる中国駐劄の体験談あり

11・25 国立学会主催第三二回學術講演会が一橋講堂で開催される。講師、猪谷善一教授、河合諄太郎教授

▽予科会理事會主催の文化講演会が催され、本日は高坂正顕氏、二八日は長谷川如是閑氏の講演が行なわれる

11・25〜26 本年度第二次東部防空訓練が実施され、本学においては本科、予科、専門部、それぞれにおいて教職員学生生徒、避難演習および焼夷弾の実験その他の訓練を行なう

昭和十四年 (一九三九)

11・30 井浦仙太郎教授、専門部・養成所主事を辞任し、藤本幸太郎教授、後任主事となる

11・― 墨提会よりの経費援助により『専門部艇部報』を発行することとなる

12・9〜10 在日シヤム留學生学友會主催による「舞踊と劇の夕」が一橋講堂で開催される。本学國際部の演出によるもの、本学へ留学中の諸君の熱演もあり盛況

12・20 本学助手・予科講師阿久津桂一氏逝去される。同氏は本学専門部教授阿久津謙二氏の長男で新進の計理・簿記学者としておおいに将来を囑望されていた青年学徒である

12・21 予科日本文化講義として宮内省掌典、星野輝與氏を聘し「国体の根基」と題する講義が行なわれる

12・28 益田孝翁逝去される(享年九二歳)。氏は本学の前身商法講習所の創設者の一人であり、明治九年七月、三井物産會社を創設、社長就任以来三井關係會社で活躍、長く高商の商議員として一橋育ての親ともいふべき方である

1・23 従来本学關係者の懸案であった商業教育者養成の問題、養成所改革の問題は、商業教員に

大学程度の教育を授けることが緊急事となり、本日の教授会に商業教育者養成の特別規則が提出され、来年度より本学に施行のことが決定される

1・26 予科理事會主催で筈信太郎氏の文化講演會が開催される

1・27 国立学会主催第三三回學術講演會が一橋講堂で開催される。講演者、石田龍次郎 予科教授、上原専祿教授

1・29 隅田川一帯の地盤低下と船の往来はげしく、かねて静水コースでの練習を希望していたボート部では、本日上田学長ほか学校関係者、ボート部関係者が集まり、戸田コースの実地検分を行ない、敷地千坪買収のことが確定する

1・30 前助教授杉村広蔵、「経済倫理の構造」の論文を提出（本学）、経済学博士の学位を受ける

2・1 学生課、一橋會理事會共催の一橋會新旧役員懇談會が開かれ、学園全般にわたる諸問題が討議され、新たな氣構へと大陸發展に協力、その具体的な方策実行のことが話合われる

2・7 専門部會新理事會による最初の臨時總會が開催され、学部入試における優先權問題の取止め、學生側學制改革委員會解消の表明がなされる

2・11 代々木練兵場において、都下大學高等專門學校建國奉祝式が舉行され、本學は岩元中佐指揮の下に學生生徒一、五九二名、職員二三名が参加する

2・1 昭和一四年度入學志願者は次のとおり。本科三三四名、予科二、〇四五名、専門部一、四九八名、養成所二三九名

3・16 民法・労働法研究のため、ドイツ留学中の助教授吾妻光俊、帰国する

3・20 大學における軍事教練、必須科目となる

3・28 昭和一三年度學士試驗合格者、修了者、卒業者は次のとおり。學士試驗合格者二八四名（うち、外國人學生取扱規則による者一名）。予科修了者二二七名、同畢業者一名。専門部卒業者二〇三名、同畢業者一名。養成所卒業者三九名

3・30 教授山田九朗、予科學生主事を免じられ、教授太田可夫が任じられる

3・1 商業教育に従事する者の中、詮衡によりとくに毎年一〇名以内を本科に收容し、実業學校教員養成規程により修学させることとなり、四月より実施する

▽専門部研究部の提唱により誕生した「全國高商文化聯合會」はその後講演會・討論會等活動を遂

行しているが、今回機関誌を発行する

▽佐野前学長記念事業会の事業の一つである佐野文庫設立について、同会では如水会側および大学側から計五名の委員をあげ、図書選定・購入のことを委嘱、本日第一回分の寄付行為を終わる。また佐野博士と同期の七海兵吉氏（明二八卒）は同文庫宛に蔵書（洋書約一、二〇〇冊、和書約一四〇冊）の寄贈をし、その寄付手続を終わる。

4・1 昭和一四年度入学許可者は次のとおり。

本科―予科修了者二二六名、同業者一名、詮衡を経たる者九二名、商業教育に従事規定による者七名、海軍委託生一名。予科二四一名（特別生三名）。専門部一九八名（特別生四名）。養成所二六名。合計八〇一名

▽本学における商業教育学生の規則が制定され、第一回学生の入試は三月二七、二八日の両日に行なわれたが、本年度入学許可者七名が決定される

4・11 本日の教授会において、商業師範大学としての本学商業教育学生の指導主任教授として高瀬教授が決定し、商業教育研究室設立も決定する
▽上田学長、小田橋助教を滞同し、満洲国および中華民國の学術視察のため、本日東京を出発す

る。不在中、藤本幸太郎大学教授、学長事務代理を命じられる

4・13 本日の教授会において予科に停年制が確立される。本科の停年制は大学令によるもので六〇歳となっているが、予科は申合わせによってまづ六五歳と決定され、最初にこの適用を受ける教授として、峯間信吉、幸田友成の二氏が勇退することとなる

4・22 専門部新学生集会所竣工し、本日落成式を挙行する（二一畳、一七畳半、四畳半の三室）

4・26 学長主宰で、日比学生会議のため来日中のマピランガン団長ほか三〇名の比島学生を如水会館に招待し、本学および如水会側からも多数出席、午餐会を開く

4・28 予科主任本年度第一回の日本文化講義が兼松講堂において行なわれ、能楽の講義、観世・宝生両宗家の名演があり盛況を極め、学生に純日本芸術の認識を深めさせる

4・31 兼松講堂において、二二日発布の青少年学徒に賜わりたる勅語の奉読式を挙行する

4・1 東京商科大学「経済法研究所」を一橋講堂内に開設する。同研究所は本学関係教授の研究會、法律相談等のほか、全国の関係学者を糾合、

画期的な経済法の合同研究、経済法の概念、内容、方法、領域その他の討議等が計画されている

▽井浦前主事就任以来懸案であった専門部学制改革は、学制改革委員会を作り鋭意完成に邁進していたが、藤本主事も就任以来井浦主事の方針を踏襲、ついに決定を見て本年度より暫行規定として実施することとなる

▽専門部研究部発足し、常盤教授、部長に就任する

5・2 教授中山伊知郎、「発展を含む経済均衡の性質に関する一研究」の論文を提出(本学)、経済学博士の学位を受ける

5・12 一橋会理事会および一橋学会共催でドイツより新帰国の横浜高商教授森田優三氏を招き人口問題に関する学術講演会が催される

5・14 第一二回予科記念祭が舉行され、記念式後、佐藤尚武氏の特別講演が行なわれる

5・16 本年度最初の専門部定期総会が開催され、理事会提出の専門部会の代表をもってする理事会を、代表機関としようとする定款改正案は否決される

5・19 満洲国・中華民国へ出張中の上田貞次郎学長本日帰京する。藤本幸太郎教授、学長事務代

理を免ぜられる

5・22 陸軍現役将校配属令公布一五年に当り、全国中等学校以上の学生生徒三万余名に対し、宮城前広場において御親閲拝受式が行なわれる。本学よりは学部五〇名、予科八〇名、専門部八〇名、養成所一〇名が参列、当日は学長以下予科主事、専門部・養成所主事も参列、参加者以外は大國魂神社に参拝する

▽如水会鞍山支部および沼津支部設立される

5・23 25 全国商業学校長協議会の本年度会議が一橋講堂で開催される。同会議において、商業教育界の大御所市邨芳樹氏(明二〇卒)の勤続五〇年表彰式が盛大に行なわれる

5・25 日独交換教授として来日中のミュンヘン大学ケルロイター博士が来学、兼松講堂において「国民社会主義とドイツ法」の講演を行なう

5・26 国立学会主催第三四回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、吾妻光俊助教授、町田実秀予科教授

5・27 各務鎌吉氏逝去される(享年七十一歳)。氏は高等商業学校明治二一年卒業、東京海上火災、三菱海上火災、三菱信託、日本郵船等各会長、貴族院議員、内閣審議会議員等を兼ねられた

5・30 日伊交換教授として来日されたローマ大学カルロ・フォルミッキ博士が来学、兼松講堂において「国家、家族、個人」と題する講演が行なわれる

5・1 予科理事会においては、かつて昭和一〇年『予科一五年史』編纂を企てたが、肅学事件のため頓座、昭和一二年、予科生活再批判の材料としてふたたび計画されたが再度頓座、本学年度初めより三度計画され、編纂委員会が組織される

6・4 本学先輩「二三会」一六名の方々により、金一万一千五百円を本学の五〇年据置き特別資金として寄付を受ける

6・5 専門部における日本文化講義として、佐々木信綱博士の「和歌と時勢」と題する講演が兼松講堂で行なわれる

6・6 本科会理事会主催で満洲国教育局長の「満洲国の理念と実体」の講演会が催される

6・17 教授田中誠二「船荷証券上の免責条款に関する研究」の学位請求論文を提出（東大法学部）、法学博士の学位を受ける

▽北支・満洲における通貨制度視察のため、助教高橋泰蔵、一カ月半の予定で神戸を出帆する

6・21 本日の上田学長満支旅行帰国座談会にお

いて、学長、「東亜経済研究所」設置案を公表する。ただし、同研究所の規模、研究題目、資金等の具体策は未だしも、時局に対応し、本学の編成替えも問題となる

6・23 国立学会主催第三五回学術講演会が一橋講堂で開催され、上田学長の満支旅行談と赤松教授の熱弁があり、超満員の盛況

▽一橋会主催で学習院長・海軍大将野村吉三郎氏の講演会が催される。引き続き一橋会本年度定期総会が行なわれる

6・26 今夏の海外渡航者一一五名（内訳、太平洋クラブによる満鮮調査第一班・第二班、北米班、台湾班、比島班、シンガポール班、シャム班、ジャバ班、营口班、文部省派遣による興亜青年勤労報国隊、蒙疆政府招聘調査隊、学徒至誠会による南洋班等々）の壮行会が如水会館で催される

6・28 本日より七月三日の二回にわたり、前イタリア国情報官アポロニ博士来学、「組合国家の法制について」と題し講演を行なう。とくに三日にはイタリア国大使も来学、学生に向かって挨拶をされる

6・1 本学においては、さきに商業師範大学および教育ゼミを設置し、商業教員養成に努力をし

て来たが、今夏、国立に第一回夏季講習会を開催し、全国各地から聴講者を募り、商業教員の再教育と一般の時局認識に資することとなる

7・3 興亜青年勤労報国隊に、指導教官として派遣されることになっている本学の専門部千葉助教授は七月三日、予科中村教授は同四日、学部松田学生主事補は同五日、専門部久内助教授は同六日、それぞれ茨城県内原訓練所に入所し、二週間の訓練を受けたのち、大陸に向け出発する

7・6 本日の次官会議において、本年は各官庁暑中半休を実施しないとの申合わせがあり、文部省よりの通知により、本学においてもそのように実施することとなる

7・7 五月二七日他界された本学の先輩、故各務謙吉氏の遺志により三〇〇万円の公益事業に対する寄付のうち、本学において設立予定の「東亜経済研究所」に対し、五〇万円の寄付のことが公表される

7・9 蒙疆政府より一般財務調査のため招聘された学生一九名、本日神戸出帆、約三カ月間京綏線沿線の経済調査に従事する

7・10 太平洋クラブ学生、本日の出発を第一陣として、一二班に分かれ、九月初旬まで、大陸、

台湾、フィリピン、シャム、蒙洲、北米、シンガポール等に海外旅行を行なう

▽興亜青年勤労報国隊、本学各学科は本日養成所生徒、同一日予科、同一二日本科、同一三日専門部とそれぞれ茨城県内原訓練所へ出発する。その後大陸へ渡り、二カ月にわたる現地の勤労報国に従事することとなる

7・17 本科学生一九名、太刀川学生課長引率の下に、横須賀在泊中の軍艦五十鈴に便乗、本日より五日間、訓練その他軍事講習を受ける

7・29 8・4 本学教授陣および先輩を動員して第一回本学夏季講習会が開催される。講師、上田学長、佐藤尚武前外務大臣等七名

8・2 講師伊坂市助、興亜院の委嘱を受け、中北支における交通網確立に関する調査のため、本年二度目の渡支につく

8・1 専門部教授増田四郎、楽浪文化視察のため、約二五日間の予定で朝鮮へ出張する

8・24 さきに故各務謙吉氏の遺志により、設立予定の研究所へ五〇万円の寄付があったが、本日同氏遺族より一橋会へ三千元の寄付がある

8・26 七月大陸に渡った興亜青年勤労報国隊参加の学生生徒は、二カ月にわたる現地の勤労報国

を終わって、本科学生は本日、養成所生徒は二九日、予科・専門部生徒は三〇日、それぞれ無事帰国する

9・4 専門部においては本日より五日間、また予科においては一二日より一七日まで六日間、集団労働作業を行なう

9・17 全日本学生選手権競漕が関西瀬田川で行なわれ、本学クルーは、関西の優勝校大阪商大と戦い、豪雨・雷鳴の悪コンディションの中で優勝する。一橋は昨年に引き続き全日本征覇を成し遂げ、大会始まって以来六回の優勝、早大の四回、東大の五回を凌駕する

▽本学の俳句会南琴吟社は各大学、高校、専門学校俳句会の先端を切ったものであるが、本年はその創立二五周年にあたり、その記念句会が新旧会員によって本学集会所で催される。また昭和一四年句集『青衿』を刊行する

9・22 創立六四周年記念式典が行なわれ、終了後同じく兼松講堂において今次事変における職員ならびに出身者戦病死者二九名の慰霊祭が、如水会との共催で挙行される。引き続き、一橋会理事會主催による企画院調査官美濃口時次郎氏（昭二大卒）の講演会が行なわれる

▽本学の先輩、三井物産ロンドン支店勤務の石原宗助氏（明四四卒）は同地において客死され、遺志により生前集められた蔵書約五、〇〇〇冊が四四会員の尽力によって本学に寄贈され、式典後、図書館において関係者列席の上、贈呈式が行なわれる

9・30 本学名誉教授、商学博士吉田良三氏の退官記念品贈呈式が如水会館で行なわれる

9・1 本学には東亜各国その他からの入学志願者が激増し、これら留学生教育の積極化と、東亜協力者養成に「特設大学予科」および「附属予備部」（日本語教育）設置について具体案が成り、文部省に提出する

10・4 教授上田辰之助、満洲国・中華民国へ出張を命じられる

10・16～17 日本経営学会第一四回大会は、本学が当番校として計画し、国立と一ツ橋を会場とし両日にわたって盛大に開催される

10・21 本学名誉教授、法学博士中村進午氏逝去される（享年七〇歳）。氏はわが国における国際法研究の先覚で、近く本学関係者ほか、法学界の一流を網羅し、古稀祝賀論文集が刊行されるはずとなっていた

- 10・23 国立学会主催第三六回學術講演會が、一橋講堂で開催される。事変処理、新秩序建設の中心問題につき高橋泰蔵助教授、金子鷹之助教授、二氏が講演
- 10・24 本日午前九時より三〇日午前八時四五分に至る一週間にわたって、本年度第三次東部防衛司令部管区防空訓練が実施され、本学においてもすでに定められた防空計画に基づき、訓練を実施する
- 10・25 井浦仙太郎氏に、本学名誉教授の称号が授けられる
- 10・26 一橋学会、本科理事会共催の學術講演會が、先輩法大教授平野常治氏を招いて開催される
- 10・28 東亜經濟研究所設立問題に関し、上田学長は「設立準備委員会」を設置し、高瀬教授等七名を委員に指名、本日第一回委員会を開催する。同委員会は、文部、大藏両省の審査の進行に不離不即の關係を保ちつつ具体的プランを構成してゆくものである
- 11・1 第一回の興亜奉公日を記念して本科理事会の主唱で多摩御陵への行軍が行なわれる
- 11・8 一橋基督教青年会主催、本科理事会後援で今中次磨九大教授を招聘、講演會を開催する

- 11・9 堀予科主事、満洲国教育部の招聘により、留学生問題を中心として、同国教育制度視察のため、關係諸大学教授とともに本日出発。帰途、北支・中支を経て二月一六日帰京する
- 11・11 本学名誉教授故中村進午博士の高徳を慕い、門弟達により「熱河會」が組織され、慰靈祭および伝記編纂のことが定められる
- 11・13 本学經濟法研究所を中心に結成された「日本經濟法学会」第一回總會が一橋講堂で開催され、規約作成ならびに八名の研究報告が行なわれる
- 11・14 京大法学部長石田文次郎氏の「新秩序の思想構造」と題する講演が専門部で行なわれる
- 11・17 一橋学会主催による東京文理大教授松本彦次郎氏の講演會が催される
- 11・21 本学名誉教授下野直太郎博士逝去される(享年七四歳)。氏は明治二二年本科卒、高商教務嘱託、明治二五年以来本学教授、昭和四年三月退官、同年五月本学名誉教授となる
- ▽予科文化週間行事の一つとして、務台理作博士の「論理の力」の講演會が行なわれる
- ▽孫田、常盤、太平諸教授発起のもとに、故中村進午博士を偲ぶ會が催される

- 11・24 国立学会主催第三七回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、吹田順助教授、増田四郎専門部教授
- ▽如水会撫順支部設立される
- 11・25 予科語学部および理事会主催で、予科文化週間行事の一つとして外務省箕輪三郎氏の講演会が行なわれる
- 11・26 如水会張家口支部が設立される
- 11・1 本学名誉教授三浦新七博士の日本銀行顧問就任を機とし、本学各教授がメンバーとなり研究会を構成し、種々情報交換、研究討論が行なわれ、日銀幹部との間にも学問的關係樹立に向かう
- ▽今春、高瀬教授の指導によって創設された教育ゼミでは夏季休暇中、教授の指定による本邦教育思想史の研究報告のほか、教授の発案による内外教育問題の主要文献目録の作成に乗り出し、本学のほか、東大、文理大の教育学研究室の蔵書調査をも行ない、文献目録を作成する
- 12・1 予科日本文化講義とした仁科芳雄理学博士の「相補性理論について」の講演が予科講堂で行なわれる
- 12・29 本学元教授、神戸高商教授津村秀松博士(明治三二本卒)逝去される(享年六四歳)

昭和十五年
(一九四〇)

- 1・26 国立学会主催第三八回講演会が一橋講堂で開催される。講師、田上助教授、常盤教授
- 2・5 予科第三回日本文化講義として東大教授高柳賢三博士の「法と法律学」の講演会が催される
- 2・11 代々木練兵場において、都下大学、高等専門学校建国祭本部聯合主催の「紀元二千六百年大学、高等専門学校建国奉祝式」が行なわれ、本学においても職員二二名、学生生徒一、六七〇名が参加
- 2・12 本学に開設される「東亜経済研究所」について本日および二六日準備委員会が開かれ、研究所機構に関する委員会案の再検討、規則の逐条審議が進められ、最後決定を見る。三月四日の教授会に報告、ここに研究所の基礎方針が確立され、新学年とともにスタートすることになる。研究所運営方針は次のとおり。①東亜経済年報編輯、②長期観察指数の作成、③短期観察指数の作成、④常規作業、⑤特殊作業、⑥資料購入・蒐集・整理、⑦研究会設置、⑧その他事業、⑨研究所と学生との関係
- 2・16 教授山口茂、「流通経済の貨幣的機構」の論文を提出(本学)、経済学博士の学位が授与さ

れる

- 2・1 中等教員払底により、毎年養成所より本科へ進出の希望者は一〇名程を数えたが、文部省において本年度は願書を受理しない意向を示し、時局柄本学もこれに従わざるを得ないこととなる
- 3・7 専門部主事、生徒主事更迭し、上原教授が主事に、吾妻助教が生徒主事に新任される
- 3・17 教授常盤敏太、各務基金により軍囑託を兼ね、貿易為替管理等の統制経済の諸問題視察のため渡支する。同氏は上海、南京、漢口、青島、天津、北京、大連を経て満洲国に入り、京城を経由して、四月下旬帰京
- 3・18 本学最後の外遊教授として渡欧した専門部教授大林良一、ベルリン大学、ライプツヒヒ保険研究所等において保険学を研鑽中のところ、本日帰国する
- 3・22 故各務鎌吉氏寄付金五〇万円による「財団法人東京商科大学各務奨学基金寄付行為」本日付をもって文部大臣より認可される
- 3・1 昭和一五年度入学志願者数は次のとおり。本科三三六名、実教二〇名、予科一、九七〇名、専門部一、一八四名、養成所二七〇名、本科委託生二名、外国人特別入学志願者—本科五名、

予科八名、専門部五名

▽昭和一四年度学士試験合格者数は次のとおり。学士試験合格者二八四名、外国人特別規定による者二名

▽予科文化部は従来學術部、文芸部、語学部、音楽部、尺八東都会、書道会、如意団の相互に連絡のない七部で構成され、このため支障も多く、これを改革し、學術、文芸、語学部をもって新たに研究部を組織する

4・1 昭和一五年度入学許可者は次のとおり。本科—予科修了者二五四名、詮衡を経た者九五名、実業学校教員養成規定による者八名、外国人特別入学者二名、海軍委託生一名。予科二四九名、(特別生三名)。専門部二二二名、(特別生四名)。養成所二〇名

4・1 昨年九月以来準備中であつた本学東亜經濟研究所は、大蔵省の予算削減のため、官制公布は不可能となつたが、故各務鎌吉氏寄付金による奨学基金も認可され、これを資金源として本日、本学図書館内に開所する。大学長法学博士上田貞次郎、所長となる

4・17 上原新主事、吾妻新生徒主事を迎えた専門部は、本日学生大会を開催し、一同厳正な規範

意識の確立と、強烈な学内精神の作興に務め、専門部向上に邁進する旨申し合わせる

4・30 官立商業大学官制が改正され、予科主事を予科長に改め、大学助教教授定員一人を二〇人に減じられる

4・1 時局の波は学生の下宿難に反映し、一橋寮、中和寮の入寮希望者が激増する。寮におけるトイレット・ペーパーの不足は衛生面の悩みとなり、食糧においても米は南京米が四割から八割の混入となる

▽専門部では二等滑空士の肩書を持つ藤沢伝講師の肝煎りで、理事会が音頭をとり、グライダー研究会を結成、今夏より合宿練習を開始することとなる

5・1 予科教授堀潮、予科長に補せられる

5・3 教授金子鷹之助、満洲国および中華民國へ出張を命ぜられる

5・6 本学統制経済研究室の希望が実り、統制経済研究会第一回座談会が行なわれる。なお同会は一橋学会の一部として部員が募集される

5・8 本学学長上田貞次郎博士逝去される（享年六二歳）。四月二五日盲腸炎および腹膜炎にて慶応義塾大学病院に入院、五月七日容態悪化、八

日午前七時一五分逝去。上田学長の容態悪化とともに、その意志によって高瀬荘太郎教授が学長代理として文部省に申請せられ、即日発令、学長逝去後、学長事務取扱として本日夜、発令される

5・13 故上田学長の葬儀が一橋講堂において東京商科大学葬をもって執行される

5・17~18 本学、山中、赤松両教授が発起人となり、各大学経済学者四五氏を挙げて設立準備会を結成準備中の「経済政策学会」が、本日本橋講堂において創立大会を開催し、第一回研究発表会、講演会、懇談会が行なわれる

5・25 上田学長の逝去に伴い、高瀬荘太郎教授（大学教授兼専門部教授、文部省督学官）、本日後任学長として発令される。同時に高瀬荘太郎学長が第二代東亜経済研究所長に就任する

5・29 専門部においては上原主事就任以来、学問精神の昂揚、規範意識の確立を目指して学園の明朗化に務め、本日の教授会において全教授を二分し規律振興、学力増進両委員を設け、生徒との接近の、より緊密をはかる

5・30 高瀬新学長、兼松講堂に三科学生生徒を集め、新任の挨拶とともに学園の若返りを危機、非常時と呼び、総動員体制の必要を強調する。ま

た職員集会所において、全教官および事務職員に、それぞれ新任挨拶を行なう

▽国立学会主催第三九回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、山中篤太郎教授、板垣與一助教授

5・31 図書館編『石原宗助文庫目録』刊行される(四六倍判、二九二頁)。

▽本年度最初のゼミナル委員会が開かれ、インター・ゼミと研究室との連絡、ゼミの封建性打破、同系統のゼミの討論会による接触、研究題目の印刷、同系統ゼミを単位とする分科会の設立等の方針を決定する

▽専門部における文化講義として宇井伯寿文学博士の「仏陀観」と題する講義が行なわれる

6・3 本学元ドイツ語教師リヒャルト・ヴォレグ・ハイゼ博士、去る四月一日、七一歳にて逝去。遺志により飯盛山に葬るべく、令息エリッヒ・ハイゼ氏(在大連)の手に抱かれて来日。松平宮相、ポーランド大使酒匂秀一氏、二荒芳徳伯、武者小路氏等の手により白虎隊自刃の地から奥まった一角に四〇坪の壮大な墓地建設地に、カロトに納められた遺骨の埋骨式が行なわれる。今秋には記念碑除幕式が行なわれることとなる

6・10 一橋新聞創刊一五周年を記念して『経済学研究の榮、改訂版』(四六判、五四四頁、三省堂刊)を出版、本日発売される

▽東亜経済研究所の第一回学内研究会が職員集会所で開催され、河合諄太郎教授の台湾視察談、上田辰之助教授の中国旅行談が行なわれる

6・14 本年はマックス・ウェーバー逝いて二〇年にあたり、統制経済研究室、予科経済学研究会主催で、山田、板垣両助教授を囲み、新宿明治製菓においてウェーバーを偲ぶ座談会が催される

6・16 佐野前学長退官記念事業会より寄贈された佐野書院の書院開きが、高瀬学長以下教職員出席のうえ、同庭園で行なわれる。同書院は教職員の修養親和等に使用される

6・20 国立学会主催第四〇回学術講演会が開催される。講演者、杉本栄一教授、赤松要教授

▽高瀬教授、学長就任により文部省督学官を辞し、後任に増地庸治郎教授が本日任命される

▽教授佐藤弘、満洲国へ出張を命じられる

▽故中村進午博士の追悼論文集『時局関係国際法外交論文集』成る(七一・二二九頁)。同書は川島信太郎、大平善梧氏等を世話人としてできたものである

- 6・21 しばらく中絶の形であった商学会がこのほど復活し、研究所に移入されることとなり、如水会館で第一回の会合が行なわれる。高瀬学長ほか諸教授が参集、常盤教授、中山教授の大陸視察報告もなされる
- 6・23 故上田前学長五〇日祭埋骨式が多摩墓地で営まれ、大学側、如水会側、上田会、三三会、ならびに学生代表等約二〇〇名参列する
- 6・24 東亜経済研究所開設記念大講演会が一橋講堂で開催され、講演者として学外から平生鈞三郎、児玉謙次、抑川平助興亜院長官、岸信介氏等が出席、盛会をきわめる
- 6・25 本学名誉教授堀光亀氏逝去される（享年六五歳）。母校育英のため、献身されること三七年に及ぶ
- ▽一橋会定期総会が開かれ、本年度予算議決のほか、故上田前学長追悼記念事業として塑像製作、その費用として全学生、生徒より一人二円ずつの寄付を募る件および追悼記念講演会開催のことが議決される。のち、東大大河内助教の講演会が行なわれる
- 6・27 学則の一部を改正、実業学校教員養成規程による本科学生の履修科目に関する規定を改め

- る
- 6・29 専門部の現状打開のために設けられた規律振興、学力増進の両委員会は、学生を中心に運用してゆくものであり、そのため、生徒側委員（理事、監事、評議員）を加えて、本日第一回の懇談会が行なわれる
- 6・1 日向利兵衛氏（明二八本卒）昨年九月逝去。嗣子紀三氏、亡父を記念して一万円を本学に寄付、図書館に「日向財政経済文庫」を設置する
- 7・1 予科において東大教授藤懸静也氏を聘し「外国文化と日本芸術」と題する文化講義が行なわれる
- 7・6 教授吹田順助、「近代独逸思潮史」の論文を京大に提出、文学博士の学位を受ける
- 7・7 支那事変三周年記念式が兼松講堂で挙行され、式後米田実氏の「欧州大戦乱と極東」と題する講演が行なわれる
- 7・22 第二次近衛内閣成立。明治三三年本科卒の村田省蔵氏（大阪商船社長）、通信大臣に就任する。本学としては五人目の大臣である
- 7・30 商業教員の再教育および一般の時局認識に資するため、昨年に続き本学教授陣および津島寿一、須磨弥五郎氏を加え、第二回夏季講習会が

国立で八月五日まで開催される

8・3 去る四月健康不調のため、大学ならびに専門部教授を退かれた内藤章氏(明四〇政卒、金融論・貨幣論担当)、本学名誉教授の称号が授与される

8・20 予科教授高島善哉、満洲国・中華民国へ出張を命じられる

8・21 如水会鹿児島支部設立される

8・22 専門部教授鬼頭仁三郎、満洲国・中華民国へ出張を命じられる

8・26 教授山口茂および予科教授牧一、満洲国および中華民国へ出張を命じられる

8・1 教育審議会特別委員会で決定の中等教員養成および検定に関する新要綱に対応して、本学養成所大改革案作製のため、東京および大阪において大学側および一如会々員間で意見を交換のうえ大学案を作成、養成所拡張および整備のための予算を請求する。これは将来四年制とするための一段階となすものである

9・12 文部省省議により、学生新体制案の第一歩として高等学校校内団体再編成案を決定、八月二十九日の高校長会議において、一〇月を期して断行と議決される。これにより本学予科会が一橋会

の一翼たる以上、単独に解散を行なうことは真の新体制理念にもとるものであり、一橋会全体を発展的解散することによって、より時局即応の範を示そうとし、本学内に新体制準備委員会を成立させ、全学一致新体制達成協力に邁進することとなる。新体制準備委員会は、学長、予科長、専門部主事、三科学学生主事、一橋会理事たる三教授および三科代表教授各三名、計一八名に学生・生徒若干名をもって組織し、学長がこれを統帥する

9・20 大学助手村松祐次、香港・中華民国ならびに満洲国へ出張を命じられる

9・21 創立六五周年、大学昇格二五年の記念式が兼松講堂で挙行される。学長の式辞は、新体制が建学の精神をもって全学一致して達成されるべきものであるとし、式後、陸軍大将宇垣一成氏の「経済戦場に於て闘將たらんとする者の心構、身構」と題する講演があった

9・24 予科会、新体制準備委員会を開く
▽本学学生応召者中、初の犠牲者として、専門部一年岩本繁男君、仏印において戦死する

9・25 東京商科大学東亜経済研究所の発足を機会に、その事業ならびに大学全般の事業の援助機関の必要を認め、学長高瀬莊太郎博士が如水会員

と相計り、本日「東京商科大学奨学財団設立期成会」を結成する

10・5 一昨年八二歳の高齢をもって予科講師を引退された杉山令吉氏の記念事業として、本日矢野記念館において記念品の贈呈および同氏作品の展覧会が催される。同氏は明治二五年、矢野校長時代、商業作文および書道の先生として、のち外務省に入り、いったん本学の教壇を去られたが、大正三年佐野校長に招かれてふたたび講師となり、以来前後二七年間一橋に尽力される

10・10 前商工大臣、王子製紙社長、藤原銀次郎氏の「産業報國精神特別講義」が兼松講堂で行なわれる

10・20 予科教授、助教授および専任講師参加のもとに教育新体制に関する懇談会を如水会館において開催する

10・30 国立学会主催第四一回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、米谷隆三教授、大林良一専門部教授

11・1〜2 戸田コースにおける全日本選手権競漕に出場した本学チームはエイト、フォアともに優勝する

11・3 明治節、運動会の日を下して、校庭瓢箪

池南側に建てられた故上田貞次郎前学長胸像（朝倉文夫氏製作）の除幕式が行なわれる

▽カール・メンガー生誕一〇〇年を記念して記念展覧会を図書館二階で行なう

11・8 助教授板垣興一、南洋地方を中心に約一カ年の視察旅行のため、本日神戸港を出帆する
▽東大教授田辺尚雄氏を招き、兼松講堂において「日本音楽の真髓」と題する講演会を開催する

11・9 本科新体制研究委員会が一般学生と遊離しつつあることが問題視され、同委員会は学生一般との連絡を図るため、一橋新体制懇談会を開催する

11・10 兼松講堂において紀元二千六百年奉祝式を挙行する。講演、川上多助教授

11・14〜15 両日にわたって文部大臣統監の下に、学徒野外連合演習が実施され、本学予科、専門部、養成所生徒代表参加する

11・19 本日専門部教授側、学生側、両修練組織強化委員会の合同会合が開かれ「東京商科大学専門部報國規則案」を決議、専門部の新体制が確立される

11・20〜22 カール・メンガー生誕一〇〇年記念展覧会を一橋講堂に移し、都下各大学および如水

会員に公開する

11・21 国立学会主催第四二回学術講演会として、メンガー生誕一〇〇年記念講演会を一橋講堂で開催する。講師、山田雄三助教、金子鷹之助教授

▽東亜経済研究所拡充のため「東京商科大学奨学財団」創設。発起人三五九名の決定を見て本日発起人総会が開かれ、同財団期成会を結成し、会長平生鈺三郎、副会長高瀬荘太郎が決定される

11・24 専門部中和寮の第一二回記念祭が挙行される。二五日上原教授、寮父に就任する

11・25 予科校庭南側、林の中に工作中的の端艇部タンク（試漕場）竣成、落成式を挙行する

11・26 予科研究部主催の文化講演として清水幾太郎氏を招き講演会・座談会が催される

11・1 文部省よりの用紙統制令に対する本学の対策として予科、専門部の級会誌は全廃、各種部報も七割減、本科の『一橋評論』、『ヘルメス』、『太平洋』等も三割減等のことが決まる

12・3 教授学生合同委員会において起草中の予科報国団則を決定、文部省に提出する

▽日満商事常務取締役竹内徳三氏（大二本卒）の「満洲国の配給機構」と題する講演会が催される

昭和一六年
(一九四一)

12・10 予科における本年第三回日本文化講義として、山内得立教授の講演が行なわれる

12・11 予科において、学生勤労報国隊および太平洋クラブその他大陸旅行者の報告会が開催される

1・1 矢野二郎氏直弟子で商業学校長五〇年の体験を持つ元名古屋商業学校長、名古屋女子商業学校長の市邨芳樹氏（明二〇卒）逝去される（享年七八歳）

1・23 如水会バタバ支部が設立される

1・30 国立学会主催第四三回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、吉永栄助教、上田辰之助教授

2・4 前ベルリン大学教授ヒルシュ氏の学術講演会が本科において開催される。演題 "Some World Economic Questions of Present Time"

2・5~6 予科文化運動としての文化週間が開かれ、五日、杉本教授、六日、中山教授の講演会が開催される

2・11 建国佳節の式終了後、兼松講堂において一橋会臨時総会を挙行、「社団法人一橋会」解散の件を満場一致可決する。大正一五年社団法人の

認可を得て今日に至った一橋会は、社団法人を解散して一橋報国団が誕生、陸上競技部等は報国団中の鍛錬部に包含され、陸上競技班となる（他の部また同じ）

2・22 予科講堂において一橋予科報国団結団式が挙行される。総務部長・古瀬教授ほか、各部長・教授八名、総務部幹事・学生七名

2・28 専門部において、今回帰国されることとなった英国人教師、リーウァーン (J. W. Leevaen)、『ジャッキソン (A. B. Jamisson)』両師に対する謝恩送別会が上原主事、吾妻学生主事列席のもとに行なわれる

3・20 本学東亜経済研究所の現地派遣学生は、北支派遣については種々の事情により不可能となり、満洲にのみ四名を派遣と決定、本日出発する

3・28 本年度学士試験合格・卒業ならび修了証書授与式が兼松講堂で挙行される。学士試験合格者三〇一名、外国人特別規程による者一〇名

3・31 教授藤本幸太郎、定年退職される。同教授は明治三八年本学卒業とともに母校に教鞭をとられ、以来三六年に及ぶ

▽専門部教授内藤三介、定年退職される。氏は大正九年教授就任

3・1 本年入学志願者数は次のとおり。本科四四一名、実教一四名、予科二、〇九八名、専門部九八八名、養成所一八二名、外国人特別入学志願者一本科六名、予科一四名、専門部九名

▽本学上田辰之助教授に対し、同氏の永年にわたるイタリア文化の研究・日伊文化に貢献した功によって同国よりコンメンダトーレ勲章（王冠章）が賜られる

4・12 元教授、専門部主事堀光亀名誉教授の記念事業として、渡辺弘行氏に依頼していた胸像が完成、本日の始業式後、その除幕式が挙行される

4・15 官制の改正があり、職員定員中大学助教授一〇人を一三人に、助手九人を二人に増加される

4・19〜20 三商大が提携してわが国商業教育制度、商科大学教育の確立を目指して、商業教育調査委員会を結成、第一回調査委員会を如水会館において開催、現行制度の再検討に向かう

4・24 上原専祿教授、専門部・養成所主事を辞任し、山口茂教授が就任する

4・25 教授増地庸治郎、満洲国および中華民國視察出張のため出発する

4・1 庭球部合宿所設置のため、同部先輩の一

橋庭球倶楽部より五千円が寄付される。同合宿所は庭球コート側に作られる。

▽本学内に航空班、機甲班が新設され、グライダの技術、自動車その他、内燃機関の技術を習得することとなる。

5・1 本科報国団結成式を挙げる

5・3 時局下、変革を遂げつつある現代産業經濟界に即応して、高等商業教育の目標、特質を一層明確にするため、文部省が去る一月実業教育振興中央会と協力して、本学高瀬学長を委員長とする「高等商業学校教授要項委員会」を設立、要綱案作成を練りつつあったが、本日の委員会総会においてその要綱原案が採択される。

5・5 吾妻光俊教授、専門部・養成所学生主事を辞任し、後任に久保岩太郎教授が就任する

5・8 故上田貞次郎前学長の一周忌にあたり、兼松講堂において追悼会が催され、ついで朝倉文夫氏製作の胸像の贈呈式、元学長三浦新七氏ならびに慶大塾長小泉信三両氏の追悼講演があり、式後、全学生は多摩墓地の同氏墓碑まで行軍をして詣でる。

▽故上田貞次郎前学長の本学ならびに学界に尽くした功績を永久に記念し、かつその専攻である諸

学の研究を奨励する目的の下に、五万円を寄付をもって「財団法人故上田貞次郎博士記念奨学基金」設立の件が認可される。

5・12 予科本年度第一回文化講義として、前台北大総長幣原坦氏の「日本民族南洋発展の回顧」と題する講演が行なわれる。

5・13 専門部報国結団式が挙行され、山口团长、久保総務部長ほか理事、班長、生徒全員が出席する。

5・18 予科記念祭が二年ぶりに開催される。記念講演に新帰国の来栖大使の講演が予科講堂で開かれ、記念祭終了後の全予科生の大コンパでは、時局柄ビールは禁止され番茶に酔って踊る。

5・21 先輩、外務省情報局課長朝海浩一郎氏を招き「欧州現勢と列強最近の対日動向」の講演会が開かれる。

5・28 国立学会主催第四四回学術講演会が一橋講堂で開催される。講演者、太田哲三、松本雅男、岩田巖、古川栄一、四教授

▽助教教授大平善悟は、外務省東亜局の依頼により、上海租界問題を実質的に調査のため、約四カ月の予定で神戸港を出帆する。

5・31 満洲国留学生の教育状態視察のため、満

洲国大使館および留学生関係者等、本学本科および専門部の各種教育施設参観のため、来学する

5・1 本学東亜経済研究所では、各務奨学基金をもつて今春から学生の大連派遣を実施しているが、さらに南洋経済研究のため、学生の南洋派遣案を考慮することとなる

6・6 上智大教授、東大講師吉満義彦氏の「世界観と宗教性の問題」の講演会が催される

6・10 学科制度改革のために設置された学制調査委員会の第一回委員会が如水会館で開催され、高瀬学長ほか全委員により現行制度の欠陥ならびにその改善方法について各委員により活発に意見の開陳がなされる

6・14 如水会静岡支部の発会式が同市公会堂において開催され、高瀬学長の講演会も開催される

6・16 今春定年退職された前教授藤本幸太郎博士に名誉教授の称号が授けられる

6・18 タイ国公使P・C・セナ氏は同国留学生監山口武氏を伴い、本学を視察のため来学する。

本学がタイ国留学生多数を教育したことに對する謝意表明と、今後一層緊密な連絡を希望するためのものである

6・26 国立学会主催第四五回學術講演会が一橋

講堂で開催される。講演者、板垣與一助教授、米谷隆三教授

6・28 専門部報国団行事の一つとして先輩名士講演会を計画、その第一回として元鉄相内田信也氏（明三八本卒）の「我が生命圏の確保と海上制覇」の講演が行なわれる

6・1 本学における課目ならびに研究制度改革は、現在まで数度にわたって一部改革を断行して来たが、国家的要請は局部的改善では収拾のつかない状態に至り、全面的、根本的学制改革のため、学制調査委員会を設置、一一教授を任命して改革に乗り出すこととなる

▽本学東亜経済研究所内に「南方経済研究室」を開設、南方経済研究と同方面派遣学生の指導養成にあたることとなる

7・6 先輩一三二氏の寄付金で専門部校庭に建設中であつた硬式庭球場合宿所が完成し、落成式が挙行される

7・12 本学東亜経済研究所内の南方経済研究室では、南方協会の援助を得て、同室において研究中の学生四名を台湾の視察見学旅行に派遣することとなり、本日神戸港を出発する

7・1 本学東亜経済研究所の満支派遣教授とし

て堀子科長（七月一六日～八月二三日）、太田（可）予科教授（七月二三日～八月三〇日）、村瀬専門部教授（八月一日～九月中旬）、深見専門部教授（八月一六日～九月二日）が決定し、朝鮮・満洲・中国方面に渡り、専門方面の研究を行なう

7・20 本学東亜経済研究所の第二回現地派遣学生は中国方面は今夏も不可能となり、満・鮮・台へ一〇名が決定、それぞれ研究テーマを定め、満洲班が本日出発する

7・31 本日より一週間にわたって本学主催第三回夏季講習会が国立で開催される。聴講者は、学外者一五〇余名、学生五〇余名。三浦博士も出席し、特別講演として石渡莊太郎、天羽英二両氏

7・1 専門部の学部受験者を制限し、これに対する選抜試験制度の実施を主事を通じて文部省に交渉する

8・1 本学山寮建設地として、京浜電力重役佐々木久治氏（池ノ平楽山莊経営主）から新潟県中頸城郡名香山村池ノ平に約千坪の土地が寄付される

9・3 前年一二月予算閣議で本学研究所官制が決定され、以来設立準備委員会の手によって官制実施の準備が進められていたが、本日の最終委員

会において法制局提出のための東京商科大学東亜経済研究所設置理由書の作成および研究機構、研究事項等の決定を見る。

研究部（第一課—第四課）、資料部、統計部第一課—第三課、庶務課、特殊問題研究室、特殊問題委員会

9・9 本学東亜経済研究所の本科派遣教授として決定していた加藤由作教授は本日東京を出発、約四〇日間の予定で満洲・北支・中支の保険事情の視察をする

9・12 八月八日の文部省訓令により指揮系統の確立した全校編成の東京商科大学報国隊（全一橋三大隊編成）を結成、臨戦態勢下、適時要務に出動協力の体系を樹立、本日全一橋報国隊結成式を挙行する

9・15 教授会、三科一体の見地より進学制限への便宜措置を決定する

9・22 本学創立六六周年、大学昇格二一周年記念式典が兼松講堂において盛大に挙行される。一橋会改組、報国団結成、報国隊編成と時局の波が押しよせ、臨戦態勢強化遂行の時、学長は日本経済学樹立と、挙学、研究所育成を強調。増地教授の記念講演「時局と本学の使命」

▽学部進学者のため、専門部に臨時補習科を設置する

9・1 本学養成所大改革案は昨年文部省に提出否決されたが、本年度も七月末再度文部省に提出、改革案四件のうち貸費制度のみが省議を通過

10・14 予科は本日より一週間にわたる防空訓練に入り、最終日の二三日には総合演習および講評があつて終了する

10・16 臨戦態勢整備強化のため、政府は大学・専門学校・高校・大学予科の在学または修業年限を臨時措置として六カ月以内短縮し得ることとし、国防要員の充足に学生の非常態勢強化をはかることを本日発表。本年度は差し当り大学学部・専門学校のみ明年三月卒業予定のものを三カ月短縮、本年一二月に卒業させ、右の学生生徒の徴兵検査は一二月に行なうことが二日文部省から発表される。この改正によつて明年度からは大学学部・専門学校・大学予科とも六カ月短縮、九月卒業となる

10・20 一橋新聞部主催「戦時経済講習会」が本日より一月二〇日にわたつて(毎週月・木)一橋講堂で開催される。講習科目は一六科目に及ぶ

10・28 国立学会主催第四六回学術講演会が一橋

講堂で開催される。講演者、西川正身子科教授、吹田順助教授

▽本科報国団研究部は先輩美濃口時次郎氏を聘し、講演会を開催。演題「日本人の理論と政策」

11・7 予科文化週間の催しの一つとして、三高教授鈴木成高氏の講演が本日、また一二月四日には東大教授出隆氏の講演が行なわれる

11・8 戦時臨時措置実施により、在学年限短縮、卒業期繰上げ等により急速に臨戦態勢へ突進しつつある時、その対策および根本的学制改革を断行すべく、高瀬学長以下一二名の学制調査委員会を設置、本日第一回委員会を開催、万全の対策を図るべく協議する

11・13 池の平山寮の上棟式が行なわれる

11・15~18 専門部文化週間は常任幹事会、研究班、語学研究班、文芸班の協議の結果、一五日より四日間とし、種々行事が行なわれる。一五日には牧野英一博士の「イェーリングの言葉とギールケの言葉」の講演会が開催される

11・17 報国団主催学術講演会が兼松講堂において開催され、本学教授中山伊知郎氏の「戦争と経済」、東大教授矢部貞治氏の「戦争と政治」の講演が行なわれる。また引き続き午後は文化講演会

に入り、西川予科教授の「ソーントン・ワイルダーに就いて」の講演および文学座出演によるワイルダーの作品「わが町」が上演される

11・19 在学年短縮臨時措置に対する善後処置に関し学制調査委員会の第二回委員会が開かれ、前回の共通必修課目、細目の審議に引き続き、今回は、選択課目の整理について慎重審議が重ねられる

11・20 三商大学長会議が如水会館で行なわれ、本年度入試対策、学年短縮臨時措置に関する諸対策、三商大で行なわれている商業教育調査委員会の打合せ等が協議され、現在進行中の学制改革について懇談が行なわれる

▽専門部では新たに国防の副班として銃剣道班を新設、本日その発会式を挙げる

11・1 予科国防訓練部の一班として大日本飛行協会の援助により滑空班を創設する

▽本学学生の官庁進出への関心が高まり、高文受験者も年々増加しつつあるが、本年度高等試験において本学々生の合格者は行政科一五名、外交科三名、計一八名に及ぶ

12・8 橋田文相、全国大学・高専・国民学校に至るまでの教職員・学生生徒に対し、対米英開戦

に関する訓令を発する

12・9 国家総動員法の発動により、一月二二日公布された国民勤労報国協力令に伴い、本日文部・厚生両省次官通牒をもって、同令実施要綱が指示され、各大学・高等専門校においてはすでに結成されている報国隊によって、参加することとなる

12・13 元本学教授青山衆司博士逝去される（享年七一歳）。氏は大正八年に來任。商法学、ことに保険法の本邦の開拓者として、また商法学に比較法学的方法を採り入れたこと、イタリア商法学を初めて開いた等の功績者である

12・22 大東亜政策の進捗とともに中華民国各地よりわが国に留学する学生は年々増加し、本学では現在三科に一二名、また本年度は華北だけで一〇数名の希望者があり、留学生達に種々適切な指導を行なうために、東京商科大学中華民国留学生同学会を設立し、本如水会館で発会式を挙げる

12・24 本日、文部省で開かれた都下各大学高専校学生主事協議会において、戦時下学徒の「学生訓」とも称すべき実践要項が決められ、各校それぞれの特徴を生かしつつ実践することとなる

12・25 査閲初めて施行される

昭和一七年
(一九四二)

12・27 戦時臨時措置法実施によって、本年は三月および一二月の二回に卒業生を出すことになり、本日最初の一月卒業式が兼松講堂において挙行され、五〇三名が卒業

1・1 堀光亀元教授の胸像建立の残金により、中和寮に「堀文庫」を設置する

1・22 国立学会主催第四七回学術講演会を一橋講堂において開催する。講師、高橋泰蔵助教授、中山伊知郎教授

1・26~27 昨年四月時局の要望とともに商科大学の使命を再反省し、現行学制の再検討と商業教育制度の調査整備のため設けられた三商大学制調査委員会は、本日最終委員会を如水会館で開催し、最後の改革案を得るに至る

1・29~30 両日にわたって文部省視察委員河三喜氏、予科視察のため来学する

2・1 元東京高等商業学校教授、如水会顧問、成瀬隆蔵氏（商法講習所第一回出身者）逝去される（享年八九歳）

2・3 予科における本年第二回の日本文化講義として、一高教授五味智英氏の「万葉集と現代生活」が開講される

2・5 本学の「東亜経済研究所」官制施行に關する官立商業大学官制中改正の件が三日の閣議で決定、勅令第七〇号をもって本日公布される。これにより東亜経済研究所は名実ともに本学附置研究所となる

2・6 東京商科大学長高瀬荘太郎、東亜経済研究所長に補せられる

2・8 文部省主催、学校報国隊聯合大会が明治神宮外苑で挙行され、本学専門部より八八名、養成所一二名、計一〇〇名が千葉助教授引率のもとに参加する

3・1 昭和一七年度入学願書受付数は次のとおり。本科

第一次（二月三二日メ切） 一七名

第二次（三月メ切） 二〇八名

教育学生（二月二八日メ切） 二四名

予科（一月二七日メ切） 一、六三三名

専門部（二月七日メ切） 七九四名

養成所（同） 一五七名

予科外国人（二月四日メ切） 一二名

専門部（同） 一〇名

本科（同） 三名

研究科 一名

3・7 本学東亜経済研究所は二月五日公布の勅令第七〇号により官制が実施され、教授・助教授・助手各三名が設置されたが、さらに勅令第三八〇号により、教授・助教授・助手各二名を増員、計五名ずつとなる

3・9 本日の教授会において「東京商科大学東亜経済研究所規則」が決定される

3・14 予科教授太田可夫、初の内地留学として（京大へ約一年間）恩師山内得立博士の研究室に入る

3・19 教授村松恒一郎は約一カ月の予定で満洲・北支視察のため出発する

3・24 教授佐藤弘は華北交通株式会社の招聘により、北支の風土資源等の理想的研究資料整備計画立案の目的で、約一カ月の予定で出発する

3・28 国民経済発展のため、商業教育の現行制度再検討と改革を断行するべく、昨年四月以来三商大間に商業教育調査委員会が設けられ討議を重ねていたが、二七、二八日の両日、如水会館において最終的検討により成案を得、本日同案を文部省に提出、橋田文相と懇談する

3・29 予科講堂において第二〇回予科修了証書授与式を挙行する。修了者二二九名、畢業者二名

3・31 予科学生主事太田可夫教授の内地留学に伴い、後任主事として高島善哉教授、本日発令される

▽図書館編『左右田文庫目録』が刊行される（四六倍判、三三九頁）

3・1 東亜経済研究所において行なわれていた農業生産指数の研究が完成され、その成果を『東亜経済研究所研究叢書』第一冊として刊行する

4・1 学年短縮により毎年四月中旬から授業を開始していたのを、本年度からは四月早々から授業を開始するべく、本日、兼松講堂において三科新入学者宣誓式が挙行される

4・7 官制の改正があり、教授二五人を二七人に、助教授一六人を一八人に、助手一五人を一七人に増加され、書記一七人を一六人に減じられる

4・18 本日午後零時三〇分頃から帝都を中心とする京浜地区、中京地区、阪神地区等の各地、初空襲を受ける

▽熊野教授を囲み、満支留學生の新入生歓迎懇談会を開催する

4・19 弓道部、国立道場において故師範窪田武次郎氏の令息窪田真太郎氏を新師範に推戴ならびに故師範追悼射会を開催する

4・24 国際事情研究班主催による本学先輩、外務省アメリカ局竹内春海氏の「現下のアメリカ情勢」と題する講演会が催される

4・27 文部省内にかねてから大日本海洋訓練振興会があり、各学校に対し海洋班設立を希望していたが、本学ではこれに応じ本日の協議員会において初代班長に橋爪講師が就任し、学外団体として新たに海洋班設立のことが通過する

4・28 国立学会主催第四八回學術講演会が一橋講堂で開催される。講師、小泉明助手、鬼頭仁三郎教授

4・1 東亜経済研究所委員会において、昭和一七年度事業計画が協議され、研究部門一〇部門に対する担当者を決定するとともに、研究所の管轄として日本経済、支那問題、金融経済、南方経済の特殊問題研究室が設置される

▽食糧増産の一助として専門部に園芸班を設置する

5・1~2 両日にわたって兼松講堂において海軍軍事教習のため、海軍少将中村一夫氏の「大東亜戦争海上戦術」と題する講演が行なわれる

5・5 予科報国団の総会が開催され、山積する学内諸問題の解決、沈滞する生活に対する反省、

今後展開させるべき予科文化運動等について弁論が展開される。また同総会において「戦時学徒自戒五条に対する宣言文」を発表する。同宣言文は戦時学徒の自戒を盛ったものであるが、総務部、協議会、学級幹事会、有志懇談会より起草委員を推薦し、種々討議の末作成したものである

5・8 本科、予科、専門部合同で兼松講堂において、対米英宣戦詔書奉読式を挙行し、式後、杉村広蔵氏の「東亜に於ける理想国家の問題」と題する講演が行なわれる

5・9 昭和一六年七月上旬、故ヘーヤ先生墓地修理事業の議が起こり、故先生から薫陶を受けた会員のうち、六百数十名の募金によって修理事業が進められ、三月末竣工。本日は先生歿後二五周年にあたり、「故ヘーヤ先生永眠二五周年記念追悼式」が雑司ヶ谷墓地において挙行される

5・13 前学長上田貞次郎博士逝いて二年、本日、故博士を偲び、東京商科大学上田貞次郎博士記念会の主催により、一橋講堂において追悼講演会が開催される。高瀬学長の挨拶、金子鷹之助教授、礪山政道講師の講演が行なわれる

5・21 一ッ橋の本学構内に東亜経済研究所仮庁舎建設のことが定まり、工事に着手する

5・22 国立学会主催第四九回學術講演会を一橋講堂において開催する。講師、深見義一専門部教授、増地庸治郎教授

▽専門部において、理研工業の藤本輝夫氏(大一大卒)の「南方管見」と題する講演会が行なわれる

5・1 専門部特別防空警備隊の編成整備成る

6・2 予科文化講演として一高校長安部能成氏の「時局と知識人」と題する講演会が催される

6・3 本学の前身、商法講習所および高商において明治一七年一月より二五年一月にわたって教鞭をとられた鈴木熊太郎氏逝去される(享年八三歳)

6・4 カトリック文化研究会、上智大教授吉満義彦氏を招き、講演会を開催する

6・6 名誉教授藤本幸太郎博士に対して、退官記念事業会より記念品贈呈式が如水会館において、高瀬学長ほか八〇余名出席のもとに行なわれる。田辺至画伯および木下孝則画伯が描いた肖像画二面、一面は図書館閲覧室にかかけられる

6・8 本年度からの学科制度改正のため鉄道論が削除され、海運だけの講義となったが、学年短縮による講義時間の減少のため、これのみでは復

雑な交通の全般にわたっての教授には不足を来たすので、実業界の五氏を招き、交通論特別講義を行なうこととなり、本日その第一回として、大日本航空会社の斉藤外男氏の航空経営に関する講義、以下順次、次のような講義が行なわれる。第二回 日産自動車KK・浅原源七氏「自動車関係講義」、第三回 鉄道省運輸局・小沢暉氏「鉄道関係講義」、第四回 日本通運KK・村上義一氏「小運送関係講義」、第五回 東京市電気局・植木寿雄氏「都市交通関係講義」

6・13 報国団の企てとして学生の学問研究の一助に、先輩と学生の親睦を助長し、今後毎週土曜日に先輩学生の座談会、あるいは先輩の講演を聴く会として「土曜会」を開くこととなり、本日その第一回として先輩、商工省の楠瀬常猪氏、石原産業の阿部東吉氏、弁護士松本正雄氏の三氏を囲み、講演ならびに座談会を行なう

6・15 東亜経済研究所の招聘により、タイ国元農林・経済大臣ハール・サラサス氏が来学。学内を見学のものち、集会所において研究所職員一同にタイ国現在の経済事情と、タイ国が東亜共栄圏の一環としていかにしてこれに参加するかの講演を行なう

<p>6・19 カトリック研究会は本日一橋講堂において、相馬氏追悼の記念文化講演会を開催する。講師、本学教授上田辰之助博士、東大教授田中耕太郎博士</p> <p>6・20 専門部文化週間の一行事として難波田春夫氏を聘し「現時の戦争経済学」と題する講演会を開催する</p> <p>6・22 東亜経済研究所内に「会計特殊問題委員会」が組織され、太田哲三教授が委員長に就任、委員には増地庸治郎、高橋泰蔵、岩田巖、松本雅男、片野一郎の諸教授</p> <p>▽専門部文化週間の一行事として大熊信行氏を聘し、「経済学と其の周囲」と題する講演会を開催する</p> <p>6・24 満洲国留学生会東京支部長、苦米地四樓氏および同指導員堀熊次郎氏が来学。留学生の教育上に関する意見の交換打合せ等を行ない、各科を參觀する</p> <p>6・27 東京商科大学奨学財団設立期成会が、財界および卒業生に呼びかけて集めた寄付金は、六百万円におよび、同寄付金をもって「公益法人東京商科大学奨学財団」を設立、本日文部大臣の認可を受ける</p>	
<p>6・30 満洲国大使館員哈訓練課長来学する</p> <p>6・1 池の平町田山寮落成する</p> <p>7・1 予科では本日より八月末日まで、時間短縮による授業を実施する</p> <p>7・3 国立学会主催第五〇回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、阿部源一助教授、赤松要教授</p> <p>7・5 小平に一橋空手部予科道場が建設され、本日道場開きを挙行する</p> <p>7・6 研究所内に「統制機構特殊問題委員会」が設けられ、増地教授が委員長に就任。七月二三日第一回の会合が持たれ、鉄鋼統制会を統制会の代表的なものと認め、同会の研究から始めることを決定する</p> <p>7・8 東京商科大学町田山寮の開寮式が挙行される。高瀬学長を初め、建物および設備寄付者町田講師、その他学校関係者が多数出席し、なお敷地寄付者佐々木久二氏経営の楽山荘に静養中の尾崎号堂翁も招待し、一場の講演がある</p> <p>7・13 専門部・養成所では本日より八月九日までを夏季休暇とし、八月一〇日より授業を開始する</p> <p>7・19 予科では本日より八月二三日までを夏季</p>	

休暇とし八月二四日勤労作業、同二五日より授業を開始する

7・31 某篤志家により五月、本学に提供された寄付金一〇万円を基金として「財団法人商業教育研究所」の設立を計画、文部省に設立認可を申請中のところ、本日正式に認可される。同研究所はその主眼点を中等商業教育の振興援助におくものであって、基金一〇万円を一〇カ年間に消費する見込みのものである

7・1 助教授岩田巖は海軍嘱託として南方方面へ出張する

8・11 研究所内に設けられた「統制機構特殊問題委員会」では四日鉄鋼統制会の桃木長、出光計助両氏より鉄鋼統制の発展に關し、また本日は重要産業協議会の帆足計氏より統制会一般の現状に關する講演を聴取する

8・16 本科の授業は昨一五日をもって終了し、本日より夏季休暇に入る

8・24 村瀬玄専門部教授は奉天医科大学講堂において九月一日、二日の二日間にあつて行なわれる日刊工業新聞満洲支社および満洲能率協会主催、満洲工場管理講座で原価計算・会計組織講演のため、本日出発する

9・11 本科二次入学試験の合格者発表がある

志願者 合格者

本科 二八五名 九〇名

教育学生 二〇名 一〇名

外国人 七名 三名

第一次入学試験合格者は五名

▽研究所内会計特殊問題委員会では上海のインフレーションに關する会社経理の問題を研究のため、松本雅男、片野一郎の両委員が本日東京を出発する。一〇月六日成果をまとめ帰学

9・12 報国団結成(昭一六年二月)とともに、国防内部に自動車機甲訓練を主とする機甲班が設置されたが、自動車を購入する余裕がなく、不便をかこっていたが、橋爪講師の尽力により今回トヨタ自動車工業より六輪の貨物自動車一台の寄贈を受ける

9・18 三商大経済研究所の横の連絡を図り相互の關係を緊密にするための「三商大経済研究所連絡委員会」が本学において、高瀬、丸谷、本庄、各商大学長および關係教授、各委員出席の下に成立し、第一回委員会を開催する

9・19 教授中山伊知郎は満洲国政府の招待を受けて本日出発、新京の満洲国統計所における研究、

その他視察等を行なう

9・20 研究所内会計特殊問題委員会委員長、太田哲三教授、上海の各銀行会社等各方面について同地のインフレーションに関する会社経理の問題研究のため、本日東京を出発する

9・22 第六七回創立記念日当日、兼松講堂において学士試験合格、卒業および修了証書授与式が挙行される

9・26、27 本科においては両日にわたって高等学校出身者のための臨時入学試験を施行する。志願者一三名、合格者六名

9・1 予科鍛錬科にグライダー訓練を加えることとなり、初級機「文部省一型」を購入、全国高専に先駆けて第二学期開始と同時に武道の時間を利用して正課として全予科生の訓練を始めることとなる

10・8 大詔奉読式終了後、本年度本科報国隊入団式および報国隊特別警備隊の結成式が挙行される

▽橋爪講師は、ボートを持たない本学海洋班のために、三井物産玉造造船会社を動かし、その結果、同会社より一〇人乗オールチークの救命艇が寄贈され、本日その命名式が行なわれる。学長代

理金子教授は「潮風」と命名する

▽予科運動場において滑空訓練開始式ならびにグライダー命名式を挙行する

10・12 本学元学長、法学博士三浦新七氏（明三二本、三四政卒）、本日の帝国学士院第三五八回総会において第一部会より新会員として推薦される

▽如水会南京支部設立される

10・19 高瀬学長、満支における経済教育情況の視察、東亜経済研究所の現地研究員委嘱、満鉄研究所との連絡、研究所の現地出張所設立その他の用件を持ち本日出発する

10・22 第六七回創立記念式が卒業年限短縮のため、一カ月おくれの本日挙行される。高瀬学長、満支視察中のため、学長代理金子鷹之助教授によって行なわれる。記念講演が貿易統制会長南郷三郎氏（明三三本卒）、佐藤弘教授、両氏によってなされる

▽午後、如水会ならびに報国団主催の支那事変および大東亜戦争戦死、戦病死、太平洋遭難会員ならびに本学職員等七八名の第二回合同慰霊祭を挙行する

10・23 国立学会主催第五一回学術講演会が一橋

講堂で開催される。講師、上原専祿教授、金子鷹之助教授

10・25 教授上田辰之助、北京輔任大学から客員教授として招聘され、(主としてスコラ哲学を講義)約一カ月半で一年分の講義を連続的に行なうため、本日出発する。終了しない場合は明春ふたたび同地に赴く予定

10・31 先輩学生間の親睦をはかり、あわせて時局に関する最新の知識を学生に伝える目的で設立された土曜会の本年度第二回会合が本日举行なわれ、次の諸氏の講演ならびに座談会が開催される。朝日新聞ワシントン特派員河野健治氏、外務省欧亜局根岸広吉氏、外務省事務官粕谷孝夫氏

10・1 大東亜戦争下時局の要請による臨時学年短縮のため、本年第二次学年度より本科において初めて学期制度を採用する。この制度は学制改革調査委員会の案になり、一年を二分して前期、後期とし、学科目増大、各科目毎週四時間の講義を行なうものである

11・3 庭球部先輩相馬永夫氏の遺志により約一千円が庭球部に寄贈され、現専門部構内にある手狭な合宿所に一室八畳の記念室を設けることになり、建築中のところ完成、本日落成式を兼ね、同

氏の写真をかかげ、先輩・後輩の懇親マッチが行なわれる

11・15 如水会牡丹江支部設立される

11・17 予科日本文化講義として、元予科講師清田龍之助氏の「大東亜共栄圏とオーストラリア」と題する講演会が開催される

11・19 本科では宮武辰夫氏を聘し文化講義を開く。演題「南方民俗について」

▽中山伊知郎教授、端艇部長に就任

11・20 本学報国隊三学年三九六名は出勤命令により本日より八日間、立川某廠において重労働に従事し(各自二日、一日八時間)、その勤労手当二七七円二〇銭全額を建艦基金へ献金する

11・24 専門部では文化講義として神川法学博士の「大東亜を圍る外交問題」と題する講演会を開催する

11・27 国立学会主催第五二回学術講演会が一橋講堂で開催される。講師、山田雄三教授、村松恒一郎教授

12・3 予科文化週間の行事として文研の主催により、片山敏彦氏、内藤濯教授を囲んで「詩精神と生活について」の座談会を行なう

12・5 満支視察旅行中の高瀬学長および大庭事

昭和一八年
(一九四三)

務官、本日帰国する

12・8 大東亜戦争一周年を迎え、本学においては記念式典、武井海軍主計中将による記念講演会、三科合同の閲兵分列式、映画会等が催され、記念事業として報国貯蓄、応召学生に対し慰問袋、慰問文作成送付が定められる

12・10 『一橋新聞』は部告をもって、昭和一八年一月一日には八頁建の正月特輯号を発行すると予告しているが、戦局関係から本日の第三五八号をもって休刊となる(第三五九号は二一年六月二十五日に再刊)

12・20 かねて東亜経済研究所において企画編集中であった『東亜経済研究年報』第一輯が刊行される(菊判、七一七―一四〇頁)

12・28 前イタリア大使天羽英二氏の「現戦争における世界の動きとその将来」と題する時局講演会が催される

12・― 本学「学徒自彊五則」を発表する

▽東亜経済研究所において編成するマライ地域調査団が発見

1・― 高専校修業年限臨時短縮による九月卒業のため、専門部二年生は新春より三年の課程に入る

る

1・9 予科学科改正に関する本科・予科の合同委員会が開催される

1・15 津村秀夫氏により「現代日本映画論」と題する本科日本文化講義が行なわれる

1・20 勅令第四〇号をもって大学予科修業年限を二年とする

2・1~6 文部省通牒の趣旨により予科全生徒に対し一斉に冬季鍛錬を実施する

2・4 予科日本文化講義として田辺尚雄氏を聘し「日本を中心とする大東亜音楽」と題する講演が行なわれる

▽専門部においては西川正身講師により文化講義が行なわれる

2・8 兼松講堂において大詔奉戴日の式典を挙げる。式後、元マライ方面参謀池谷本二郎大佐の「マライ作戦の回顧」と題する記念講義が行なわれる

3・― 本年度入学志願者は次のとおり、予科二、

〇八一名、同外国人二名。専門部二、七一名、同外国人五名。養成所一七三名

4・― 高等学校高等科修練要綱に基づき、予科においても毎週一回、月、火、水のうち一日を必

修体練にあて、放課後三時より五時まで全校生徒徒に對して次の三種目に分けて修練を行なうこととなる。①体操・陸上競技、②行軍、③銃剣道・射撃。なお第一学年に對しては四月より六月まで、三カ月間基礎体練期間とし、必修体練のほか毎日放課後一時間特別訓練を行なうこととなる。

4・8 兼松講堂において本年度予科・専門部・養成所新入生入学式を行なう。引き続き大詔奉読式が挙行される。

4・20 予科においては報国隊編成を行ない、引き続き見学のため立川陸軍技術学校へ行軍をする。

4・26～5・3 予科第三学年・第二学年生は、六日間のうち三日間ずつの日割で陸軍被服廠へ勤労作業に出動する。

4・30 かねて三商大図書館間で設立準備中であつた「三商大図書館協議会」の第一回の総会を本学集会所で開催する。

5・12 専門部第二学年全員、小金井国民錬成所へ勤労作業に赴く。

5・18 高瀬学長、大庭事務官、南方占領地へ出張のため、本日午前八時半羽田飛行場より出発する。金子鷹之助教授、本日付をもって学長事務代理を命じられる。

6・7 学徒戦時勤労要綱発動、専門部全員が北海道へ出動する。

6・8 南方出張中の杉本教授は本日、板垣助教授は二日、山中・高橋両教授は一日、それぞれ帰国する。

6・17 予科における本年度第一回日本文化講義として、東京文理大教授務台理作氏を講師として本日開講する。

6・25 専門部相撲場が完成し、神官および力士を招聘して本日午後二時より土俵場開きを行なう。その後各クラスの対抗相撲を催す。

7・11 南方占領地へ出張中の高瀬学長、帰国する。なお大庭事務官は同一六日帰国する。

7・19 専門部夏季勤労作業として第三学年は本日より八月一日まで各自一週間産業方面の勤務に出動。第二学年は七月二十四日より、第一学年は八月二〇日より各自一〇日間同じく産業方面の勤務に出動する。このほか、体力衰弱者約五〇名に對して各自二週間、本学の町田山寮において健民錬成を行なわせる。

8・9～14 全国各地方長官推薦の商業学校教諭約一〇〇名を対照とする文部省主催の経済法規長期講習会が本学で開催される。

- 8・10 本科北海道派遣勤労報国隊、本日本刀川学生課長引率の下に出発する。九月一日、一同無事帰京する
- 9・7 東京商科大学経済指導者研究室第一回参与会を学長その他指導関係教授出席の下に、帝國ホテルで開催する
- 9・22 兼松講堂において本科・予科・専門部および養成所卒業式を挙行。式後報国団総会を開く
- 9・23 学生の徴兵猶予停止される(ただし、理工学系学生は入営延期)
- 9・30 山口茂教授商学専門部主事・商業教員養成所主事を免ぜられ、増地庸治郎教授、同主事に補せられる
- ▽専門部教授深見義一、学生主事事務取扱(専門部)を命じられる
- 10・1 兼松講堂において本科入学式を挙行。式後本科報国団入団式を行なう。また新学年を本日より開始する
- 10・11~12 予科においては両日にわたって午前中講演会、午後鍛錬会を挙行する。一日 講師、太田可夫予科教授、板垣興一大学助教授、一日 講師、亀井孝予科教授、上田辰之助大学教授

- 10・13 予科生徒、多摩御陵までの行軍を実施
- 10・15 東京商科大学経済指導者研究室の閉室式を如水会館において挙行する
- 10・20 兼松講堂において本学関係教職員学生生徒の慰霊祭を挙行。終わって学生・生徒錬成体育大会を開催、引き続き出陣学徒の壮行会を行ない、在校生全員参加する
- 10・22 第六八回創立記念式を兼松講堂において挙行する
- 11・12 予科講堂において、本年一月一日入営すべき予科生徒の仮修了証書授与式および壮行会を挙行する
- 11・14 一月一日に入営すべき専養生徒の出陣式を行ない、後楽園において「学徒空の進軍大会」が開催され、在学生全員参加する
- 11・15 専門部第二学年は午前七時集合、聖跡記念館への行軍と演習を行なう
- 11・16 本科において陸軍少将長谷川正道氏の「近代戦と機械化国防」と題する時局講演会を開催する
- 11・18~21 一橋講堂において国立学会主催による四日間わたる学術講演会を開催する
- 11・20 兼松講堂において本科、専門部卒業の仮

昭和一九年
(一九四四)

合格卒業証書授与式を挙行し、のち出陣学徒の壮行会を催す

11・27 全都防空総合訓練にあたり、本学においても待避および警報伝達訓練を行なう。夜間も翌日午前零時三〇分まで官舎居住職員全員出勤警戒にあたる

12・11 専門部生徒二〇〇名、立川航空機へ勤勞作業に出動、他の学生は校内作業に従事する

12・17 本日付次官通牒により、年末年始の休暇日も平日どおり執務することとなる

1・6 予科生徒勤勞作業のため、約一カ月の奉仕予定で静岡県下に出動する。二月四日帰校

1・10 専養生徒、勤勞奉仕のため本日より二週間全員埼玉県に出動する。同二三日帰校

1・22 本校事務職員の第三回修練会を開催し、東亜経済研究所、都留重人研究員の「米国の国情」について講演が行なわれる

1・31 本年度商業教員養成所志願書を締切、受付数、約二五〇名

2・12 大学職員定員中、大学教授二六人を二五人に、大学助教授一六人を一五人に、大学助手一六人を一四人に改正される。予科教授二三人を二

〇人に、商学専門部教授二三人を一九人に改正される

2・15 今年度予科志願者、本日で締切り、受付数、約五〇七名

2・17 戦時緊急の要に応じ、予科校舎を東部第九二部隊へ貸与のため、予科分館図書の本館への移転準備を本日より始め、同月二日より移転を開始する

2・22 如水会メダシ支部設立される

2・29 本日官庁常時執務に関する通牒があり、日曜日の休日を廃止し、常時執務の実を挙げること、二週間に一回、日曜日に交代して休日を与えること、三月一日より実施のこととなる

▽本日正午を期して予科校舎を軍に移譲し全部を国立に移転する。今後の授業・事務は国立に行なう

▽専門部生徒の防空編成が行なわれる

3・14 本年度予科入試合格者を発表。許可された者八五名

▽戦時緊急の要に応ずるため、専門部授業を本科校舎に移すこととなり、専門部図書分室の本館への移動を本日より始める

3・18 専門部教職員生徒、合同校舎において惜

別会を行なう

3・31 予科一橋寮は本日をもって専門部Aホールに移転する

4・1 文部省令第一六号をもって「工業経営専門部」を附置する

▽増地庸治郎教授、新設の東京商科大学附属工業経営専門部長に補せられる

▽附属工業経営専門部入学志願者数一、一〇七名
▽大学職員中、学生主事二人を三人に、書記一人を二人に、学生主事補二人を三人に増加し、

予科教授二〇人を一九人に、商学専門部教授一九人を一四人に、同助教授五人を四人に改正、新たに工業経営専門部教授九人、同助教授四人、同助手一人を増加される

4・3 佐野前学長記念事業会主催による佐野先生肖像画（田辺至画伯揮毫）の贈呈式が如水会館で挙行される

4・14 兼松講堂において、熊谷飛行学校中野武雄少尉の「陸軍特別操縦見習尉官に就いて」の講演が行なわれる

4・16 工業経営専門部、初の入学試験を東京、仙台で施行する。受験者、東京七二九名、仙台三五名、四月二六日合格者発表、合格者一五三名

4・18 東亜経済研究所一ツ橋庁舎落成する。東京商科大学奨学財団の寄付による

4・25 本科一年および二年の学生は、貝守教練教師に引率され、山梨県下へ勤勞奉仕に出発する

4・29 予科においては天長節拝賀式終了後、三木清氏の講演があり、続いてマラソン・レースを行なう

5・1 工業経営専門部入学宣誓式を行なう

5・8 本科、兼松講堂において大詔奉戴式を挙行し、式終了後、海軍報道部長栗原大佐の軍事講演がある

5・8~16 商学専門部第三学年は富士板妻廠舎を中心に八日間の野外演習を行なう

5・31 商学専門部二年生は本日より六月一日まで勤勞作業のため、立川航空廠へ出勤する

6・1 学部三年生一七名は本日より立川航空廠へ勤勞動員のため出勤する

▽予科三年生は勤勞作業のため、本日より三カ月間、日野重工業株式会社に出勤する

6・3 事務職員に対し、戦時農園指導担任、佐野技手より農事講話があり、実地指導を受ける

6・12 商学専門部第三学年生、立川航空廠へ勤勞奉仕のため出勤する

- 6・17 商学専門部生徒、本日より同二三日まで千葉県習志野で野外演習を実施する
- 6・19 予科一年生は本日より三〇日まで勤労作業のため、埼玉県下へ出動する
- 6・23 如水会八王子支部設立される
- 6・24 予科二年生は本日より七月二日まで、淀橋方面において勤労作業に従事する
- 7・1 東亜経済研究所、図書館より一ッ橋仮庁舎に移転する
- ▽予科二年生は勤労働員のため、横須賀海軍軍需部、大日本化学工業川崎工場へ出動
- 7・4 予科一年生は本日より同一三日まで、淀橋区へ勤労奉仕に出動し、一五日より二〇日まで、富士板妻廠舎に野外演習に赴く
- 7・6 本校卒業生村上秀三郎、「商号及商号権論」の論文を明治大学に提出、法学博士の学位を受ける
- 7・8 本学職員特設防護団の改編を行ない、時局下愈々防空の完璧を期す
- 7・13 元教授、商学専門部主事吉田良三氏逝去される(享年六七歳)。一七日青山斎場において葬儀が行なわれる
- 7・15 両専門部一年生は本日より一〇日間、勤

- 労働員として出動する
- 7・25 予科生約三五名、本日より八月一日まで本学町田山寮において健民修練を行なう
- 7・28 国立学会主催第五三回学術講演会を一橋講堂において開催する。講師、岩田巖助教授、片野一郎専門部教授
- 7・29 予科教授堀潮、予科長を免ぜられ、大学教授兼予科教授井藤半弥、予科長に補せられる
- ▽予科教授定員一九人を一五人に、同助教授五人を四人に変更、新たに予科助手一人が増加され、商学専門部教授一四人を一人に、同助教授四人を二人に、工業経営専門部教授九人を一五人に、同助教授四人を六人に、同助手一人を二人に改正される
- 8・11 附属図書館長吹田順助教授が退任し、山田雄三教授就任する
- 8・14 両専門部・養成所一年生は七月二五日より校内授業休止のところ、本日より授業を開始する
- 8・17 両専門部一年生は本日より八日間、勤労働員に出動する
- 8・21 本科本年度授業計画委員会および時局研究委員会を開催する

8・24 養成所一年生は本日、両専門部一年生は
同二七日、千葉県習志野野外演習のため出発し、
同二九日いずれも帰校

8・27 予科二年生は本日より九月一日まで、富
士裾野富士岡廠舎において野外演習を実施する

8・31 戦局の急迫により動員日数がいよいよ増
加のため、専門部教授会において勤労働員中の授
業は勤務先の昼休み、また二週間に一度登校し午
前授業、午後教練を行なうことに決定する

9・11 本日より予科一年生は日野重工業株式会
社へ、二年生は横須賀海軍軍需部へ勤労働員に出
動する

9・17 午前一〇時より兼松講堂において卒業証
書授与式(本科・予科・専門部・養成所)を挙行
し、午後一時より引き続き本科入学者の宣誓式が
行なわれる

9・22 戦時農園経営について、谷保村農会技手
笹木氏を聘し、事務職員の修練会を催す

東京産業大学時代

昭和一九年
(一九四四)

9・26 勅令第五五八号により官立経済大学官制が公布され、東京商科大学を東京産業大学と改称する

10・1 勤労働員が激化し、そのため事故者が多く、医務室は行列の状態となる

11・1 高瀬荘太郎学長および増地庸治郎教授の立案計画により、産業経営の理論的・実証的研究を行なう学内機関として産業経営研究所が発足する

12・1 兼松講堂および大学構内の一部を中島飛行機株式会社に貸与する

昭和二〇年
(一九四五)

1・6 専門部教授会において新学年は一月より六月までの予定で授業を行ない、試験は三月末と六月末の二回に実施することを決定する

3・1 戦時緊急の要請により中和寮全部を軍部に貸与する

3・9 専門部長増地庸治郎教授、本日の大空襲

により行方不明となる

3・10 兼松講堂および大学校内を中島飛行機株式会社(第一軍需工廠)および専門部校舎を東部第九二部隊に貸与したため、本学も空襲を受ける危険にさらされる。このため、かねて図書館貴重書の疎開を計画準備中であつたが、本日第一回分二五〇箱の発送を行なう。疎開先は長野県伊那町、上伊那郡教育会図書館。昨夜二三時より本日三時頃まで都内に夜間大空襲

3・11 一橋講堂および東亜経済研究所仮庁舎を東部第一〇〇部隊に貸与するため、同研究所は国立に移転する

3・12 増地専門部長捜査本部を設け、専門部全生徒および関係者をもって三日間捜査にあたる

3・30 疎開図書第二回分、本日発送する

3・31 昭和八年一月創刊の『事務時報』用紙節約のため本日の第二四九号をもって休刊となる

5・1 産業経営研究所の名称を「東京商科大学

産業能率研究所」とし研究方針・研究分野を確立し、研究機構の整備をはかる。研究に要する費用は、東京商科大学奨学財団の研究助成費による

6・15 疎開図書第三回分、本日発送。第一期疎開計画完了。ただちに第二期計画に入る

7・6 米空軍P51多数立川飛行場を目標に来襲、うち一機が低空で図書館へ向かって機銃掃射を行ない、書庫・閲覧室に損害を与える。幸いに屋内外の人命には死傷なし

7・8 米軍艦載小型機約五〇機が立川飛行場に来襲、本学上空で反復攻撃、その際、図書館時計塔、屋上および書庫に損害を与える

8・15 「終戦の詔勅」が録音放送される

8・29 終戦のため、予科校舎および専門部校舎は第九二部隊より、兼松講堂および大学校舎の一部は中島飛行機株式会社より、一橋講堂および東亜経済研究所仮庁舎は第一〇〇部隊より、それぞれ返還される

9・22 鬼頭仁三郎教授、商学専門部・工業経営専門部・教員養成所各部長を命じられる

10・1 軍関係学校生徒および外地専門学校生徒の転入試験が行なわれる

▽戦後初のインター・カレッジに本学端艇部は東

昭和二十二年
(一九四六)

京帝大と二校で参加する

11・21 上伊那郡教育会図書館へ疎開した、本学貴重書約三万冊を本日無事本学へ搬入する。なお第二疎開先、長野県辰野町在武井方介氏方生糸倉庫の約二万冊分も翌二十二年四月無事搬入を終わる

12・7 学生主事廃止される

12・1 教授会において、学校名称について再三審議が重ねられる

1・21 聯合軍總司令部民間情報部より文部省を通じ、学校図書館に関する調査書がおくられてくる

2・15 本日より小平予科分館再開のための図書移動の準備を始める。また同分館設備の修復にため、三月六日移動を完了する

2・26 全学教授会において「大学長推薦規則」が決定される

3・18 大学長推薦委員（本科、予科、専門部、研究所）が決定される

3・20 勅令第一五五号により官立経済大学官制の一部が改正されて、東亜経済研究所を「経済研究所」と改称し、「世界各国の経済に関する総合研究」を目的とすることとなる

あとがき

本年譜は、商法講習所開設の明治八年から昭和二〇年度までのものである。年譜作成にあたっては主として次に掲げる参考文献によった。学生の各種文化部・運動部活動、その他団体活動については紙数の関係上ほとんどを削除した。全体についても調査が不十分で重要事項が欠如している罪を犯しているかもしれない。年譜中商法講習所時代のものは、手塚竜麿氏が調査執筆された『商法講習所』に負うところが多い。記して感謝の意を表したい。

再覧調整の暇もなく印刷に付せられたが、校正中にできるだけの統一と調整を計った。年譜もいずれ昭和二一年度以降を加えた完全なものが作成されなければならない。その時の一つの土台ともなれば幸いである。

校正およびその他の調整には図書館の清水末寿君の助力を得た。

昭和五十一年一月

川崎 操 識

主要参考文献

- 一、明治十二年七月新編、東京商法講習所規則
- 一、東京商業学校以後の本学一覽
- 一、四十年史年表および同略表(『一橋会雜誌』第一〇四号臨時增刊および同誌第一三十七号)
- 一、五十年史年表(『一橋五十年史』)
- 一、専門部養成所史年表(『一橋専門部教員養成所史』)
- 一、『經濟研究所要覽』
- 一、『産業經營研究所要覽』
- 一、『本学事務時報』
- 一、本学人事課蔵各氏履歷書
- 一、『高等商業学校校友會雜誌』
- 一、『高等商業学校同窓會々誌』(第二七号より『東京高等商業学校同窓會々誌』と改称)
- 一、『如水會々報』
- 一、『一橋会雜誌』
- 一、『一橋新聞』
- 一、『青淵先生六十年史』第一卷
- 一、洪沢栄一述『洪沢栄一自叙伝』
- 一、島田三郎編『矢野二郎伝』
- 一、手塚竜麿編著『商法講習所』
- 一、『日本博士録』
- 一、『文部省年報』
- 一、『官報』
- 一、『東京日日新聞』
- 一、『朝野新聞』

参考沿革概要表

年	名称	所管	学制	備考
<p>明治8年9月24日 8年11月22日 9年5月15日 9年5月20日 9年8月17日 9年9月4日 9年10月— 11年6月26日 12年3月1日 13年2月—</p>	<p>商法講習所</p>	<p>私設 東京会議所 東京府勸業課</p>	<p>修業年限一八ヵ月、三期に分ける 実地科(実践科)創置 修業年限二年、課程を講理科・実践科に分ける</p>	<p>第一大区尾張町二丁目二三番地 京橋区木挽町一〇丁目に移転</p>
<p>東京商業学校</p>	<p>農商務省</p>	<p>「予備科」を新設、修業年限六ヵ月 予備科廃止</p>	<p>東京外国語学校に「所属高等商業学校」を設置</p>	
<p>文部省</p>	<p>第一部—旧高商教科</p>	<p>東京外国語学校(露・漢・朝語)</p>		

年	名称	所管	学制	備考
<p>明治19年1月— 19年1月21日 19年2月25日 19年5月26日 19年6月— 19年7月— 20年6月8日</p>	<p>東京商業学校</p>		<p>第二部—旧商業教科 第三部—旧外語教科 高等部（二年） 普通部（四年） 語学部（二年） 「附属商工徒弟講習所」を設置。職工科（三年）、別科（二年） 高等部および語学部廃止 「銀行専修科」を附置（修業年限二年） 尋常科（三年）、高等科（二年） 研究生（一年） 各学科課程を規定 予科（一年） 本科（四年）（程度をやや高める） 学科課程改正 銀行専修科を「主計専修科」と改称 同科の学科課程改正</p>	<p>科）および所属高等商業学校と合併。神田区一橋通町一番地に統合移転 京橋区木挽町、元東京商業学校跡に開設 大蔵省所属銀行事務講習所を文部省へ移管し、本校の附属とする。神田区錦町一丁目に置く 銀行専修科を本校内に移転 同年9月より実施 同年9月より実施</p>

年	名称	所管	学制	備考
明治32年3月3日 32年4月4日 32年7月— 34年6月—	高等商業学校		「商業教員養成所」を附置（修業年限二年） 附属外国語学校を「東京外国語学校」として本校より分離 専攻部修業年限を二年とする 専攻部規程を改正。卒業者は「商業学士」と称することを得る	同年9月より施行 同年9月より実施
35年3月27日 35年11月— 36年10月13日 39年12月10日 42年5月6日 42年6月25日 42年10月— 44年3月20日 45年3月25日 大正4年9月6日	東京高等商業学校		専攻部の必修・専修科目を増加、および時間増加 予科の科目増加。本科の科目、新設合併等 専攻部規程を改正。商業学士を「商学士」に改める 専攻部廃止の省令 専攻部四年間存続の省令 「調査部」を設置 商業教員養成所修業年限を四年に改正 専攻部存続の省令（修業年限二年） 予科の学科課程改正、科目増加 本科の学科課程改正、科目大いに増	同年4月1日施行

<p>大正4年9月11日</p> <p>4年9月22日</p> <p>4年11月11日</p>			<p>加、主要学科細分</p> <p>専攻部の学科課程を著しく改正、八科が九科に、必修撰択科目大いに増加、細分、独立科目増加</p> <p>商業教員養成所の学科目増加</p> <p>学年開始期を九月より四月に改正</p>	<p>本校創立四〇周年記念式典挙行</p>
<p>9年4月1日</p> <p>10年3月</p> <p>12年9月1日</p> <p>13年5月1日</p> <p>14年9月22日</p> <p>15年9月7日</p> <p>昭和2年4月1日</p> <p>5年12月24日</p> <p>6年3月</p> <p>7年5月20日</p> <p>8年7月22日</p>	<p>東京商科大学</p>		<p>大学予科（三年）を置き、商学専門部（三年）、商業教員養成所（三年）を併置学位規程制定。商学、経済学博士とする</p> <p>「商品見本陳列所」「調査部」、資料焼失により廃止</p> <p>「経理事務講習所」を設置</p> <p>官制による「附属図書館」を設置</p> <p>「経理事務講習所」廃止</p>	<p>関東大震災のため本学建築物の大部分が壊滅</p> <p>開校五〇周年記念式典挙行</p> <p>商学専門部、商業教員養成所、府下谷保村に移転</p> <p>大学本科、府下谷保村に移転</p> <p>一橋講堂落成（神田）</p> <p>大学予科、府下小平村に移転</p>

